

博士論文  
2017年2月28日提出

日本のポピュラー音楽におけるスタンダード生成過程についての研究

関西大学大学院 社会学研究科  
マス・コミュニケーション学専攻  
博士課程 後期課程

10D5302  
柴台弘毅

序章 研究の背景と目的	
1. 研究の背景	.....1
2. 研究の意義と目的	.....2
3. 本論文の構成	.....3
第1章 日本における楽曲伝達	
はじめに	.....4
1. 日本における楽曲伝達の典型パターン	.....5
2. 楽曲の使用 (1) 楽譜 (複製)	.....8
3. 楽曲の使用 (2) 録音物 (複製)	.....9
4. 楽曲の使用 (3) コンサート／ライブ	.....10
5. 楽曲の使用 (4) 放送メディア・インターネットの動画配信サイト	.....13
6. 楽曲の使用 (5) タイアップ	.....14
7. 楽曲の使用 (6) カバー	.....18
まとめ	.....28
第2章 長く歌い聴き継がれてきた楽曲とは何か	
はじめに	.....29
1. 曲年齢と曲履歴	.....31
2. 楽曲についてのテレビ番組における大規模な調査	.....31
3. 1981年～2009年の5つの事例についての曲年齢と曲履歴を用いた分析	.....32
4. 2014年～2016年の5つの事例についての曲年齢と曲履歴を用いた分析	.....54
まとめ	.....69
第3章 【ポピュラー】型の事例―「Get Wild」	
はじめに	.....71
1. 「Get Wild」の誕生と流行	.....72
2. TM NETWORKの代表曲としての「Get Wild」	.....76
3. 『シティーハンター』の主題歌としての「Get Wild」	.....79
4. カバー曲としての「Get Wild」	.....81
おわりに	.....83

第4章 【ポピュラー・民俗】型の事例―「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」	
はじめに	84
1. 「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」の誕生と流行	85
2. 盆踊りとしての「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」の誕生	87
3. 「おん祭」盆踊り大会における「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」	89
おわりに	92
第5章 【ポピュラー・芸術】型の事例―「翼をください」	
はじめに	94
1. 「翼をください」の誕生と流行	94
2. 学校音楽としての「翼をください」	97
3. スポーツ応援歌としての「翼をください」	100
4. 様々なアーティストや作品に使用される「翼をください」	102
おわりに	104
第6章 【ポピュラー・民俗・芸術】型の事例―「島唄」	
はじめに	105
1. 「花～すべての人の心に花を～」, 「涙そうそう」, 「島唄」の概要と共通点	106
2. 「花～すべての人の心に花を～」, 「涙そうそう」, 「島唄」の海外でのヒット	108
3. 「花～すべての人の心に花を～」, 「涙そうそう」, 「島唄」と沖縄の音楽文化	110
4. 「島唄」の誕生と大ヒット, 「沖縄の歌」としての「島唄」	113
5. 「島唄」の再市場化と「国境を越えて愛される歌」としての「島唄」	115
6. 「平和／反戦の歌」としての「島唄」	117
7. 「島唄」の20周年と「沖縄の歌」へ回帰する「島唄」	120
おわりに	123
終章 結論	
1. 研究のまとめ	125
2. 研究の結論と今後のまとめ	128
注.	131
引用・参考文献一覧	142

## 序章 研究の背景と目的

### 1. 研究の背景

音楽は古くから人々の生活に寄り添い、人々は日常生活の中で音楽に親しみ続けてきた。近代以降、音楽はマスメディアや録音・再生技術、インターネットの発達とともに高度に産業化され、人々の生活において音楽の占める割合が増加した。こうした現在の社会状況を社会学者の小川博司は「音楽化社会」（小川 1988）と呼ぶ。1920 年代に成立した日本のポピュラー音楽産業は、レコードメディアを中心に、持ち歌制度と新曲発売を中心とするビジネスモデルが支配的な音楽市場を形成してきた。新曲の発売時には、レコード会社や大手広告代理店、放送メディアらが連携し、アーティストの人気獲得と楽曲の認知促進のための大規模なプロモーション活動を行う。その結果、流行の指標であるヒットチャートの上位は、常に人気アーティストの新曲によって占められている。こうしたビジネスモデルから生み出される楽曲の多くは、主に若者を中心とした年代層に聴かれ一世を風靡し、楽曲が流行した時代や、その楽曲を持ち歌とするアーティストとともに記憶されていくこととなる。当然のことながら、このようなビジネスモデルから生み出される楽曲は新奇性に富み、次から次へと新たな対象を求め続けることになる。

この一方で、一度流行した後に、様々なアーティストにカバーされ歌い継がれたり、映像作品の主題歌や挿入歌、CM ソングなどに使用されたりすることによって、幅広い年代や志向の人々に親しまれるようになる楽曲が出現する。例えば、文化庁と社団法人日本 PTA 全国協議会が 2006 年に実施した「親子で歌いごう 日本の歌百選」という調査<sup>1)</sup>で、日本を代表する 101 曲に選出された「上を向いて歩こう」<sup>2)</sup>（1961 年）、「翼をください」、「川の流れるように」<sup>3)</sup>（1988 年）、などの楽曲を挙げることができる。こうした楽曲は、日本のポピュラー音楽におけるスタンダード（Standard Song）などとして、幅広い年代の人々が親しめる音楽をテーマとする音楽関連コンテンツにおいて紹介されている。例えば、社団法人音楽制作者連盟は 2004 年、日本にポピュラー音楽のスタンダードが根付きつつあることを指摘し「J-Standard」という音楽ジャンルを提言した。ここにおいて「J-Standard」は、「何年経っても色褪せない、普遍的な魅力を持ったメロディーと歌詞からなる楽曲」であり「“ナツメロ”と呼ばれていた、これまでの歌謡曲や演歌の旧作とは異なる一連の作品群」であると説明されている（佐藤 2004）。2015 年には、NPO 法人ミュージックソムリエ協会が「ミュージックソムリエ協会が選ぶ『昭和歌謡 2000 曲』」というプロジェクトをスタートさせた。同プロジェクトは、昭和時代に制作された膨大なポピュラー音楽のアーカイブから「後世に歌い継いで欲しい 2000 曲」をスタンダードとして選曲し、企画展やコンサートの開催を通じて楽曲を次世代に伝える活動を行っている（ミュージックソムリエ協会 2015）。また、テレビ番組では、NHK が 2014 年に放送を開始した『The covers』とフジテレビが 2015 年に放送開始した『水曜歌謡祭』<sup>4)</sup>と後継番組の『Love music』がスタ

ンダードをテーマとしたコンテンツとして挙げられる。特に『The Covers』は番組冒頭に「歌は、歌い継がれることでスタンダードとなり、永遠の命を授けられます」(NHK 2017)というメッセージを掲げ、毎回ゲストによるカバー曲の演奏を中心とした番組を構成している。こうした活動は、日本のポピュラー音楽における成熟した楽曲、所謂スタンダードを選び出すフィルターとしての役割を担い、新曲発売と持ち歌制度が中心の日本のポピュラー音楽産業において、既存楽曲に新たな価値を提示する活動であるといえる。

## 2. 研究の目的と意義

本研究は、日本においてスタンダードと呼ばれる成熟した楽曲、つまり、人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲が、どのような成育過程を経て成熟したのかを明らかにする。成熟した楽曲の成育過程を明らかにすることは、ポピュラー音楽をある時期、ある年代の人々にだけ共有される流行歌としてではなく、1度流行した後も幅広い年代の人々の生活の中に生き続ける社会的存在として捉えることを可能にする。こうした視点を持つことにより、楽曲が社会の中で成育することで生まれる様々な価値を見出すことができると考えられる。

日本におけるポピュラー音楽の研究は、社会学、音楽学、メディア・スタディーズなどの学問分野で数多くの研究が積み重ねられてきた。そこでは楽曲やアーティストをはじめ音楽産業や聴衆、メディア環境、音楽ジャンル、コンサートなどポピュラー音楽にかかわる様々なものが研究対象とされてきた。しかし、日本におけるポピュラー音楽のスタンダード、あるいは人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲について学術的に論じた研究は多いとはいえない。特に、ある楽曲がどのような成育過程を経て成熟したのかについて論じた研究は、ほとんど存在しないといえる。小川(1988)や東谷護(2005)が指摘するように、ポピュラー音楽が研究対象とされる場合、楽曲がある時期に流行歌として人気を獲得した理由や時代背景、楽曲が制作された時のエピソードなどに強い関心が向けられる傾向にあるためであろう。日本の事例を扱った代表的な論考として、小川(2015)や小泉恭子(2007)、南田勝也(2011)などがある。小川(2015)は『水曜歌謡祭』という地上波音楽番組を事例に、近年の音楽番組の一部がスタンダード志向を強く反映していることを指摘している。小泉(2007)は音楽の使い分けという観点から、音楽ユーザーが日常生活において幅広い年代の人々の間で共有できる楽曲をどのように利用しているのかについて論じている点で興味深い。また、南田(2011)は主に音楽ユーザーの音楽受容に関する数量データを分析することで、「音楽は世代にしばられつつも、時を超えて聴取される」(南田 2011: 152)ことを明らかにした。これらの研究から、音楽におけるスタンダード性とは、楽曲の持つ生来的な音楽的性質を示すものではなく、楽曲が幅広い年代の人々に共有され歌い聴き継がれるなかで獲得する社会的性質だといえる。

楽曲の成育過程についての研究は、送り手と受け手が楽曲とどのようにかかわってきたのかを明らかにする必要がある。ブライアン・ロングハースト(Brian Longhurst)は

「Production-Text-Audience」(Longhurst 1995: 23-24) という図式を示している。また、東谷は「音楽テキスト (Text) だけを研究対象とするのではなく、テキストを生み出す生産 (production) とテキストを消費する受容者 (audience) をも視野に入れておくのが重要」(東谷 2005: 185) と指摘している。こうした楽曲をめぐる送り手と受け手による相互作用への注目は、水越伸 (1993) やキャロライン・マーヴィン (Carolyn Marvin) (1989=2003) によるラジオや電話などのメディアの生成史研究にも通ずるものである。日本におけるスタンダード研究は、こうした相互作用に注目した研究は少なく、送り手が受け手かどちらか一方の分析にのみ偏りがちである。楽曲の成育過程の全貌を明らかにするためには、こうした相互作用に目を向ける必要がある。

加えて、近年の社会的記憶に関する知見を参照すると、個人と社会の記憶の接点となる場の存在を無視できない。例えば、ポール・コナトン (Paul Connerton) は記念式典という場に注目し、「遂行的記憶は身体的」(Connerton 1989=2011: 126) であり、社会の記憶は身体パフォーマンスや儀礼の遂行を通じて伝達維持されると論じている。コナトンの視座に立ち楽曲の成育過程を考えるならば、楽曲がどのように再使用され続けたのか、また、いかなる場において身体化されるかを検討する必要がある。

### 3. 本論文の構成

本論文は、序章と終章を含めて全 8 章から成る。第 1 章において、日本における楽曲伝達の典型パターンと楽曲がどのように使用されているかを明らかにし、ポピュラー音楽の成育過程の 4 つの類型を提示する。次いで、第 2 章において、楽曲についての分析概念として、「曲年齢」と「曲履歴」を提示し、様々な切り口で実施される楽曲に対するアンケート調査で選出される楽曲の特徴を明らかにする。次に、第 3 章から第 6 章にかけて、1987 年 4 月に TM NETWORK によって発表された「Get Wild」、1985 年 11 月に荻野目洋子によって発表された「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」、1971 年 2 月に赤い鳥によって発表された「翼をください」、1992 年 1 月に THE BOOM によって発表された「島唄」を事例に、ポピュラー音楽の成育過程の 4 つの類型それぞれにおいて、楽曲が具体的にどのような成育過程を経て成熟し、人々に歌い聴き継がれてきたのかを明らかにする。

## 第1章 日本における楽曲伝達

### はじめに

本章では、まず、フィリップ・タグ（Philip Tagg）の提出した「民俗音楽・芸術音楽・ポピュラー音楽の三角形の公理」（Tagg 1982=1990: 16）という理念型を参照し、日本における楽曲伝達の典型パターンとその詳細、および、そこから導き出されるポピュラー音楽の成育過程の4つの類型を提示する。次いで、日本において楽曲がどのように使用されているのかを検討する。

表1. 著作権使用料の種別一覧表

区分	種別	権利	使用態様
演奏権使用料	上演	演奏権	オペラ、ミュージカル、バレエ
	演奏	演奏権	コンサート、ライブ、イベント
	社交場	演奏権	キャバレー、バー、スナック、クラブ
	カラオケ	演奏権	カラオケ店、宴会場、カラオケ・ボックス
	ビデオ上映	上映権	旅館、ホテル、デパート、博覧会
	放送・包括	公衆送信権	テレビ、ラジオ
	放送・曲別	公衆送信権	テレビ、ラジオ
	有線ラジオ放送	公衆送信権	ラジオ
	有線テレビ放送	公衆送信権	テレビ、ラジオ
	映画上映	上映権	映画館
	BGM	演奏権	レストラン、喫茶店、デパート
	外国入金（演奏）	演奏権他	外国での演奏使用
録音使用料	オーディオディスク	複製権	レコード、CD
	オーディオテープ	複製権	音楽用テープ
	オルゴール	複製権	オルゴール
	放送用録音・包括	複製権	テレビ、ラジオ
	放送用録音・曲別	複製権	テレビ、ラジオ
	CM送信用録音	複製権	テレビ、ラジオ
	映画録音	複製権	映画
	ビデオグラム	複製権	ビデオグラム
	外国入金・録音	複製権	外国での録音使用
	有線テレビ放送用録音	複製権	テレビ、ラジオ
出版使用料	出版	複製権	書籍、雑誌、新聞、楽譜、ポスター
	教科用図書	複製権	教科書
貸与使用料	貸レコード	貸与権	レンタル・ショップ
	貸ビデオ	貸与権	レンタル・ショップ
複合使用料	通信カラオケ（複製）	複製権	通信カラオケ業者
	通信カラオケ（送信）	公衆送信権	通信カラオケ業者
	インタラクティブ	公衆送信権他	配信事業者
	インタラクティブ	公衆送信権	配信事業者
私的録音補償金	私的録音補償金	補償金請求権	家庭内等
私的録画補償金	私的録画補償金	補償金請求権	家庭内等

出所：安藤（2011: 48）より筆者作成

日本における楽曲の使用に際しては、著作権法において定められた著作権者の持つ演奏権、複製権、上映権、公衆送信権、貸与権、保証金請求権といった様々な支分権に対して使用料が発生する（安藤 2011: 48）。本研究はこうした著作権法の定める様々な楽曲の使用に関わる権利関係のうち、とりわけ、楽曲が人々に長く歌い聴き継がれていくなかで重要な使用方法に関連する演奏権、複製権、公衆送信権にかかわる項目について、(1)楽譜（複製）、(2)録音物（複製）、(3)コンサート（演奏）、(4)放送メディア・インターネットの動画配信サイト、(5)タイアップ、(6)カバーの6項目を設定し、その詳細を検討する。結論を先取りしていえば、人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲は、これら(1)から(6)の使用法の項目のうち複数が繰り返されてきたことによって成熟したと考えられる。

## 1. 日本における楽曲伝達の典型パターン

フィリップ・タグ（Philip Tagg）は「民俗音楽・芸術音楽・ポピュラー音楽の三角形の公理」という理念型を提出した（Tagg 1982=1990: 16）。このなかでタグは、民俗音楽、芸術音楽、ポピュラー音楽の特徴を①制作と発信、②大量配給、③主な保存と配給の様式、④当の音楽範疇がおもに生じる社会の種類、⑤当の音楽の制作と配給のための20世紀の出資様式、⑥理論と美学、⑦作者の7項目において次のように比較した。

表 2. 「民俗音楽・芸術音楽・ポピュラー音楽の三角形の公理」

特徴		民俗音楽	芸術音楽	ポピュラー音楽
制作と発信	おもに玄人		○	○
	おもに素人	○		
大量配給	通例			○
	異例	○	○	
主な保存と配給の様式	口伝え	○		
	記譜		○	
	録音			○
当の音楽範疇がおもに生じる社会の種類	遊牧か農耕	○		
	農耕か工業		○	
	工業			○
当の音楽の制作と配給のための20世紀の出資様式	貨幣経済とは無関係	○		
	公共出資		○	
	「自由」事業			○
理論と美学	特別	○		○
	普通		○	
作者	不詳	○		
	作者名あり		○	○

出所：フィリップ・タグ（Tagg 1982=1990: 17）

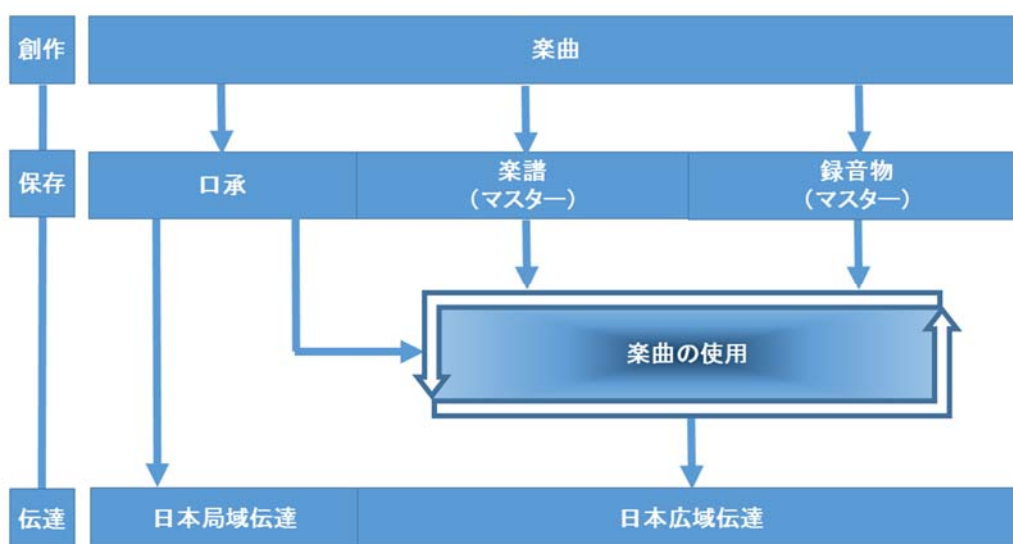
小川博司はタグの「三角形の公理」について、定義ではないこと、音楽の発展モデルではないこと、西洋社会の視点から導き出された図式であることを、留意すべき点として次のように指摘する。



タグの三角形については、以下の 3 点に留意する必要がある。第一に、これはあくまでも理念的な記述であって定義ではない。20 世紀には、これら 3 つは共存しており三角形をなしているように見えるが、それぞれの背景となる社会の記述 (④⑤) から明らかなように、民俗音楽、芸術音楽、そしてポピュラー音楽へと、歴史の流れの中で順に生成してきたものと見られている。第二に、だからといって、これは音楽の発展モデルではない。むしろ、3 つの領域は層をなして重なりつつ、共存してきたのである。第三に、これはあくまでも西洋社会をモデルにして導き出された分類であることである。記譜法、公的な援助などの記述から明らかなように、ここで芸術音楽とされているのは西洋近代において成立した芸術音楽なのである。(小川 2007: 4)

タグの「三角形の公理」は現在の日本における音楽の状況を考えるうえで示唆に富んでいる。本研究は小川の指摘に留意したうえで、タグの「三角形の公理」のうち特に「主な保存と配給の様式」に注目し、日本における楽曲伝達の典型パターンを図式化した。ここでは、タグの「主な保存と配給の様式」で示される内容のうち、保存の様式と配給の様式とを分け、配給 (distribution) をシャノン (Claude E. Shannon) とウィーバー (Warren Weaver) の「情報伝達モデル (The Transmission Model of Communication)」(Shannon and Warren Weaver 1949=1969) に倣い伝達 (transmission) と改め、楽曲の保存と伝達が行われる前の段階に新たに創作という領域を設定した。

図 1. 日本における楽曲伝達の典型パターン



出所：筆者作成

芸術音楽における楽曲伝達の典型パターンは、創作された楽曲が楽譜（マスター）として保存され、様々な方法で使用されることによって日本広域へ伝達されるというものである。本研究はこれを芸術音楽に特徴的な【芸術】型の楽曲伝達とする。楽譜（マスター）とは、原典と呼ばれる作者直筆の楽譜、あるいは原典に限りなく近いとされる楽譜である。<sup>5)</sup> 芸術音楽における作品概念は「楽譜がそのまま確定された作品を指し示す」（増田 2005a: 72）とされ、芸術音楽は楽譜（マスター）が大量複製技術によって複製されるなど、様々な方法で使用されることによって全国各地の人々へと届けられる。この典型パターンにおいては、楽曲が楽譜（マスター）として保存されることから、様々な記譜法が発明された時期以降のクラシック音楽や現代音楽、シートミュージック時代のポピュラー音楽、ジャズ、文部省唱歌などを芸術音楽として想定することができる。

民俗音楽における楽曲伝達の典型パターンは、創作された楽曲が口承（あるいは口承に限りなく近い形）で保存され、日本極域へ伝達されるというものである。本研究はこれを民俗音楽に特徴的な【民俗】型の楽曲伝達とする。口承とは、楽曲が人々の口から口へと歌い継がれてきた状態を示すものである。こうした口承によって特定の地域の中で保存されてきた楽曲は、記譜法や録音技術の発明によって、現在ではそのほとんどがある時期に歌詞とメロディーが固定されたといえる。そのため、厳密には民俗音楽はある時期まで口承によって保存されてきた経歴を持つ楽曲であるといえる。この典型パターンにおいては、全国各地で人々に歌い聴き継がれてきた民謡やわらべ歌、子守唄、盆踊りなどを民俗音楽として想定することができる。ただし、録音技術が発明・実用化され、日本でポピュラー音楽産業と放送メディアが成立した 1920 年代以降は、こうした楽曲も芸術音楽やポピュラー音楽と同じように様々な方法で使用されることによって、日本広域へ伝達されるようになった。<sup>6)</sup>

ポピュラー音楽における楽曲伝達の典型パターンは、創作された楽曲が録音物（マスター）として保存され、様々な方法で使用されることによって日本広域へ伝達されるというものである。本研究はこれをポピュラー音楽に特徴的な【ポピュラー】型の楽曲伝達とする。録音物（マスター）とは、楽曲を創作した個人あるいは企業が保管しているレコーディング・マスター（reording master）である。<sup>7)</sup> こうしたポピュラー音楽における作品概念は、増田聡によれば「レコードに定位された音楽こそが作品の原型をなすもの」（増田 2005a: 75）であり、ポピュラー音楽は録音物（マスター）が大量複製技術によって複製されるなど、様々な方法で使用されることによって全国各地へ伝達される。また、ポピュラー音楽が少なくとも資本主義経済と大量複製技術を前提に存在することは、テオドール・W・アドルノ（Theodor W. Adorno）以降、ポピュラー音楽研究の領域において常識的な了解である。この典型パターンにおいては、録音技術が発明・実用化され、日本でポピュラー音楽産業と放送メディアが成立した 1920 年代以降の歌謡曲や J-POP、新民謡などをポピュラー音楽として想定することができる。

このように、日本における楽曲伝達の典型パターンは、【芸術】型、【民俗】型、【ポピュ

ラー】型の 3 つの類型の存在が認められる。しかしながら、小川によるタグの「三角形の公理」への「3 つの領域は層をなして重なりつつ、共存してきた」（小川 2007: 4）という指摘は、日本における楽曲伝達を考えるうえで重要である。音楽の記録形態、大量複製技術、マスメディア、インターネット通信網が高度に発展した今日の音楽を取り巻く状況において、これら 3 つの類型は保存の領域と伝達の範囲以外に大きな差異は見いだせない。特に、人々に長く歌い聴き継がれてきポピュラー音楽においては、複数の楽曲伝達の典型パターンを経て楽曲が繰り返し使用されることで成熟したものの数多く存在する。そのため、ポピュラー音楽の成育過程には、ポピュラー音楽の伝達過程のみを経た【ポピュラー】型に加え、ポピュラー音楽と民俗音楽の 2 つの伝達過程を経た【ポピュラー・民俗】型、ポピュラー音楽と芸術音楽の 2 つの伝達過程を経た【ポピュラー・芸術】型、ポピュラー音楽と民俗音楽、芸術音楽の 3 つの伝達過程を経た【ポピュラー・民俗・芸術】型を含めた 4 つの成育過程の類型を見出すことができる。重要なことは、楽曲がどのような方法で繰り返し使用され続け、人々へ届けられてきたのかである。

## 2. 楽曲の使用（1）楽譜（複製）

楽譜（music score）は楽曲を音符や演奏記号などの記号で表したものである。日本では一般に、西洋音楽の記譜法である五線譜が用いられている。五線譜は、管弦楽や吹奏楽のオーケストラ演奏で用いられる総譜、ピアノ演奏で用いられる大譜表などのバリエーションが存在する。こうした楽譜は、楽譜（マスター）を元に複製技術によって印刷、あるいは電子データ化されて人々へ伝達される。<sup>8)</sup>

楽譜（複製）という使用法は、日本における【芸術】型の楽曲伝達において、特に重要な役割を担っている。日本における芸術音楽の伝達の特徴は、楽譜（複製）が掲載された音楽教科書を用いた学校の授業を通じて、幅広い年代の人々に長く親しまれ続けてきたことである。唱歌は「教育のために制作された楽曲」として明治時代以降、学校教科書を通じて全国的に複数の年代の人々にわたって国民への身体化が行われてきた。また、クラシック音楽をはじめとする西洋音楽は「音楽による日本の近代化、とりわけ日本人の心身の近代化や国民化のための手段」（奥中 2008: vi）として輸入され、一部の楽曲は唱歌と同じく学校教科書において、中心的な教材として使用されてきた。

楽譜（複製）による芸術音楽の伝達は、学校に加え、民間の音楽教室でも積極的に行われている。総務省統計局が実施した「平成 26 年全国消費実態調査」の「年間収入階級別 1000 世帯当たり主要耐久消費財の所有数量」を参照すると、2014 年の日本におけるピアノの普及率は 26.2%である（総務省統計局 2015）。旧経済企画庁の統計「家計消費の動向」を参照すると、日本のピアノ普及率は 1960 年代以降に急速に増加し、1989 年に 20%を超えている（水野 2001: 61）。こうしたピアノの普及に伴って、日本ではヤマハ音楽教室やスズキ・メソードに代表される大手企業による音楽教室や個人による音楽教室が数多く生まれた。

例えば、1954年に開設されたヤマハ音楽教室は、「国内で3,300会場、生徒数39万人、講師1万2,000人を擁する」（ヤマハ音楽振興会 2017）規模で全国展開している。こうした音楽教室において、ピアノ初学者は一般にバイエルピアノ教本やバーナム・ピアノテクニックなどの楽譜集を用いて練習を開始し、読譜技術やピアノの演奏技術を修得するなど、楽譜を中心とする指導が行われている。

楽譜（複製）は、ポピュラー音楽や民俗音楽の伝達においても用いられている。ポピュラー音楽の楽譜（複製）は録音物（マスター）に記録されている情報を元に作成され、弦楽器の指運を示したタブ譜、コード譜と五線譜で構成されたバンドスコア、ピアノ演奏用に編曲されたものなどが用いられている。民俗音楽の楽譜（複製）は、西洋12音階で採譜され五線譜として作成されたものに加え、沖縄民謡における三線の楽譜である工工四（くんくんしー）など楽器固有の楽譜が用いられている。

### 3. 楽曲の使用（2）録音物（複製）

録音物（複製）は、録音物（マスター）を元に複製されたレコード盤、CD (compact disc)、ミュージックテープ、MP3形式やFLAC形式の音楽ファイル<sup>9)</sup> など、アナログ方式またはデジタル方式の音楽メディア一般を指す。こうした録音物（複製）は、録音物（マスター）を元に大量複製技術によって複製され、人々へ伝達される。日本では、録音物（複製）という使用方法が楽曲の伝達において特に重要な役割を担っている。主力商品であるポピュラー音楽をはじめ、クラシック音楽、洋楽、民謡、唱歌、童謡、世界各国の民俗音楽、俗謡、落語、環境音などあらゆる音楽が録音物（複製）という使用方法によって、人々へ届けられている。こうした録音物（複製）は、現在ではレコード盤やCDといったパッケージソフトに加え、パソコンやスマートフォンで利用可能なmoraやiTunes Storeなど音楽配信サービスストアでのデジタルダウンロード販売、SpotifyやAWAなどのサブスクリプション型音楽配信<sup>10)</sup> が積極的に行われている。さらに、日本ではTSUTAYAやGEOなどのCDレンタル店が豊富に存在している。販売価格の10%程度の価格でCDを聴くことができるレンタル店は、音楽聴取のひとつの手段として需要が高い。

日本の音楽産業における主力商品は、かつては流行歌や歌謡曲、現在はJ-POPと呼ばれるポピュラー音楽である。ここではレコードメディアを中心に、持ち歌制度と新曲発売を中心とするビジネスモデルが支配的な音楽市場を形成してきた。新曲の発売時には、レコード会社や大手広告代理店、放送メディアらが連携し、アーティストの人気獲得と楽曲の認知促進のための大規模なプロモーション活動が行われ、数多くのヒット作品が生み出されてきた。こうした新曲を中心とする音楽市場において、原盤保有者による既存音源のアーカイブ利用、音楽出版社など著作権保有者による既存楽曲の再使用も活発に続けられてきた。録音物として記録された古い楽曲や演奏は、技術革新による新しいメディアフォーマットへの対応、旧譜の再発売、ベストアルバムの発売、コンピレーション・アルバムへ

の収録などによって、様々な年代の人々に伝達されている。このうち、人気の高い作品は、リマスタリングやリミックスによる音質の向上、ボーナストラックの追加、紙ジャケットによるパッケージ質感の向上、プライスダウンなどの付加価値が加えられて繰り返し再発売されることによって、常に市場に流通している。

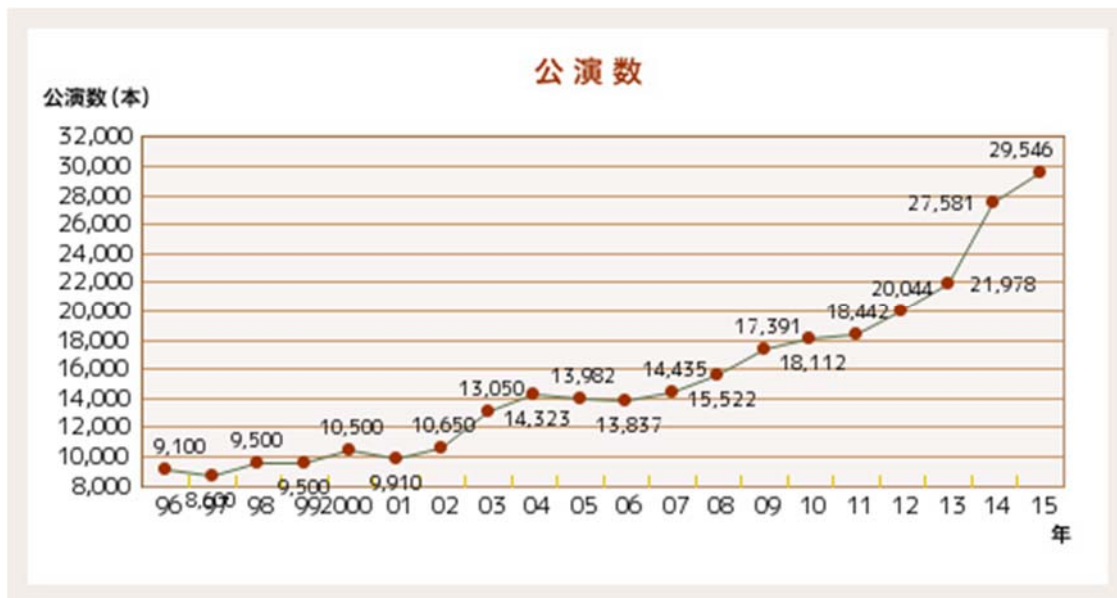
#### 4. 楽曲の使用 (3) コンサート／ライブ

コンサートやライブは、一般的にステージ上でミュージシャンによる生演奏が行われ、聴衆が客席で音楽を楽しむ形式の演奏会である。現在、コンサートは主にコンサート・ホールをはじめドーム会場やイベント会場、ライブハウスなどの会場において開催されている。また、事前に収録した映像を流すフィルムコンサートやビデオコンサート、大規模な会場において複数のステージで同時に演奏が行われる音楽フェス、遠隔地で行われているコンサートを映画館などに中継するライブ・ビューイング<sup>1)</sup> など、現在では様々な形式のコンサートが開催されている。クラシック音楽の場合は主にコンサートやリサイタル、ポピュラー音楽の場合はライブやギグなどの呼称も用いられる。

こうしたコンサートは、クラシック音楽、ポピュラー音楽を問わずプロやアマチュアのミュージシャンによって様々な場所で日常的に開催されている。コンサート・ホールに限らず、地域の公民館やカルチャーセンター、飲食店、ショッピングモール、駅周辺の路上などでもコンサートが行われている。そこでは、様々なテーマでコンサート・プログラムが組まれ、持ち歌やカバーを問わず様々な楽曲が演奏されている。

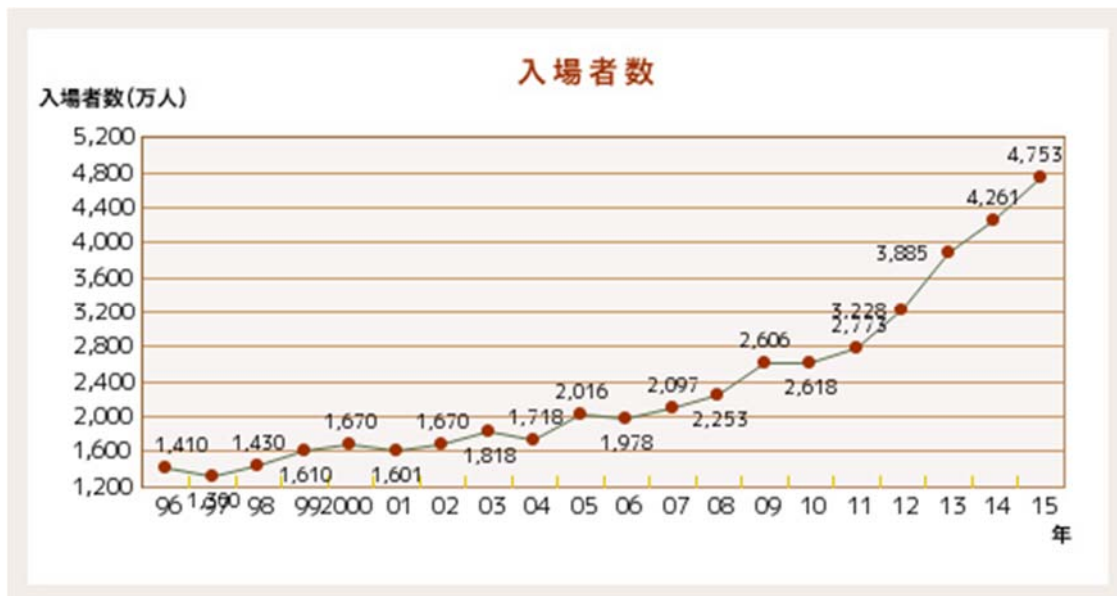
コンサートは近年、様々な音楽の聴取形態のなかでも高い人気を獲得している。一般社団法人コンサートプロモーターズ協会（ACPC）が 2016 年に公表した「ライブ市場調査データ」を参照すると、2015 年の公演数は 29,546 公演、入場者数は 4,753 万人、年間売上額（市場規模）は 3,180 億 3400 万円、著作権使用料額は 35 億 600 万円である。これらを 2006 年の統計と比較すると、10 年間で公演数は約 2.1 倍、入場者数は約 2.4 倍、年間売上額（市場規模）は約 3.4 倍、著作権使用料額は約 4 倍増加している（ACPC 2016）。

図 2. 日本におけるコンサートの公演数の推移



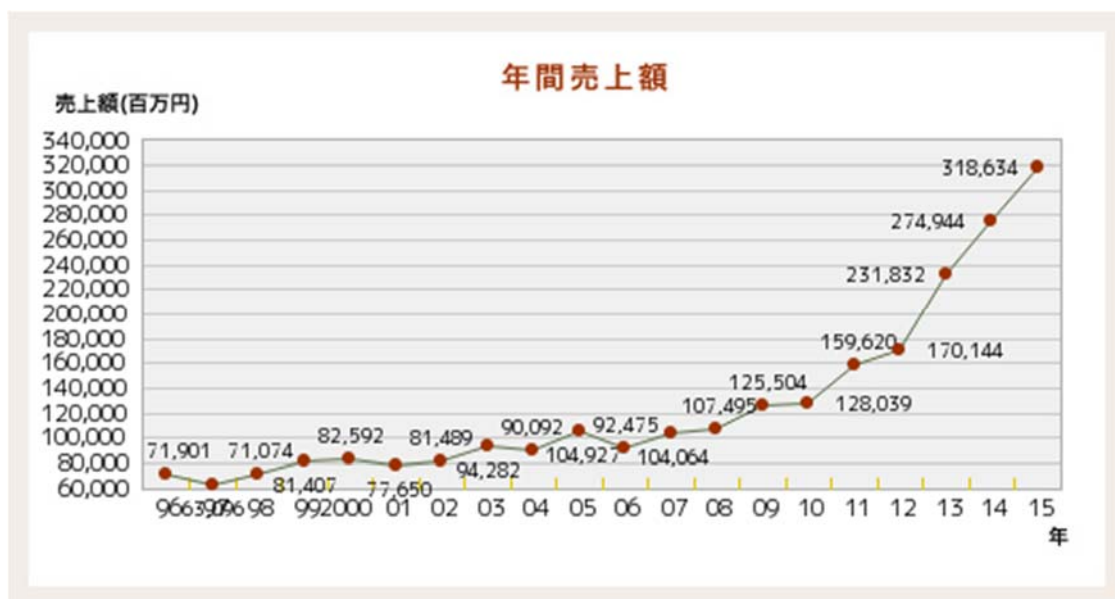
出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 基礎調査推移表（ACPC 2016）

図 3. 日本におけるコンサートの入場者数の推移



出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 基礎調査推移表（ACPC 2016）

図 4. 日本におけるコンサートの年間売上額の推移



出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 基礎調査推移表（ACPC 2016）

図 5. 日本におけるコンサートの著作権使用料額の推移



出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 基礎調査推移表（ACPC 2016）

コンサートは現在、特にポピュラー音楽において、音楽聴取だけに限らない複合的な音楽体験が提供される場としても親しまれている。例えば、アイドルやビジュアル系ロックバンド、声優などのコンサートを中心に、接触イベントと呼ばれるアーティストとの交流がコンサートに盛り込まれている。コンサート会場で行われるアーティストのグッズ販売や特典会と呼ばれる握手会、サイン会、チェキ会<sup>12)</sup>などの催しは、ファンにとってはアーティストとの交流の場として、アーティストにとっては貴重な収益源として機能している。また、フジロックフェスティバルやライジング・サン・ロックフェスティバルに代表される大規模な野外音楽フェスティバルでは、キャンプなどレジャーの要素が多分に盛り込まれている。<sup>13)</sup> 加えて、Perfume や初音ミクのコンサートで知られるプロジェクション・マッピング、レーザーを用いて特殊なフィルムを通して投影する立体映像技術による演出<sup>14)</sup>、LED を使用した照明装置による光の演出など、音楽と同期した視覚的演出も注目を集めている。

## 5. 楽曲の使用 (4) 放送メディア・インターネットの動画配信サイト

放送(broadcasting)は、電波を媒体に音声と映像により情報を受け手に伝達させるマス・コミュニケーションの一型式で、様々な電波方式を利用したラジオ放送や地上波テレビ放送、および放送・通信衛星を利用した衛星放送 (BS、CS) 指す。近年では IP サイマルラジオサービスの radiko<sup>15)</sup>、NHK オンデマンドや民放公式テレビポータルサイトの TVer(ていーばー) <sup>16)</sup> などを利用し、放送コンテンツをパソコンやスマートフォンで聴取、あるいは視聴することができる。放送メディアの音楽番組では、アーティストによるスタジオ演奏、CD やレコードの音源、ミュージックビデオ、コンサートなどが放送される。こうした放送コンテンツによって、ポピュラー音楽やクラシック音楽をはじめ、様々な楽曲が幅広い年代の人々へ届けられている。

日本の音楽産業は黎明期より、放送メディアと密接な関係を保ちながら発展し、ポピュラー音楽を中心に数多くのヒット曲や人気アーティストを生み出してきた。ラジオ放送では、番組制作の新曲から数多くのヒット曲を生み出した『国民歌謡』(NHK、1936 年～1941 年) や『ラジオ歌謡』(NHK、1946 年～1962 年)、『ホームソング』(ABC ラジオ、1952 年～1972 年)、若者を中心に人気を博した『オールナイトニッポン』(ニッポン放送、1967 年～) や『MBS ヤングタウン』(MBS ラジオ、1967 年～)、『パックインミュージック』(TBS ラジオ、1967 年～1982 年) などの深夜放送、FM802 や J-WAVE などの個性的な楽曲やアーティストを中心に紹介するラジオ局などが挙げられる。テレビ放送では、『NHK 紅白歌合戦』(NHK、1951 年～) や『日本レコード大賞』(TBS、1959 年～) など主にその年々に流行したヒット曲を紹介する音楽番組、主に最新のヒット曲を紹介する『ザ・ベストテン』(TBS テレビ、1978 年～1989 年) や『ミュージックステーション』(テレビ朝日、1986 年～)、視聴者参加型のオーディションである『スター誕生!』(日本テレビ、1971 年～1983



年)や『ASAYAN』(テレビ東京、1995年～2002年)、番組のために制作された楽曲から数多くのヒット曲を生み出した『夢であいましょう』(NHK、1961年～1966年)や『ひらけ!ポンキッキ』(フジテレビ、1973年～)、『みんなのうた』(NHK、1961年～)などが挙げられる。また、ドラマ作品やアニメ作品の主題歌・挿入歌、CMソング、バラエティ番組で紹介された楽曲など、テレビ放送を通じてヒットした楽曲も多いことに加え、SPACE SHOWER TVやMUSIC ON! TVなどCS放送の音楽専門チャンネルも高い人気を獲得している。

放送メディアでは、こうした新曲を中心に紹介する音楽番組だけでなく、様々な楽曲も積極的に紹介している。例えば、『ミュージックフェア』(フジテレビ、1964年～)など人気アーティストが様々な年代の楽曲を歌う番組、『思い出のメロディー』(NHK、1969～)など往年のヒット曲を紹介する懐メロ番組、『題名のない音楽会』(テレビ朝日、1964年～)や『名曲アルバム』(NHK、1976年～)などのクラシック音楽番組、『民謡をたずねて』(NHK、1952年～)や『日本の民謡』(NHK、1966年～)などを挙げることができる。また、近年では日本テレビ開局60周年を記念して始められた『THE MUSIC DAY』(日本テレビ、2013年～)、『FNS歌謡祭』(フジテレビ、1974年～)、『FNSうたの夏まつり』(フジテレビ、2012年～)など、幅広い年代のアーティストが共演する大型の音楽番組が人気を集めている。

こうした放送メディアに加えて、近年ではインターネットの動画配信サイトの需要が高まっている。ここで視聴される楽曲や動画は、その傾向も年代も広範である。一般社団法人日本レコード協会(RIAJ)が2016年に公表した「2015年度音楽メディアユーザー実態調査」によると、「楽曲の種別によらず、購入のきっかけとなった情報源としては『テレビ』が最も高い」(RIAJ 2016: 7)とされ、次いでインターネットの動画配信サイト・ネットラジオの割合が高い傾向を示している。また、「最も利用される音楽聴取手段は『YouTube』、次いで『音楽CD』『楽曲ファイル』」(RIAJ 2016: 4)であり、YouTubeが主な聴取手段の50.7%を占めている。こうしたインターネットの動画配信サイトでは、ミュージックビデオ、CDやレコードの音源、コンサート映像などが配信され、様々な楽曲が幅広い年代の人々へ届けられている。

## 6. 楽曲の使用 (5) タイアップ

タイアップとは「商業利用のため、映画やドラマの企画、あるいは特定の企業や商品などと契約を結んで提携をおこなう」(岸本・田中 1998: 3)ことである。日本においてタイアップによる楽曲使用は日本の音楽産業の黎明期から今日まで積極的に行われ、ポピュラー音楽の新曲のみならずクラシック音楽や民俗音楽を含めた既存の楽曲も積極的に用いられている。具体的には、映画やドラマ、アニメ作品の主題歌や挿入歌での楽曲使用、企業や商品のCM (commercial message) やキャンペーンでの楽曲使用、テレビ番組やラジオ

番組のテーマソングでの楽曲使用、記念式典やイベントでの楽曲使用など多岐にわたる。特に、1970年代までは映画の主題歌、1970年代後半から1980年代にかけては化粧品のイメージソング、1990年代以降はCMやドラマ作品とのタイアップから数多くのヒット曲が生まれている。そのため、楽曲と共にタイアップが行われた作品や商品、イベントが人々に記憶されることも多い。

小川博司は広告音楽研究の視点から、それまでの主流であったイメージソングとタイアップソングの違いを「音楽産業が他の業種と提携をするという点において違いはない」（小川 2005: 47）としたうえで次のように説明する。

化粧品のイメージソングも当初はCMソングないしはキャンペーンソングと呼ばれていた。それがイメージソングと呼ばれるようになったのは、広告主、広告産業、音楽産業の当事者たちに、企業や商品の「イメージ」を提示することが重要だと判断されていたからである。タイアップソングという言葉には、当事者たちの「提携」することが重要だという価値判断が反映されている。（中略）イメージソングの場合、曲は商品・企業のイメージを表示する機能を担うため、曲と商品・企業はイメージを介して結びついていた。しかし、タイアップソングでは、タイアップすること自体に重点がおかれ、内容面での結びつきはイメージソングよりも弱くなる。（小川 2005: 46・47）

こうしたタイアップの手法を新曲のプロモーションに積極的に活用したのが音楽制作会社、ビーイング（Being）の長戸大幸（ながとだいこう）である。長戸は音楽プロデューサーとして1990年代にZARDやB'z、DEEN、WANDS、FIELD OF VIEWなどのアーティストを手掛け、アニメ『ちびまる子ちゃん』の主題歌「おどるポンポコリン」（1990年）をはじめ、タイアップの手法を用いて数多くのミリオンセラー作品を生み出した。例えば、ZARDの「揺れる想い」（1993年）やFIELD OF VIEWの「突然」（1995年）は大塚製薬「ポカリスエット」のCMソングとして、B'zの「LOVE PHANTOM」（1995年）は高視聴率を記録したドラマ『Xファイル（第1シーズン）』の主題歌として、WANDSの「世界が終わるまでは」（1994年）はアニメ『スラムダンク』の主題歌としてミリオンセラーを記録した。これらの作品を発表した多くのアーティストのアルバムもミリオンセラーを記録したことに加え、1993年のシングル年間売り上げトップ10には、長戸の手掛けた楽曲が6曲ランクインするなど、タイアップによる新曲のプロモーションの手法は大きな成功を収めた。長戸によって確立されたタイアップの手法は、音楽プロデューサーの小室哲哉やエイベックス・グループ（avex group）の松浦勝人らへ引き継がれるなど、音楽業界全体へ拡散し一般化した。ビーイングに所属し「世界中の誰よりきっと」<sup>17)</sup>（1992年）や「負けないで」<sup>18)</sup>（1993年）などの楽曲を作曲した織田哲郎は、長戸について次のように語っている。

TVをはじめとするメディアをフルに活用にして、タイアップを取り付けた上で、楽曲やアーティストを売ってゆく。そういうプロモーション手法を徹底的にシステム化したのが大幸さんですね。毀誉褒貶いろいろあれど、それまでの音楽業界のシステムを一新したのは確実に大幸さんです。92 年はそれが本格的に機能しはじめた頃じゃないかな。(織田 2007)

新曲のプロモーション活動としてのタイアップは、楽曲が人々に聴かれる機会を増やすだけでなく、楽曲やアーティストの付加価値としても積極的に利用される。例えば、エイベックスが主催し約 10 万人が参加したオーディション「avex dream 2000」のグランプリ受賞者によって結成された音楽グループ、dream のデビューシングル「Movin' on」(2000 年)では、企業 CM と 2 つのテレビ番組との計 3 つのタイアップが行われた。また、2008 年 9 月にエイベックス創立 20 周年を記念してデビューした音楽グループ、GIRL NEXT DOOR のデビューアルバム『GIRL NEXT DOOR』(2008 年)では、インストゥルメンタルを含めた全収録楽曲とテレビ番組やラジオ番組、企業 CM、イベントとのタイアップが行われた。アルバム『GIRL NEXT DOOR』の広告には「ファーストアルバムにして全曲タイアップの超豪華盤!!」(ビートフリーク編集部 2008: 47) というキャッチコピーと共に、収録楽曲のタイアップの詳細が記載され、タイアップが楽曲やアーティストの付加価値として大きくアピールされた。

タイアップには新曲だけでなく、クラシック音楽や往年のヒット曲など、既存の楽曲も数多く使用されている。既存の楽曲を使用したタイアップでは、既存の音源だけでなく、他のアーティストによるカバーや替え歌、インストゥルメンタルなど様々な形態で楽曲が使用される。楽曲が一度流行した後にこうしたタイアップが行われることによって、楽曲は再び人々の注目を集め、再度流行することも多い。例えば、野島伸司が脚本を担当し 1993 年と 2003 年に放映されたドラマ『高校教師』では、1976 年に森田童子によって発表された「ぼくたちの失敗」が主題歌として起用されミリオンセラーを記録した。<sup>19)</sup> 1991 年に大事 MAN ブラザーズバンドによって発表されミリオンセラーを記録した「それが大事」は、発表当初にテレビ番組のテーマソングとして使用された後、1996 年に保険会社の CM ソングとして、2006 年に清涼飲料水のキャンペーンソングとして、2007 年に映画の挿入歌として、2012 年に不動産会社の CM ソングとして、2014 年に住宅メーカーの CM ソングとして使用された。<sup>20)</sup> また、1990 年代に渋谷系と呼ばれる音楽ムーブメントで活躍した小沢健二の作品群は、2000 年代以降に相次いで CM ソングや映画主題歌、テレビ番組のテーマソングとして使用された。小沢の「愛し愛されて生きるのさ」(1994 年)は 2004 年に野菜ジュースの CM ソングとして、「今夜はブギーバック」(1994 年)は 2009 年に自動車の CM ソング、2016 年にファッションブランドのキャンペーンソングとして、「ラブリー」(1994 年)は 2016 年に自動車の CM ソングとして、「さよならなんて云えないよ」(1995 年)は 2016 年に清涼飲料水の CM ソングとして、「ぼくらが旅に出る理由」(1994 年)は 2015 年

にテレビ番組のテーマソングと映画の主題歌として使用された。小沢は自身の古い楽曲が積極的にカバーやタイアップが行われることについて、次のように語っている。

あえて大人っぽい謙譲や敬称を避けて書きたいのですが、このところ「ラブリー」がスズキ自動車に、「さよならなんて云えないよ」がポカリスエットに、「ブギーバック」がビームスに、「強い気持ち・強い愛」がフジ 27 時間TV に、と使われて、もう 1 曲、光栄なカバーも予定されていて、色々考えたりします。

僕の作品は、当時のチャートでわかるように、実は「懐かしもの」になれるほど売れてはいません。「さよなら」なんてチャート 10 位くらいで、みんなが当時を「なつ」と懐かしがれる曲は、他にあるはずです。

それでも僕の曲が使われるのは、何か理由があって、その理由が何かは、複合的な要素があるはずで、よくわかりません。ただ思うのは、それらの曲は、聞いてくれる人たちと出会って、世の中で意味を持つようになったのだなあ、ということです。(小沢 2016)

タイアップによる楽曲使用は、おおむね商品のキャンペーン期間や作品の公開期間の間など、期間限定で行われるものである。しかし、一部の楽曲は、タイアップが行われる作品や企業、商品、テレビ番組などで長期間使用され続けることで、人々に長く親しまれ続けている。例えば、応援歌として知られる 1993 年に ZARD によって発表された「負けないで」は、日本テレビ系列で毎年 8 月に放映される『24 時間テレビ 愛は地球を救う』で行われるチャリティー・マラソンのテーマソングとして使用され、マラソンのクライマックス・シーンで出演者による合唱が行われることが恒例となっている。こうした例は、放映期間が長期間にわたるアニメ作品、および続編の制作が積極的に行われているアニメ作品の主題歌を挙げることができる。例えば、アニメ『サザエさん』で 1969 年から使用されている「サザエさん」と「サザエさん一家」、アニメ『ルパン三世』シリーズで 1977 年から使用されている「ルパン三世のテーマ (Lupin The Third / THEME FROM LUPIN III)」、アニメ『それいけ!アンパンマン』で 1989 年から使用されている「アンパンマンのマーチ」、アニメ『ちびまる子ちゃん』で 1990 年から使用されている「おどるポンポコリン」、アニメ『忍たま乱太郎』で 1993 年から使用されている「勇気 100%」などである。これらのうち、「ルパン三世のテーマ」は新しいアニメ作品が作られるたびに作曲者の大野雄二による再録音が行われている。また、「おどるポンポコリン」<sup>21)</sup>と「勇気 100%」<sup>22)</sup>は定期的にリメイクされ、その時々に関心の高いアーティストによってカバーされた音源が使用されている。

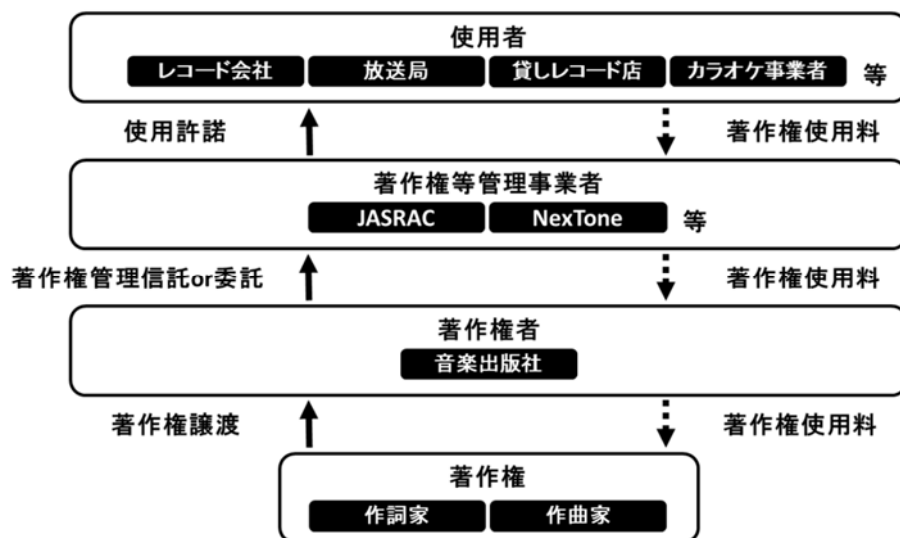
## 7. 楽曲の使用（6）カバー

### （1）. カバーの概要

カバーは「ある演奏者によって録音された特定の曲の、それとは別の演奏者による演奏、あるいは再録音」（Witmer and Marks 1986: 519-520）、または「ある楽曲のオリジナルのレコードが出た後に作られた、同じ曲を使った別のレコード」（Shemel and Krasilovsky 1990=1997: 85）として定義されるポピュラー音楽産業特有の概念である。日本においてカバーという言葉は 1980 年代後半に一般に使用されるようになり、現在ではアーティストによる既存楽曲の使用を総称する概念として定着している。<sup>23)</sup>

カバーは、既存の楽曲を「演奏」することと、および、既存の楽曲を演奏したものを「録音」することの両方の意味を含んでいる。楽曲の使用は一般に、使用者が楽曲の著作者である作詞家や作曲家、著作権者である音楽出版社が著作権を信託もしくは委託している一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）や NexTone などの著作権等管理事業者から許諾を得る。そして、使用者は著作権等管理事業者へ著作権使用料を支払うことで楽曲の使用が可能となる。

図 6. 一般的な著作権使用料の流れ



出所：秀間（2016）より筆者作成

ただし、専属作品を使用する場合には当該レコード会社に連絡し、専属解放の手続きを取らなければならない（JASRAC 2017）。また、JASRAC は編曲を伴うカバーを行う場合について、下記のような手続きを案内している。

カバーにあたりアレンジを加える場合は、まずその作品を管理する音楽出版社に連絡し、「編曲の手続き」をお済ませください。その後、JASRAC に「録音の手続き」を済ませれば、アレンジ付きのカバーを CD に収録することができます。著作権法は、著作権者の権利として「複製権」「演奏権」「送信権」などさまざまな支分権を規定しています（著作権法第 21 条～第 28 条）。アレンジを行う場合の手続きは、この支分権のうち「翻案権（編曲権）」（同法第 27 条）の手続きに該当します。この「翻案権」については、著作権者人格権との関係により、JASRAC は信託を受けられないため、アレンジ（編曲）をする場合、JASRAC ではなく音楽出版社から直接同意を得ていただくことになります。（JASRAC 2014）

作品の同一性保持および作家性を毀損しないために、使用者はカバーを行う際に音楽出版社へ問い合わせることが通例となっている。

## (2)．カバーへの批判

カバーは日本の音楽市場のなかでブームを繰り返しながら、一定の人気を得ているコンテンツである。特に 2000 年代初頭のカバー・ブーム以降は、洋楽、邦楽、古い楽曲、新しい楽曲を問わず、数多くのヒット曲がカバーされ音源化されている。たとえば、徳永英明による『VOCALIST』シリーズ<sup>24)</sup> や中森明菜による『歌姫』シリーズ<sup>25)</sup> など、シリーズ累計で 100 万枚を超える単一アーティストによるカバー作品集が生まれている。また、『hide TRIBUTE SPIRITS』シリーズ<sup>26)</sup> や『宇多田ヒカルのうた—13 組の音楽家による 13 の解釈について』（2014 年）など、あるアーティストの作品を複数のアーティストがカバーするトリビュートアルバムも数多く制作されている。レコード会社や販売店はこうしたカバー作品を主軸に、定期的に販促キャンペーンを組むなど、カバー作品は宣伝活動に力が注がれる「売れる」コンテンツのひとつである。

しかしながら、昨今のカバー作品をめぐる言説は「良い楽曲だからカバーする／された」という素朴な言説よりも、アーティストが自身のオリジナル曲ではない楽曲を歌いヒットさせることが批判される傾向もある。カバー作品に対する批判的な論調を受け、アーティスト側も葛藤を語ることがある。たとえば、徳永英明は自身のカバー作品制作に対するスタンスを「神棚からそっとおろして、埃を払うようにうたっただけです」（徳永・佐伯 2006: 105）と表明しながらも、「シンガーソングライターなのに、なぜカバーするのか」（TBS テレビ 2007）という声に悩まされたと語った。また、カバー作品に定評のある May J. は自身がディズニー映画『アナと雪の女王』の主題歌「Let it go～ありのままで」<sup>27)</sup> を歌った際、謂れの無い批判を受けたことを次のように語った。

Facebook をやっている、フォロワーをいなくてもニュースとか入ってくるじゃな

いですか。で、「May J.はどうしてバッシングされているの？」みたいな、そういうテーマが記事になっているのを見て、「え、私、バッシングされてるの？」って、はじめ思っただけです。そこから Twitter とかを追っていくと、「May J.またカバーだし」「私もそう思った。ムカつく」って、どんどんコメントが増えていくんですよ。バッシングってこういう風に広がって行くんだって、すごく怖くなりました。

でも、まさかディズニーソングで批判が出るとは思ってもいなかった。ディズニーって子供も大人も好きなので、作品自体も誰か個人のものではなくて、“みんなのもの”っていう感覚があるじゃないですか。なのに「便乗している」「調子に乗っている」って、私がピンポイントで批判されていたので「え、そこのなの？」って。みんなが気に入らないのは自分なのかって、予想もしていなかった反応だったので、…うーん…やっぱり、びっくりしたしすごくショックでした。（中略）とにかく一生懸命、歌うことしか考えていなかったし、ましてや「これは私の曲だ」なんて、一回も思ったことはないんだけど…。(May J. 2016: 220-221)

### (3)．楽曲のカバーかアーティストのカバーか

こうした批判は、また、カバーを行うアーティスト当人と、カバーする楽曲を持ち歌とするアーティストとの関係性に及ぶことがある。例えば、2013 年 2 月に『Color The Cover』というカバーアルバムを発表した倅田来未への批判である。この批判は、倅田が「ピンクスパイダー」や「ラブリー」などの有名楽曲<sup>28)</sup>をカバーしたことに対し、「名曲が台無し」「リスペクトが感じられない」(RBB TODAY 編集部 2013)などの批判が主にインターネット上で起こり、ニュースとしても取り上げられた。この言説にみられる「リスペクト(respect)」とは「尊敬」や「敬意」を表す用語であり、近年、ポピュラー音楽の言説空間でよく使用される表現である。こうした「リスペクト」の有無を論点とする批判はリスナーによる思い込みや感覚的な物言いであることは否めないものの、アーティストの言説へも影響を与えていると考えられる。なかでも、既存楽曲を使用するカバーに際しては、アーティストは楽曲や自身のパフォーマンスだけでなく、オリジナルのアーティストについて、自身との関係性に言及したり「リスペクト」を表明したりする傾向がみられる。例えば、浜崎あゆみは 2015 年 12 月に globe のトリビュートアルバム『globe 20th—Special Cover Album』に参加し「Many Classic Moments」<sup>29)</sup>をカバーする際、次のようなメッセージを発表した。

20 周年おめでとうございます! デビューするずっと前に、はじめて globeさんの生のステージを観た時の震えるような衝撃。「A Song is born」での KEIKO 姉とのコラボ。そして、小室さんが提供してくださってきた数々の名曲達。私にとって全てが一生の夢です。原曲の魅力を損なわず、且つ浜崎あゆみらしさも添えるには何がベスト

なのか自問自答しながらチャレンジさせて頂きました。「Many Classic Moments」タイトル通り、忘れられない愛おしい瞬間がまたひとつ増えました。(modelpress 編集部 2015)

このメッセージで浜崎は、尊敬するアーティストの楽曲をカバーすることの喜びとともに、globe のメンバーとの交流を明かし、自身が「Many Classic Moments」を歌うことの正当性を表明している。また、2016 年 3 月に「運命のルーレット廻して」<sup>30)</sup> という楽曲をカバーした La PomPon の KAREN と RIMA は、雑誌のインタビューで次のように語る。

まず、大先輩の ZARD さんのカバーをするって聞いた時はプレッシャーでした。ZARD さんのファンの方々に認めてもらえるのかなって。それで坂井（泉水）さん独特の歌い回しをメンバー 6 人で研究してレコーディングに挑んだんです。(中略) 若い世代の方に、ZARD さんのこういう曲があったんだって発信できたらいいなって気持ちで歌ってます。(土屋 2016: 88)

このインタビューの中で語られる ZARD への言及は、La PomPon と ZARD との所属事務所の先輩後輩という関係性だけでなく、自身が「運命のルーレット廻して」を歌うことについての ZARD ファンへの配慮にまで及ぶ。こうしたオリジナルのアーティストへの慎重な配慮は、カバー作品の発表を報じる大手音楽ポータルサイトの記事においても強調される点である。例えば、La PomPon の事例について、ナタリーは記事タイトルで「La PomPon、先輩 ZARD の『運命のルーレット廻して』カバー」(ナタリー編集部 2015) と報じ、CD ジャーナルは「ビーイング所属の彼女たちが同事務所の先輩、ZARD の楽曲をカバーするところに物語を見る。」(CD ジャーナル編集部 2016) と紹介する。

このような、「誰を／誰の持ち歌をカバーするのか」が焦点化される近年のカバーをめぐる言説は、どのようなプロセスを経て醸成されたのだろうか。ひとつの要因は、現在まで続く日本の音楽産業におけるスター歌手と新曲のレコードを中心とする流行歌の商慣習に根差すものであろう。この商慣習は、1960 年代末まで存在したレコード会社の専属制度によって方向づけられたと考えられる。専属制度とは「作詞家、作曲家、歌手の三者を、それぞれが芸術家として才能を持つものと認め、レコード会社がその才能を独占して、自社の商売にのみ利用するため契約を結ぶもの」(生明 2004: 97-98) である。この制度によって「レコード会社の管理楽曲というものが生まれ、専属作家が作った楽曲は当該レコード会社の管理のもとにおかれ、他者は許可なく自社の専属歌手に録音させることはできない仕組み」(生明 2004: 120) が生まれた。この制度下においては、「東京五輪音頭」など録音権が開放された楽曲や僅かな例外を除き、楽曲は基本的に特定の歌手の持ち歌として専有されることが通例であった。つまり、専属制度下ではカバーは実質的に不可能であり、楽曲とアーティストは不可分のものとしてとらえられていたといえる。こうした構造は 1960



年代を通しての音楽産業の構造転換によって次第に解消に向かい、カバーはブームを繰り返しながら定番の人気商品となった。次章では、1960年代の音楽産業の構造転換を起点に、レコードとして発表されたカバー作品をめぐる現象や言説を概観し、カバー概念の変容を明らかにしたい。

#### (4)．カバーの歴史、1960年代

1960年代に起きた音楽産業の構造転換は多岐にわたる。主要なものとして、専属制度の解体、ASCAP（米国著作権協会）の指導による音楽出版社の設立、新興音楽出版社（現シンコーミュージック）などの音楽出版社や渡辺プロダクションなど独立系プロダクションによる原盤制作と供給の開始、東芝 EMI など新興レコード会社の設立、中村八大や永六輔などのフリーランスの作詞家と作曲家の台頭、楽曲を自作し自演するアーティストの登場、音楽テープの登場などを挙げることができる。このように産業構造が大きく変化するなかで、特に邦楽のカバー作品は専属制度への抵抗という側面を持ち合わせていたといえる。

1960年代前半は、洋楽カバーポップス<sup>31)</sup>のブームとともに、邦楽のリバイバル・ブームが起こる。このブームでは「君恋し」<sup>32)</sup>（1928年）、「雨に咲く花」<sup>33)</sup>（1935年）など過去にヒットした楽曲が再び別の歌手によって歌われてヒットし、特にフランク永井が1961年に歌った「君恋し」は『第3回レコード大賞』でグランプリを受賞するなど高い評価を得た。当時、活発にリバイバル作品に取り組んでいた、コロムビア所属の井上ひろしは、読売新聞のインタビューで欧米の商慣習に言及しながら、専属制度への批判を次のように語った。

みんなが忘れかけていた古い歌を、もう一度日の当たる場所に出して、よみがえらせたいということは一人の歌手としてぼくは自慢していいことと思います。それと、日本ではレコード会社の専属制度の関係で、一つの歌は一人の歌手が歌うだけです。それを、リバイバルのおかげで少しでもくずしたのは、レコード界に前向きな新風を送り込んだことになると思います。アメリカやヨーロッパでは、一曲をだれが歌ってもいいので、いい曲が出ると各歌手は競争で吹き込みます。だからほんとうに歌手の実力勝負です。そのような状況が理想的なので、リバイバルが発展していった新曲でも、だれでも歌えるようになったらいいと思います。（『読売新聞』1961.10.7 夕刊）

井上が望む、新曲を複数の歌手がレコード化するという「競作」は、専属制度の存在するレコード会社において比較的早い1963年に「東京五輪音頭」で実現し、1965年頃にかけて競作ブームが起こった。「東京五輪音頭」はNHKからの依頼により、コロムビア専属作家の古賀政男が作曲を手掛け、1963年6月23日のオリンピックデーに発表された。この楽曲は東京オリンピックの「ムード盛り上げのため録音権も開放」（『朝日新聞』1968.6.1）

され、「三波春夫（テイチク）、橋幸夫（ビクター）、三橋美智也（キング）、坂本九（東芝）、大木伸夫&司富子（ポリドール）、藤山一郎（ソノレコード）の競作」（反畑 2012: 11）でレコード化された。このようなレコード会社の垣根を超えた競作の出現について、ニッポン放送プロデューサー（当時）の池田憲一は、「少なくとも従来の問題であったアーティスト、特に作詞・作詞家の専属制度解消議論のひとつのきっかけを作ったという意味あいでは、これは日本歌謡史上で問題を含んでいる」（『朝日新聞』1965.5.16）と指摘した。

井上のような専属制度への批判はまた、フリーランスの作家や音楽出版社を持つ独立系プロダクションからも展開された。例えば、永六輔作詞、中村八大作曲による「こんにちは赤ちゃん」は渡辺プロダクションの管理楽曲である。この楽曲は1963年に発表され、梓みちよをはじめ、雪村いづみ、伊東ゆかり、中尾エミ、園まり、海外ではコニー・フランシスなどが同時期にレコードを発表するという、欧米の音楽出版社に倣った楽曲プロモーションが展開された。作詞を手掛けた永六輔は、この楽曲をコロムビア専属の美空ひばりに歌ってほしいと嘆願したことに触れ、読売新聞紙上で次のように述べた。

おかしいと思うんだ。外国じゃ一つの曲を何人もの歌手が、いろんな解釈のもとに歌っていて、それぞれ味がある。ぼくはぜんぜんフリーだから、誰に歌ってもらってもいいはずなんだが…。歌手たちは、たとえば橋幸夫、佐伯孝夫、吉田正といったビクター・ラインのように、厳しい専属制度のもとにあって、"自由"がないんだ、と永氏はいう。（『読売新聞』1964.5.8 夕刊）

作曲を手掛けた中村八大も次のように述べた。

日本だけにある習慣で、音楽をやることとなんにも関係のない問題だ。ただレコード会社は、その曲の宣伝や販売を積極的にやるから、作家にとって重宝なだけで、こういった仕事を代行するオリジナル・パブリッシャー（音楽出版社）が、日本にも発展すれば…。作家も歌手も本質的に自由になるという。（『読売新聞』1964.5.8 夕刊）

加えて、渡辺プロダクションの渡辺美佐は「こういった方法は、曲の著作権がうちにあるからできることで、私はよい歌を作るのには、一番いいシステムじゃないかと思う」（『読売新聞』1964.5.8 夕刊）と述べた。コロムビアの製作本部長の丸山は個人的な意見であると前置きしながらも、彼らの指摘に対して次のように述べた。

歌手は別として作家は原則フリーであるべきだと思う。そのフリーな作詞家、作曲家を自由に組み合わせれば、現状よりよい企画が生まれる可能性が強いだろう。しかし、これは全レコード会社が一致してやらなければならないことだ。（『読売新聞』1964.5.8 夕刊）

専属制度への批判は、カバーをはじめとする楽曲の使用やプロモーションの問題だけでなく、従来のレコード会社を中心とした楽曲を生み出すシステムそのものに及ぶものであった。こうした議論の高まりや新興勢力の台頭を受け、既存のレコード会社は、洋楽を扱っていた部署に邦楽の制作を担当させるなどして、フリーランスの作家の登用や外部制作の原盤導入をはじめた。<sup>34)</sup> さらに、専属制度を担っていたレコード会社の文芸部の見直しが進められ、1960年代末には専属制度そのものが解体された。

## (5). カバーの歴史、1970年代

1960年代を通じての音楽産業の構造転換は、フリーランスの作家や音楽出版社をはじめ様々なプレーヤーの新規参入を促した。フォークやロックにおける自作自演を行うアーティストもそのひとつである。彼らによって、1960年代後半から1970年代後半にかけて多数の邦楽のカバー作品が発表された。例えば、加藤登紀子による「知床旅情」<sup>35)</sup>やイルカによる「なごり雪」<sup>36)</sup>、ボブ・ディラン (Bob Dylan) のカバーアルバム『Self Portrait』(1970年)に影響を受けた甲斐よしひろのカバーアルバム『翼あるもの』(1978年)などが挙げられる。1970年代後半には、過去のレパートリーの再録音や、他者に提供した楽曲を提供者自身が歌う「セルフカバー」作品が生まれ、吉田拓郎のアルバム『ふらいべえと』(1977年)や中島みゆきのアルバム『おかえりなさい』(1979年)が制作された。加えて、自作自演を行うアーティストに限らず、アイドルによるカバーや演歌、歌謡曲のカバー作品も多数制作された。例えば、1975年から1976年にかけて、美空ひばりによる『芸能生活30周年記念 歌謡曲50年』という全15集のカバーアルバムが制作された。この作品は、『カチューシャの唄』から『リンゴの唄』『浪曲子守唄』『今日でお別れ』まで百八十曲を十五枚に収録する(『朝日新聞』1976.2.9 夕刊)ものであり、美空ひばりの所属するコロムビア以外の管理楽曲も多数含まれていた。<sup>37)</sup> こうした1970年代における既成楽曲の再利用の機運は、1976年に発行された音楽業界誌『MUSIC LABO』の特集記事にも記録されている。

近く発売予定の美空ひばり「さくらの唄」をはじめ、日音の"既成楽曲の再開発"が目覚ましい勢いで進んでいる。そのこと自体が、スタンダードを作ろうという理念を、日常の業務の中で実践してきた同社の現在における成果の表れといえるかもしれない。"既成楽曲の再開発"は音楽出版社の最も基本的な業務のひとつにすぎないが、シングルによる発売の多さという話題と共に日音における積極な姿勢をとりあげてみた。<sup>38)</sup>  
(MUSIC LABO 編集部 1976: 50)

この記事では、音楽出版社の日音が権利を持つ「さくらの唄」<sup>39)</sup>や「ブルー・ライト・

ヨコハマ」<sup>40)</sup>などの楽曲が取り上げられ、音楽出版社がレコード会社と協力し、自社の管理楽曲のカバー作品を通じてスタンダード曲を作ろうと取り組む姿勢が読み取れる。こうした音楽出版社、つまり楽曲の著作権者を中心とする取り組みは現在に繋がるものである。

## (6)．カバーの歴史、1980 年代

1980 年代前半には、歌謡曲、演歌の競作ブームが起きた。ちあきなおみ、細川たかしなどによる「矢切の渡し」や木村友衛、都はるみなどによる「浪花節だよ人生は」はその代表作である。「矢切の渡し」は、1976 年 10 月にちあきなおみのシングル「酒場川」のカップリング曲として発表され、1983 年に細川たかしなど複数のアーティストによってカバーされた。「浪花節だよ人生は」は 1976 年に小野由紀子によって歌われた楽曲を 1981 年に木村友衛が歌ったことが嚆矢となり、アーティスト 16 名、レコード会社 13 社による競作としてレコードが制作された。1984 年 12 月の『第 35 回 NHK 紅白歌合戦』においては、「浪花節だよ人生は」を細川たかしと水前寺清子がそれぞれ歌い、同一楽曲による対決が行われた（菊池 2008: 38）。

1980 年代後半は、女性アイドルを中心にカバー作品が注目を集め、新聞や雑誌などでカバー・ブームとして報じられた。特にこの時期は、新聞や雑誌などで「リメイク」や「リバイバル」という従来の表現に加え、RC サクセッションがカバーアルバムのタイトルを『Covers (1988 年)』と命名するなど、新たに「カバー」という言葉が使用され始めた点が特徴である。この時期の代表的な作品は、洋楽の日本語カバーでは、Wink による「愛が止まらない〜Turn It Into Love〜」<sup>41)</sup>、荻野目洋子による「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」など、邦楽のカバーでは斉藤由貴による「夢の中へ」<sup>42)</sup>、森高千里による「17 才」<sup>43)</sup>、小泉今日子による「学園天国」<sup>44)</sup>などが挙げられる。この時期のカバー・ブームについて、「以前のような洋楽ヒット曲ではなくて、往年の歌謡曲をカバーしてヒットに結び付く現象が目立っている」（藤野 1989: 3）こと、「今までの戦後の曲でスタンダード化したのはビートルズしかなかった。日本の名ポップスもスタンダード化してきているという感じがします。」（泉 1989: 70）といった、邦楽のスタンダード化とカバー増加が指摘された。この時期のカバー・ブームは 1991 年ごろまで続き、カバーされる作品も次第に邦楽作品が中心となっていった。加えて、CM の企画から生まれたレイ・チャールズ (Ray Charles) による「いとしのエリー」<sup>45)</sup>や A.S.A.P. による松任谷由実作品のカバー作品集<sup>46)</sup>など、海外アーティストによる邦楽作品のカバーも「逆カバー」<sup>47)</sup>として多くの作品がヒットを記録した。こうした邦楽カバーの増加について、オリコン・ウィークリー元副編集長の古川治は、1991 年 10 月に次のように指摘している。

やっぱりディレクターさんが、かつて自分が好きだった曲を掘り起こしてくるんだろーか。植木等、山本リンダのブームもあるし、CD での古い作品の復刻も盛んだし、

とにかく今、歌謡ポップスのルネッサンス運動が起きているのは間違いないでしょうね。この、古典的ポップスの見直しが終わった後に、新しい段階の「ヒット・ポップス」が生まれてくるんだとも言えましょう。(古川 1991: 12)

また、音楽評論家の小倉エージはカバーの問題点として、「いい新曲ができないことも一因」であり、「カバーには、元の曲への郷愁が強すぎて、新しく歌う歌手の個性や歌唱力が軽視されがちという落とし穴がある」(『朝日新聞』1989.11.2 夕刊) ことを指摘した。古川や小倉が指摘するように、この時期までのカバーは、ひとえに、「あの楽曲は今度は誰が歌うのか」といった、アーティストよりも楽曲に焦点が当てられていたといえる。古川や小倉の指摘が「いい新曲ができないこと」(『朝日新聞』1989.11.2 夕刊) や「古典的ポップスの見直し」(古川 1991: 12) という視点からなされている点も、楽曲に焦点が当てられていることの証明であると考えられる。

#### (7). カバーの歴史、1990 年代

1990 年代の日本の音楽市場は、タイアップ作品を中心とする長戸大幸や小室哲哉、小林武史らのプロデュース作品など多くのミリオンセラー作品が生まれ、1998 年に史上最高益を記録した。こうした動きと同時に、渋谷系と呼ばれるムーブメントやアナログレコードの CD 化によって再発盤市場が形成され、過去の邦楽作品への再評価がおこった。<sup>48)</sup>

1990 年代におけるカバーの大きなトピックはトリビュートアルバムの誕生である。ここにおいてカバーはこれまでと異なり、楽曲よりもアーティストに焦点が当てられる、という転換が起きる。「トリビュート (tribute)」とは敬意や賛辞、捧げるという意味で使用され、トリビュートアルバムは「素晴らしい音楽を遺した偉大なアーティストがいたとして、その人に強く影響を受けた後輩ミュージシャンたちが集まって作るカバー集」(小西 1999: 174) として定義される。トリビュートアルバムは、エディット・ピアフ (Edith Piaf)、ボブ・ディラン (Bob Dylan)、レナード・コーエン (Leonard Cohen) などを対象に海外で生まれた作品形態であり、1994 年の洋楽における「一種のブーム」(『朝日新聞』1994.7.7 夕刊) として新聞や雑誌などで紹介された。邦楽におけるトリビュートアルバムは、1999 年までに、加山雄三、坂本九、hide、松任谷由実、美空ひばり、矢沢永吉などを対象としたアルバムが発表された。このうち、Yoshiki、LUNA SEA、GLAY など縁のあるアーティストが集結した hide のトリビュートアルバム『hide TRIBUTE SPIRITS』(1999 年) はミリオンセラーを記録した。いずれにせよ、トリビュートアルバムにおいて焦点化されるのは、楽曲よりもアーティストである。そして、こうした作品に参加することそのものが、アーティストからアーティストへの「リスペクト」の表明として機能する。トリビュートアルバムの持つこうした性質は、その後のカバーをめぐる言説に少なからず影響を与えたと考えられる。

## (8). カバーの歴史、2000 年代以降

2000 年代前半は映画『ALWAYS 三丁目の夕日』（2005 年）に代表される昭和ブーム<sup>49)</sup>と連動した、歌謡曲のカバーが数多く制作された。代表的なものに、ウルフルズと Re:Japan による「明日があるさ」<sup>50)</sup>、島谷ひとみによる「亜麻色の髪の乙女」<sup>51)</sup>、井上陽水によるカバーアルバム『UNITED COVER』（2001 年）、などが挙げられる。これらのカバー作品は CM などのタイアップ作品として注目を集めたものが多い。この時期のカバーをめぐる言説で特徴的なものは、カバーを行うアーティストの個性や魅力が強く言及される点である。例えば、福山雅治は自身のカバーアルバム『The Golden Oldies』（2002 年）について、「ただ、邦楽ってこんなにいい曲があるんだよっていうことを伝えたい。そしてボーカリスト・福山雅治の魅力。二つの意味で、いい作品に仕上がったと思ってるんですよ。」（榎林 2002: 32）と語る。また、井上陽水のカバーアルバム『UNITED COVER』についての特集記事では、「まさにこのアルバムは、オリジナルバージョンの持つ美しさと、井上陽水のオリジナリティと、私的なノスタルジアが結束して生まれた 1 枚だ。」（オリコン・エンタテインメント編集部 2001: 57）と紹介される。そして、こうしたカバーをめぐるアーティストの個性や魅力についての言説においては、しばしば「原曲を超える」といった表現で、カバーはある楽曲の異なるバージョン以上の価値を持たせるべきとする論調が生まれる。例えば、ジャーナリストの中島恵は、このような事柄について次のように語っている。

カバーアルバムは元・若者の郷愁を誘うと同時に、「あの歌手がこんな歌を」という意外性がミソだ。だが、歌う側のアーティストにしてみれば、原曲を超えられず、単なるモノマネになってしまう危険がある。したがって、「完全に自分のものにする自身がないと歌えない」勝負作品でもある。（中島 2003: 88）

2000 年代後半になると、カバー作品の付加価値として、アーティストの個性や魅力に加え、比較的新しい楽曲含めることが加わる。音楽評論家の富澤一誠は、2007 年にカバー作品がヒットする条件として次の 3 点を指摘する。

カバーがヒットする条件というのがあって、誰もが知っている曲であるということ、そして、原曲の良さを損なわずに、自分の持ち味を生かしていること、さらに、選曲は名曲が基本だが、その中にも最近ヒットしたキラーソングが入っていること。（葛西 2007: 100）

富澤の「最近ヒットしたキラーソングが入っていること」（葛西 2007: 100）という指摘は、たとえば、シリーズ累計で 600 万枚以上を売り上げた徳永英明による『VOCALIST』シリーズの選曲に表れている。『VOCALIST』シリーズ 6 作品のうち、昭和歌謡に選曲を限

定した『VOCALIST VINTAGE』を除く 5 作品について、アルバム発売年を起点に収録楽曲について考察した。すると、どのアルバムも曲年齢 20 年以上の楽曲が過半数を占めながらも、最低 1 曲（最も多いもので 4 曲）は曲年齢 10 年以下の楽曲が含まれている。こうした選曲の傾向は、2000 年代以降に発表された特定の時代や年代を選曲テーマとしないカバーアルバムの多くにあらわれるものである。

1960 年代からのカバーをめぐるトピックや言説をたどると、長く楽曲が主体としてとらえられていたカバー作品は、1990 年代のトリビュートアルバム登場以降、楽曲よりもアーティスト、つまりその人の個性や魅力、「リスペクト」が主体となる傾向が読み取れる。こうした流れを経て、カバーを行うアーティストへの批判なども含め、現在のカバーをめぐる言説空間が形成されたと考えられる。

## まとめ

本章では、まず、日本における楽曲伝達の典型パターンと楽曲がどのように使用されているかを明らかにした。日本における楽曲伝達の典型パターンは、【芸術】型、【民俗】型、【ポピュラー】型の 3 つの類型の存在が認められた。そして、人々に長く歌い聴き継がれてきたポピュラー音楽においては、複数の楽曲伝達の典型パターンを経て楽曲が繰り返し使用されることで成熟したものが数多く存在する。そのため、ポピュラー音楽の成育過程には、ポピュラー音楽の伝達過程のみを経た【ポピュラー】型に加え、ポピュラー音楽と民俗音楽の 2 つの伝達過程を経た【ポピュラー・民俗】型、ポピュラー音楽と芸術音楽の 2 つの伝達過程を経た【ポピュラー・芸術】型、ポピュラー音楽と民俗音楽、芸術音楽の 3 つの伝達過程を経た【ポピュラー・民俗・芸術】型を含めた 4 つの成育過程の類型を見出すことができた。

次に、著作権法の定める様々な楽曲の使用に関わる権利関係のうち、とりわけ、楽曲が人々に長く歌い聴き継がれていくなかで重要な使用方法に関連する演奏権、複製権、公衆送信権にかかわる項目について、(1)楽譜（複製）、(2)録音物（複製）、(3)コンサート（演奏）、(4)放送メディア・インターネットの動画配信サイト、(5)タイアップ、(6)カバーの 6 項目を設定し、その詳細を検討した。(2)録音物（複製）、(3)コンサート（演奏）、(4)放送メディア・インターネットの動画配信サイト、(5)タイアップは、日本において【芸術】型と【ポピュラー】型に共通する使用方法である。【芸術】型の楽曲伝達においては、(1)楽譜（複製）が用いられ学校教育や教科書を通じて楽曲が幅広い年代の人々に歌い聴き継がれていることが特徴である。【ポピュラー】型の楽曲伝達においては、(6)カバーされることによって楽曲が幅広い年代の人々に歌い聴き継がれていることが特徴である。人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲は、これら(1)から(6)の使用方法が繰り返されてきたことによって成熟したといえる。

## 第2章 長く歌い聴き継がれてきた楽曲とは何か

### はじめに

本章では、まず、楽曲についての分析概念として「曲年齢」と「曲履歴」を提示し、次に、「日本を代表する楽曲」などのテーマで番組制作者が視聴者を対象に行った大規模な調査を基にした10本の音楽番組を分析対象とし、様々な切り口で実施される楽曲に対するアンケート調査で選出される楽曲の特徴を明らかにする。

幅広い年代や志向の人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲は、様々な呼称で語られている。例えば、古い海外のポピュラー音楽はオールディーズ (Oldies) として、古いアメリカのポピュラー音楽はアメリカン・ソングブック (American Songbook) として、1970年代に流行したダンスミュージックはディスコ・クラシック (Disco classics) として、長く親しまれてきた日本の文部省唱歌や童謡、古い流行歌は愛唱歌や懐メロとして、クラシックやジャズの楽曲は定番やエバーグリーン (Evergreen) やスタンダード (standard) として、様々な隣接概念を用いて語られている。こうした様々な愛称のうち、近年、幅広い年代の人々が親しめる音楽をテーマとする音楽関連コンテンツにおいて、使用される機会の多い呼称がスタンダードである。

社会学者の小泉恭子は、人々がポピュラー音楽をどのように使い分けているのかについて、高校生を対象としたフィールドワークを通じてポピュラー音楽の「使い分けの三層構造」という分析概念を提出した。小泉は、人々が日常生活で個人的に楽しんでいる楽曲を「パーソナル・ミュージック」、同世代の人々をつなぐ楽曲を「コモン・ミュージック」、異世代の人々をつなぐ楽曲を「スタンダード」とし、人々がポピュラー音楽をどのように使い分けているのかを明らかにした。小泉はポピュラー音楽の「使い分けの三層構造」において、スタンダードの主な特徴を次のように説明している。

スタンダードは一般に「スタンダード・ナンバー」と呼ばれるものとほぼ同義で、ジャズや映画音楽の名曲、ビートルズ・ナンバーなどが好例だ。何世代にもわたり歌い継がれるので異世代を繋ぐ役目を果たす。音楽の教科書に載っているポピュラー音楽はほぼ例外なくスタンダードだ。たとえば、六〇年代から七〇年代にかけて流行った国内外のフォークソング (<花はどこへ行った><なごり雪><翼をください>など) で、団塊の世代のコモン・ミュージックがスタンダードに「昇格」した例である。文部省唱歌のように国家が学校で歌うために準備した曲は、社会の中で草の根的に昇格するスタンダードには含まない。大衆に支持され歌い継がれることがスタンダードの条件なのだ。作られた当時の社会背景を超えて生き残った曲でもある。

スタンダードには音楽的に洗練された構造を持ち旋律も親しみやすい曲が多く、音楽教師にとって教材化しやすい素材の宝庫である。スタンダードだけがポピュラー音



楽の教材として認められていることは、スタンダードが日本の学校で「音楽としてみなされているもの」(What counts as music) を暴き出す鍵を握るということでもある。A 高等学校の田中先生によれば、七〇年代を代表するフォークソングや、ディズニー、宮崎駿の映画のサウンドトラックは、教師と生徒の共通項として授業で取り上げやすいという。「時を超えた名曲」という常套句があるように、スタンダードは特定の社会背景や映画の物語を脱しても生き残っているテキストとしての自立性の高い作品である。「特定の文脈を脱した」「テキストとしての自立性の高さ」という点でスタンダードとクラシック音楽は共通している。(小泉 2007: 60-61)

小泉の分析概念は、人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲とは何かを考えるうえで示唆に富んでいる。こうした楽曲の多くは、様々な方法で使用される「特定の社会背景や映画の物語を脱しても生き残っているテキストとしての自立性の高い作品」(小泉 2007: 60-61) である。

音楽用語としてのスタンダードは、本来は多くのジャズ・ミュージシャンが好んで演奏する楽曲レパートリーを指す、アメリカで生まれた呼称である。具体的には「19 世紀後半のポピュラーソング、ブロードウェイ・ミュージカル、ハリウッド映画由来の楽曲、ジャズ・ミュージシャンたちによって新しく作られた楽曲」(Witmer 2002: 649) を指すものである。この意味で、スタンダードは古い楽曲全般を指すものではなく、ジャズ・ミュージシャンたちによって長いあいだ盛んに演奏されて、人々に歌い聴き継がれてきた楽曲であるといえる。こうしたイメージを受けて、スタンダードはポピュラー音楽においても「歌は、歌い継がれることでスタンダードとなり、永遠の命を授けられます」(NHK 2017) という説明とともに、「“ナツメロ” と呼ばれていた、これまでの歌謡曲や演歌の旧作とは異なる一連の作品群」(佐藤 2004) を指す呼称として用いられている。こうしたスタンダードを語る多くの言説では、楽曲がある時期に何かのきっかけでスタンダード化し、その後は永遠にスタンダードであり続けるという、音楽への篤い思いが見受けられる。<sup>52)</sup>

しかしながら、ジャズのレパートリーにおいては、ある時期まで多くのミュージシャンに盛んに取り上げられていた楽曲であっても、時間の経過と共にそうした機会が減少し、スタンダードとしての存在感を失うことによって、かつて流行した古いレパートリーとして扱われる楽曲も存在する。例えば、音楽評論家の青木啓はジャズ・スタンダードについての言説と、「カロライナ・ムーン」という楽曲について次のように述べている。

また、古い歌(曲)はすべてスタンダードだ、と思い込んでいる人もいらっしやる。これも違う。もっとも、今日に残っている古い歌のほとんどはスタンダード化しているものだから、こう思い込むのはまったくの間違いだ、と言い切ることはできないだろう。それでも、古い歌のすべてをひっくるめてスタンダードと呼ぶのは、やはりおかしい。たとえば、注目のテナー・サクソ奏者ベニー・ウォレスが 87 年録音のアル

バム『ボーダータウン』（ブルーノート）に、「ダンス・ウィズ・ア・ドリー」という曲を入れている。これは 40 年に作られたポピュラーソングで、44 年にラス・モーガン楽団やイヴリン・ナイトのレコードがヒットし、翌年には映画に使われているが、その後は滅多に歌われず、スタンダードにはならなかった。46 年生まれのウォレスはこのナンバーをどこから掘り出したのだろう。ご両親の愛好曲だったのだろうか。同じアルバムに入っている「カロライナ・ムーン」は 28 年に作られた歌で、60 年代ごろまではスタンダードだったが、近年はあまり耳にすることがなく、ナツメロになっている。このような例はかなり多い。（青木・海野 1988: 11-12）

つまり、ジャズのレパートリーにおいてスタンダードは永遠ではなく有限であり、日本のポピュラー音楽の楽曲においても同様であると考えられる。それゆえ、幅広い年代や志向の人々に長く歌い聴き継がれ成熟した楽曲について考察する際には、こうした視点から楽曲分析を行うことが不可欠である。

## 1. 曲年齢と曲履歴

本研究は、人々に長く親しまれてきた曲を分析するために、柴台（2014, 2016a）の「翼をください」と「ダンシング・ヒーロー（Eat you up）」という楽曲の研究に基づく分析概念として「曲年齢」と「曲履歴」を導入する。

曲年齢とは調査時、あるいは分析時から楽曲の初出年を差し引いたものである。1971 年に発表された「翼をください」を例に挙げると、2011 年時点での調査を用いる場合、調査が行われた 2011 年から初出年である 1971 年を差し引き、曲年齢 40 年とする。曲年齢を算出することによって、調査時、あるいは分析時で、その楽曲が初出から何年経過したのかが明らかになる。また、曲履歴とは、楽曲が初出時から調査時、あるいは分析時までのあいだ、どのように使用され、どのような経歴や文脈を蓄積してきたかを把握するためのものである。具体的には、楽曲がどのようなレコードや CD に使用されたか、どのようなアーティストにカバーされたか、どのようなタイアップが行われたか、などである。これらはそれぞれ、人間における年齢と履歴に相当する。つまり、「曲年齢」と「曲履歴」は、楽曲を人格化し、楽曲が獲得した社会的文脈や経歴を分析しようとする試みである。<sup>53)</sup>

## 2. 楽曲についてのテレビ番組における大規模な調査

本研究で提示した分析概念である曲年齢と曲履歴を用いて、人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲とは具体的にどのような楽曲なのかを明らかにするために、有効な参考資料のひとつが放送局制作の音楽番組である。とりわけ、単一のテーマで番組制作者が視聴者を対象に行った大規模な調査を基にした音楽番組は、往年の楽曲から調査時点での最新の楽

曲まで広範囲の年代の楽曲が含まれているため、資料的価値が高いものといえる。本研究は、「日本を代表する楽曲」などのテーマで番組制作者が視聴者を対象に行った大規模な調査を基にした 10 本の音楽番組を分析対象とし、曲年齢と曲履歴を用いた考察を行った。

表 3. 分析対象とした 10 の音楽番組一覧表

	放送年月日			テレビ局	番組タイトル	母数
1	1981	1	1	TBS	全国歌謡曲大調査—明治から昭和この百年！史上最大のベストテン	3000人
2	1989	9	15	NHK総合	昭和の歌 心に残るベスト200曲（全3回）	2000人
		9	23			
		10	10			
3	1998	1	19	NHK BS	BS20世紀日本のうた—20世紀の日本を感動させた歌ベスト100	1775万票
4	2005	12	31	NHK総合	第56回NHK紅白歌合戦—スキウタ〜紅白みんなでアンケート	375万9996票
5	2009	10	20	TBS	うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト50 —全国の男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲TOP50	10000人
6	2014	3	21	テレビ朝日	MUSIC STATION SPECIAL 「卒業、桜…1万人が選んだ春の名曲ランキング」 —10代から60代までの男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲ぞろいのランキング80を大発表！	10000人
7	2015	6	20	テレビ朝日	MUSIC STATION SPECIAL —「もっともリクエストが多かった夏うたは？」アンケート集計結果	3000人
8	2015	9	23	テレビ朝日	MUSIC STATION ウルトラFES 30TH 「日本人に勇気をくれたニッポンの歌 Best 100」 —「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは？」日本人男女1万人にアンケート集計結果	10000人
9	2016	3	25	テレビ朝日	MUSIC STATION SPECIAL 春に聴きたい桜&卒業ソングランキング	3000人
10	2016	3	28	フジテレビ	FNSうたの春まつり「桜、卒業、旅立ち、春の名曲100選」 —日本全国10代から70代、「あなたにとって春の名曲は？」2000人にアンケート	2000人

出所：筆者作成

これら 10 本の音楽番組の多くは調査データの詳細を明らかにしたものではなく、調査対象者に関する最小限の情報と、選ばれた楽曲のみを発表したものである。また、調査対象者は自らこのような調査に参加意思を示す、ポピュラー音楽に関心の高い集団であると考えられる。しかし、幅広い年代層の男女 2,000 人以上が回答している点、大手放送局が全国ネットで放送した音楽番組である点、音楽番組そのものが音楽市場と連動している点を考慮し、これらの調査結果を考察の対象とした。

### 3. 1981 年～2009 年の 5 つの事例についての曲年齢と曲履歴を用いた分析

本節では 1981 年から 2009 年にかけて放送された 5 つの音楽番組を分析対象とし、曲年齢と曲履歴を用いた考察を行う。各番組で選曲された楽曲について、番組の放送年から楽曲の初出年を差し引いたものを曲年齢として定義し、選出された楽曲の曲年齢を 10 年刻みでグラフ化した。加えて、①初出年、②初出年のタイアップの有無、③初出年以降のタイアップの有無、④学校教科書掲載の有無<sup>54)</sup>、という 4 項目を「曲履歴」として設定し、検討した結果を図表化した。

### (1).『全国歌謡曲大調査—明治から昭和この百年! 史上最大のベストテン』(1981 年)

TBS テレビで 1981 年 1 月 1 日に放送された『全国歌謡曲大調査—明治から昭和この百年! 史上最大のベストテン』は、全国の 12 歳以上の男女 3,000 人を対象に明治時代から昭和時代までの歌謡曲についてアンケートを実施し、上位 101 曲を発表したものである。この調査は、明治時代から昭和にかけての約 100 年のあいだに流行した楽曲を選曲対象としていること、歌謡曲や流行歌として発表された楽曲だけでなく、文部省唱歌や童謡などの楽曲が選ばれていることが特徴である。この調査では「黒い花びら」(曲年齢 21 年)、「古城」(曲年齢 21 年)が発表された 1959 年以降は、毎年、最低 1 曲以上の楽曲が選出されていた。また、「影を慕いて」(曲年齢 49 年)など古賀政男作曲による楽曲が 9 曲、「酒は涙か溜息か」(曲年齢 50 年)など藤山一郎の持ち歌として親しまれている楽曲が 5 曲という、高い割合で選出されていた。そして、「同期の桜」(曲年齢 43 年)はこの調査のなかで唯一選出された軍歌であり、軍歌は本研究で分析対象とした 10 の調査において、この調査でのみ選出されていた。

この調査で選出された 101 曲は、1900 年に発表された楽曲から 1980 年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選出されていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、0 年～9 年の楽曲が最も多く 42 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 74 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 27 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 20 曲、60 年を超えた楽曲は 6 曲であった。この調査において、曲年齢が 60 年を超えた楽曲はすべて歌謡曲や流行歌として発表された楽曲ではなく、文部省唱歌や童謡、民謡、歌曲であった。それぞれ、「五木の子守歌」(曲年齢 81 年)は民謡、「荒城の月」(曲年齢 80 年)は歌曲、「われは海の子」(曲年齢 71 年)は文部省唱歌、「浜千鳥」(曲年齢 62 年)、「叱られて」(曲年齢 61 年)、「赤とんぼ」(曲年齢 60 年)の 3 曲は童謡として発表された楽曲である。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 59 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 27 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 43 曲であった。特に、曲年齢が 10 年を超える楽曲の多くは、1 位に選ばれた「青い山脈」(曲年齢 32 年)、「君恋し」(曲年齢 55 年)、「いつでも夢を」(曲年齢 19 年)をはじめ映画作品とのタイアップが行われ、主題歌や挿入歌として使用された楽曲であった。そして、学校教科書に掲載された楽曲は 10 曲あり、この調査で選出された文部省唱歌や童謡、民謡、歌曲はすべて学校教科書に掲載された楽曲であった。

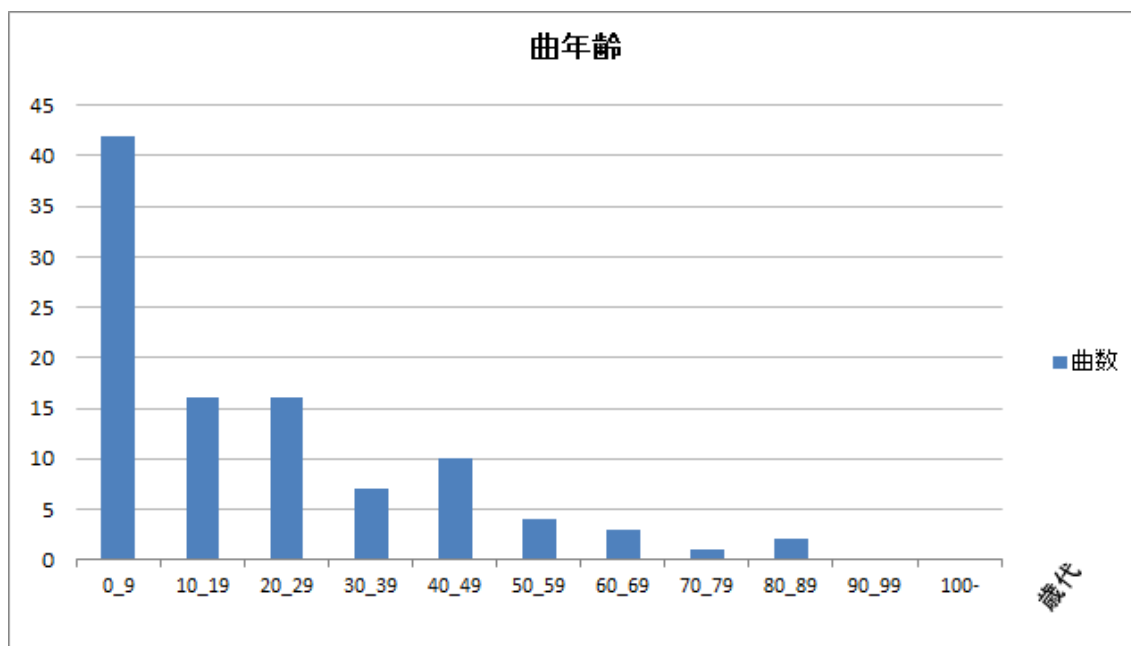
表 4. 『全国歌謡曲調査』（1981 年） 詳細

全国歌謡曲大調査、明治から昭和の百年！史上最大のベストテン アンケート集計結果(TBS 1981年1月1日放送)						①	②	③	④
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	初出 年	タイアップ 初出年	タイアップ 初出年 以降	教科書
1	000-0247-0	古い山脈	西条八十	服部良一	32	1949	○		
2	028-2382-9	くちなしの花	水木かおる	遠藤実	8	1973			
3	077-0447-0	星影のワルツ	白鳥園枝	遠藤実	15	1966			
4	024-5993-1	北の宿から	阿久悠	小林重星	6	1975			
5	019-0114-1	影を慕いて	古賀政男	古賀政男	49	1932	○		
6	052-2283-4	津軽海峡・冬景色	阿久悠	三木たかし	4	1977			
7	—	荒城の月	土井晩翠	滝廉太郎	80	1901		○	○
8	024-6617-1	北国の春	いではく	遠藤実	4	1977			
9	044-1529-9	瀬戸の花嫁	安井かずみ	平尾晶晃	9	1972			
10	—	赤とんぼ	三木露風	山田耕筈	60	1921		○	○
11	059-1999-1	長崎は今日も雨だった	永田貴子	彩木雅夫	12	1969		○	
11	095-1656-5	別れても好きな人	佐々木勲	佐々木勲	12	1969			
13	055-0007-9	同期の桜	帖佐裕	大村能章	43	1938	○	○	
13	092-3627-9	与作	七沢公典	七沢公典	3	1978		○	
15	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	2	1979	○		
16	039-0340-1	知床旅情	森繁久彌	森繁久彌	21	1960			
17	090-4905-3	夢追い酒	星野栄一	遠藤実	2	1979			
18	014-5717-9	おもいで酒	高田直和	梅谷忠洋	2	1979			
19	090-0121-2	雪の降る街を	内村直也	中田喜直	30	1951	○	○	
19	040-3053-2	雁子	長洲剛	長洲剛	2	1979			
21	020-1701-6	関白宣言	さだまさし	さだまさし	2	1979	○		
21	083-3422-6	みちづれ	水木かおる	遠藤実	6	1975		○	
23	007-5906-6	いい日旅立ち	谷村新司	谷村新司	3	1978	○		
24	021 0167 3	高校二年生	丘灯至大	遠藤実	10	1963	○		
25	019-0467-1	岸壁の母	藤田まさと	平川浪竜	27	1954		○	
26	019-6640-5	神田川	喜多桑忠	南こうせつ	8	1973		○	
27	039-0449-1	人生の並木路	佐藤惣之助	古賀政男	44	1937	○	○	
28	007-6557-1	異邦人	久保田早紀	久保田早紀	2	1979	○		
29	—	五木の子守唄	(不詳)	(不詳)	81	1900			○
30	000-0367-1	アカシアの雨がやむとき	水木かおる	藤原秀行	43	1960		○	
31	039-0442-3	人生劇場	佐藤惣之助	古賀政男	21	1938	○	○	
31	013-0037-7	王将	西条八十	船村徹	20	1961		○	
33	090-0079-8	有楽町で逢いましょう	佐伯孝夫	吉田正	24	1957	○	○	
34	052-0054-7	月の砂漠	加藤まさお	佐々木すぐる	58	1923			○
35	094-2034-7	リング遊分	小沢不二夫	米山正夫	29	1952	○		
36	013-0298-1	お富さん	山崎正	渡久地政信	27	1954			
37	024-0151-7	君恋し	時雨音羽	佐々紅華	55	1926		○	
38	012-1217-6	襟裳岬	岡本おさみ	吉田拓郎	7	1974		○	
39	067-6770-2	花街の母	もず唱平	三上敏	8	1973			
40	031-0252-1	ここに幸あり	高橋殉太郎	飯田三郎	25	1956		○	
41	024-0332-3	銀座の恋の物語	大高ひさを	藤木創作	20	1961		○	
41	039-5801-9	四季の歌	荒木とよひさ	荒木とよひさ	5	1976			
43	090-0155-7	湯の町エレジー	野村俊夫	古賀政男	33	1948		○	
44	012-5571-1	われは海の子	芳賀矢一	(不詳)	71	1910		○	○
45	085-2028-3	昔の名前で出ています	星野哲郎	叶弦大	6	1975			
46	036-0079-3	酒は涙か滯息か	高橋殉太郎	古賀政男	50	1931	○	○	
46	019-0095-1	学生時代	平岡精二	平岡精二	17	1964			
48	059-0328-9	南国土佐を後にして	武政英策	武政英策	36	1945		○	
49	054-1291-9	てんと虫のサンバ	さいとう大三	馬飼野俊一	8	1973		○	
50	044-1199-4	戦争を知らない子供たち	北山修	杉田二郎	11	1970		○	

50	039-9187-3	シクラメンのかほり	小椋佳	小椋佳	6	1975			
52	010-0006-3	上を向いて歩こう	永六輔	中村八大	20	1961	○	○	
52	074-1790-0	ブルーライト・ヨコハマ	橋本淳	筒美京平	13	1968		○	
54	083-4735-2	魅せられて	阿木耀子	筒美京平	2	1979	○		
55	001-8755-1	吉業城恋唄	星間船一	さとつ宗幸	3	1978			
56	046-7407-3	ダンシング・オールナイト	水谷啓二	もんたよしのり	1	1980		○	
57	046-0157-2	誰か故郷を想わざる	西条八十	古賀政男	41	1940			
58	013-0067-9	丘を越えて	島田芳文	古賀政男	50	1931	○	○	
59	039-7856-7	精霊流し	さだまさし	さだまさし	7	1974			
60	046-7207-1	大都会	田中昌幸、他	山下三智夫	2	1979			
61	014-2862-4	おゆき	園根浩子	荻哲也	5	1976			
62	059-0289-4	涙の連絡船	園沢新一	市川昭介	16	1965		○	
63	092-0414-8	夜霧よ今夜も有難う	浜口庫之助	浜口庫之助	14	1967	○		
64	028-0114-1	黒い花びら	永六輔	中村八大	22	1959		○	
65	052-0043-1	月がとっても青いから	清水みのる	陸奥明	26	1955	○		
66	019-5830-5	喝采	吉田旺	中村泰士	9	1972			
67	092-2966-3	よせばいいのに	三浦弘	三浦弘	2	1979			
68	059-0031-0	長崎の鐘	サトウハチロー	古関裕而	32	1949		○	
69	000-0360-3	赤城の子守唄	佐藤惣之助	竹内信幸	47	1934	○	○	
70	000-0330-1	赤いリんカチ	萩原四朗	上原賢六	19	1962		○	
71	—	小さい秋みつけた	サトウハチロー	中田喜直	19	1962	○		○
72	019-5483-1	学生街の喫茶店	山上路夫	すぎやまこういち	9	1972			
73	—	叱られて	清水かつら	弘田龍太郎	61	1920			○
73	007-0165-3	いつでも夢を	佐伯孝夫	吉田正	19	1962		○	
75	095-0085-5	別れの一本杉	高野公男	船村謙	26	1955	○		
75	005-2451-7	わたしの城下町	安井かずみ	平尾昌見	10	1971			
77	002-0354-8	夢の水中央	五木寛之	小松原まさと	2	1979	○		
78	031-0298-0	古城	高橋殉太郎	細川漕一	22	1959			
79	030-0004-4	ゲイシャ・ワルツ	西条八十	古賀政男	29	1952			
79	074-7213-7	舟唄	阿久悠	浜圭介	2	1979		○	
81	055-0256-0	遠くへ行きたい	永六輔	中村八大	19	1962	○	○	○
82	013-0541-7	お嫁においで	岩谷時子	弾厚作	15	1966	○		
82	055-7969-4	とまり木	たきのえいじ	たきのえいじ	1	1980			
84	002-1667-4	青い珊瑚礁	三浦徳子	小田裕一郎	1	1980	○		
85	039-6755-7	ジョニイへの伝言	阿久悠	都倉俊一	8	1973			
86	007-4359-3	「いちご白書」をもう一度	荒井由実	荒井由実	6	1975			
87	086-0045-7	日ん無い千鳥	サトウハチロー	古賀政男	41	1940			
88	077-0199-3	北帰行	宇田博	宇田博	40	1941		○	
89	097-0215-6	Sachiko	小泉長一郎	馬場章幸	2	1979			
90	031-0429-0	湖畔の宿	佐藤惣之助	服部良一	41	1940			
91	007-0033-9	異国の丘	増田幸治、佐伯孝夫(補)	吉田正	38	1943		○	
92	039-7313-1	わたし折ってます	五十嵐椿	五十嵐椿	7	1974			
93	000-0940-7	アンコ椿は恋の花	星野哲郎	市川昭介	17	1964		○	
94	074-4175-4	二人でお酒を	山上路夫	平尾昌見	7	1974			
95	031-7982-6	五番街のマリーへ	阿久悠	都倉俊一	8	1973			
96	024-0091-0	北上夜曲	菊地規	安藤睦夫	40	1941		○	○
96	031-1534-8	この広い野原いっぱい	小薮江圭子	森山良子	9	1972		○	
98	092-0155-6	喜びも悲しみも幾歳月	木下忠司	木下忠司	24	1957	○	○	
99	—	浜千鳥	鹿島鳴欽	弘田龍太郎	62	1919			○
99	000-0486-3	憧れのハワイ航路	石本美由起	江口夜詩	33	1948		○	
99	044-2380-1	青春時代	阿久悠	森田公一	5	1976			

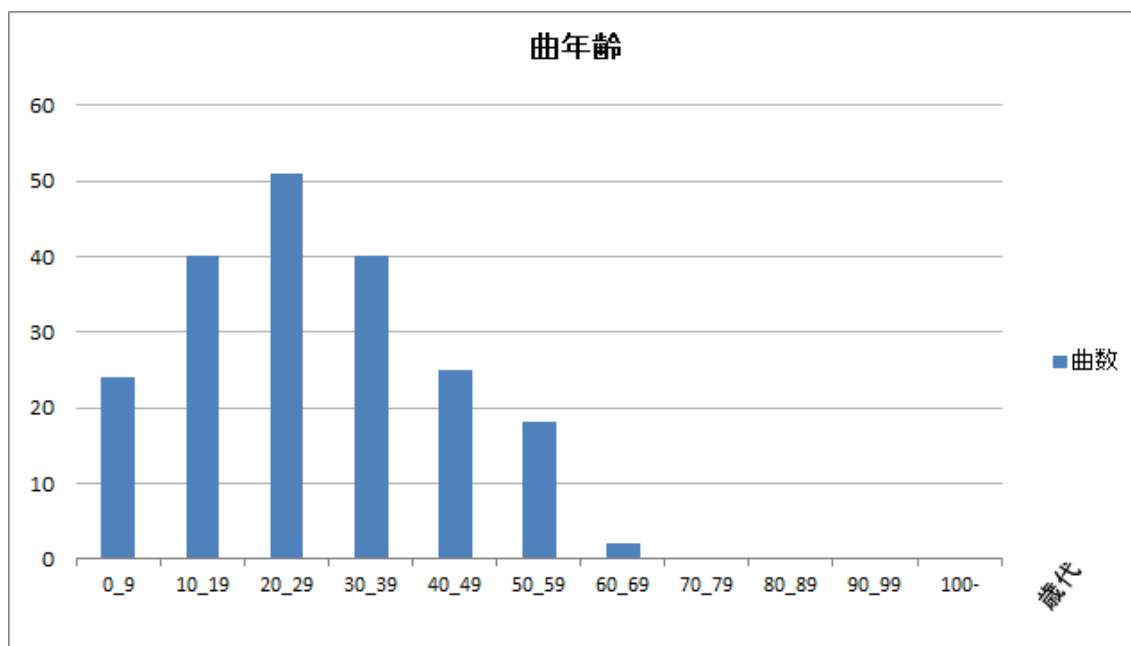
出所：『全国歌謡曲大調査—明治から昭和この百年！史上最大のベストテン』（TBS テレビ1981年1月1日放送）より筆者作成

図 7. 『全曲歌謡曲調査』(1981 年) 曲年齢



出所：『全国歌謡曲大調査—明治から昭和この百年！史上最大のベストテン』（TBS テレビ 1981 年 1 月 1 日放送）より筆者作成

図 8. 『昭和の歌・心に残るベスト 200 曲』（1989 年） 曲年齢



出所：『昭和の歌・心に残るベスト 200 曲』（NHK 総合テレビ 1989 年 9 月 15 日，9 月 23 日，10 月 10 日放送）（全 3 回）より筆者作成

## (2).『昭和の歌・心に残るベスト 200 曲』(1989 年)

NHK 総合テレビで 1989 年 9 月 15 日、9 月 23 日、10 月 10 日に全 3 回に分けて放送された『昭和の歌・心に残るベスト 200 曲』は、全国の男女 2,000 人を対象に昭和時代の歌謡曲について面接法で調査を実施し、上位 200 曲を発表したものである。この調査は、昭和元年である 1926 年以降の 63 年間のあいだに流行した楽曲を選曲対象としていること、1926 年の楽曲である「君恋し」(曲年齢 63 年) から 1988 年の楽曲である「酒よ」(曲年齢 1 年)、「祝い酒」(曲年齢 1 年) まで、1945 年以前の一部の年を除き、昭和のほぼすべての年の楽曲が選出されていることが特徴である。また、「丘を越えて」(曲年齢 58 年) など古賀政男作曲による楽曲が 13 曲、「港町十三番地」(曲年齢 32 年) など美空ひばりの持ち歌として親しまれている楽曲が 9 曲という、高い割合で選出されていた。そして、「島育ち」(曲年齢 50 年) はこの調査のなかで唯一選出された沖縄民謡であり、沖縄民謡は本研究で分析対象とした 10 の調査において、この調査でのみ選出されていた。

この調査で選出された 200 曲は、1926 年に発表された楽曲から 1988 年に発表された楽曲まで幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 20 年～29 年の楽曲が最も多く 51 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 115 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 85 曲、このうち 40 年を超えた楽曲は 45 曲、60 年を超えた楽曲は「君恋し」(曲年齢 63 年)、「東京行進曲」(曲年齢 60 年) の 2 曲であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 102 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 55 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 69 曲であった。特に、曲年齢が 20 年を超える 1960 年代までに発表された楽曲の多くは、TBS テレビの 1981 年の調査結果と同じく、映画作品とのタイアップが行われ、主題歌や挿入歌として使用された楽曲であった。そして、学校教科書に掲載された楽曲は 6 曲あり、学校を舞台としたテレビドラマ『3 年 B 組 金八先生 (第 1 シリーズ)』(TBS テレビ、1979 年) の主題歌として使用され、現在も卒業ソングとして親しまれている「贈る言葉」(曲年齢 10 年) などが選出された。



表 5. 『昭和の歌・心に残るベスト 200 曲』（1989 年） 詳細

昭和の歌 心に残るベスト200曲(全3回)					アンケート集計結果(NHK総合テレビ 1989年9月15日、9月23日、10月10日放送)				
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	① 初出 年	② タイアップ 初出年	③ タイアップ 初出年 以降	④ 教科書
1	000-0247-0	青い山脈	西条八十	服部良一	40	1949	○	○	
2	019-0114-1	影を慕いて	古賀政男	古賀政男	57	1932		○	
3	094-2034-7	リンゴ追分	小沢不二夫	米山正夫	37	1952	○		
4	010-0006-3	上を向いて歩こう	永六輔	中村八大	28	1961	○	○	
5	019-0506-6	悲しい酒	石本美由起	古賀政男	29	1960			
6	008-0148-7	柔	関沢新一	古賀政男	25	1964	○	○	
7	044-1529-9	瀬戸の花嫁	安井かずみ	平尾昌晃	17	1972			
8	019-0467-1	岸壁の母	藤田まさと	平川浪竜	35	1954		○	
9	094-2043-6	リンゴの唄	サトウハチロー	万城目正	44	1945	○	○	
10	052-2283-4	津軽海峡・冬景色	阿久悠	三木たかし	12	1977			
11	077-0447-0	星影のワルツ	白鳥園枝	遠藤実	23	1966			
12	024-5993-1	北の宿から	阿久悠	小林重雄	14	1975			
13	013-0290-1	お富さん	山崎正	津久地政信	35	1954			
14	031-0167-3	高校三年生	丘灯至夫	遠藤実	26	1963	○		
15	039-9187-3	シクラメンのかほり	小椋佳	小椋佳	14	1975			
16	090-0079-8	有楽町で逢いましょう	佐伯孝夫	吉田正	32	1957	○	○	
17	032-3035-1	恋人よ	五輪真弓	五輪真弓	9	1980			
18	039-0340-1	知床旅情	森繁久彌	森繁久彌	29	1960			
19	088-2437-1	矢切の渡し	石本美由起	船村徹	13	1976		○	
20	013-0067-9	丘を越えて	島田芳文	古賀政男	58	1931	○	○	
21	039-0449-1	人生の並木路	佐藤惣之助	古賀政男	52	1937	○	○	
22	024-6617-1	北国の春	いではく	遠藤実	12	1977			
23	036-0079-3	酒は涙か溜息か	高橋和太郎	古賀政男	58	1931	○	○	
24	043 4027 2	昂	谷村新司	谷村新司	9	1900	○		○
25	012-1217-6	襟裳岬	岡本おさみ	吉田拓郎	15	1974		○	
26	059-0328-9	南国土佐を後にして	武政英策	武政英策	44	1945		○	
27	031-0252-1	ここに幸あり	高橋和太郎	飯田三郎	33	1956		○	
28	090-0155-7	湯の町エレジー	野村俊夫	古賀政男	41	1948		○	
29	095-0085-5	別れの一本杉	高野公男	船村徹	34	1955		○	
30	000-0367-1	アカシアの雨がやめとき	水木かおる	藤原秀行	29	1960		○	
31	024-0151-7	君恋し	時雨音羽	佐々紅華	63	1926		○	
32	090-8139-9	雪國	吉幾三	吉幾三	3	1986			
33	031-0517-2	こんにちは赤ちゃん	永六輔	中村八大	26	1963	○	○	
34	019-6640-5	神田川	喜多桑忠	南こうせつ	16	1973		○	
35	046-0157-2	誰か故郷を想わざる	西条八十	古賀政男	49	1940			
36	024-0178-9	君の名は	菊田一夫	古関裕而	36	1953	○	○	
37	024-0332-3	銀座の恋の物語	大高ひさを	橋本創作	28	1961		○	
38	000-0360-3	赤城の子守唄	佐藤惣之助	竹内信幸	55	1934	○	○	
39	028-2382-9	くちなしの花	水木かおる	遠藤実	16	1973			
40	059-0289-4	涙の連絡船	関沢新一	市川昭介	24	1965		○	
41	028-0114-1	黒い花びら	永六輔	中村八大	30	1959		○	
42	031-0418-4	この世の花	西条八十	万城目正	34	1955	○	○	
43	019-0260-1	悲しき口笛	藤浦洸	万城目正	40	1949	○		
44	044-1588-4	せんせい	阿久悠	遠藤実	17	1972			
45	036-9424-1	さざんかの宿	吉岡治	市川昭介	7	1982			
46	013-0037-7	王将	西条八十	船村徹	28	1961		○	
47	019-5830-5	喝采	吉田旺	中村泰士	17	1972			
48	074-1790-0	ブルーライト・ヨコハマ	橋本淳	筒美京平	21	1968		○	
49	085-2619-2	娘よ	島井実	松浦孝之	5	1984		○	
50	052-0043-1	月がとっても青いから	清水みのる	陸奥明	34	1955	○		

51	083-0132-8	港町十三番地	石本美由起	上原げんと	32	1957			
52	007-0165-3	いつでも夢を	佐伯孝夫	吉田正	27	1962		○	
53	059-1999-1	長崎は今日も雨だった	永田貴子	彩木雅夫	20	1969		○	
54	059-0031-0	長崎の鐘	サトウハチロー	古園裕而	40	1949		○	
55	014-7423-5	奥飛騨茶屋	竜鉄也	竜鉄也	17	1972			
56	067-0028-4	西館の女	星野哲郎	島津伸男	25	1964		○	
57	092-3627-9	与作	七沢公典	七沢公典	11	1978		○	
58	041-0399-8	人生いろいろ	中山大三郎	浜口庫之助	2	1987	○		
59	031-0429-0	湖畔の宿	佐藤惣之助	服部良一	49	1940			
60	092-0414-8	夜霧よ今夜も有難う	浜口庫之助	浜口庫之助	22	1967	○		
61	046-0178-5	誰よりも君を愛す	川内康範	吉田正	30	1959		○	
62	007-9633-6	命くれない	吉岡治	北原じゅん	3	1986			
63	072-5383-4	永雨	とまりれん	とまりれん	12	1977			
64	024-0160-6	君といつまでも	岩谷時子	弾厚作	24	1965	○	○	
65	007-0033-9	異国の丘	増田幸治、佐伯孝夫(補)	吉田正	46	1943		○	
66	055-0063-0	東京だっおっ母さん	野村俊夫	船村徹	32	1957	○		
67	055-0164-4	東京ブギウギ	鈴木勝	服部良一	41	1948	○		
68	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	10	1979	○		○
69	013-0001-6	おーい中村君	矢野亮	中野忠晴	31	1958			
70	044-0434-3	世界は二人のために	山上路夫	いずみたく	22	1967	○		
71	037-2655-0	酒よ	吉幾三	吉幾三	1	1988			
72	036-1771-8	三百六十五歩のマーチ	星野哲郎	米山正夫	21	1968		○	
73	000-0486-3	憧れのハワイ航路	石本美由起	江口夜詩	41	1948		○	
74	094-4356-8	ルビーの指環	松本隆	寺尾聰	8	1981	○		
75	074-0058-6	二人は若い	玉川映二	古賀政男	54	1935	○		
76	090-4905-3	夢追い酒	星野栄一	遠藤実	10	1979			
77	095-2451-7	わたしの嫁下町	安井かずみ	平尾昌晃	18	1971			
78	080-2054-0	また逢う日まで	阿久悠	筒美京平	18	1971	○		
79	014-5717-9	おもいで酒	高田直和	梅谷忠洋	10	1979			
80	007-0095-9	潮来笠	佐伯孝夫	吉田正	29	1960			
81	039-0442-3	人生劇場	佐藤惣之助	古賀政男	51	1938	○	○	
82	083-0001-1	見上げてごらん夜の星を	永六輔	いずみたく	26	1963	○	○	
83	025-0160-1	北酒場	なかにし礼	中村泰士	7	1982	○		
84	054-1291-9	てんと虫のサンバ	さとう大三	馬飼野俊一	16	1973		○	○
85	014-6989-4	大騒ぐれ	吉岡治	市川昭介	9	1980		○	
86	039-0189-1	上海帰りのリル	東条寿三郎	津久地政信	37	1952	○		
87	019-0054-4	かえり船	清水みのる	倉若晴生	43	1946			
88	019-0359-4	からたち日記	西沢実	遠藤実	31	1958		○	
89	070-1900-4	テネシーワルツ	音羽たかし	R スチャート	37	1952			
90	092-0155-6	喜びも悲しみも幾歳月	木下忠司	木下忠司	32	1957	○	○	
91	000-0940-7	アンコ橋は恋の花	星野哲郎	市川昭介	25	1964		○	
92	080-0714-4	真赤な太陽	吉岡治	原信夫	22	1967			
93	074-0817-0	ブルーシャトウ	橋本淳	井上忠夫	22	1967		○	
94	083-3422-6	みちづれ	水木かおる	遠藤実	14	1975		○	
95	000-0330-1	赤いハンカチ	萩原四朗	上原賢六	27	1962		○	
96	013-7421-4	おふくろさん	川内康範	猪俣公章	18	1971			
97	087-2994-8	もしもピアノが弾けたなら	阿久悠	坂田晃一	9	1980		○	
98	077-0207-8	骨まで愛して	川内和子	文れいじ	23	1966	○		
99	059-5729-0	浪花節だよ人生は	藤田まさと	四方章人	13	1976			
100	090-0121-2	雪の降る街を	内村直也	中田喜直	38	1951	○	○	

101	067-0320-8	バラが咲いた	浜口庫之助	浜口庫之助	23	1966	○		○
102	059-0118-9	啼くな小鳩よ	高橋殉太郎	飯田三郎	42	1947		○	
103	039-1566-2	白いブランコ	小平なほみ	菅原進	20	1969			
104	085-0067-3	無法松の一生	吉野夫二郎	古賀政男	31	1958			
105	092-1798-3	よこはま・たそがれ	山口洋子	平尾昌晃	18	1971			
106	095-1656-5	別れても好きな人	佐々木勉	佐々木勉	20	1969			
107	085-2028-3	昔の名前で出ています	星野哲郎	叶弦大	14	1975			
108	024-0967-4	君こそわが命	川内康範	猪俣公章	22	1967			
109	055-0079-6	東京ナイトクラブ	佐伯孝夫	吉田正	30	1959			
110	055-0032-0	東京キッド	藤浦洸	万城目正	39	1950	○		
111	077-0157-8	星はなんでも知っている	水島哲	津々美洋	31	1958	○		
112	031-1504-6	小指の思い出	有馬三恵子	鈴木淳	22	1967			
113	001-8755-1	青葉城恋唄	星間船一	さとう宗幸	11	1978			
114	024-0329-4	銀座カンカン娘	佐伯孝夫	服部良一	40	1949	○	○	
115	077-0147-1	星の涙に	清水みのる	利根一郎	42	1947			
116	050-2449-8	千曲川	山口洋子	猪俣公章	14	1975			
117	013-0045-8	大利根月夜	藤田まさと	長津義司	50	1939			
118	013-0585-9	俺は待ってるぜ	石崎正美	上原賢六	32	1957	○		
119	007-0249-8	イヨマンテの夜	菊田一夫	古関裕而	40	1949	○		
120	067-6770-2	花街の母	もず唱平	三上敏	41	1948			
121	050-0094-7	チャンチキおけさ	門井八郎	長津義司	32	1957		○	
122	031-2786-9	恋の季節	岩谷時子	いずみたく	21	1968		○	
123	031-0298-0	古城	高橋殉太郎	細川潤一	30	1959			
124	007-6284-9	いとしのエリー	桑田佳祐	桑田佳祐	10	1979		○	
125	083-0104-2	港が見える丘	東辰三	東辰三	42	1947			
126	019-0455-8	勘太郎月夜唄	佐伯孝夫	清水保雄	46	1943	○		
127	025-0351-4	兄弟船	星野哲郎	船村徹	7	1982			
128	000-0122-8	哀愁列車	横井弘	鎌田俊与	33	1956			
129	059-9347-4	長良川艶歌	石本美由起	岡千秋	5	1984			
130	008-0397-9	祝い酒	たかたかし	猪俣公章	1	1988			
131	044-2380-1	青春時代	阿久悠	森田公一	13	1976			
132	085-0006-1	妻と兵隊	藤田まさと	大村能章	51	1938			
133	092-0033-9	夜霧のブルース	島田馨也	大久保徳二郎	42	1947	○	○	
134	055-0123-7	東京のバスガール	丘灯至夫	上原げんと	32	1957		○	
135	028-1160-0	九段の母	石松秋二	能代八郎	50	1939			
136	095-0007-3	若いお巡りさん	井田誠一	利根一郎	33	1956			
137	031-0164-9	高原列車は行く	丘灯至夫	古関裕而	35	1954			
138	074-7714-7	ふたり酒	たかたかし	弦哲也	9	1980			
139	052-0062-8	月の法善寺横丁	十二村哲	飯田景広	29	1960			
140	055-0200-4	東京ラプンディ	門田ゆたか	古賀政男	53	1936	○		
141	083-5258-5	みちのくひとり旅	市場馨	三島大輔	9	1980			
142	055-2304-4	時には母のない子のように	寺山修司	田中未知	20	1969			
143	077-0149-7	星のフラメンコ	浜口庫之助	浜口庫之助	23	1966			
144	055-0020-6	東京音頭	西条八十	中山晋平	56	1933	○		
145	—	夢は夜ひらく(園まり)	中村義士・富田清吾	曾根幸明	23	1966			
146	000-0166-0	愛と死をみつめて	大矢弘子	土田啓四郎	25	1964	○		
147	039-0376-1	白い花の咲く頃	寺尾智沙	田村しげる	39	1950			
148	024-0091-0	北上夜曲	菊地規	安藤睦夫	48	1941		○	○
149	092-3037-8	嫁に出来ないか	阿久悠	川口真	13	1976			
150	095-0177-1	私は街の子	藤浦洸	上原げんと	38	1951			

151	056-1429-5	時の流れに身をまかせ	荒木とよひさ	三木たかし	3	1986			
152	095-0094-4	別れのブルース	藤浦洸	服部良一	52	1937			
153	066-0025-5	野崎小唄	今中龍溪	大村能章	54	1935			
154	039-6755-7	ジョニイへの伝言	阿久悠	都倉俊一	16	1973			
155	019-0017-0	ガード下の靴みがき	宮川哲夫	利根一郎	34	1955			
156	039-0079-7	下町の太陽	横井弘	江口浩司	27	1962		○	
157	046-0123-8	旅笠道中	藤田まさと	大村能章	54	1935		○	
158	031-0333-1	国境の町	大木実夫	阿部武雄	55	1934			
159	001-2754-0	あなた	小坂明子	小坂明子	16	1973			
160	095-2021-0	笑って許して	阿久悠	羽根田武邦	19	1970			
161	019-5403-1	学生街の喫茶店	山上路夫	すぎやまこういち	17	1972			
162	000-0155-4	愛ちゃんはお嫁に	原健雄	村沢良介	33	1956			
163	013-0099-7	お座敷小唄	作詞不詳	陸奥明	25	1964			
164	087-3630-3	桃色吐息	康珍化	佐藤隆	5	1984	○		
165	000-0355-7	赤いラブの鉄列車	大倉秀郎	江口夜詩	37	1952			
166	013-0371-6	おひまなら来てね	松野道一	遠藤実	28	1961			
167	043-0923-5	好きになった人	白鳥朝詠	市川昭介	21	1968			
168	010-2620-7	知りたくないの	BARNES HOWARD、 <small>なか</small>	ROBERTSON DON	24	1965			
169	055-1123-2	東京の花売娘	佐々詩生	上原げんと	43	1946			
170	—	圭子の夢は夜ひらく	石坂まさき	曾根幸明	19	1970			
171	059-8930-2	浪花恋しぐれ	たかたかし	岡千秋	6	1983			
172	010-0169-8	裏町人生	島田碧世	阿部武雄	52	1937			
173	020-1701-6	園白宣言	さだまさし	さだまさし	10	1979	○		
174	077-0199-3	北帰行	宇田博	宇田博	48	1941		○	
175	024-0003-1	黄色いさくらんぼ	星野哲郎	浜口庫之助	30	1959			
176	094-2066-5	りんどう峠	西条八十	古賀政男	34	1955	○		
177	092-1183-7	夜明けのスカット	山上路夫	いずみたく	20	1969	○		
178	083-4735-2	魅せられて	阿木耀子	筒美京平	10	1979	○		
179	043-0001-7	スーダラ節	青島幸男	萩原哲晶	28	1961		○	
180	059-0231-2	涙を抱いた漂り鳥	有田めぐむ	いずみゆたか	25	1964			
181	045-0064-4	蘇州夜曲	西条八十	服部良一	49	1940	○	○	
182	046-7407-3	ダンシング・オールナイト	水谷啓二	もんたよしのり	9	1980	○		
183	024-2354-5	希望	藤田敏雄	いずみたく	20	1969	○	○	
184	002-0219-7	聖人	荒木とよひさ	三木たかし	4	1985			
185	030-0004-4	グイシャ・ワルツ	西条八十	古賀政男	37	1952			
186	080-6095-9	待つわ	岡村孝子	岡村孝子	7	1982			
187	031-0150-9	高原の駅さようなら	佐伯孝夫	佐々木俊一	38	1951			
188	074-7213-7	舟唄	阿久悠	浜圭介	10	1979		○	
189	050-0670-7	サントワ・マミー	岩谷崎子(訳詞)	S. アダモ	25	1964			○
190	077-0073-3	僕は泣いちゃう	浜口庫之助	浜口庫之助	30	1959		○	
191	039-0129-7	島育ち	有川邦彦	三界聡	50	1939			
192	080-1553-8	真夜中のギター	吉岡治	河村利夫	20	1969			
193	002-9922-7	天城越え	吉岡治	弦哲也	3	1986			
194	083-1391-1	澄町ブルース	澤津武志、 <small>なか</small>	猪俣公章	20	1969			
195	063-0004-9	新妻鏡	佐藤惣之助	古賀政男	49	1940	○	○	
196	080-0154-1	柳ヶ瀬ブルース	宇佐英雄	宇佐英雄	23	1966			
197	000-0116-3	哀愁波止場	石本美由起	船村徹	29	1960			
198	055-0036-2	東京行進曲	西条八十	中山晋平	60	1929	○		
199	013-8646-8	女のみち	宮史郎	並木ひろし	18	1971			
200	074-6541-6	プレイバックPart2	阿木耀子	宇崎竜童	11	1978		○	

出所：『昭和の歌・心に残るベスト 200 曲』（NHK 総合テレビ 1989 年 9 月 15 日，9 月 23 日，10 月 10 日放送）（全 3 回）より筆者作成

### (3). 『BS20 世紀日本のうた—20 世紀の日本を感動させた歌ベスト 100』 (1998 年)

NHK BS で 1998 年 1 月 19 日に放送された『BS20 世紀日本のうた—20 世紀の日本を感動させた歌ベスト 100』は、1 人 3 曲までを選びハガキやファックスで投票する方式で集まった約 1775 万票を集計し、上位 102 曲を発表したものである。この調査は、20 世紀という約 100 年のあいだに流行した幅広い年代の楽曲を選曲対象としていること、歌謡曲や流行歌として発表された楽曲だけでなく、文部省唱歌や童謡などの楽曲が選ばれていることが特徴である。タイトルには「ベスト 100」とあるのにもかかわらず、全 102 曲が選ばれている理由は、楽曲タイトルのみで投票する方式であったことから、「花」という同名の楽曲 3 曲を 29 位に配置したためである。また、この調査では「おふくろさん」(曲年齢 27 年)、「よこはま・たそがれ」(曲年齢 27 年)が発表された 1971 年以降は、毎年、最低 1 曲以上の楽曲が選出されていた。

この調査で選出された 102 曲は、1884 年に発表された楽曲から 1996 年に発表された楽曲まで、本研究で分析対象とした 10 の調査の中で最も幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 20 年～29 年の楽曲が最も多く 25 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 72 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 30 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 18 曲、60 年を超えた楽曲は 10 曲、90 年を超えた楽曲は「仰げば尊し」(曲年齢 114 年)、「花 (滝廉太郎の楽曲)」(曲年齢 98 年)、「荒城の月」(曲年齢 97 年)の 3 曲であった。この調査において曲年齢が 60 年を超えた 10 曲のうち、「影を慕いて」(曲年齢 67 年)、「人生の並木道」(曲年齢 61 年)の 2 曲以外の楽曲は、文部省唱歌や童謡、歌曲であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 66 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 41 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 39 曲であった。特に、曲年齢が 30 年を超える 1960 年代までに発表されたほとんどの楽曲は、映画作品とのタイアップが行われ、主題歌や挿入歌として使用された楽曲であった。また、「花・Memento-Mori」(曲年齢 2 年)を除く 1989 年以降に発表された曲年齢 9 年以下のすべての楽曲は、初出年にテレビドラマや CM などとのタイアップ作品として使用された楽曲であった。そして、学校教科書に掲載された楽曲は 25 曲あり、この調査で選出されたすべての文部省唱歌や童謡、歌曲に加え、「上を向いて歩こう」(曲年齢 37 年)、「時代」(曲年齢 23 年)、「少年時代」(曲年齢 8 年)、「島唄」(曲年齢 6 年)など、1990 年代に初めて学校教科書へ掲載され、学校音楽として親しまれている楽曲が選出された。

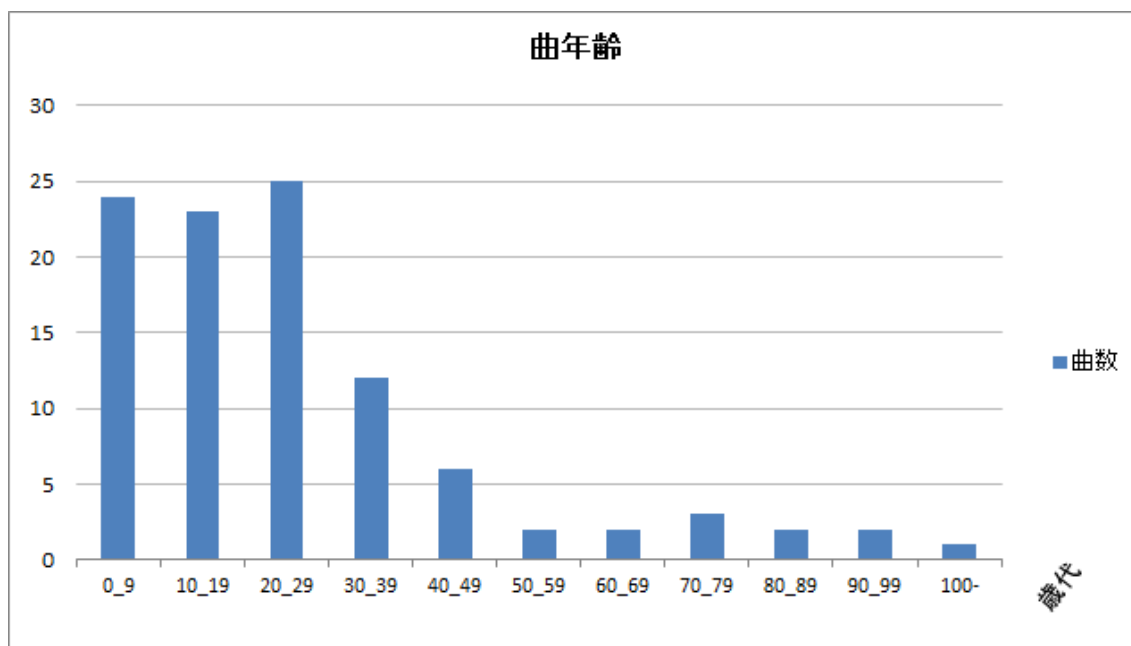
表 6. 『BS20 世紀日本のうた』(1998 年) 詳細

BS20 世紀日本のうたー20 世紀の日本を感動させた歌ベスト100 アンケート集計結果(NHK BS 1998 年 1 月 19 日放送)						①	②	③	④
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	初出 年	タイアップ 初出年	タイアップ 初出年 以降	教科書
1	020-9620-0	川の流れるように	秋元康	見岳章	9	1989	○		
2	007-5906-6	いい日旅立ち	谷村新司	谷村新司	20	1978	○	○	○
3	019-6640-5	神田川	喜多桑忠	南こうせつ	25	1973		○	
4	031-0167-3	高校三年生	丘灯至夫	遠藤実	35	1963	○		
5	030-5647-0	アジアの雄鳥	井上陽水	奥田民生	2	1996	○		
6	007-6284-9	いとしのエリー	桑田佳祐	桑田佳祐	19	1979		○	○
7	—	荒城の月	土井晩翠	滝康太郎	97	1901		○	○
8	032-1462-1	秋桜(コスモス)	さだまさし	さだまさし	21	1977		○	
9	—	赤とんぼ	三木露風	山田耕筰	77	1921		○	○
10	034-2083-3	LOVE LOVE LOVE	吉田美和	中村正人	3	1995	○		
11	010-0006-3	上を向いて歩こう	永六輔	中村八大	37	1961	○	○	○
12	043-4027-2	昴	谷村新司	谷村新司	18	1980	○		○
13	002-3832-5	赤いスイートピー	松本隆	呉田経徳	16	1982			○
14	041-0399-8	人生いろいろ	中山大三郎	浜口庫之助	11	1987	○		
15	037-9202-1	名もなき詩	桜井和寿	桜井和寿	2	1996	○		
16	056-1429-5	時の流れに身をまかせ	荒木とよひさ	三木たかし	12	1986			
17	094-5516-7	浪漫飛行	米米CLUB	米米CLUB	11	1987		○	
18	033-3339-6	碧いうさぎ	牧穂エミ	藤田哲郎	3	1995	○		
19	026-3104-1	TOMORROW	岡本真夜	岡本真夜	3	1995	○		
20	013-7421-4	おふくろさん	川内康範	猪俣公章	27	1971		○	
21	004-4019-1	SAY YES	飛鳥淳	飛鳥淳	7	1991	○		
22	014-2586-2	おかげたいやきくん	高田ひろお	佐瀬寿一	23	1975	○	○	
23	041-5042-3	愛の言葉 ～Spiritual Message～	桑田佳祐	桑田佳祐	2	1996	○		
24	041-5175-5	LA・LA・LA LOVE SONG	久保田利伸	久保田利伸	2	1996	○		
25	041 3613 6	少年時代	井上陽水	井上陽水、平井夏美	0	1990	○	○	○
26	032-3835-1	恋人よ	五輪真弓	五輪真弓	18	1980			
27	024-6617-1	北国の春	いざはく	遠藤実	21	1977			
28	042-6152-6	田園	玉置浩二、須藤晃	玉置浩二	2	1996	○		
29	—	花(滝康太郎の楽曲)	武島羽衣	滝康太郎	98	1900			○
29	068-5025-1	花～すべての人の心に花を	喜納昌吉	喜納昌吉	16	1982		○	
29	038-4774-8	花～Memento-Mori～	桜井和寿	桜井和寿	2	1996			
30	000-0330-1	赤いハインチ	萩原四朗	上原賢六	36	1962		○	
31	019-0506-6	悲しい酒	石本美由起	古賀政男	38	1960			
32	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	19	1979	○		○
33	092-0414-8	夜霧よ今夜も有難う	浜口庫之助	浜口庫之助	31	1967	○		
34	009-3924-2	ロード	高橋ジョージ	高橋ジョージ	5	1993	○	○	
35	038-9060-1	あなたに逢いたくて～Missing You～	松田聖子	松田聖子、小倉良	2	1996	○		
36	003-4907-1	愛は勝つ	KAN	KAN	8	1990	○		○
37	007-4359-3	「いちご白書」をもう一度	荒井由実	荒井由実	23	1975			
38	099-7357-5	I LOVE YOU	尾崎豊	尾崎豊	15	1983		○	
39	012-1217-6	襟裳岬	岡本おさみ	吉田拓郎	25	1973		○	
40	000-0247-0	青い山脈	西条八十	服部良一	49	1949	○	○	
41	039-5801-9	四季の歌	荒木とよひさ	荒木とよひさ	22	1976			○
42	092-1798-3	よこはま・たそがれ	山口洋子	平尾昌晃	27	1971			
43	006-4275-4	鳥唄	宮沢和史	宮沢和史	6	1992	○		○
44	077-0447-0	星影のワルツ	白鳥園枝	遠藤実	32	1966			
45	050-2449-8	千曲川	山口洋子	猪俣公章	23	1975			
46	039-9187-3	シクラメンのかほり	小椋佳	小椋佳	23	1975			
47	059-9347-4	長良川艶歌	石本美由起	岡千秋	14	1984			
48	016-9086-8	YAH YAH YAH	飛鳥淳	飛鳥淳	5	1993	○		
49	021-9350-7	TRUE LOVE	藤井フミヤ	藤井フミヤ	5	1993	○		
50	056-4351-1	どんなときも。	植原敬之	植原敬之	7	1991	○	○	○

51	038-6172-4	Don't wanna cry	小室哲哉、前田たかひろ	小室哲哉	2	1996	○		
52	002-9922-7	天城越え	吉岡治	弦哲也	12	1986			
53	090-4933-9	UFO	阿久悠	都倉俊一	21	1977			
54	085-2619-2	娘よ	島井実	松浦孝之	14	1984		○	
55	056-2714-1	とんぼ	長瀬剛	長瀬剛	10	1988	○	○	
56	—	故郷	高野辰之	岡野貞一	84	1914			○
57	—	仰げば尊し	(未詳)	(未詳)	114	1884			○
58	094-2034-7	リンゴ追分	小沢不二夫	米山正夫	46	1952	○		
59	035-6926-8	DEPARTURES	小室哲哉	小室哲哉	2	1996	○		
60	059-4609-3	なごり雪	伊勢正三	伊勢正三	24	1974		○	
61	039-9320-5	時代	中島みゆき	中島みゆき	23	1975		○	○
62	039-0340-1	知床旅情	森繁久彌	森繁久彌	38	1960			○
63	074-7714-7	ふたり酒	たかたかし	弦哲也	18	1980			
64	086-1971-9	夫婦坂	星野哲郎	市川昭介	14	1984			
65	007-0165-3	いつでも夢を	佐伯孝夫	吉田正	36	1962		○	
66	094-2043-6	リンゴの唄	サトウハチロー	万城目正	53	1945	○	○	
67	007-6557-1	異邦人	久保田早紀	久保田早紀	19	1979	○		
68	059-0031-0	長崎の鐘	サトウハチロー	古関裕而	49	1949		○	
69	052-2283-4	津軽海峡・冬景色	阿久悠	三木たかし	21	1977			
70	094-4356-8	ルビーの指環	松本隆	寺尾聰	17	1981	○		
71	074-1790-0	ブルーライト・ヨコハマ	橋本淳	筒美京平	30	1968		○	
72	025-7383-1	innocent world	板井和寿	板井和寿	4	1994	○		
73	031-0252-1	ここに幸あり	高橋伸太郎	飯田三郎	42	1956	○		
74	039-0449-1	人生の並木路	佐藤惣之助	古賀政男	61	1937	○	○	
75	019-0054-4	かえり船	清水みのる	倉若晴生	52	1946			
76	080-6095-9	待つわ	岡村孝子	岡村孝子	16	1982		○	
77	—	早春賦	吉丸一昌	中田章	85	1913			
78	000-0367-1	アカシアの雨がやむとき	水木かおる	藤原秀行	38	1960		○	
79	019-0114-1	影を慕いて	古賀政男	古賀政男	67	1931		○	
80	044-1529-9	瀬戸の花嫁	安井かずみ	平尾昌晃	26	1972			
81	025-0351-4	兄弟船	星野哲郎	船村徹	16	1982			
82	095-0085-5	別れの一本杉	高野公男	船村徹	43	1955		○	
83	090-8139-9	雪國	吉幾三	吉幾三	12	1986			
84	052-0054-7	月の砂漠	加藤まさお	佐々木すぐる	75	1923		○	
85	036-9424-1	さざんかの宿	吉岡治	市川昭介	16	1982			
86	050-3556-2	チャンピオン	谷村新司	谷村新司	20	1978			
87	044-2380-1	青春時代	阿久悠	森田公一	22	1976			
88	012-6980-1	世界の中の誰よりきっと	上杉昇、中山美穂	藤田哲郎	6	1992	○	○	
89	039-7856-7	精霊流し	さだまさし	さだまさし	24	1974			
90	036-4922-9	酒と泪と男と女	河島英五	河島英五	23	1975		○	
91	019-0467-1	岸壁の母	藤田まさと	平川浪竜	44	1954		○	
92	019-0095-1	学生時代	平岡精二	平岡精二	34	1964			
93	095-7227-9	ワインレッドの心	井上陽水	玉置浩二	15	1983		○	
94	021-8436-2	ロマンスの神童	広瀬香美	広瀬香美	5	1993	○		
95	083-3149-9	唄めぐり	山上路夫	山本厚太郎	24	1974			
96	024-0160-6	君といつまでも	岩谷時子	弾厚作	33	1965	○	○	
97	—	七つの子	野口雨情	本居長世	77	1921			
98	010-5082-6	宇宙戦艦ヤマト	阿久悠	宮川森	24	1974	○	○	
99	031-7963-0	心もよう	井上陽水	井上陽水	25	1973			
100	072-5383-4	永雨	とまりれん	とまりれん	21	1977			

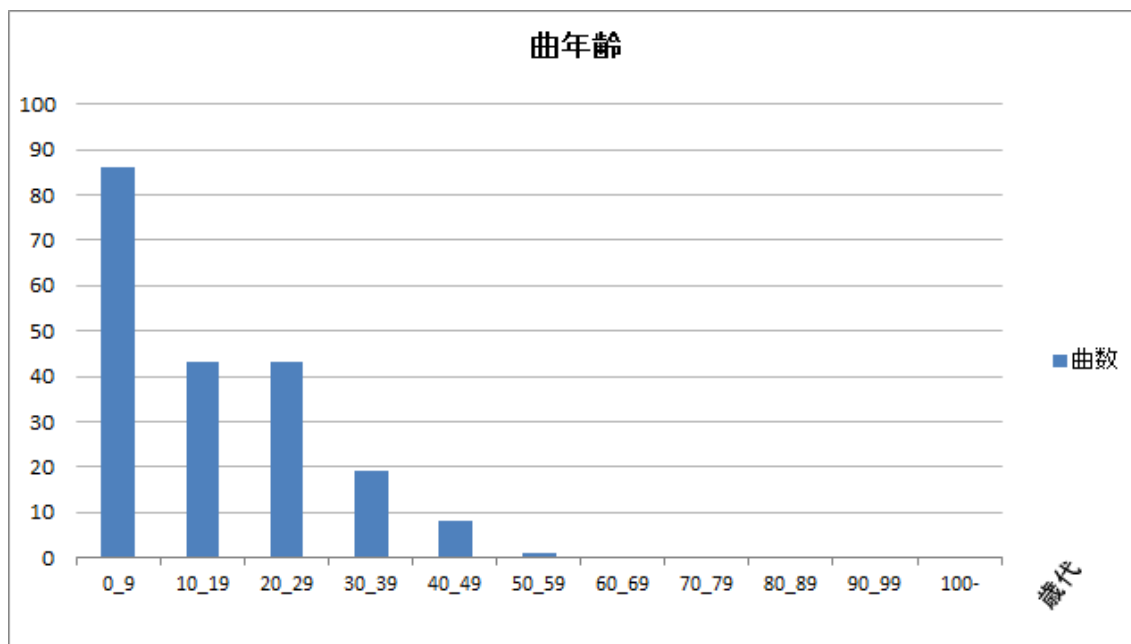
出所：『BS20 世紀日本のうた—20 世紀の日本を感動させた歌ベスト 100』（NHK BS 1998 年 1 月 19 日放送）より筆者作成

図 9. 『BS20 世紀日本のうた』（1998 年） 曲年齢



出所：『BS20 世紀日本のうた—20 世紀の日本を感動させた歌ベスト 100』（NHK BS 1998 年 1 月 19 日放送）より筆者作成

図 10. 『第 56 回 NHK 紅白歌合戦 スキウタ』（2005 年） 曲年齢



出所：『第 56 回 NHK 紅白歌合戦—スキウタ～紅白みんなでアンケート』（NHK 総合テレビ 2005 年 12 月 31 日放送）より筆者作成



#### (4).『第 56 回 NHK 紅白歌合戦—スキウタ～紅白みんなでアンケート』(2005 年)

2005 年 12 月 31 日に放送された『第 56 回 NHK 紅白歌合戦—スキウタ～紅白みんなでアンケート』は、ハガキ、インターネット、携帯電話、データ放送で投票する方式で集まった 375 万 9996 票を集計し、紅白歌合戦の慣例に従い、主に女性が歌う紅組の楽曲と主に男性が歌う白組の楽曲の上位それぞれ 200 曲を発表したものである。この調査は、白組と紅組という男女で選曲区分を分けていることが特徴である。しかしながら、この調査では紅組に分類された「亜麻色の髪の乙女」(曲年齢 39 年)をはじめ、男女両方の歌手によって異なる年代にヒットを記録した楽曲も多く含まれている。また、この調査では「おふくろさん」(曲年齢 34 年)が発表された 1971 年以降は、毎年、最低 1 曲以上の楽曲が選出されていた。

この調査で選出された 200 曲は、1950 年に発表された楽曲から 2005 年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、0 年～9 年の楽曲が最も多く 85 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 172 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 28 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 9 曲、60 年を超えた楽曲は選出されなかった。この調査において最も曲年齢が高かった楽曲は「愛の賛歌」(曲年齢 55 年)であり、この楽曲以外はすべて 1960 年以降に発表された曲年齢 45 年以下の楽曲であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 150 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 114 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 73 曲であった。このうち、「宇宙戦艦ヤマト」(曲年齢 31 年)、「タッチ」(曲年齢 20 年)、「そばかす」(曲年齢 9 年)、「ハッピー☆マテリアル」(曲年齢 3 年)をはじめ、アニメおよび関連作品の主題歌や挿入歌として使用された楽曲も多く選出されていた。そして、学校教科書に掲載された楽曲は 27 曲あり、NHK BS の 1998 年の調査結果でも選出された「上を向いて歩こう」(曲年齢年)、「時代」(曲年齢 44 年)、「少年時代」(曲年齢 15 年)、「島唄」(曲年齢 13 年)をはじめ、この調査の時点で学校教科書へ複数回掲載されていた楽曲に加え、2000 年代に初めて学校教科書へ掲載された「夜空ノムコウ」(曲年齢 7 年)、「TSUNAMI」(曲年齢 5 年)などが選出された。

表 7. 『第 56 回 NHK 紅白歌合戦 スキウタ』(2005 年) 曲年齢

第56回NHK紅白歌合戦—スキウタ〜紅白みんなでアンケート アンケート集計結果(NHK総合 2005年12月31日放送)						①	②	③	④
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	初出 年	タイアップ 初出年	タイアップ 初出年 以降	教科書
紅1	069-8451-7	LOVEマシーン	つんく	つんく	6	1999	○	○	
紅2	061-3652-4	涙そうそう	森山良子	BEGIN	7	1998	○		○
紅3	110-6640-7	さくらんぼ	壺	壺	2	2003	○	○	
紅4	111-0753-7	ハナミズキ	一青窈	マシコタツロウ	1	2004	○	○	
紅5	101-5042-1	Yeah!めっちゃホリディ	つんく	つんく	3	2002	○		
紅6	112-7473-5	Jupiter	吉元由美	G. Holst	2	2003		○	○
紅7	073-9750-5	地上の星	中島みゆき	中島みゆき	5	2000	○		○
紅8	020-9620-0	川の流れるように	秋元康	見岳章	16	1989	○	○	○
紅9	111-0469-4	雪の華	Satomi	松本良喜	2	2003	○		
紅10	007-5906-6	いい日旅立ち	谷村新司	谷村新司	27	1978	○	○	○
紅11	096-4508-0	DESIRE -情熱-	阿木耀子	鈴木キサブロー	9	1996			
紅12	070-9458-2	カブトムシ	aiko	aiko	6	1999	○		
紅13	113-9685-7	やさしいキスをして	吉田美和	中村正人	1	2004	○		
紅14	020-6373-5	飾りじゃないのよ涙は	井上陽水	井上陽水	21	1984			
紅15	016-6420-4	負けないで	坂井泉水	藤田哲郎	12	1993	○	○	○
紅16	002-9922-7	天城越え	吉岡治	弦哲也	19	1986			
紅17	032-1462-1	秋桜(コスモス)	さだまさし	さだまさし	28	1977		○	
紅18	106-1657-8	月のしずく	Satomi	松本良喜	2	2003	○		
紅19	107-3310-8	鳥取砂丘	木下龍太郎	弦哲也	2	2003			
紅20	089-8413-1	secret base〜君がくれたもの〜	町田紀彦	町田紀彦	4	2001	○		
紅21	002-3832-5	赤いスイートピー	松本隆	島田寛徳	23	1982			○
紅22	007-0165-3	いつでも夢を	佐伯孝夫	吉田正	43	1962		○	
紅23	048-6030-6	CAN YOU CELEBRATE?	小室哲哉	小室哲哉	8	1997	○		
紅24	046-9930-6	クラブ	藤珍化	芹澤廣明	20	1905	○		
紅25	096-4457-1	My Revolution	川村京子	小室哲哉	19	1986	○	○	
紅26	034-2083-3	LOVE LOVE LOVE	吉田美和	中村正人	10	1995	○	○	○
紅27	091-7450-8	Dearest	浜崎あゆみ	CREA + D・A・I	4	2001	○		
紅28	075-9615-4	SEASONS	浜崎あゆみ	DAI	5	2000	○		
紅29	079-5581-2	Everything	MISIA	松本俊明	5	2000	○		
紅30	003-4532-6	会いたい	沢ちひろ	財津和夫	15	1990	○		
紅31	064-3434-7	First Love	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	6	1999	○		
紅32	000-3797-4	亜麻色の髪の乙女	橋本淳	すぎやまこういち	39	1966		○	
紅33	039-9320-5	時代	中島みゆき	中島みゆき	30	1975		○	○
紅34	104-1119-4	もらい泣き	一青窈	武部聡志、マシコタツロウ、	3	2002			
紅35	056-1429-5	時の流れに身をまかせ	荒木とよひさ	三木たかし	19	1986		○	
紅36	083-8015-5	みだれ髪	星野哲郎	船村徹	18	1987			
紅37	001-0051-0	あの娘を鳴らすのはあなた	阿久悠	森田公一	33	1972		○	
紅38	007-6557-1	異邦人	久保田早紀	久保田早紀	26	1979	○		
紅39	052-2283-4	津軽海峡・冬景色	阿久悠	三木たかし	28	1977			
紅40	021-0157-2	河内おとこ節	石本美由起	岡千秋	16	1989			
紅41	027-0135-9	夜桜お七	林あまり	三木たかし	11	1994		○	
紅42	007-1871-7	木綿のハンカチーフ	松本隆	筒美京平	30	1975			
紅43	078-3846-8	月光	鬼束ちひろ	鬼束ちひろ	5	2000			
紅44	084-5310-1	fragile	持田香織	菊池一仁	4	2001	○		
紅45	019-5830-5	喝采	吉田旺	中村義士	33	1972			
紅46	037-9364-8	珍鳥物語	中山大三郎	中山大三郎	9	1996			
紅47	012-2924-9	越冬つばめ	石原信一	篠原義彦	22	1983			
紅48	090-8656-1	雪情	星野哲郎	遠藤実	18	1987			
紅49	074-7213-7	舟唄	阿久悠	浜圭介	28	1977		○	
紅50	121-3126-1	ハッピー☆マテリアル	うらん	大川茂伸	3	2002	○		

紅 51	080-6151-3	聖母たちのララバイ	山川啓介	木暮敏之	23	1982	○		
紅 52	052-3911-7	つくない	荒木とよひさ	三木たかし	21	1984			
紅 53	036-1066-7	さとうきび畑	寺島尚彦	寺島尚彦	38	1967		○	○
紅 54	061-8887-7	Automatic	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	7	1998	○		
紅 55	003-0546-4	あばれ太鼓	たかたかし	猪俣公章	18	1987			
紅 56	071-2195-4	Love, Day After Tomorrow	倉木麻衣	大野愛果	6	1999			
紅 57	081-9089-5	Diamonds	中山加奈子	奥居香	16	1989	○	○	
紅 58	032-3835-1	恋人よ	五輪真弓	五輪真弓	25	1980			
紅 59	075-1128-1	フレンズ	NOKKO	土橋安騎夫	20	1985	○	○	
紅 60	105-4343-1	じゅんがら女節	鈴木紀代	西つよし	2	2003			
紅 61	038-9060-1	あなたに逢いたくて〜Missing You	松田聖子	松田聖子、小倉良	9	1996	○	○	
紅 62	019-0506-6	悲しい酒	石本美由起	古賀政男	45	1960			
紅 63	124-6548-8	キラキラ(aikoの楽曲)	aiko	aiko	0	2005	○		
紅 64	021-0232-3	風の盆恋歌	なかにし礼	三木たかし	16	1989			
紅 65	074-1790-0	ブルーライト・ヨコハマ	橋本淳	筒美京平	37	1968		○	
紅 66	052-9945-4	WHITE LOVE	伊秩弘将	伊秩弘将	8	1997	○		
紅 67	002-1412-4	雨の慕情	阿久悠	浜圭介	25	1980		○	
紅 68	045-2466-7	卒業写真	荒井由実	荒井由実	30	1975		○	○
紅 69	026-3104-1	TOMORROW	岡本真夜	岡本真夜	10	1995	○	○	
紅 70	012-6980-1	世界中の誰よりきっと	上杉昇、中山美穂	藤田哲郎	13	1992	○	○	
紅 71	002-1667-4	喜い囁き囁	三浦徳子	小田裕一郎	25	1980	○		
紅 72	099-2357-8	for you---	大津あきら	鈴木キサブロー	23	1982			
紅 73	090-4933-9	UFO	阿久悠	都倉俊一	28	1977			
紅 74	059-2353-1	涙をこえて	かぜ耕士	中村八大	36	1969	○		
紅 75	053-8853-8	二輪草	水木かおる	弦哲也	8	1997			
紅 76	041-0399-8	人生いろいろ	中山大三郎	浜口庫之助	18	1987	○	○	
紅 77	038-4111-1	I'm Proud	小室哲哉	小室哲哉	9	1996	○		
紅 78	006-9320-1	女〜ひとり旅	悠木圭子	鈴木淳	13	1992			
紅 79	010-6960-3	雲の鼓歌	PIAF EDITH、碧谷時子(訳)	MONNOT MARGUERITE	55	1950		○	
紅 80	070-0583-1	本能	椎名林檎	椎名林檎	6	1999	○		
紅 81	056-4515-8	Time goes by	五十嵐充	五十嵐充	7	1998	○		
紅 82	038-2749-6	そばかす	YUKI	豊田快人	9	1996	○		
紅 83	029-7632-3	ら・ら・ら	大黒摩季	大黒摩季	10	1995	○		
紅 84	074-6541-6	プレイバックPart2	阿木麗子	宇崎竜童	27	1978		○	
紅 85	123-2750-6	風まかせ	瀬戸内寂聴	弦哲也	0	2005			
紅 86	087-3638-3	桃色吐息	康珍化	佐藤隆	21	1984	○		
紅 87	121-9244-9	大器晩成	星野哲郎	原譲二	0	2005			
紅 88	049-9465-5	ひだまりの詩	水野幸代	日向敏文	8	1997	○		
紅 89	080-5670-6	守ってあげたい	松任谷由美	松任谷由美	24	1981	○	○	○
紅 90	080-3580-6	まちぶせ	荒井由実	荒井由実	29	1976		○	
紅 91	070-1074-5	あなたのキスを覚えましょう	高柳恋	中崎英也	6	1999	○		
紅 92	003-5869-0	あなたに会えてよかった	小泉今日子	小林武史	14	1991	○		
紅 93	102-7819-2	WILL	秋元康	川口大輔	3	2002	○		
紅 94	014-5586-9	オリビアを聴きながら	尾崎亜美	尾崎亜美	27	1978			
紅 95	035-6926-8	DEPARTURES	小室哲哉	小室哲哉	9	1996	○		
紅 96	016-9717-0	無言坂	市川隼月	玉置浩二	12	1993			
紅 97	012-3554-1	眠	竹内まりや	竹内まりや	19	1986		○	
紅 98	005-7819-3	むらさき雨情	三浦康照	山口ひろし	10	1995			
紅 99	039-0340-1	知床旅情	森繁久彌	森繁久彌	45	1980			○
紅 100	045-9381-4	PRIDE	布袋寅泰	布袋寅泰	9	1996	○	○	

白1	103-1720-1	世界に一つだけの花	椎原敬之	椎原敬之	3	2002	○	○	
白2	118-8923-3	花<ORANGE RANGEの楽曲>	ORANGE RANGE	ORANGE RANGE	1	2004	○		
白3	095-9902-9	きよしのズンドコ節	松井由利夫	不詳	3	2002	○		
白4	116-6988-8	栄光の架橋	北川悠仁	北川悠仁	1	2004	○		
白5	070-9547-3	箱根八里の半次郎	松井由利夫	水森英夫	5	2000			
白6	115-0800-1	嘘をとじて	平井堅	平井堅	1	2004	○		
白7	054-8439-1	夜空ノムコウ	スガシカオ	川村結花	7	1998	○		○
白8	071-9398-0	マツケンサンバⅡ	吉峯暁子	宮川彬良	11	1994		○	
白9	122-5410-0	桜<リュ・シウォンの楽曲>	GIFT	GIFT	0	2005	○	○	
白10	078-5377-7	らいおんハート	野島伸司	コモリタミノル	5	2000	○		
白11	051-3447-1	硝子の少年	松本隆	山下達郎	8	1997			
白12	078-9967-0	サウダージ	ハルイチ	ak. Homma	5	2000	○		
白13	075-5738-8	桜坂	福山雅治	福山雅治	5	2000	○		
白14	052-9943-8	WHITE BREATH	井上秋緒	浅倉大介	8	1997	○		
白15	108-1266-1	さくら<独唱>	森山直太郎、御徒町鳳	森山直太郎	2	2003	○		
白16	071-4940-9	TSUNAMI	桑田佳祐	桑田佳祐	5	2000	○	○	○
白17	115-4081-8	Sign	桜井和寿	桜井和寿	1	2004	○		
白18	059-4609-3	なごり雪	伊勢正三	伊勢正三	31	1974		○	
白19	015-6824-8	面影の卿	山口洋子	猪俣公章	0	2005			
白20	107-4965-9	上海ハニー	ORANGE RANGE	ORANGE RANGE	2	2003	○	○	
白21	031-0167-3	高校三年生	丘灯至夫	遠藤実	42	1963	○		
白22	125-0264-2	キズナ	ORANGE RANGE	ORANGE RANGE	0	2005	○	○	
白23	117-1310-1	君にBUMP	ケツメイシ	ケツメイシ	1	2004	○		
白24	058-1684-0	夏色	北川悠仁	北川悠仁	7	1998		○	
白25	023-0272-5	空も飛べるはず	草野マサムネ	草野マサムネ	11	1994		○	
白26	125-0249-9	BANG! BANG! バカンス!	宮藤官九郎	コモリタミノル	0	2005	○		
白27	056-4351-1	どんなときも。	椎原敬之	椎原敬之	14	1991	○	○	○
白28	019-6640-5	神田川	喜多桑忠	南こうせつ	32	1973		○	
白29	111-3988-9	AMBITIOUS JAPAN!	なかにし礼	簡美京平	2	2003	○		
白30	065-6501-8	フラワー	HAL	HAL、音妃	6	1999	○		
白31	020-2639-2	乾杯	長渕剛	長渕剛	25	1980		○	○
白32	094-5516-7	浪漫飛行	米米CLUB	米米CLUB	18	1987		○	
白33	006-4275-4	鳥唄	宮沢和史	宮沢和史	13	1992	○		○
白34	043-4027-2	晶	谷村新司	谷村新司	25	1980	○		○
白35	041-3613-6	少年時代	井上陽水	井上陽水、平井夏美	15	1990	○	○	○
白36	002-3433-0	最初から今まで	MIN KWAN HONG、他	呉積俊、他	3	2002	○		
白37	115-0754-3	ココロオドル	nobodyknows +	nobodyknows +	1	2004	○		
白38	010-5082-6	宇宙戦艦ヤマト	阿久悠	宮川泰	31	1974	○	○	
白39	010-0006-3	上を向いて歩こう	永六輔	中村八大	44	1961	○	○	○
白40	083-0001-1	見上げてごらん夜の星を	永六輔	いずみたく	42	1963	○	○	○
白41	007-6284-9	いとしのエリー	桑田佳祐	桑田佳祐	26	1979		○	○
白42	043-9023-7	セロリ	山崎まさよし	山崎まさよし	9	1996	○	○	
白43	106-0715-7	桜<河口恭吾の楽曲>	河口恭吾	河口恭吾	2	2003	○		
白44	093-5840-4	ラブ・ストーリーは突然に	093-5840-4	093-5840-4	14	1991	○		
白45	089-7210-9	One Night Carnival	綾小路翔	綾小路翔	4	2001			
白46	099-7357-5	I LOVE YOU	尾崎豊	尾崎豊	22	1983		○	○
白47	064-3448-7	HEAVEN'S DRIVE	hyde	hyde	6	1999			
白48	025-7383-1	innocent world	桜井和寿	桜井和寿	11	1994	○		
白49	005-9598-5	Choo Choo TRAIN	佐藤ありす	中西圭三	14	1991	○	○	
白50	016-9086-8	YAH YAH YAH	飛鳥淳	飛鳥淳	12	1993	○		

白51	121-3710-3	さくら(ケツメイシの楽曲)	ケツメイシ	ケツメイシ	0	2005			
白52	027-8997-3	Tommorrow Never Knows	桜井和寿	桜井和寿	11	1994	○		
白53	095-7227-9	ワインレッドの心	井上陽水	玉置浩二	22	1983	○		
白54	074-8043-1	風雪ながれ旅	星野哲郎	船村徹	25	1980			
白55	040-9054-3	まつり	なかにし礼	原譲二	21	1984			
白56	033-2253-0	壊れかけのRadio	徳永英明	徳永英明	15	1990	○		
白57	012-1217-6	燃える	岡本おさみ	吉田拓郎	31	1974		○	
白58	007-9890-8	愛しき日々	小坂佳	堀内孝雄	19	1986	○		
白59	085-7441-3	ひとり	村上てつや	村上てつや	4	2001			
白60	098-7834-3	キラキラ(小田和正の楽曲)	小田和正	小田和正	3	2002	○		
白61	003-4907-1	愛は勝つ	KAN	KAN	15	1990	○	○	○
白62	035-0313-5	LOVE PHANTOM	稲葉浩志	松本孝弘	10	1995	○		
白63	020-3539-1	悲しみは雪のように	浜田省吾	浜田省吾	24	1981		○	
白64	051-4173-7	HOWEVER	TAKURO	TAKURO	8	1997	○		
白65	037-9202-1	名もなき詩	桜井和寿	桜井和寿	9	1996	○	○	
白66	125-0994-9	vestige -ヴェスティジ-	井上秋緒	浅倉大介	0	2005	○		
白67	004-4019-1	SAY YES	飛鳥淳	飛鳥淳	14	1991	○	○	
白68	007-0095-9	潮来笠	佐伯孝夫	吉田正	45	1960		○	
白69	094-4356-8	ルビーの指環	松本隆	寺尾聰	24	1981	○		
白70	056-2714-1	とんぼ	長瀬剛	長瀬剛	17	1988	○	○	
白71	063-1716-2	22才の別れ	伊勢正三	伊勢正三	30	1975		○	
白72	019-8960-0	勝手にしやがれ	阿久悠	大野克夫	28	1977			
白73	0P3-9988-0	初めて出会った日のように	金亨錫、他	金亨錫、他	2	2003	○		
白74	008-6087-5	君がいるだけで	米米CLUB	米米CLUB	13	1992	○		○
白75	028-7013-4	紅	YOSHIKI	YOSHIKI	17	1988		○	
白76	028-5352-3	クリスマス・イブ	山下達郎	山下達郎	22	1983		○	
白77	062-9452-9	Winter again	TAKURO	TAKURO	6	1999	○		
白78	055-5371-7	時の過ぎゆくまに	阿久悠	大野克夫	30	1975	○	○	
白79	071-2439-2	楽園	阿閉真琴	中野雅仁	5	2000			
白80	039-9187-3	シクラメンのかほり	小坂佳	小坂佳	30	1975			
白81	013-7421-4	おふくろさん	川内康範	猪俣公章	34	1971		○	
白82	020-1701-6	関白宣言	さだまさし	さだまさし	26	1979	○		
白83	000-0004-3	あゝ上野駅	関口義明	荒井英一	41	1964			
白84	122-4145-8	全力少年	大橋卓弥、常田真太郎	大橋卓弥、常田真太郎	0	2005	○		
白85	125-4500-7	十六夜の月	SHUNGO.	RYOKI MATSUMOTO	0	2005	○		
白86	0Y0-6163-7	YOUNG MAN (Y.M.C.A.)	BELOLO HENRI, 他	MORALI JACQUES	26	1979		○	
白87	077-7602-1	星空のディスタンス	高見沢俊彦、高橋研	高見沢俊彦	21	1984	○		
白88	025-0351-4	兄弟船	星野哲郎	船村徹	23	1982			
白89	036-7854-7	さよなら	小田和正	小田和正	26	1979		○	
白90	081-0496-4	Marionette	氷室京介	布袋寅泰	18	1987		○	
白91	091-2004-1	ANOTHER WORLD	Gackt.G	Gackt.G	4	2001	○	○	
白92	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	26	1979	○	○	○
白93	020-7327-7	仮面舞踏会	ちあき哲也	筒美京平	20	1985			
白94	059-9347-4	長良川艶歌	石本美由起	岡千秋	21	1984			
白95	077-8187-3	望郷じょんから	里村龍一	浜圭介	20	1985			
白96	125-7790-1	好きやねん、大阪。	イイジマケン	イイジマケン	0	2005	○		
白97	101-5028-5	熱き鼓動の果て	稲葉浩志	松本孝弘	3	2002	○	○	
白98	039-9076-1	私鉄沿線	山上路夫	佐藤寛	30	1975			
白99	036-4922-9	酒と泪と男と女	河島英五	河島英五	30	1975	○		
白100	068-5440-1	初恋	村下孝蔵	村下孝蔵	22	1983	○	○	

出所：『第 56 回 NHK 紅白歌合戦—スキウタ〜紅白みんなでアンケート』（NHK 総合テレビ 2005 年 12 月 31 日放送）より筆者作成

(5).『うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト 50—全国の男女 1 万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲 TOP50』(2009 年)

TBS テレビで 2009 年 10 月 20 日に放送された『うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト 50—全国の男女 1 万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲 TOP50』は、全国の男女 10,000 人へのアンケートをもとに、昭和と平成の上位それぞれ 50 曲を発表したものである。この調査は、昭和と平成という年号で選曲区分を分けていることが特徴である。しかし、1961 年に発表された「上を向いて歩こう」(曲年齢 48 年)以降の楽曲のみが選出されていることから、昭和の時代全体ではなく、実質的に昭和の時代後半の上位 50 曲だといえる。また、この調査では「川の流れのように」(曲年齢 20 年)、「Diamonds」(曲年齢 20 年)が発表された 1989 年以降は、毎年、最低 1 曲以上の楽曲が選出されていた。

この調査で選出された 100 曲は、1961 年に発表された楽曲から 2008 年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 10 年～19 年の楽曲が最も多く 30 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 72 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 28 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 5 曲、50 年を超えた楽曲は選出されなかった。この調査において曲年齢が 40 年を超えた 5 曲は「上を向いて歩こう」(曲年齢 48)、「柔」(曲年齢 45 年)をはじめ、すべて 1960 年代に発表された楽曲であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 85 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 61 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 60 曲であった。このうち、平成の 50 曲のなかでタイアップ作品として使用されたことのない楽曲は「長い間」(曲年齢 13 年)のみであり、初出年にタイアップ作品として使用されなかった楽曲はこの楽曲を含め僅か 5 曲であった。そして、学校教科書に掲載された楽曲は 22 曲あり、昭和の 50 曲のなかでは 9 曲、平成の 50 曲のなかでは 13 曲が選出され、この調査の時点で学校音楽として親しまれていた楽曲に加え、2000 年代後半に初めて学校教科書へ掲載された「なごり雪」(曲年齢 35 年)、「津軽海峡・冬景色」(曲年齢 32 年)、「さくら(独唱)」(曲年齢 6 年)などが選出された。

表 8. 『うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト 50』（2009 年） 詳細

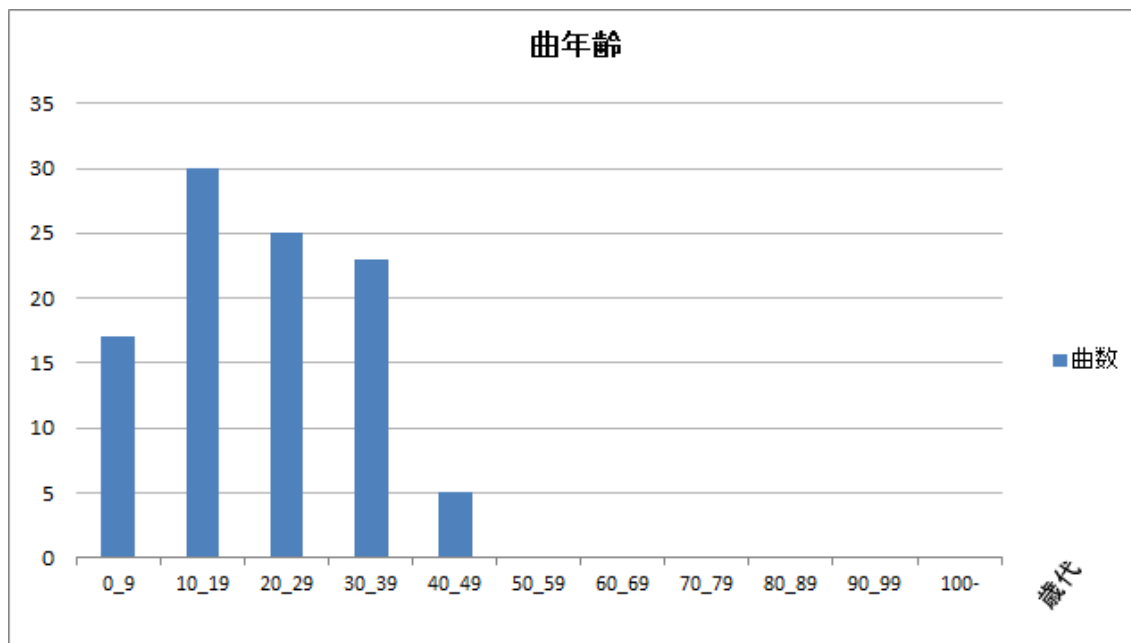
うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト50 ―全国の男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲TOP50 アンケート集計結果(TBS 2009年10月20日放送)									
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	① 初出 年	② タイアップ 初出年	③ タイアップ 初出年 以降	④ 教科書
昭1	059-4609-3	なごり雪	伊勢正三	伊勢正三	35	1974		○	○
昭2	032-1462-1	秋桜(コスモス)	さだまさし	さだまさし	32	1977		○	
昭3	002-3832-5	赤いスイートピー	松本隆	泉田軽穂	27	1982		○	○
昭4	007-6284-9	いとしのエリー	桑田佳祐	桑田佳祐	30	1979		○	○
昭5	056-1429-5	時の流れに身をまかせ	荒木とよひさ	三木たかし	23	1986		○	
昭6	007-6557-1	異邦人	久保田早紀	久保田早紀	30	1979	○		
昭7	010-0006-3	上を向いて歩こう	永六輔	中村八大	48	1961	○	○	○
昭8	002-9922-7	天城越え	吉岡治	弦哲也	23	1986			
昭9	032-8404-2	恋におちて-Fall in love-	湯川れい子	小林明子	24	1985			
昭10	036-7854-7	さよなら	小田和正	小田和正	30	1979		○	
昭11	094-4356-8	ルビーの指環	松本隆	寺尾聰	28	1981	○	○	
昭12	099-7357-5	I LOVE YOU	尾崎豊	尾崎豊	26	1983		○	○
昭13	075-1128-1	フレンズ	NOKKO	土橋安騎夫	24	1985	○	○	
昭14	095-7227-9	ワインレッドの心	井上陽水	玉置浩二	26	1983	○		
昭15	074-6541-6	プレイバックPart2	阿木耀子	宇崎竜童	31	1978		○	
昭16	055-5371-7	時の過ぎゆくままに	阿久悠	大野克夫	34	1975	○	○	
昭17	080-6151-3	聖母たちのララバイ	山川啓介	木暮敏之	27	1982	○		
昭18	096-4457-1	My Revolution	川村真澄	小室哲哉	23	1986	○	○	
昭19	088-0148-7	柔	関沢新一	古賀政男	45	1964	○	○	
昭20	052-3911-7	つぐない	荒木とよひさ	三木たかし	25	1984			
昭21	039-9187-3	シクラメンのかほり	小椋佳	小椋佳	34	1975			
昭22	032-3835-1	恋人よ	五輪真弓	五輪真弓	29	1980			
昭23	092-0414-8	夜霧よ今夜も有難う	浜口庫之助	浜口庫之助	42	1967	○		
昭24	019 5030 5	喝采	古田町	中村泰士	37	1972		○	
昭25	007-4358-3	「いちご白書」をもう一度	荒井由実	荒井由実	34	1975			○
昭26	020-0588-3	かもめが翔んだ日	伊藤アキラ	津辺真知子	31	1978			
昭27	031-1534-8	この広い野原いっぱい	小薮江圭子	西山良子	42	1967		○	○
昭28	052-2283-4	津軽海峡・冬景色	阿久悠	三木たかし	32	1977		○	○
昭29	036-4922-9	酒と泪と男と女	河島英五	河島英五	34	1975		○	
昭30	080-2054-0	また逢う日まで	阿久悠	筒美京平	38	1971	○	○	
昭31	087-1871-7	木綿のハンカチーフ	松本隆	筒美京平	34	1975			
昭32	094-3585-9	リバーサイドホテル	井上陽水	井上陽水	27	1982		○	
昭33	094-1290-5	ラブ・イズ・オーバー	伊藤薫	伊藤薫	30	1979			
昭34	083-4735-2	魅せられて	阿木耀子	筒美京平	30	1979	○	○	
昭35	044-4159-1	セカンド・ラブ	来生えつこ	来生たかお	27	1982		○	
昭36	095-1656-5	別れても好きな人	佐々木勉	佐々木勉	40	1969			
昭37	001-0051-0	あの鐘を鳴らすのはあなた	阿久悠	森田公一	37	1972		○	
昭38	060-0166-1	なんてったってアイドル	秋元康	筒美京平	24	1985	○	○	
昭39	041-0399-8	人生いろいろ	中山六三郎	浜口庫之助	22	1987	○	○	
昭40	044-1529-9	瀬戸の花嫁	安井かずみ	平尾晶晃	37	1972			
昭41	068-5440-1	初恋	村下孝蔵	村下孝蔵	26	1983	○	○	
昭42	002-1667-4	青い珊瑚礁	三浦徳子	小田裕一郎	29	1980	○	○	
昭43	046-7407-3	ダンシング・オールナイト	水谷啓二	もんたよしのり	29	1980		○	
昭44	015-0616-1	想い出がいっぱい	阿木耀子	録木キサブロー	26	1983	○	○	○
昭45	090-4933-9	UFO	阿久悠	都倉俊一	32	1977		○	
昭46	059-9229-0	涙のリクエスト	売野雅勇	芹澤廣明	25	1984		○	
昭47	024-5993-1	北の宿から	阿久悠	小林亜星	34	1975			
昭48	019-8960-0	勝手にしやがれ	阿久悠	大野克夫	32	1977			
昭49	059-7867-0	長い夜	松山千春	松山千春	28	1981			
昭50	055-6101-7	年下の男の子	千家和也	穂口雄右	34	1975		○	

平1	103-1720-1	世界に一つだけの花	横原敬之	横原敬之	7	2002	○	○	○
平2	020-9620-0	川の流れるように	秋元康	見岳章	20	1989	○	○	○
平3	093-5840-4	ラブ・ストーリーは突然に	小田和正	小田和正	18	1991	○		
平4	094-5516-7	浪漫飛行	米米CLUB	米米CLUB	22	1987		○	
平5	071-4940-9	TSUNAMI	桑田佳祐	桑田佳祐	9	2000	○	○	○
平6	056-4351-1	どんなときも。	横原敬之	横原敬之	18	1991	○	○	○
平7	075-5738-8	桜坂	福山雅治	福山雅治	9	2000	○		
平8	045-9301-4	PRIDE	布袋寅泰	布袋寅泰	13	1996	○	○	
平9	016-6420-4	負けないで	坂井泉水	織田哲郎	16	1993	○	○	○
平10	081-9089-5	Diamonds	中山加奈子	奥居香	20	1989	○	○	
平11	149-3840-5	キセキ	GReeeeN	GReeeeN	1	2008	○	○	
平12	080-9216-6	真夏の果実	桑田佳祐	桑田佳祐	19	1990	○	○	
平13	054-8439-1	夜空ノムコウ	スガシカオ	川村結花	11	1998	○		○
平14	041-3613-6	少年時代	井上陽水	井上陽水、平井夏美	19	1990	○	○	○
平15	033-2253-0	壊れかけのRadio	徳永英明	徳永英明	19	1990	○		
平16	012-6980-1	世界中の誰よりきっと	上杉昇、中山美穂	織田哲郎	17	1992	○	○	
平17	048-6030-6	CAN YOU CELEBRATE?	小室哲哉	小室哲哉	12	1997	○		
平18	064-3434-7	First Love	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	10	1999	○		
平19	137-6501-9	蕾	小淵健太郎	小淵健太郎	2	2007	○		
平20	034-2083-3	LOVE LOVE LOVE	吉田美和	中村正人	14	1995	○	○	○
平21	061-3652-4	涙そうそう	森山良子	BEGIN	11	1998	○	○	○
平22	004-4019-1	SAY YES	飛鳥涼	飛鳥涼	18	1991	○	○	
平23	073-9758-5	地上の星	中島みゆき	中島みゆき	9	2000	○	○	○
平24	003-4907-1	愛は勝つ	KAN	KAN	19	1990	○	○	○
平25	006-4275-4	島唄	宮沢和史	宮沢和史	17	1992	○		○
平26	003-4532-6	会いたい	沢ちひろ	財津和夫	19	1990	○		
平27	108-1266-1	さくら(独唱)	森山直太郎、御徒町凧	森山直太郎	6	2003	○		○
平28	112-0169-0	千の風になって	不詳、新井満(詞)	新井満	3	2006		○	
平29	076-2567-7	部屋とシャンと私	平松愛理	平松愛理	19	1990		○	
平30	111-0753-7	ハナミズキ	一青窈	マシコタツロウ	5	2004	○	○	
平31	111-0469-4	雪の華	Satomi	松本良喜	6	2003	○	○	
平32	037-5046-9	バンザイ〜好きでよかった	トータス松本	トータス松本	13	1996	○		
平33	058-1684-0	夏色	北川悠仁	北川悠仁	11	1998		○	
平34	026-6316-3	恋しさとせつなさ心強さと	小室哲哉	小室哲哉	15	1994	○	○	
平35	021-8436-2	ロマンスの神様	広瀬香美	広瀬香美	16	1993	○		
平36	041-5175-5	LA・LA・LA LOVE SONG	久保田利伸	久保田利伸	13	1996	○		
平37	051-4173-7	HOWEVER	TAKURO	TAKURO	12	1997	○		
平38	030-6065-5	チェリー	草野マサムネ	草野マサムネ	13	1996		○	
平39	051-5116-3	長い間	玉城千春	玉城千春	13	1996			
平40	038-2749-6	そばかす	YUKI	恩田快人	13	1996	○	○	
平41	127-0097-5	粉雪	藤巻亮太	藤巻亮太	4	2005	○		
平42	084-9808-3	Can you keep A secret ?	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	8	2001	○		
平43	005-0014-3	ガラガラヘビがやってくる	秋元康	後藤次利	17	1992	○		
平44	075-9615-4	SEASONS	浜崎あゆみ	DAI	9	2000	○		
平45	146-6855-6	そばにいるね	SoulJa	SoulJa	1	2008	○	○	
平46	118-8923-3	花(ORANGE RANGEの楽曲)	ORANGE RANGE	ORANGE RANGE	5	2004	○		
平47	110-6640-7	さくらんぼ	愛	愛	6	2003	○	○	
平48	025-7383-1	innocent world	桜井和寿	桜井和寿	15	1994	○		
平49	069-8451-7	LOVEマシーン	つんく	つんく	10	1999	○	○	
平50	135-0224-7	三日月	綾香	綾香、西尾芳彦	3	2006	○		

出所：『うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト 50—全国の男女 1 万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲 TOP50』(TBS テレビ 2009 年 10 月 20 日放送)より筆者作成



図 11. 『うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト 50』（2009 年）曲年齢



出所：『うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベスト 50—全国の男女 1 万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲 TOP50』（TBS テレビ 2009 年 10 月 20 日放送）より筆者作成

#### 4. 2014 年～2016 年の 5 つの事例を用いた曲年齢と曲履歴を用いた分析

本節では 2014 年から 2016 年にかけて放送された近年の 5 つの音楽番組を分析対象とし、曲年齢と曲履歴を用いた考察を行う。ここで取り上げる 5 つの音楽番組は 2009 年までの 5 つの調査とは異なり比較的新しいものであるため、曲履歴の分析項目については 9 項目を設定し、より詳細な検討を行う。各番組で選曲された楽曲について、番組の放送年から楽曲の初出年を差し引いたものを曲年齢として定義し、選出された楽曲の曲年齢を 10 年刻みでグラフ化した。加えて、①初出年、②音楽メディア収録タイトル数<sup>55)</sup>、③初出年のタイアップの有無、④初出年以降のタイアップの有無、⑤カバー音源（歌入り／器楽）の有無<sup>56)</sup>、⑥学校教科書掲載の有無、⑦運動部活動における使用の有無<sup>57)</sup>、⑧プロスポーツにおける使用の有無<sup>58)</sup>、⑨鉄道会社における使用の有無<sup>59)</sup>、という 9 項目を「曲履歴」として設定し、検討した結果を図表化した。

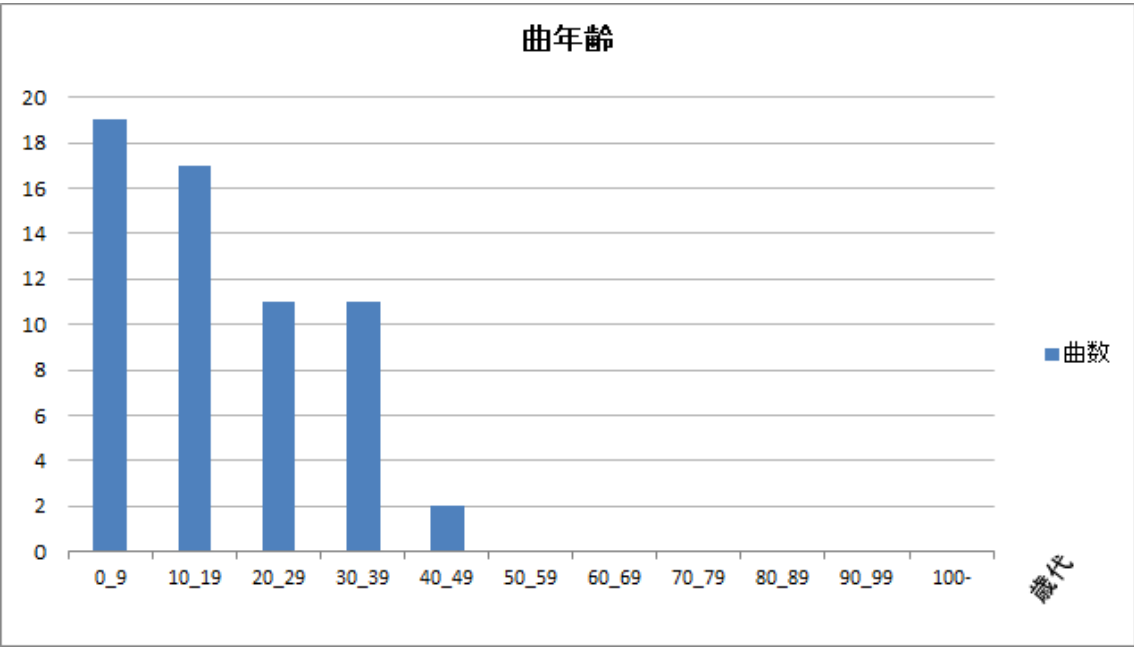
**(1). 『MUSIC STATION SPECIAL「卒業、桜…1万人が選んだ春の名曲ランキング」—10代から60代までの男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲ぞろいのランキング60を大発表!』(2014年)**

テレビ朝日で2014年3月21日に放送された『MUSIC STATION SPECIAL「卒業、桜…1万人が選んだ春の名曲ランキング」—10代から60代までの男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲ぞろいのランキング60を大発表!』は、全国の10代から60代までの男女10,000人へのアンケートをもとに、卒業ソングや桜ソングなど春を連想させる楽曲の上位60曲を発表したものである。この調査はテーマが「春の名曲」であることから、出会いや別れ、桜、卒業など春の情景を描いた楽曲が選出されていたことが特徴である。また、「旅立ちの日に」(曲年齢23年)、「未来予想図Ⅱ」(曲年齢25年)、NHK学校音楽コンクール課題曲として制作された「手紙～拝啓十五の君へ～」(曲年齢6年)と「YELL」(曲年齢5年)をはじめ、卒業式などの学校行事で親しまれている楽曲が多く選出されていた。

この調査で選出された60曲は、1973年に発表された楽曲から2012年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、0年～9年の楽曲が最も多く19曲が選ばれ、初出から29年以下の楽曲は47曲であった。また、初出から30年を超えた楽曲は13曲であり、このうち40年を超えた楽曲は2曲、50年を超えた楽曲は選出されなかった。この調査において曲年齢が40年を超えた2曲は「心の旅」(曲年齢41年)、「なごり雪」(曲年齢40年)であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は53曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は40曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は33曲であった。カバー音源が存在する楽曲は58曲あり、歌入りのカバー音源が発表されている楽曲は53曲であった。次に、学校教科書に掲載された楽曲は17曲あり、野球部など運動部活動において応援歌や行進曲として使用された楽曲は5曲であった。加えて、野球やサッカーなどプロスポーツの応援歌や選手のテーマソングとして使用された楽曲は5曲、駅の発車メロディーや車内メロディーとして使用された楽曲は11曲であった。

図 12. 『ミュージックステーション SP 春うた 60 曲』(2014 年) 曲年齢



出所：『MUSIC STATION SPECIAL「卒業、桜…1万人が選んだ春の名曲ランキング」—10代から60代までの男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲ぞろいのランキング60を大発表!』（テレビ朝日 2014年3月21日放送）より筆者作成

表 9. 『ミュージックステーション SP 春うた 60 曲』(2014 年) 詳細

MUSIC STATION SPECIAL「卒業、桜…1万人が選んだ春の名曲ランキング」—10代から60代までの男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲ぞろいのランキング60を大発表! アンケート集計結果(テレビ朝日 2014年3月21日放送)														
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年齢	① 初出 年	② 収録 タイ トル 数	③ タイアップ 初出年 以降	④ タイアップ 初出年 以降	⑤ カバー 歌入り	⑥ カバー 器楽	⑦ 教科書	⑧ 運動 部活動	⑨ プロ スポーツ
1	108-1266-1	さくら(独唱)	森山直太郎、御徒町黒	森山直太郎	11	2003	134	○		○	○	○		○
2	027-2026-4	春よ、来い	松任谷由美	松任谷由美	20	1994	119	○	○	○	○	○		
3	075-5738-8	桜坂	福山雅治	福山雅治	14	2000	164	○		○	○			○
4	059-4609-3	なごり雪	伊勢正三	伊勢正三	40	1974	387		○	○	○	○		○
5	121-3710-3	さくら(ケツメイシの楽曲)	ケツメイシ	ケツメイシ	9	2005	43			○	○			○
6	128-0820-2	桜(コブクロの楽曲)	小淵健太郎、黒田俊介	小淵健太郎、黒田俊介	9	2005	88	○		○	○			○
7	068-5303-0	春なのに	中島みゆき	中島みゆき	31	1983	73			○	○			
8	002-3832-5	赤いスイートピー	松本隆	黒田俊介	32	1982	166		○	○	○	○		
9	045-2466-7	卒業写真	荒井由実	荒井由実	39	1975	323		○	○	○	○		
10	129-2435-1	SAKURA(いきものがかりの楽曲)	水野良樹	水野良樹	8	2006	43	○		○	○			○

11	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	35	1979	203	○	○	○	○	○			
12	121-3350-7	サクラ咲ケ	相田敏	谷本新	9	2005	28	○			○				
13	045-4112-0	卒業(青森由貴の楽曲)	松本隆	簡美京平	29	1985	78	○		○	○				
14	113-9815-9	3月9日	藤巻亮太	藤巻亮太	10	2004	75	○		○	○				
15	103-1720-1	世界に一つだけの花	嵐	嵐	12	2002	226	○	○	○	○	○	○		○
16	007-5906-6	いい日旅立ち	谷村新司	谷村新司	36	1978	449	○	○	○	○	○			○
17	137-6501-9	蕾	小淵健太郎	小淵健太郎	7	2007	88	○		○	○		○		
18	045-4087-5	卒業(尾崎豊の楽曲)	尾崎豊	尾崎豊	29	1985	61			○	○				
19	120-8163-9	春の歌	草野正宗	草野正宗	9	2005	8	○	○	○	○				
20	038-6065-5	チェリー	草野マサムネ	草野マサムネ	18	1996	110		○	○	○				
21	077-5149-4	微笑がえし	阿木耀子	樋口雄右	36	1978	56		○	○	○				
22	062-5084-1	春～spring～	たくや	たくや	15	1999	18	○	○	○					
23	138-4702-3	CHE.R.R.Y	YUI	YUI	7	2007	31	○		○	○				
24	050-4065-5	チェリーブラッサム	三浦徳子	財津和夫	33	1981	49		○	○	○				
25	048-9051-5	明日、春が来たら	坂元裕二	日向大介	17	1997	26	○	○	○	○				
26	047-9379-0	春を愛する人	TAKURO	TAKURO	18	1996	12								
27	129-0817-7	桜の花びらたち	秋元康	上杉洋史	8	2006	28	○	○	○	○				
28	016-6420-4	負けないで	坂井泉水	藤田哲郎	21	1993	103	○	○	○	○	○	○		
29	156-7553-0	YELL	水野良樹	水野良樹	5	2009	67	○	○	○	○	○			○
30	071-9610-1	桜の時	aiko	aiko	14	2000	19	○	○		○				
31	068-3639-9	春咲小紅	糸井重里	矢野雛子	33	1981	47	○		○	○				
32	110-6640-7	さくらんぼ	愛	愛	11	2003	44	○	○		○				○
33	101-1551-0	SAKURAFLOCK	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	12	2002	46	○		○	○				
34	061-3189-1	終わりのなき旅	坂井和寿	坂井和寿	16	1998	13	○			○				
35	044-3970-8	制服	松本隆	呉田軽穂	32	1982	40			○	○				
36	056-5546-3	my graduation	伊秩弘将	伊秩弘将	16	1998	31	○	○	○	○				
37	106-8715-7	桜(河口恭吾の楽曲)	河口恭吾	河口恭吾	11	2003	76	○		○	○				
38	121-1358-1	桜色舞うころ	川江美奈子	川江美奈子	9	2005	65	○	○	○	○				
39	156-4875-3	Sakura(レミオロマンの楽曲)	藤巻亮太	藤巻亮太	5	2009	12	○			○				
40	087-1871-7	木綿のハンカチーフ	松本隆	簡美京平	39	1975	169			○	○				
41	040-9307-1	じゃあね	秋元康	高橋研	28	1986	34	○	○	○	○				
42	116-6988-8	栄光の架橋	北川悠仁	北川悠仁	10	2004	45	○	○	○	○			○	
43	045-4108-1	卒業 -GRADUATION-	秋元康	林哲司	29	1985	21	○		○	○				
44	023-8272-5	空も飛べるはず	草野マサムネ	草野マサムネ	20	1994	108		○	○	○				
45	111-0753-7	ハナミズキ	一青窈	マシコタツロウ	10	2004	227	○	○	○	○	○		○	
46	138-0489-8	道	Shogo Kashida	miwa furuse	7	2007	39	○	○	○	○	○			○
47	015-0616-1	思い出がいっぱい	阿木耀子	鈴木キサブロー	31	1983	151	○	○	○	○	○			
48	006-6326-3	旅立ちの日に	小嶋登	坂本浩美	23	1991	185		○	○	○	○			
49	167-5250-3	ありがとう	水野良樹	水野良樹	4	2010	8	○		○	○	○	○		○
50	017-4251-5	すばらしい日々	奥田民生	奥田民生	21	1993	57		○	○					
51	066-7822-0	春風	岩沢厚治	岩沢厚治	7	2007	7			○	○				
52	704-0976-5	GIVE ME FIVE!	秋元康	菅瀬大介	2	2012	13	○		○	○				
53	149-3840-5	キセキ	GReeeeN	GReeeeN	6	2008	111	○		○	○		○	○	
54	147-7523-9	手紙～拝啓十五の君へ～	アンジュラ・アキ	アンジュラ・アキ	6	2008	82	○	○	○	○	○			
55	156-6544-5	桜(FUNKY MONKEY BABYSの楽曲)	FMB、川村結花	FMB、川村結花	5	2009	35	○		○	○			○	
56	009-5887-5	遠く遠く	嵐	嵐	22	1992	64		○	○	○				
57	031-7592-8	心の旅	財津和夫	財津和夫	41	1973	185		○	○	○				
58	098-9996-1	花唄	TAKESHI	鈴木秋男	12	2002	14	○							
59	083-8673-1	未来予想図Ⅱ	吉田美和	吉田美和	25	1989	119		○	○	○	○			
60	126-6206-2	旅立ちの日に・・・	川嶋あい	川嶋あい	8	2006	16		○	○	○				

出所：『MUSIC STATION SPECIAL「卒業、桜…1万人が選んだ春の名曲ランキング」――10代から60代までの男女1万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲ぞろいのランキング60を大発表!』（テレビ朝日 2014年3月21日放送）より筆者作成

## (2).『MUSIC STATION SPECIAL「もっともリクエストが多かった夏うたは?」アンケート集計結果』(2015 年)

テレビ朝日で 2015 年 6 月 20 日に放送された『MUSIC STATION SPECIAL「もっともリクエストが多かった夏うたは?」アンケート集計結果』は、全国の男女 3,000 人へのアンケートをもとに、夏を連想させる楽曲の上位 40 曲を発表したものである。この調査はテーマが「夏の名曲」であることから、夏をタイトルに冠した楽曲や海の情景を描いた楽曲が選出されていたことが特徴である。また、夏のイメージが定着しているサザンオールスターズの持ち歌として親しまれている楽曲が 7 曲、TUBE の持ち歌として親しまれている楽曲が 5 曲と、高い割合で選出されていた。

この調査で選出された 40 曲は、1971 年に発表された楽曲から 2014 年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 10 年～19 年の楽曲が最も多く 14 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 34 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 6 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 1 曲、50 年を超えた楽曲は選出されなかった。この調査において曲年齢が 40 年を超えた楽曲は「夏休み」(曲年齢 44 年)であった。

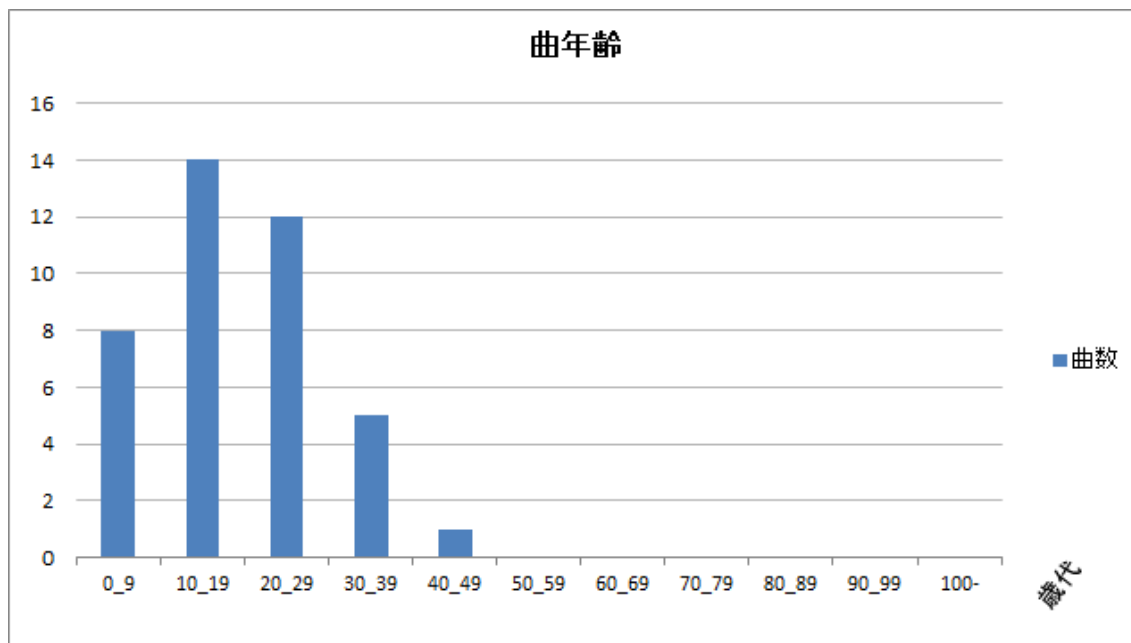
曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 37 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 33 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 32 曲であった。カバー音源が存在する楽曲は 39 曲あり、歌入りのカバー音源が発表されている楽曲は 32 曲であった。次に、学校教科書に掲載された楽曲は 2 曲あり、野球部など運動部活動において応援歌や行進曲として使用された楽曲は 5 曲であった。加えて、野球やサッカーなどプロスポーツの応援歌や選手のテーマソングとして使用された楽曲は 2 曲、駅の発車メロディーや車内メロディーとして使用された楽曲は 5 曲であった。

表 10. 『ミュージックステーション SP 夏うた 40 曲』(2015 年) 詳細

MUSIC STATION SPECIAL ーもっともリクエストが多かった夏うたは？アンケート集計結果 アンケート集計結果(テレビ朝日 2015年6月20日放送)						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	初出 年	収録 タイ トル 数	タイアップ 初出年	タイアップ 初出年 以降	カバー 歌入り	カバー 器楽	教科書	運動 部活動	プロ スポーツ	鉄 道
1	050-1684-0	夏色	北川悠仁	北川悠仁	17	1998	21		○		○				○
2	003-4506-7	あー夏休み	前田亘穉	前田亘穉、春畑道哉	25	1990	29	○		○	○				
3	060-2416-5	夏祭り(Whiteberry の楽曲)	破矢ジンタ	破矢ジンタ	15	2000	89	○	○	○	○		○		
4	071-4940-9	TSUNAMI	桑田佳祐	桑田佳祐	15	2000	159	○	○	○	○		○		
5	080-9216-8	表夏の果実	桑田佳祐	桑田佳祐	25	1990	141	○	○	○	○				
6	040-9459-0	シーズン・イン・ザ・サン	亜蘭知子	巖田哲郎	29	1986	64	○	○	○	○				
7	041-3613-6	少年時代	井上陽水	井上陽水、平井夏美	25	1990	243	○	○	○	○	○			○
8	020-0766-5	勝手にシンドバッド	桑田佳祐	桑田佳祐	37	1978	45	○	○	○	○				
9	109-7921-2	夏の思い出	ケツメイシ	ケツメイシ	12	2003	10	○		○	○				
10	069-2056-1	花火	aiko	aiko	16	1999	10	○	○	○	○				○
11	141-1153-5	咲露花	湘南乃風	湘南乃風	8	2007	9	○		○	○				
12	076-6745-1	ミュージック・アワー	ハルイチ	ak.homma	15	2000	9	○			○				
13	160-6390-9	ボニー・テールとシュシュ	秋元康	冬田慎也	5	2010	21	○	○	○	○				
14	085-8530-5	波乗りジョニー	桑田佳祐	桑田佳祐	14	2001	34	○	○	○	○				
15	089-8413-1	secret base～君がくれたもの～	町田紀彦	町田紀彦	14	2001	82	○	○	○	○				
16	060-2416-5	夏祭り(JITTERIN' JINN の楽曲)	破矢ジンタ	破矢ジンタ	25	1990	89	○	○	○	○		○		
17	081-8464-0	SUMMER DREAM	亜蘭知子	巖田哲郎	28	1987	22	○		○	○				
18	050-4334-4	チャコの海岸物語	桑田佳祐	桑田佳祐	33	1982	40			○	○				
19	026-0857-0	夏が来る	大黒摩季	大黒摩季	21	1994	24	○	○	○	○				
20	104-9151-1	表夏のSounds good!	秋元康	井上ヨシマサ	3	2012	14	○		○	○				
21	700-9147-1	Summer Splash!	THE 仙台セピア	THE 仙台セピア	5	2010	1								
22	007-6284-9	いとしのエリー	桑田佳祐	桑田佳祐	36	1979	223		○	○	○				
23	057-6526-9	HOT LIMIT	井上秋緒	浅倉大介	17	1998	36	○	○	○	○				
24	085-9092-3	ultra soul	稲葉浩志	松本孝弘	14	2001	16	○	○	○	○			○	
25	059-8525-1	夏をあきらめて	桑田佳祐	桑田佳祐	33	1982	84			○	○				
26	017-4297-3	夏の日の1993	松本一起	佐藤健	22	1993	53	○		○	○				
27	142-5050-1	Happiness	WONDERLAND	岡田実音	8	2007	21	○		○	○				
28	008-7032-3	夏だね	前田亘穉	春畑道哉	23	1992	18	○			○				
29	044-5373-5	世界でいちばん熱い夏	富田京子	奥居香	28	1987	72	○	○	○	○				
30	076-8645-5	夏の王様	康珍化	羽田一郎	15	2000	7	○			○				
31	025-7480-2	夏を抱きしめて	前田亘穉	春畑道哉	21	1994	32	○			○				
32	177-0525-8	Everyday、カチューシャ	秋元康	井上ヨシマサ	4	2011	26	○		○	○		○		
33	195-0140-4	恋するフォーチュンクッキー	秋元康	伊藤心太郎	2	2013	34	○	○	○	○		○		○
34	059-3355-2	夏休み	吉田拓郎	吉田拓郎	44	1971	64		○	○	○				
35	070-9458-2	カブトムシ	aiko	aiko	16	1999	21	○			○				
36	109-4207-6	夏の終わリ	森山直太朗、御徒町鼻	森山直太朗	12	2003	17	○		○	○				
37	025-5130-1	希望の轍	桑田佳祐	桑田佳祐	25	1990	44	○	○	○	○			○	○
38	010-3140-3	ロコローション	CAROLE KING、オレンジレ	GOFFIN GERALD、GOFFIN	11	2004	254		○	○	○				
39	075-0245-1	ふたりの雲ランド	チャゲ、松井五郎	チャゲ	31	1984	35	○	○	○	○				
40	710-1985-5	R.Y.U.S.E.I.	STY	STY、Maozon	1	2014	12	○			○				

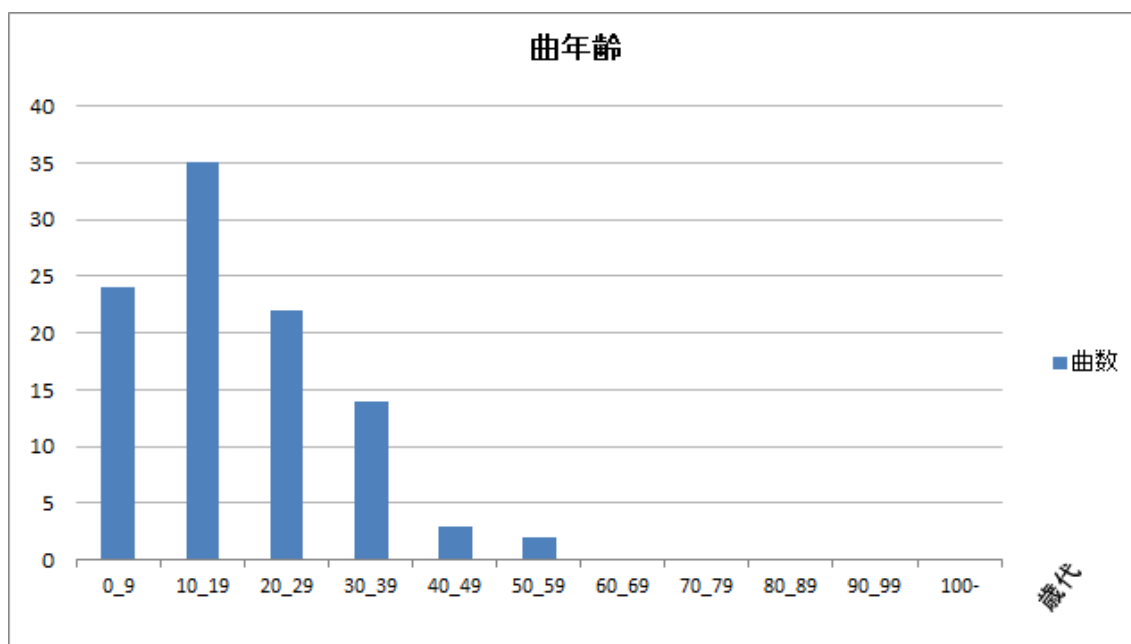
出所：『MUSIC STATION SPECIAL 「もっともリクエストが多かった夏うたは?」 アンケート集計結果』(テレビ朝日 2015 年 6 月 20 日放送) より筆者作成

図 13. 『ミュージックステーション SP 夏うた 40 曲』(2015 年) 曲年齢



出所：『MUSIC STATION SPECIAL 「もっともリクエストが多かった夏うたは？」アンケート集計結果』(テレビ朝日 2015 年 6 月 20 日放送) より筆者作成

図 14. 『ミュージックステーション SP ニッポンの歌 100 曲』(2015 年) 曲年齢



出所：『MUSIC STATION ウルトラ FES 30TH 「日本人に勇気をくれたニッポンの歌 Best 100」 — 「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは？」日本人男女 1 万人にアンケート集計結果』(テレビ朝日 2015 年 9 月 23 日放送) より筆者作成

**(3).『MUSIC STATION ウルトラ FES 30TH 「日本人に勇気をくれたニッポンの歌 Best 100」 — 「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは?」 日本人男女 1 万人にアンケート集計結果』(2015 年)**

テレビ朝日で 2015 年 9 月 23 日に放送された『MUSIC STATION ウルトラ FES 30TH 「日本人に勇気をくれたニッポンの歌 Best 100」 — 「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは?」 日本人男女 1 万人にアンケート集計結果』は、全国の男女「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは?」というテーマで、全国の男女 10,000 人へのアンケートをもとに、上位 100 曲を発表したものである。この調査は、日本人に勇気を与えた楽曲という切り口で、幅広い年代の楽曲を選曲対象としたことが特徴である。この調査では「川の流れるように」(曲年齢 27 年)、「紅」(曲年齢 27 年)、「アンパンマンのマーチ」(曲年齢 27 年)が発表された 1988 年以降は、毎年、最低 1 曲以上の楽曲が選出されていた。

この調査で選出された 100 曲は、1960 年に発表された楽曲から 2014 年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 10 年～19 年の楽曲が最も多く 35 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲が 81 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 19 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 5 曲、60 年を超えた楽曲は選出されなかった。この調査において曲年齢が 50 年を超えた楽曲は、「見上げてごらん夜の星を」(曲年齢 55 年)、「上を向いて歩こう」(曲年齢 54 年)の 2 曲であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 96 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 96 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 60 曲であった。カバー音源が存在する楽曲は 99 曲あり、歌入りのカバー音源が発表されている楽曲は 86 曲であった。次に、学校教科書に掲載された楽曲は 31 曲あり、野球部など運動部活動において応援歌や行進曲として使用された楽曲は 18 曲であった。加えて、野球やサッカーなどプロスポーツの応援歌や選手のテーマソングとして使用された楽曲は 20 曲、駅の発車メロディーや車内メロディーとして使用された楽曲は 17 曲であった。



表 11. 『ミュージックステーション SP ニッポンの歌 100 曲』(2015 年) 詳細

MUSIC STATION ウルトラ FES 30TH 「日本人に勇気をくれたニッポンの歌 Best 100」 ―「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは？」															
日本人男女1万人にアンケート集計結果(テレビ朝日 2015年9月23日放送)															
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 番	① 初出 年	② 収録 タイ トル数	③ タイアップ 初出年	④ タイアップ 初出年 以降	⑤ カバー 歌入り	カバー 器楽	⑥ 教科書	⑦ 運動 部活動	⑧ プロ スポーツ	⑨ 鉄 道
1	103-1720-1	世界に一つだけの花	横原敬之	横原敬之	13	2002	226	○	○	○	○	○	○		○
2	010-0006-3	上を向いて歩こう	永六輔	中村八大	54	1961	543	○	○	○	○	○	○	○	○
3	020-9620-0	川の流れるように	秋元康	見岳章	27	1988	620	○	○	○	○	○			
4	108-1266-1	さくら(独唱)	森山直太郎、御徒町凧	森山直太郎	12	2003	134	○		○	○	○			○
5	071-4940-9	TSUNAMI	桑田佳祐	桑田佳祐	15	2000	159	○	○	○	○	○	○		
6	116-6988-8	栄光の架橋	北川悠仁	北川悠仁	11	2004	45	○	○	○	○			○	
7	009-2825-9	糸	中島みゆき	中島みゆき	23	1992	76	○	○	○	○				
8	075-5738-8	桜坂	福山雅治	福山雅治	15	2000	164	○		○	○			○	
9	043-4027-2	昴	谷村新司	谷村新司	35	1980	241	○		○	○	○			
10	195-0140-4	恋するフォーチュンクッキー	秋元康	伊藤心太郎	2	2013	34	○	○	○	○		○		○
11	167-5250-3	ありがとう	水野良樹	水野良樹	5	2010	8	○		○	○	○	○		○
12	070-5733-4	A・RA・SHI	J&T	馬場野康二	16	1999	16	○			○			○	
13	002-3832-5	赤いスイートピー	松本隆	島田寛穂	33	1982	166	○	○	○	○	○			
14	115-0800-1	瞳をとじて	平井堅	平井堅	11	2004	124	○		○	○				
15	064-3434-7	First Love	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	16	1999	174	○	○	○	○		○		
16	7A2-4620-7	Rising Sun	ATSUSHI	Didrik Thott 他	4	2011	17	○		○	○				
17	085-9092-3	ultra soul	稲葉浩志	松本孝弘	14	2001	16	○	○	○	○			○	
18	039-9320-5	時代	中島みゆき	中島みゆき	40	1975	178	○	○	○	○	○			
19	007-5906-6	いっしょに旅立ち	谷村新司	谷村新司	37	1978	449	○	○	○	○	○			○
20	121-1640-8	何處でも	吉田美和	中村正人、吉田美和	10	2005	36	○	○	○	○			○	
21	048-6030-6	CAN YOU CELEBRATE?	小室哲哉	小室哲哉	18	1997	111	○		○	○				
22	041-3613-6	少年時代	井上陽水	井上陽水、平井夏美	25	1990	243	○	○	○	○	○			○
23	007-6284-9	いとしのエリー	桑田佳祐	桑田佳祐	36	1979	223	○	○	○	○	○			
24	1112 0203 1	Dragon Night	Fukase	Fukase	1	2014	6	○			○			○	○
25	703-4546-5	千本桜	黒うさ	黒うさ	4	2011	89	○	○	○	○				
26	027-2026-4	春よ、来い	松任谷由美	松任谷由美	21	1994	119	○	○	○	○	○			
27	702-2674-1	家族になろうよ	福山雅治	福山雅治	4	2011	49	○		○	○			○	
28	710-1985-5	R.Y.U.S.E.I.	STY	STY、Maozon	1	2014	12	○			○				
29	002-9638-4	愛燦爛	小坂佳	小坂佳	29	1986	396	○		○	○				
30	192-1975-0	RPQ	Fukase、Saori	Fukase	2	2013	18	○	○		○	○			
31	149-3840-5	キセキ	GReeeeN	GReeeeN	7	2008	111	○		○	○		○	○	
32	035-0313-5	LOVE PHANTOM	稲葉浩志	松本孝弘	20	1995	26	○		○	○				
33	061-3652-4	涙そうそう	森山良子	BEGIN	17	1998	425	○	○	○	○	○			
34	200-6270-2	GUTS!	eltvo's-Tnk	SAKRA	1	2014	6	○			○				
35	040-9054-3	まつり	なかよし礼	原譲二	31	1984	136	○		○	○	○			
36	708-2760-5	ようかい体操第一	ラッキィ池田、高木貞司	菊谷知樹	1	2014	39	○		○	○				
37	025-7383-1	innocent world	桜井和寿	桜井和寿	21	1994	41	○		○	○			○	
38	061-8887-7	Automatic	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	17	1998	47	○		○	○				
39	034-2083-3	LOVE LOVE LOVE	吉田美和	中村正人	20	1995	182	○	○	○	○	○			
40	016-6420-4	負けないで	坂井泉水	巖田哲郎	22	1993	103	○	○	○	○	○	○		
41	032-1462-1	秋桜(コスモス)	さだまさし	さだまさし	38	1977	294	○	○	○	○				○
42	058-1684-0	夏色	北川悠仁	北川悠仁	17	1998	21	○			○				○
43	143-3000-8	ポリリズム	中田ヤスタカ	中田ヤスタカ	8	2007	25	○	○	○	○				
44	054-8439-1	夜空ノムコウ	スガシカオ	川村結花	17	1998	146	○		○	○	○			
45	710-1416-1	NIPPON	椎名林檎	椎名林檎	1	2014	5	○			○			○	
46	052-2283-4	津軽海峡・冬景色	阿久悠	三木たかし	38	1977	286	○	○	○	○	○		○	
47	137-6501-9	蕾	小淵健太郎	小淵健太郎	8	2007	88	○		○	○		○		
48	051-4173-7	HOWEVER	TAKURO	TAKURO	18	1997	62	○	○	○	○				
49	079-5581-2	Everything	MISIA	松本俊明	15	2000	185	○	○	○	○				
50	139-0767-1	夢をこめて花束を	越智志帆、他※	多保孝一	7	2008	30	○			○				

51	112-0169-0	千の風になって	不詳、新井満(訳詞)	新井満	14	2001	232	○	○	○	○				
52	028-7013-4	虹	YOSHIKI	YOSHIKI	27	1988	49	○	○	○	○		○	○	
53	083-0001-1	見上げてごらん夜の星を	永六輔	いずみたく	55	1960	444	○	○	○	○	○			
54	700-8887-0	ヘビーローテーション	秋元康	山崎寛	5	2010	26	○	○	○	○				
55	096-4508-0	DESIRE -情熱-	阿木曜子	鈴木キサブロー	29	1986	76	○		○	○			○	
56	092-1183-7	夜明けのスカット	山上路夫	いずみたく	46	1969	110	○	○	○	○				
57	112-7478-5	Jupiter	吉元由美	G. Holst	12	2003	57	○	○	○	○				
58	005-9598-5	Choo Choo TRAIN	佐藤ありす	中西圭三	24	1991	113	○	○	○	○				
59	099-5372-8	Merry Christmas Mr.Lawrence	—	坂本龍一	32	1983	224	○		○	○			○	
60	056-4951-1	どんなときも。	嶺原敬之	嶺原敬之	24	1991	115	○	○	○	○	○	○		
61	006-4275-4	鳥唄	宮沢和史	宮沢和史	23	1992	201	○	○	○	○	○	○	○	
62	085-5823-0	天体観測	藤原基央	藤原基央	14	2001	10	○	○	○	○				
63	020-2639-2	乾杯	長洲剛	長洲剛	35	1980	161	○	○	○	○	○			○
64	122-8027-5	Story	AI	2 SOUL	10	2005	76	○	○	○	○				
65	035-4722-1	残酷な天使のテーゼ	及川暎子	佐藤英敏	20	1995	196	○	○	○	○			○	○
66	051-3447-1	硝子の少年	松本隆	山下達郎	18	1997	23			○	○		○		
67	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	36	1979	203	○	○	○	○	○			
68	789-5556-5	ギミチョコ!!	MK-METAL、KxBxMETAL	TAKESHI UEDA	1	2014	4								
69	147-7529-0	手紙～拝啓十五の君へ～	アンジェラ・アキ	アンジェラ・アキ	7	2008	82	○	○	○	○	○	○		
70	038-6065-5	チェリー	草野マサムネ	草野マサムネ	19	1996	110	○	○	○	○	○			
71	052-7412-5	虹	hyde	ken	18	1997	17	○			○				
72	170-2136-7	あとひとつ	FMB、川村結花	FMB、川村結花	5	2010	20	○		○	○		○	○	○
73	003-4907-1	愛は勝つ	KAN	KAN	25	1990	116	○	○	○	○	○			
74	705-6881-2	ファッションモンスタ	中田ヤスタカ	中田ヤスタカ	3	2012	8	○		○	○				
75	001-6889-1	愛のメモリー	たかたかし	馬岡野康二	38	1977	70	○	○	○	○		○		
76	036-7054-7	さよなら	小田和正	小田和正	36	1979	113	○		○	○				
77	111-0469-4	雪の華	Satomi	松本良喜	12	2003	177	○	○	○	○				
78	070-9458-2	カブトムシ	aiko	aiko	16	1999	21	○			○				
79	028-5352-3	クリスマス・イブ	山下達郎	山下達郎	32	1983	240	○	○	○	○				
80	089-0428-6	アゲハ蝶	ハルイチ	ハルイチ	14	2001	13	○			○				
81	061-3189-1	終わりのなき旅	桜井和寿	桜井和寿	17	1998	13	○			○				
82	202-0671-2	ひまわりの約束	泰基博	泰基博	1	2014	17	○	○	○	○				
83	035-6538-6	ガッツだぜ!!	トータス松本	トータス松本	20	1995	49	○	○	○	○				
84	003-2549-0	アンパンマンのマーチ	やなせたかし	三木たかし	27	1988	432	○	○	○	○				○
85	084-3361-5	M	浜崎あゆみ	CREA	15	2000	35	○		○	○	○			
86	142-5050-1	Happiness	WONDERLAND	岡田実音	8	2007	21	○		○	○				
87	111-0753-7	ハナミズキ	一青窈	マシコタツロウ	11	2004	227	○	○	○	○			○	
88	096-6472-6	J.BOY	浜田省吾	浜田省吾	29	1986	22				○			○	
89	096-4457-1	My Revolution	川村亮澄	小室哲哉	29	1986	97	○	○	○	○				
90	099-7357-5	I LOVE YOU	尾崎豊	尾崎豊	32	1983	205	○	○	○	○	○			
91	139-6922-6	夢をかなえてドラえもん	黒須克彦	黒須克彦	8	2007	147	○	○	○	○				○
92	127-0097-5	粉雪	藤巻亮太	藤巻亮太	10	2005	45	○		○	○				
93	073-9758-5	地上の星	中島みゆき	中島みゆき	15	2000	78	○	○	○	○	○			
94	1E6-0288-5	Let It Go 〜ありのままで〜	A.K.JANE、他 <sup>※</sup>	A.K.JANE、他 <sup>※</sup>	1	2014	120	○	○	○	○		○		○
95	098-7724-0	ワダツミの木	上田現	上田現	13	2002	39			○	○				
96	083-8673-1	未来予想図Ⅱ	吉田美和	吉田美和	26	1989	119	○	○	○	○	○			
97	042-3644-1	Forever Love	YOSHIKI	YOSHIKI	19	1996	29	○	○	○	○				
98	017-7060-8	勇氣100%	松井五郎	馬岡野康二	22	1993	165	○	○	○	○				
99	044-0404-1	世界の国からこんにちは	島田陽子	中村八大	48	1967	71	○	○	○	○		○		
100	120-0020-2	桜(コブクロの楽曲)	小淵健太郎、黒田俊介	小淵健太郎、黒田俊介	10	2005	88	○	○	○	○				○
			※越智志帆、多保孝一、いしわた浮治												
			※※ANDERSON KRISTEN JANE、ANDERSON LOPEZ KRISTEN、LOPEZ ROBERT JOSEPH												

出所：『MUSIC STATION ウルトラ FES 30TH 「日本人に勇気をくれたニッポンの歌 Best 100」 — 「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは？」日本人男女1万人にアンケート集計結果』(テレビ朝日 2015年9月23日放送) より筆者作成

#### (4).『MUSIC STATION SPECIAL 春に聴きたい桜&卒業ソングランキング』(2016 年)

テレビ朝日で 2016 年 3 月 25 日に放送された『MUSIC STATION SPECIAL 春に聴きたい桜&卒業ソングランキング』は、全国の男女 3,000 人へのアンケートをもとに、卒業ソングや桜ソングなど春を連想させる楽曲の上位 40 曲を発表したものである。この調査で選出された楽曲の傾向は、テレビ朝日の同番組の 2014 年の調査結果とほとんど同じであり、上位 10 曲のうち 6 曲、全体では 31 曲が共通して選出されていた。

この調査で選出された 40 曲は、1974 年に発表された楽曲から 2015 年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 10 年～19 年の楽曲が最も多く 14 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 29 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 11 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 3 曲、50 年を超えた楽曲は選出されなかった。この調査において曲年齢が 40 年を超えた楽曲は、「なごり雪」(曲年齢 42 年)、「卒業写真」(曲年齢 41 年)、「春一番」(曲年齢 41 年)であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 35 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 26 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 21 曲であった。カバー音源が存在する楽曲は 39 曲あり、歌入りのカバー音源が発表されている楽曲は 37 曲であった。次に、学校教科書に掲載された楽曲は 13 曲あり、野球部など運動部活動において応援歌や行進曲として使用された楽曲は 2 曲であった。加えて、野球やサッカーなどプロスポーツの応援歌や選手のテーマソングとして使用された楽曲は 3 曲、駅の発車メロディーや車内メロディーとして使用された楽曲は 8 曲であった。

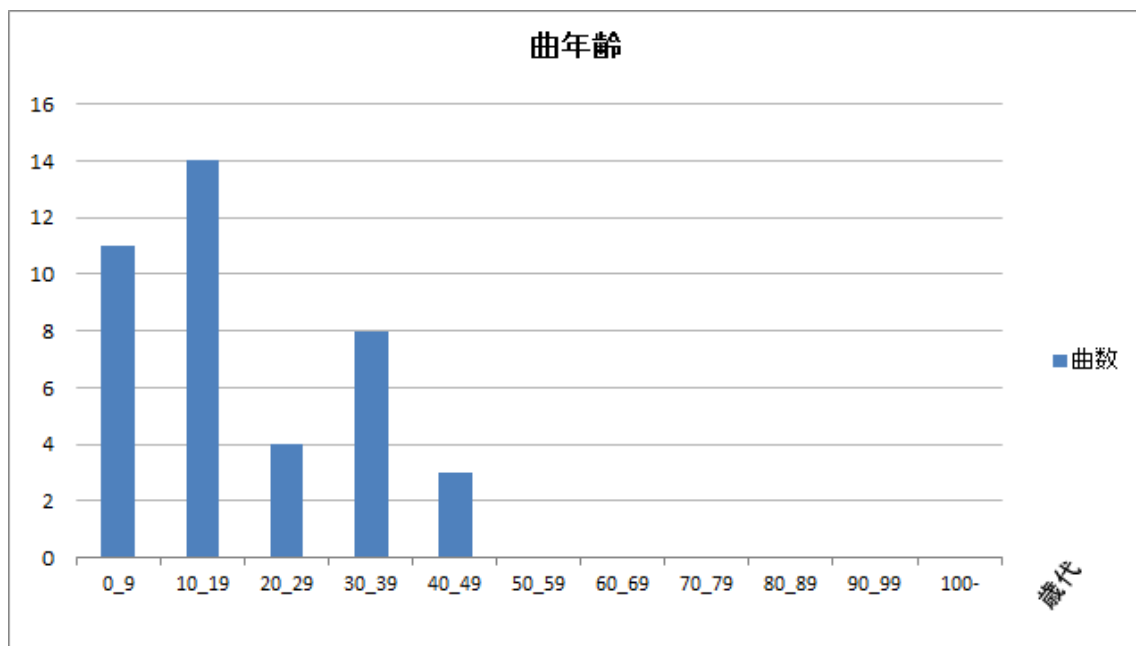
表 12.『ミュージックステーション SP 春うた 40 曲』(2016 年) 詳細

MUSIC STATION SPECIAL 春に聴きたい桜&卒業ソングランキング アンケート集計結果(テレビ朝日 2016年3月25日放送)															
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	① 初出 年	② 収録 タイ トル 数	③ タイアップ 初出年	④ タイアップ 初出年 以降	⑤ カバー 歌入り	⑥ カバー 音楽	⑦ 教科書	⑧ 運動 部活動	⑨ プロ スポーツ	⑩ 鉄 道
1	100-1266-1	さくら(独唱)	森山直太郎、御徒町風	森山直太郎	13	2003	134	○		○	○	○			○
2	027-2026-4	春よ、来い	松任谷由美	松任谷由美	22	1994	119	○	○	○	○	○			
3	113-9815-9	3月9日	藤巻亮太	藤巻亮太	12	2004	75	○		○	○				
4	121-3710-3	さくら(ケツメイシの楽曲)	ケツメイシ	ケツメイシ	11	2005	43			○	○				○
5	045-2466-7	卒業写真	荒井由実	荒井由実	41	1975	323		○	○	○	○			
6	075-5738-8	桜坂	福山雅治	福山雅治	16	2000	164	○		○	○			○	
7	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	37	1979	203	○	○	○	○	○			
8	128-0820-2	桜(ユブクロの楽曲)	小淵健太郎、黒田俊介	小淵健太郎、黒田俊介	11	2005	88	○	○	○	○	○			○
9	006-6326-3	旅立ちの日に	小嶋登	坂本浩美	25	1991	185		○	○	○	○			
10	068-5303-0	春なのに	中島みゆき	中島みゆき	33	1983	73			○	○				
11	121-3350-7	サクラ咲ケ	相田敏	谷本新	11	2005	28	○			○				
12	138-0489-8	道	Shogo Kashida	miwa furuse	9	2007	39	○	○	○	○	○			○
13	129-2435-1	SAKURA	水野良樹	水野良樹	10	2006	43	○		○	○				○
14	045-4112-0	卒業(斉藤由貴の楽曲)	松本隆	筒美京平	31	1985	78	○		○	○				
15	059-4609-3	なごり雪	伊勢正三	伊勢正三	42	1974	387		○	○	○	○			○

16	147-7529-9	手紙～拝啓十五の君へ～	アンジェラ・アキ	アンジェラ・アキ	8	2008	82	○	○	○	○	○	○		
17	045-4087-5	卒業(尾崎豊の楽曲)	尾崎豊	尾崎豊	31	1985	61			○	○				
18	129-0817-7	桜の花びらたち	秋元康	上杉洋史	10	2006	28	○	○	○	○				
19	007-5806-6	いい日旅立ち	谷村新司	谷村新司	38	1978	449	○	○	○	○	○			○
20	116-6888-8	栄光の架橋	北川悠仁	北川悠仁	12	2004	45	○	○	○	○			○	
21	067-8729-1	春一番	徳口雄右	徳口雄右	41	1975	58		○	○	○				
22	137-6501-9	蕾	小淵健太郎	小淵健太郎	9	2007	88	○		○	○		○		
23	126-6206-2	旅立ちの日に・・・	川嶋あい	川嶋あい	10	2006	16		○	○	○				
24	120-8163-9	春の歌	草野正宗	草野正宗	11	2005	8	○		○	○				
25	154-1919-3	桜ノ雨	森崎轟	森崎轟	8	2008	20		○	○	○				
26	083-8673-1	未来予想図Ⅱ	吉田美和	吉田美和	27	1989	119		○	○	○	○			
27	199-4827-1	風の中、歩き出す	櫻田正剛	h-wonder	2	2014	7								
28	142-7426-4	旅立ちの唄	桜井和寿	桜井和寿	9	2007	19	○			○				
29	156-7553-0	YELL	水野良樹	水野良樹	7	2009	67	○	○	○	○	○			○
30	045-4108-1	卒業～GRADUATION～	秋元康	林哲司	31	1985	21	○		○	○				
31	089-5887-5	遠く遠く	横原敬之	横原敬之	24	1992	64		○	○	○				
32	086-5135-3	Best Friend(Kiroro)	玉城千春	玉城千春	15	2001	100	○	○	○	○	○			
33	077-5149-4	微笑がえし	阿木耀子	徳口雄右	38	1978	56		○	○	○				
34	191-0772-2	友～旅立ちの時～	北川悠仁	北川悠仁	3	2013	12	○		○	○				
35	048-9051-5	明日、春が来たら	坂元裕二	日向大介	19	1997	26	○	○	○	○				
36	156-6544-5	桜(FUNKY MONKEY BABYSの楽曲)	FMB、川村結花	FMB、川村結花	7	2009	35	○		○	○			○	
37	044-3970-8	制服	松本隆	呉田軽穂	34	1982	40			○	○				
38	101-1651-0	SAKURAフロップス	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	14	2002	46	○		○	○				
39	213-2113-2	365日の紙飛行機	秋元康	角野寿和、喜葉結季	1	2015	9	○		○	○				
40	176-4169-1	ふるさと(嵐の楽曲)	小山薫堂	youth case	1	2015	5	○	○	○	○				

出所：『MUSIC STATION SPECIAL 春に聴きたい桜&卒業ソングランキング』（テレビ朝日 2016年3月25日放送）より筆者作成

図 15. 『ミュージックステーション SP 春うた 40 曲』（2016 年）曲年齢



出所：『MUSIC STATION SPECIAL 春に聴きたい桜&卒業ソングランキング』（テレビ朝日 2016年3月25日放送）より筆者作成

**(5).『FNS うたの春まつり「桜、卒業、旅立ち、春の名曲 100 選」—日本全国 10 代から 70 代、「あなたにとって春の名曲は?」2000 人にアンケート』(2016 年)**

フジテレビで 2016 年 3 月 28 日に放送された『FNS うたの春まつり「桜、卒業、旅立ち、春の名曲 100 選」—日本全国 10 代から 70 代、「あなたにとって春の名曲は?」2000 人にアンケート』は、全国の 10 代から 70 代までの男女 2000 人へのアンケートをもとに、卒業ソングや桜ソングなど春を連想させる楽曲の上位 100 曲を発表したものである。この調査で選出された楽曲の傾向は、同じテーマで行われたテレビ朝日の 2014 年と 2016 年の調査結果とほとんど同じであり、テレビ朝日の 2014 年の調査結果とは 40 曲が、テレビ朝日の 2016 年の調査結果とは 27 曲が、この 3 つの調査結果では 22 曲が共通して選出されていた。

この調査で選出された 100 曲は、1952 年に発表された楽曲から 2015 年に発表された楽曲まで、幅広い年代の楽曲が選ばれていた。曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 10 年～19 年の楽曲が最も多く 28 曲が選ばれ、初出から 29 年以下の楽曲は 62 曲であった。また、初出から 30 年を超えた楽曲は 38 曲であり、このうち 40 年を超えた楽曲は 15 曲、60 年を超えた楽曲は「リンゴ追分」(曲年齢 64 年)の 1 曲であった。

曲履歴を用いて分析したこの調査で選ばれた楽曲の特徴は、まず、映画やテレビドラマなどとのタイアップ作品として使用された楽曲は 82 曲で、これらのうち楽曲の初出年にタイアップ作品として使用された楽曲は 61 曲、初出年以降に新規に、再び、あるいは継続してタイアップ作品として使用された楽曲は 49 曲であった。このうち、曲年齢 30 年～39 年に該当する楽曲については、「春咲小紅」(曲年齢 35 年)、「Rock'n Rouge」(曲年齢 32 年)、「色・ホワイトブレンド」(曲年齢 30 年)など、化粧品会社の春のキャンペーンソングとしてタイアップされた楽曲が多く含まれていた。カバー音源が存在する楽曲は 95 曲あり、歌入りのカバー音源が発表されている楽曲は 92 曲であった。次に、学校教科書に掲載された楽曲は 22 曲あり、野球部など運動部活動において応援歌や行進曲として使用された楽曲は 8 曲であった。加えて、野球やサッカーなどプロスポーツの応援歌や選手のテーマソングとして使用された楽曲は 4 曲、駅の発車メロディーや車内メロディーとして使用された楽曲は 14 曲であった。

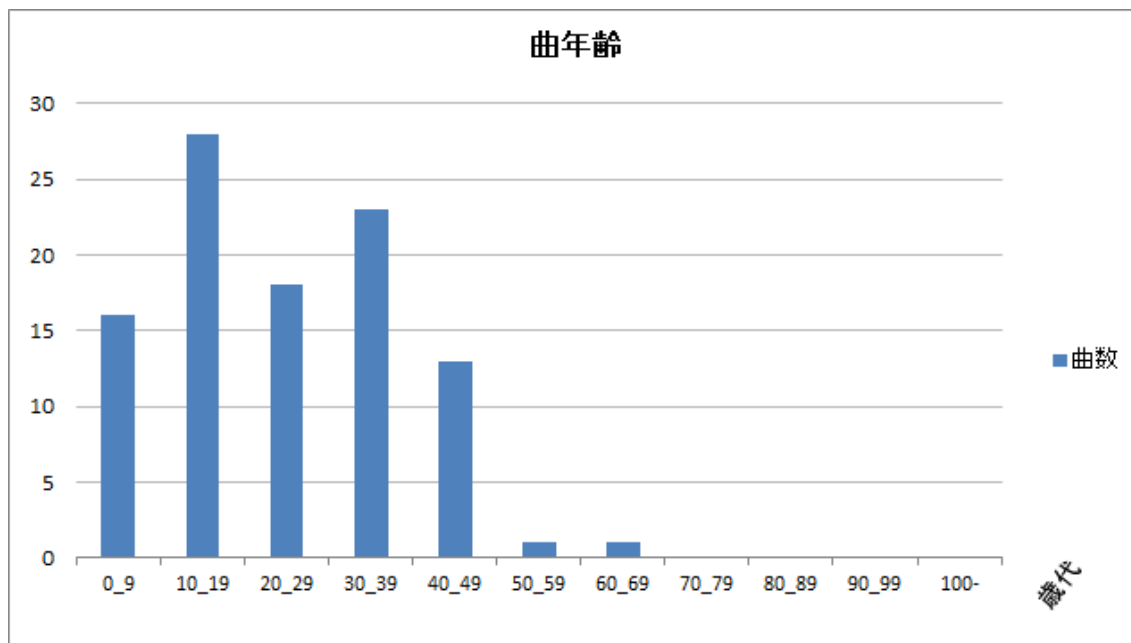
表 13. 『FNS うたの春まつり 春うた 100 曲』（2016 年）詳細

FNSの春まつり「桜、卒業、旅立ち、春の名曲100選」—日本全国10代から70代、「あなたにとって春の名曲は？」2000人にアンケート 日本人男女1万人にアンケート集計結果(フジテレビ 2016年3月28日放送)																
順位	JASRAC 管理番号	作品名	作詞者	作曲者	曲 年 齢	① 初出 年	② 収録 タイ トル 数	③ タイアップ 初出年	④ タイアップ 初出年 以降	⑤ カバー 歌入り		⑥ カバー 器楽	教科書	⑦ 運動 部活動	⑧ プロ スポーツ	⑨ 鉄 道
1	059-4609-3	なごり雪	伊勢正三	伊勢正三	42	1974	387			○	○	○				○
2	027-2026-4	春よ、来い	松任谷由美	松任谷由美	22	1994	119	○	○	○	○	○				
3	103-1720-1	世界に一つだけの花	嶺原敬之	嶺原敬之	14	2002	226	○	○	○	○	○	○	○		○
4	012-9392-3	サライ	谷村新司	弾厚作	24	1992	61	○	○	○	○					
5	175-1862-8	春になったら	miwa	miwa	5	2011	6	○								○
6	191-0772-2	友～旅立ちの時～	北川悠仁	北川悠仁	3	2013	12	○		○	○					
7	121-9434-4	リルラ リルハ	木村カエラ	會田茂一	11	2005	22	○	○	○	○					
8	156-6544-5	桜(FUNKY MONKEY BABYSの)	FMB、川村結花	FMB、川村結花	7	2009	35	○		○	○				○	
9	121-3710-3	さくら(ケツメイシの楽曲)	ケツメイシ	ケツメイシ	11	2005	43			○	○					○
10	128-0820-2	桜(コブクロの楽曲)	小淵健太郎、黒田俊介	小淵健太郎、黒田俊介	11	2005	88	○	○	○	○	○	○			○
11	130-4702-3	CHE.R.R.Y	YUI	YUI	9	2007	31	○		○	○	○				
12	050-4065-5	チェリーブラッサム	三浦徳子	財津和夫	35	1981	49		○	○	○					
13	067-8729-1	春一番	徳口雄右	徳口雄右	41	1975	58		○	○	○					
14	121-1350-1	桜色舞うころ	川江美奈子	川江美奈子	11	2005	65	○	○	○	○					
15	703-4546-5	千本桜	黒うさ	黒うさ	5	2011	89		○	○	○					
16	023-3893-9	人魚	NOKKO	簡美京平	22	1994	86	○	○	○	○					
17	017-3253-6	木蘭の涙	山田ひろし	柿沼清史	23	1993	84		○	○	○	○				
18	045-1680-5	草原の輝き	安井かずみ	平尾昌晃	43	1973	29			○				○		
19	199-4027-1	風の中、歩き出す	櫻田正剛	h-wonder	2	2014	7									
20	100-1266-1	さくら(独唱)	森山直太郎、御徒町風	森山直太郎	13	2003	134	○		○	○	○				○
21	051-9147-5	未来へ	玉城千春	玉城千春	19	1997	78			○	○					
22	012-1217-6	崖っぷち	岡本おさみ	吉田拓郎	43	1973	226		○	○	○					
23	098-7837-8	♡桃色片想い♡	つんく	つんく	14	2002	12	○		○	○					
24	009 5007 5	遠く遠く	嶺原敬之	嶺原敬之	24	1992	64		○	○	○					
25	094-5516-7	浪漫飛行	米米CLUB	米米CLUB	29	1987	120		○	○	○					
26	071-9618-1	桜の時	aiko	aiko	16	2000	19	○	○		○					
27	060-5440-1	初恋	村下孝蔵	村下孝蔵	33	1983	131	○	○	○	○					
28	147-7523-9	手紙～拝啓十五の君へ～	アンジェラ・アキ	アンジェラ・アキ	8	2008	82	○	○	○	○	○	○	○		
29	007-9600-5	色・ホワイトブレンド	竹内まりや	竹内まりや	30	1986	26	○		○	○					○
30	116-6900-8	栄光の架橋	北川悠仁	北川悠仁	12	2004	45	○	○	○	○				○	
31	083-8673-1	未来予想図Ⅱ	吉田美和	吉田美和	27	1989	119		○	○	○	○	○			
32	023-8272-5	空も飛べるはず	草野マサムネ	草野マサムネ	22	1994	108		○	○	○	○				
33	016-6420-4	負けないで	坂井泉水	篠田哲郎	23	1993	103	○	○	○	○	○	○	○		
34	156-6514-3	10年桜	牧元康	井上ヨシマサ	7	2009	7	○		○	○					
35	099-4080-4	Ya Ya (あの時代を忘れない)	桑田佳祐	桑田佳祐	34	1982	54		○	○	○					
36	099-7839-9	Rock'n Rouge	松本隆	呉田軽穂	32	1984	51	○		○	○					
37	094-1693-5	ラブ・ミー・テンダー	湯川れい子	簡美京平	34	1982	8									
38	064-4373-7	あの低ビコーキも空をって	ナカムラミツル	イワセケイゴ、岡平健治、茂	17	1999	27	○		○	○					
39	067-7462-8	薔薇の鎖	たかたかし	鈴木邦彦	42	1974	15									
40	015-0616-1	思い出がいっぱい	阿木燿子	鈴木キサブロー	33	1983	151	○	○	○	○	○	○			
41	026-3104-1	TOMORROW	岡本真夜	岡本真夜	21	1995	133	○	○	○	○	○		○		
42	130-0489-8	道	Shogo Kashida	miwa furuse	9	2007	39	○	○	○	○	○	○			○
43	057-3446-1	桜(川本真琴の楽曲)	川本真琴	川本真琴	18	1998	12			○						
44	060-5303-0	春なのに	中島みゆき	中島みゆき	33	1983	73			○	○					
45	022-7474-4	上・京・物・語	まこと	はたけ	22	1994	16	○		○	○					
46	207-6940-2	青春賦	桑原永江	じほり	1	2015	4	○		○						
47	049-9465-5	ひだまりの詩	水野幸代	日向敏文	19	1997	109	○		○	○					
48	121-3350-7	サクラ咲ケ	相田繁	谷本新	11	2005	28	○			○					
49	137-9036-6	WINDING ROAD	絢香、小淵健太郎、黒田俊介	絢香、小淵健太郎、黒田俊介	9	2007	27	○		○	○					
50	114-6905-6	彩 ～ Aja ～	桑田佳祐	桑田佳祐	12	2004	8	○		○	○					

51	138-2104-1	Flavor Of Life	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	9	2007	25	○		○	○			
52	045-4087-5	卒業(尾崎豊の楽曲)	尾崎豊	尾崎豊	31	1985	61			○	○			
53	166-1891-2	Best Friend(西野カナ)	西野カナ	GIORGIO GANCEMI	6	2010	7	○		○	○			
54	012-6180-1	星になれたら	桜井和寿	桜井和寿	24	1992	11	○	○	○	○			
55	067-7444-0	春風のいたずら	千家和也	藤倉俊一	42	1974	24			○				
56	075-5738-8	桜坂	福山雅治	福山雅治	16	2000	164	○		○	○		○	
57	002-3832-5	赤いスイートピー	松本隆	島田彰徳	34	1982	166		○	○	○	○		
58	020-2639-2	乾杯	長瀬剛	長瀬剛	36	1980	161		○	○	○	○		○
59	034-5192-5	Hello, Again ～昔からある場所～	小林武史	藤井謙二・小林武史	21	1995	47	○	○	○	○			
60	098-9996-1	花唄	TAKESHI	鈴木秋則	14	2002	14	○						
61	129-2435-1	SAKURA	水野良樹	水野良樹	10	2006	43	○		○	○			○
62	045-4108-1	卒業 -GRADUATION-	秋元康	林哲司	31	1985	21	○		○	○			
63	095-3199-8	若草の髪かざり	山上路夫	森田公一	43	1973	25			○	○			
64	010-7094-1	う、ふ、ふ、ふ	EPO	EPO	33	1983	57	○	○	○	○			
65	118-8923-3	花(ORANGE RANGEの楽曲)	ORANGE RANGE	ORANGE RANGE	12	2004	68	○		○	○			
66	045-2466-7	卒業写真	荒井由実	荒井由実	41	1975	323		○	○	○	○		
67	043-4091-4	すみれ色の涙	万里村妙子	小田啓義	48	1968	48		○	○	○			
68	090-8530-1	夢をあきらめないで	岡村孝子	岡村孝子	29	1987	114	○	○	○	○	○	○	
69	080-3994-1	マイビュア・レディ	尾崎重美	尾崎重美	39	1977	62	○		○	○			
70	137-6670-8	サクラ色	アンジェラ・アキ	アンジェラ・アキ	9	2007	31	○		○	○			
71	087-1071-7	未練のハンカチーフ	松本隆	筒美京平	41	1975	169			○	○	○		
72	106-8715-7	桜(河口恭吾の楽曲)	河口恭吾	河口恭吾	13	2003	76	○		○	○			
73	068-0896-4	春の予感-I've been mellow-	尾崎重美	尾崎重美	38	1978	53	○	○	○				
74	068-2650-4	春う！う！う！	伊藤アキラ	森田公一	36	1980	16			○				
75	000-0561-4	明日があるさ	吉島幸男	中村八大	53	1963	102	○	○	○	○	○	○	○
76	111-0763-7	ハナミズキ	一青窈	マシコタツロウ	12	2004	227	○	○	○	○	○		○
77	157-3631-8	ワンルーム・ディスコ	中田ヤスタカ	中田ヤスタカ	7	2009	4							
78	068-3639-9	春咲小紅	糸井重里	矢野雛子	35	1981	47	○		○	○			
79	063-1716-2	22才の別れ	伊勢正三	伊勢正三	41	1975	178		○	○	○			
80	068-9313-9	はいからさんが通る	小倉めぐみ	国安わたる	29	1987	23	○		○				
81	045-4112-0	卒業(斉藤由貴の楽曲)	松本隆	筒美京平	31	1985	78	○		○	○			
82	027-0135-9	夜桜お七	林あり	三木たかし	22	1994	106		○	○	○			
83	113-9815-9	3月9日	藤巻亮太	藤巻亮太	12	2004	75	○		○	○			
84	048-9051-5	明日、春が来たら	坂元裕二	日向大介	19	1997	26	○	○	○	○			
85	129-0817-7	桜の花びらたち	秋元康	上杉洋史	10	2006	28	○	○	○	○			
86	040-9307-1	じゃあね	秋元康	高橋研	30	1986	34			○	○			
87	066-6538-1	ふるさと(モーニング娘。の楽曲)	つんく	つんく	17	1999	17			○				
88	095-3230-7	若葉のさやき	山上路夫	森田公一	43	1973	16			○				
89	024-6617-1	北国の春	いでばく	遠藤実	39	1977	373			○	○			
90	110-6640-7	さくらんぼ	愛	愛	13	2003	44	○	○		○			○
91	090-9794-5	夢を信じて	篠原仁志	徳永英明	26	1990	41	○	○	○	○			
92	167-5250-3	ありがとう	水野良樹	水野良樹	6	2010	8	○		○	○	○	○	○
93	014-6782-4	贈る言葉	武田鉄矢	千葉和臣	37	1979	203	○	○	○	○	○		
94	126-6206-2	旅立ちの日に・・・	川嶋あい	川嶋あい	10	2006	16		○	○	○			
95	007-5906-6	いい日旅立ち	谷村新司	谷村新司	38	1978	449	○	○	○	○	○		○
96	067-6138-1	春だったね	田口渥子	よしだたろう	44	1972	49			○				
97	101-1551-0	SAKURAフロップス	宇多田ヒカル	宇多田ヒカル	14	2002	46	○		○	○			
98	094-2034-7	リンゴ追分	小沢不二夫	米山正夫	64	1952	381	○		○	○			
99	038-6065-5	チェリー	草野マサムネ	草野マサムネ	20	1996	110		○	○	○			
100	077-5149-4	微笑がえし	阿木耀子	徳口雄右	38	1978	56		○	○	○			

出所：『FNS うたの春まつり「桜、卒業、旅立ち、春の名曲 100 選」—日本全国 10 代から 70 代、「あなたにとって春の名曲は?」2000 人にアンケート』（フジテレビ 2016 年 3 月 28 日放送）より筆者作成

図 16. 『FNS うたの春まつり 春うた 100 曲』(2016 年) 曲年齢



出所：『FNS うたの春まつり「桜、卒業、旅立ち、春の名曲 100 選」—日本全国 10 代から 70 代、「あなたにとって春の名曲は?」2000 人にアンケート』（フジテレビ 2016 年 3 月 28 日放送）より筆者作成

## まとめ

本章では、まず、楽曲についての分析概念として「曲年齢」と「曲履歴」を提示し、次に、「日本を代表する楽曲」などのテーマで番組制作者が視聴者を対象に行った大規模な調査を基にした 10 本の音楽番組を分析対象とし、様々な切り口で実施される楽曲に対するアンケート調査で選出される楽曲の特徴を明らかにした。これらの調査は、実施年も回答者も異なる調査であるにもかかわらず、選ばれた楽曲は共通の傾向を示していた。

曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 29 年以下の楽曲が過半数を占め、初出から 30 年を超えると選曲数は減少傾向に転じ、初出から 40 年を超えた楽曲は選ばれにくくなる傾向がみられた。加えて、分析対象とした 10 の調査で選出された、のべ 1045 曲の楽曲のうち、初出から 60 年を超えて選ばれた楽曲のほとんどは歌謡曲や流行歌として発表された楽曲ではなく、文部省唱歌や童謡、民謡、歌曲であった。このことから、親子間の年の差である 30 年をひとつの世代基準として考えるならば、ポピュラー音楽における世代間伝承は 2 世代には満たない、あるいは、2 世代を超えるポピュラー音楽の世代間伝承は極めて困難だといえる。

曲履歴を用いた分析結果の特徴は、まず、選出された楽曲の過半数が映画やテレビドラマ、CM、アニメなどとのタイアップ作品として使用された楽曲であった。こうした楽曲が



占める割合は、1990年代に行われた調査から増える傾向にあり、2009年以降に行われた調査ではいずれも80パーセントを超えていた。こうした楽曲のなかには、「明日があるさ」のように、様々なアーティストによってカバーされながら、数年おきにテレビドラマやCMなどのタイアップ作品として使用が繰り返され、曲履歴を重ねている楽曲も多い。次に、すべての調査において、学校教科書に掲載された楽曲が選出されていた。これらの多くは、音楽の授業をはじめ、卒業式などの式典や合唱コンクールにおける演奏、合唱や吹奏楽、野球など部活動でも使用されるなど、学校教育において親しまれている楽曲だといえる。加えて、2014年～2016年にかけて行われた調査においては、選出されたほぼすべての楽曲にカバー音源が存在していた。こうした楽曲のなかには、「上を向いて歩こう」や「島唄」のように、国内だけでなく東アジア圏、欧米圏など海外でカバーされて、現地で愛唱歌として親しまれている楽曲も多く含まれている。また、これら近年の調査においては、プロスポーツや鉄道会社に使用されている楽曲も必ず選出されていた。特に、駅の発車メロディーとして使用される楽曲は近年増加傾向にあり、それぞれの地域や駅に縁のあるアーティストの楽曲が使用される傾向にある。

### 第3章 【ポピュラー】型の事例―「Get Wild」

#### はじめに

本章では、1987年4月にTM NETWORKによって発表された「Get Wild」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー】型成育過程を詳細に検討する。「Get Wild」はポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンを経て成熟した楽曲である。

「Get Wild」は小室哲哉、宇都宮隆、木根尚登から成るTM NETWORKによって1987年4月に同タイトルのシングル曲として発表された楽曲である。「Get Wild」は北条司原作のアニメ『シティーハンター』の主題歌として使用され、『シティーハンター』の人気とともに発表当初に全国的なヒットを記録した。「Get Wild」は現在でもTM NETWORKと『シティーハンター』を代表する楽曲として高い人気を得ている。<sup>60)</sup> また、「Get Wild」はTM NETWORK自身によるリメイクや他のアーティストによるカバーも非常に多い楽曲である。小室は「Get Wild」について、2013年と2014年に行われたインタビューで、次のように語っている。

ちなみに「Get Wild」、長寿な、人間で言ったら長寿人間ですね。どんどん進化していった一人歩きがすごいですよね。(中略)「Get Wild」にかんしてのブログを書いている人がいて、いま70カバーくらいあるみたいですね、全部で。ちゃんと発売してるもので。例えば、K-POPの超新星とかもすべて含めて。TMだけでもたくさんあるけど。フランスでも、スウェーデンでもある。もしかしたら「Get Wild」のモテ期が来るかもしれない、ワールドワイドに。1987年に作ってるけど、わからないよね、自分でも。どうされてこういうふうになったのか。(作った時のスタジオの景色など)状況は覚えてるけどね。(TM NETWORK 2013)

基本的にTMというのは大ブレイクというのはないんですよ。「Get Wild」だってオリコン9位ですから。でも、このあたりからみんな何となく存在をわかってきてくれたという時期ですね。ただ、「Get Wild」は2014年にいたるまで、いろんなバージョンを合わせると、累計でミリオンいっていると思うんですよ。あとカバーも多くて、ちょっとしたセミプロの人まで含めると100組は軽く超えてるはず。ちゃんとした登録をされているものでも50何組以上かな。フランス、スウェーデンなどにもいるんですが、K-POPで言えば超新星もカバーしてくれましたね。中国でも台湾でも、とにかくカバーが多い曲です。(中略) そんな意味でも「Get Wild」は、現在進行形ですよ。クラブとかフェスでもキラーチューンになり得るといえるか、不思議な曲ですよ。自分でもわからない力を持った楽曲で、見えない力というのがある。引っ張られていくというか一人歩きしているというかね。(ぴあ編集部編 2014: 48)

小室哲哉が「現在進行形」（ぴあ編集部編 2014: 48）と語るように、「Get Wild」は TM NETWORK のコンサートや音源で発表される小室によるリメイクには、その時々の流行を取り入れた自身の音楽的趣向、使用機材や制作環境の変化が反映されたアレンジが施されることが通例である。こうした「Get Wild」の「サウンドが更新され続ける楽曲」としての側面は近年、他のアーティストによるカバーを含め、特に注目を集めている。<sup>61)</sup> 2017 年 4 月には「Get Wild」の発表から 30 年を記念し、これまでに TM NETWORK が発表してきた様々なバージョンや幅広いアーティストによるカバー、リミックスを集めた 4 枚組 36 バージョン収録のアルバム『Get Wild Song Mafia』が発表された。この作品の紹介には、「今なお愛され、進化し続ける『GET WILD』」、「きっと 強くなれる—4 時間 20 分に及ぶ 30 年間の進化と愛の記録」（エイベックス・ミュージッククリエイティブ 2017）というキャッチコピーが用いられている。<sup>62)</sup>

「Get Wild」は 1987 年の初出後、1989 年には「Get Wild'89」として、1999 年には「Get Wild Decade Run」として、2005 年には玉置成実のカバーによる「Get Wild」として、2010 年には超新星のカバーによる「Get Wild」として、2015 年には「Get Wild 2015 -HUGE DATA-」として計 6 回、シングルのタイトル曲としてヒットチャートのトップ 10 にランクインし、定期的に再市場化した。<sup>63)</sup> シングル曲のヒットチャートは、新曲の売り上げやアーティストの人気の順位を競う場である。新曲の発表時には、レコード会社やアーティストの所属事務所、音楽出版社、大手広告代理店、放送メディアらが連携し、楽曲とアーティストの認知促進のための大規模なプロモーション活動が行われる。そのため、シングル曲のヒットチャートの上位は常に大規模なプロモーション活動が行われた新曲で満たされていて、最新の楽曲やサウンドスタイル、人気の高いアーティストのショーケースとして機能している。こうしたシングル曲のヒットチャートにおいて、既存の楽曲が継続的に登場し高い順位を記録する事例は稀であり、約 30 年にわたり計 6 回、トップ 10 にランクインした「Get Wild」は興味深い事例である。

## 1. 「Get Wild」の誕生と流行

TM NETWORK は 1979 年に TOSHIBA EMI よりメジャーデビューしたロックバンド、SPEEDWAY<sup>64)</sup> を母体に小室哲哉（シンセサイザー等）、宇都宮隆（ヴォーカル）、木根尚登（ギター）によって 1983 年に結成された音楽グループである。TM NETWORK は結成の翌年、1984 年 4 月に Epic/Sony Records よりアルバム『Rainbow Rainbow』とシングル「金曜日のライオン」でメジャーデビューし、シンセサイザーを中心とするサウンドと華美なビジュアルが人気を集めていた。TM NETWORK が活動を開始した 1980 年代前半は、1981 年にアメリカで開局した MTV（Music Television）の隆盛によって、ミュージックビデオが新曲のプロモーションツールとして積極的に制作・活用され始めた時期に相当する。例えば、バグルス（The Buggles）の「ラジオ・スターの悲劇（Video Killed the Radio Star）」

やマイケル・ジャクソン (Michael Jackson) の「スリラー (Thriller)」をはじめ、ミュージックビデオが注目を集めた楽曲が世界的に数多く大ヒットしていた。また、この時期にはイギリスでニューロマンティック (new romantics) と呼ばれる音楽ジャンルが生まれ、デュラン・デュラン (Duran Duran) やカルチャー・クラブ (Culture Club) をはじめとするシンセサイザーによる煌びやかなサウンドと華美なメイクや衣装をまとった男性アーティストが世界的に人気を集めていた。特にアメリカでは、MTV の隆盛と相まってニューロマンティックのアーティストを中心とする、第 2 次ブリティッシュ・インヴェイジョン (The Second British Invasion) と呼ばれる大きなムーブメントが発生していた。TM NETWORK はこうした海外における流行を取り入れ、専属のスタイリストを起用した衣装やメイクによるアーティスト・イメージのコントロールと、数多くのミュージックビデオの発表によって、サウンドとともにビジュアル面の魅力を積極的にアピールしていた。特に、TM NETWORK のミュージックビデオはコンサートの映像や最新の活動情報とともに『"BEE" Presents TM VISION』という 30 分程度の音楽プログラムに編集され、所属レコード会社が全国で行う無料のビデオコンサート「BEE (EPIC BUCK UP PARTY)」で積極的に上映されていた。

こうした音源と映像作品の発表を中心とする活動を経て、TM NETWORK の人気が拡大傾向に向かうのは 1986 年以降である。1985 年から女性アイドルを中心に他のアーティストへの楽曲提供を行っていた小室哲哉は、1986 年 1 月に渡辺美里へ提供した「My Revolution」がドラマ『セーラー服通り』の主題歌に起用され大ヒットを記録したことで、作曲家として注目を集めるようになった。<sup>65)</sup> また、小室の作曲家としての活躍によって TM NETWORK も次第に一般の注目を集め、同年 8 月には読売ランド EAST において大規模な野外コンサート「Fanks "Fantasy" Dyna-Mix」を開催するなど、コンサートの規模もレコードの売り上げも徐々に拡大していった。そして、TM NETWORK は 1987 年 2 月に発表する 9 枚目のシングル「Self Control (方舟に曳かれて)」と 4th アルバム『Self Control』、および同年 3 月から開始する全国ツアー「Fanks! Bang The Gong」のプロモーション活動のために、全国ネットの人気音楽番組『夜のヒットスタジオ DX』(フジテレビ) に初めて出演した。

TM NETWORK の人気が一般に拡大するなか、初めてのタイアップ作品として持ち込まれた企画がアニメ『シティーハンター』の主題歌制作である。『シティーハンター』は 1985 年 3 月より週刊少年ジャンプで連載されていた北条司原作の漫画作品である。この作品が読売テレビと『機動戦士ガンダム』等で知られるアニメ制作会社のサンライズによってアニメ化されるにあたり、所属レコード会社の宣伝担当者を通じて TM NETWORK へ主題歌の制作が依頼された。小室哲哉は当時のことを次のように語っている。

（「Get Wild」は）アニメ『シティーハンター』の主題歌ありきで作った曲ですね。  
TM NETWORK としては、ちゃんとしたタイアップというのは、はじめてだったんで

す。でも、最初は「エンディングテーマなのか。オープニングじゃないんだな、やっぱり……」みたいな後ろ向きな印象でした（苦笑）。今もですけど、当時主題歌というと、やっぱりオープニングが大事じゃないですか？ でも、今となってはあのエンディングでのこだわりを持った使われ方がよかったと言われますよね。当時はそういうことはわからなかったんですよ。（ぴあ編集部編 2014: 45）

アニメ『シティーハンター』の主題歌制作にあたっては、アニメの制作スタッフと主題歌を担当するアーティストの間で入念な打ち合わせが行われた。アニメの制作スタッフから具体的にどのような提案があったのかについて、小室哲哉は次のように語っている。

まず、（制作会社）のサンライズの方と相当入念な打ち合わせをしましたね。「イントロは、ベルじゃないですけど、なんかこうピカーンとする光みたいな音から入ってほしい!」みたいな感じで、「そこから何かが起こることを想像させるようなイントロを最初につけてほしい」とオーダーされました。エンディングも、物語の流れ上、イントロ前の秒数まで決められていたんですよ。「それで、作っていただけたら最高です。エンディングで、「はい、終わりました」ということで、曲が流れていかないようにしたい」。とにかくエンディングまでがひとつの物語ってことですよね。相当、入念な打ち合わせをして、お題を頂いた曲です。そこから、あのイントロが生まれて、そして本イントロがはじまるんですよ。最初のベルのような音は、その要望に応えたんですよ。（ぴあ編集部編 2014: 45）

こうした楽曲のイントロについての細かな指定は、アニメの演出のためのものである。アニメ『シティーハンター』のラストシーンからエンディングにかけての演出は、当時のアニメ演出として一般的であったラストシーンとエンディングの間に CM を挟むものではなく、ラストシーンの中でエンディング主題歌のイントロが始まり、そのままエンディングへと突入するものである。この演出は、ドラマ『火曜サスペンス劇場』の初期作品の演出を参考にしたもので、読売テレビのプロデューサーである諏訪道彦によって当時の主題歌にちなみ「聖母たちのララバイ方式」（小黒 2006: 79）として提案された。この演出の実現について、アニメ『シティーハンター』の初代アニメ監督を務めたこだま兼嗣は次のように語っている。

あれは諏訪（道彦）さんのとんでもない感覚が功を奏したんだとおもいます（笑）。本編のラストとエンディングの曲を直接繋ぐというやり方は、今では当たり前になりましたけど、当時のテレビ局のフォーマットではありえない構成でした。それを諏訪さんが曲に掛け合って、成立させちゃいましたから。本編のラストはカッコいい状態で繋ぎたいということで、ラストは長尺の13～16秒くらいのカットで撮って、ハード

ボイルド色の強いエンディングへと持って行ったんです。(徳間書店編集部編 2015: 114)

アニメ『シティーハンター』の主題歌制作とレコーディングは1987年3月から始まったコンサートツアー「Fanks! Bang The Gong」の合間に行われた。小室哲哉はデモ音源制作の具体的な進行について、次のように語っている。

楽曲の制作は、ツアー中だったと思うんですけど、東京に一瞬帰ったときに打ち合わせをして、締め切りに合わせてデモテープを作りました。そのデモは後にCDにもなっていますね。デモテープは、当時YAMAHAのスタジオが渋谷の道玄坂にあって、そこで作りました。木根さんと、もう一人のマネージャーと3人いっしょだったんですけど2人はもう疲れ果てて寝ていました。それこそ、ツアーから朝、東京に帰ってきて、そのままスタジオに入って。ぼくは音楽に夢中で夢中でたまらなかった時期だったんだと思います。何かに駆られるような感じで、眠る時間も惜しんでスタジオに入っていました。2、3時間くらいだったと思うんですけど、完成するまでスタジオから出なかったですね。で、曲ができたので、木根さんたちを起こしたのははっきり覚えています。「できたよ」って。(ぴあ編集部編 2014: 45)

完成したデモ音源を受け取り、作詞を担当した小室みつ子は、TM NETWORKのデビューアルバムから西門加里（さいもんかり）名義で多くの歌詞を提供していたシンガーソングライターである。<sup>66)</sup> 小室みつ子は、作詞の様子を次のように語っている。

先にタイアップが決まっていたので、まず『シティーハンター』のアニメを観たと思うんですよね。疾走感とハードボイルドを感じました。哲ちゃんのデモ音源がとってもよかったので、歌詞はそんなに悩まなかったですね。(ぴあ編集部編 2014: 68)

その後、宇都宮隆による歌入れと小室哲哉によるアレンジ、スタジオミュージシャンを起用したレコーディングが行われ、この楽曲は「Get Wild」というタイトルでTM NETWORKの10枚目のシングルとして、アニメ『シティーハンター』の放送が開始された1987年4月に発表された。「Get Wild」はアニメ『シティーハンター』の主題歌として1988年3月まで毎週使用され続け、「東京と大阪で視聴率20パーセントを超える番組」(北条 1991: 105)において1年間、テレビ番組を通じた大規模なプロモーションが行われたといえる。加えて、「Get Wild」は『夜のヒットスタジオ DX』(フジテレビ)や『ミュージックステーション』(テレビ朝日)、『ザ・ベストテン』(TBS テレビ)など全国ネットの主要な人気音楽番組で、TM NETWORKによる積極的なプロモーション活動が行われた。こうしたテレビ出演において、小室はパーソナルコンピュータ(NEC PC-9800)を

「YAMAHA DX7」など 10 数台のシンセサイザーやサンプラーが取り囲む大掛かりな機材セットを組み、まだ一般には珍しかった MIDI 制御による楽器の自動演奏を披露するなど、「Get Wild」の演奏を通じて、コンピューターとシンセサイザーに象徴される TM NETWORK のパブリック・イメージを広く浸透させたといえる。加えて、小室が「典型的なユーロビートとして作った」（藤井 1992: 359）と語る「Get Wild」のアレンジは、当時の音楽シーンでは大変珍しい、スネアドラムを一切使用しない構成である。この理由について、小室はこの楽曲でドラムスを担当した山木秀夫による進言であったことを明かしながら、次のように語っている。

今の EDM とか、スネアが入っていないダンスミュージックってたくさんありますよね？ あそこは、ドラマーでスネアを叩かないというパターンはなかったと思いますが、ドラムの山木さんが「スネアがなくてもいい気がするんですけど、どう思います？」って言ってくれたんですね。でも、ビートロック全盛時代でしたから、「タン」という音がなかったらダメな時代ですよ。それでも「いいんじゃないかな。面白いからそっちにしようよ！」って言ってくれて。それで、シンセベースのラインにこだわって。みんなが印象的に覚えてくれているフレーズですね。シンセベースなので、手で弾くとかかなり難しいんですよ。チョッパーでも難しいでしょう。ヤマハのシンセ、DX7 がなかったら、あの音は生まれていないでしょうね。（ぴあ編集部編 2014: 45）

テレビを中心とする積極的なプロモーション活動が行われた「Get Wild」は、TM NETWORK のシングルとして初めてオリコンシングルチャート<sup>67)</sup>でトップ 10 にランクインし、1987 年のオリコン年間シングルチャートでは 22 位を獲得した。また、同年 7 月には「Get Wild」を収録した TM NETWORK のベストアルバム『Gift for Funks』が発表され、オリコン CD アルバムチャートで 1 位を獲得した。

## 2. TM NETWORK の代表曲としての「Get Wild」

「Get Wild」がシングルのタイトル曲として最初に再市場化したのは 1989 年 4 月である。TM NETWORK はこの時期、外部の音楽プロデューサーに楽曲のマスターテープを渡し、ヴォーカルなど一部のパート以外を新規演奏に差し替えるリプロダクション (reproduction) と呼ばれる手法で、アルバム『Dress』の制作を行っていた。<sup>68)</sup> このアルバムから 1989 年 4 月に「Come On Everybody(with Nile Rodgers)」、「Kiss You(Kiss Japan)」、「Get Wild'89」がシングルとして 3 枚同時に発表され、いずれもオリコンチャートでトップ 10 にランクインした。このうち最も高い順位を記録し、テレビの音楽番組などプロモーションの場で演奏される機会の多かった楽曲が「Get Wild'89」である。「Get Wild'89」はこの当時に流行していたユーロビート (eurobeat) と呼ばれるサウンドスタイルでリメイクされた。「Get

Wild'89」のリメイクは、この時期に世界的なヒット曲を数多く生み出していたイギリスの音楽プロデューサー集団、PWLに所属するピート・ハモンド (Pete Hammond) が手掛けた。「Get Wild'89」の特徴は、7分に迫る演奏時間と、徐々に音数が増えていくリズムトラックに宇都宮隆の「Get Get Get...」というサンプリング・ヴォイス (sampling voice) が連呼されるイントロ部分である。TM NETWORK のコンサートでは、シンセサイザーあるいはショルダーキーボードに指定 (アサイン) された宇都宮のヴォーカルトラックを小室哲哉が鳴らして観客を盛り上げることが、「Get Wild」を演奏する際の定番であった。<sup>69)</sup> こうしたステージ・パフォーマンスは、「Get Wild'89」がシングルとしてヒットを記録したことによって広く知られるようになった。<sup>70)</sup>

「Get Wild」は1987年のヒット後、TM NETWORK のコンサートにおいてほぼ必ず演奏される楽曲として定着しながら、TM NETWORK が一時的に活動を休止する1994年までの間、毎年、CDや映像作品へ収録されて市場へ供給されていた。また、コンサートやリミックス作品では、その時々で流行のサウンドスタイルを取り入れたリメイクが行われていた。こうした「Get Wild」扱いは、「Get Wild」が当時のTM NETWORK の活動において重要な位置を占めていたことをうかがわせるものである。

TM NETWORK が活動を再開した1999年7月に、「Get Wild」はシングルのタイトル曲として2度目の再市場化を果たした。TM NETWORK が一時的に活動を休止した1994年から、小室哲哉は音楽プロデューサーとしてtrfや安室奈美恵、華原朋美、鈴木あみ、自身の参加するglobeなどのプロデュースを手掛け、数多くのミリオンセラー作品を生み出した。こうした状況を受けて、TM NETWORK は小室の数ある音楽活動のなかのひとつという位置づけで、1999年に活動を再開した。この活動再開にあたって、小室はプロデュースを手掛ける鈴木あみにTM NETWORK が1987年に発表した「Be Together」のカバーを発表させ、TM NETWORK としては「Get Wild」をリメイクした「Get Wild Decade Run」を発表した。鈴木がカバーした「Be Together」はミリオンセラーを記録し、「Get Wild Decade Run」は20万枚以上を売り上げてオリコンシングルチャートで5位を獲得した。「Get Wild Decade Run」は、「Get Wild」に新たな歌詞を追加し、メロディーの大部分の音程を1オクターブ下げ、この当時に流行していたエレクトロニカ (electronica) と呼ばれるのサウンドスタイルでリメイクを施したものであった。<sup>71)</sup>

「Get Wild」は、活動再開後のTM NETWORK においても、「Get Wild」はグループを代表する楽曲として扱われ続け、コンサートでは欠かせないレパートリーとして演奏されていた。2004年には、TM NETWORK の活動20周年を記念した「DOUBLE-DECADE」プロジェクトが立ち上げられ、「Get Wild」を収録したベストアルバムや映像作品が発表された。3月に発表された24枚組CDと2枚組DVDを収めたBOXセット『DOUBLE-DECADE WORLD HERITAGE complete box』には、過去に発表された「Get Wild」の様々なバージョンを集めたアルバム『ALL the "Get Wild" ALBUM』が収録された。また、この年に行われたコンサートツアーでは、トランス (trance) と呼ばれるこの当



時に流行していたサウンドスタイルでリメイクを施されて演奏された。

2005 年から 2008 年に行われたコンサートでは、それまでとは異なり、「Get Wild」は比較的オリジナルのアレンジに忠実なサウンドスタイルで演奏された。こうした「Get Wild」の扱いの変化は、小室哲哉の音楽活動における TM NETWORK の位置づけが「最先端の音楽を披露する場」ではなく、「懐かしの音楽を再現する場」へと変化したものと考えられる。「懐かしの音楽を再現する場」としての TM NETWORK について、音楽ライターの平賀哲雄は 2005 年 5 月 15 日に開催された「SPIN OFF from TM Tribute live 2005」の Zepp Tokyo 公演のコンサート評のなかで次のように表現している。<sup>72)</sup>

宇都宮隆、木根尚登、浅倉大介、葛城哲哉、阿部薫、TM NETWORK～TMN の 4001GROOVE DAYS を盛り上げてきた立役者たちが今宵、この会場で TM をトリビュートする、自ら。もうこれは究極に贅沢な、彼らならではの音楽の遊び方である。そんな素敵なお祭りの幕開けに、浅倉の演奏から始まる「CASTLE IN THE CLOUD」が！ステージ向かって左側からギターの葛城、中央に宇都宮、右側に木根、そして後方の左側にドラムスの阿部、右側におそらく世界一の TM フリークであるキーボードの浅倉が位置する。新鮮な光景でありながら懐かしくもあるこのフォーメーション。なぜだろう？復活後の TM のナンバーのはずなのに、この 5 人で演奏されると、この曲も 4001GROOVE DAYS 当時の TM のライブがそのまま甦った錯覚に陥りさせる一曲となる。そして続いては、正しく懐かしい一曲、「TMN EXPO TOUR」がそのまま甦ったような感覚を僕らに与える「Jane was Lonely」！（中略）続いて、泣きそうになるぐらい懐かしいフレーズが浅倉の手元から流れてくる、この曲は「雨に誓って～SAINT RAIN～」。この曲もみんな一緒に歌い切れてしまう！それはそうだ、だってこのライブ、どの曲も当時のオリジナルをほぼ完全に再現していて、宇都宮も木根も 80 年代の若かりし頃の出で立ちに見えてくるし、浅倉も自分の色を打ち出すっていうよりは、当時の小室哲哉の再現をしているように感じられるのだから、僕らもあの頃のままの気持ちでともに口ずさめる。（平賀 2005）

TM NETWORK が再び小室哲哉の音楽活動の中心となり、再び流行のサウンドスタイルを取り入れた活動が行われるのは、2012 年 4 月に開催されたコンサート「TM NETWORK CONCERT・incubation Period -」以降であった。この TM NETWORK の 30 周年にあたる時期の活動において「Get Wild」は EDM（Electric Dance Music）と呼ばれるこの時期に流行していたサウンドスタイルでリメイクが施され、コンサートでの演奏や CD、映像作品での発表が盛んに行われた。2015 年 3 月には、こうしたリメイクが施された「Get Wild 2015・HUGE DATA -」がシングルのタイトル曲として発表され、音楽配信サービスストア、iTunes Store の J-POP 部門と mora の総合ランキングにおいて 1 位を獲得した。「Get Wild 2015・HUGE DATA -」の 1 位獲得によって、「Get Wild」はシングルのタイトル曲として

5 度目の再市場化を果たした。

このように、TM NETWORK を代表曲としてその時々流行に合わせたリメイクが施されてきた「Get Wild」は、自身のベストアルバムやアニメ『シティーハンター』の関連作品に加え、多くのコンピレーション・アルバムへ収録されている。例えば、『みんなアニメが好きだった—OUR FAVORITE ANIME SONGS』シリーズなどアニメソングをテーマにした作品、『青春歌年鑑』シリーズなどある年代のヒット曲をテーマにした作品、DJ 和による『J・シンセ伝説』（2014 年）などシンセサイザーを中心とする J-POP の楽曲をテーマにした作品などを挙げることができる。また、近年はゲームに使用される事例も多く、2013 年にはコナミデジタルエンタテインメントがスマートフォン向けに配信する音楽ゲーム『ユビートプラス (jubeat plus)』において「Get Wild」をはじめ TM NETWORK の代表曲 4 曲が『TM NETWORK pack』として収録された。2016 年にはサンセイ R&D によって発表された小室哲哉をテーマにしたパチンコ機種『CR PROJECT TK』において、「Get Wild」をはじめ 6 曲のエイベックスが権利を持つ 2012 年以降の TM NETWORK のコンサート映像や音源が使用された。

### 3. 『シティーハンター』の主題歌としての「Get Wild」

「Get Wild」はアニメ『シティーハンター』の主題歌として多くの人々から親しまれている楽曲である。『シティーハンター』は週刊少年ジャンプで 1985 年 3 月から 1991 年 12 月にかけて全 336 話が掲載された北条司原作による漫画作品である。2001 年からは実質的な続編として『エンジェルハート』が『週刊コミックバンチ』および『月刊コミックゼノン』紙上で連載が続けられている。<sup>73)</sup>『シティーハンター』は「全世界で 5000 万部を超える」（『産経新聞』2015.7.14）発行部数を記録する人気の高さを反映して、『エンジェルハート』を含めた数多くのメディアミックス作品が継続的に展開されている。

メディアミックス展開が続けられる『シティーハンター』において、「Get Wild」は作品を代表する楽曲として使用され続けている。「Get Wild」は 1987 年 4 月からアニメ第 1 期シリーズのエンディング主題歌として 1 年間使用されたのち、続編にあたる『シティーハンター2』第 50 話と『シティーハンター3』第 13 話（最終回）の挿入歌として、1997 年 4 月に放映された『シティーハンター・スペシャル グッド・バイ・マイ・スイート・ハート』には NAHO（田中菜穂）によるカバーがエンディング主題歌として、さらに、1999 年 4 月に放映された『シティーハンター・スペシャル 緊急中継!? 凶悪犯冴羽獠の最期』のエンディング主題歌として再び使用された。<sup>74)</sup>「Get Wild」は 2005 年 12 月に発表されたアニメ『シティーハンター』の全作品を収録した BOX セット『City Hunter Complete DVD Box』のテレビ CM で使用された。また、2005 年 6 月に発表された漫画作品『シティーハンター Complete Edition 別巻 Z』には「Get Wild」を収録したシングル CD が特典として収録された。2016 年には、漫画作品『シティーハンターXYZ Edition』全巻購入特典として制作

されたモーショングラフィック・アニメ『獠のプロポーズ』において主題歌として使用された。加えて、2008年に小室哲哉の参加する globe が「Get Wild」のカバーを制作した際に北条司が『シティーハンター』をイメージにしたジャケットデザインを手掛けている。さらに、2012年には、小室がサウンドプロデュースを手掛け北条がキャラクターデザインを手掛けたヴァーチャル・アーティスト、Mana のデビューにあたり、「Get Wild」のカバーと、『シティーハンター』のキャラクターが出演する「SUPERNATURAL」のミュージックビデオが制作された。こうした『シティーハンター』の代表曲としての「Get Wild」は、原作者である北条の意向が強く働いている。北条は2012年に行われた小室との対談で、次のように語っている。

（「今でも『Get Wild』といえば『シティーハンター』、『シティーハンター』といえば『Get Wild』というイメージは強烈です」というインタビューの発言に対して）  
そういうふうに仕掛けたんだもん（笑）。アニメの本放送が終わって、金曜ロードショー枠でスペシャルをオンエアしていた時期（91年～99年）があったんです。そのときに主題歌がタイアップ的なものになるのがイヤだったんですよ。『シティーハンター』といえば「Get Wild」でしょう。だから、「Get Wild」にしてくれって口を酸っぱくして言い続けたんですよ。（中略）この作品にはこの曲というものがあって然るべきだと思うんですよ。（小林 2016）

こうした『シティーハンター』における「Get Wild」は、『ニッキーラーソン (Nicky Larson)』というタイトルでアニメが放送されたフランスにおいても高い人気を獲得している。アニメ『シティーハンター』のフランス語吹き替えバージョンとして放映された『ニッキーラーソン』では、演出上の都合で TM NETWORK の「Get Wild」がそのまま使用されているためである。こうしたフランスをはじめとする海外における「Get Wild」の知名度の高さについて、globe のメンバーでフランス出身のマーク・パンサー (Mark Panther) は 2014 年 1 月 30 日に globe の公式 Facebook へ投稿したメッセージで次のように語っている。

Get Wild (Metal Machine)、この曲をカバーすると聞いたときは、本当にうれしかったです！昔、トランスにはまっていた頃、この曲をサイケトランスにリミックスしたことがありました。そのトラックは海を渡り世界中のサイケイベントでプレイされていた時期があり、イスラエルの海辺や、ペルーの日蝕パーティー、パリの郊外のお城を貸し切ったレイヴなどでこのメロディーが流れていたのを覚えています。この曲のイントロは、世界中でめちゃめちゃ有名なのです。特にフランス人はシティーハンターのアニメが大好きで、この曲が流れると、Nicky Larson (ニッキーラーソン) の曲だと騒ぎだします（笑）冴羽獠はフランスではニッキーラーソンという名前なのです。これは日本のアニメなんだぞって説明するのが一苦労するほど、フランスで、このス

トーリーは根が張っています! その主題歌が **TM Network** だというと、フランスでコンサートをやるべきだ! と皆口をそろえて言います (笑) 僕のとてつもない大きな夢の1つなのですが、それは、**TM Network** と **globe** がパリのオリンピアでコンサートをすることです!!! いつか夢が実現するように、これからもがんばって音楽を続けます! 最近イベントなどでこのリミックスをかけるのですが、会場が上がりまくります! ほんの少しですが今回のクラブリミックスをお楽しみください! (マーク・パンサー 2014)

また、小室哲哉も「**Get Wild**」の海外における知名度の高さについて、2014年のインタビューで次のように語っている。

『シティーハンター』はフランスですごく有名みたいですよ。本編はフランス語に吹き替えられているそうですが、エンディングの「**Get Wild**」は日本語で歌われたままなので、去年 (筆者注: 2013 年) サマソニで来日していたフランスの DJ が、カラオケで「**Get Wild**」を日本語で歌ってくれていたらしいんですよ。(ぴあ編集部編 2014:45)

#### 4. カバー曲としての「**Get Wild**」

「**Get Wild**」はカバー曲のレパートリーとして人気の高い楽曲である。「**Get Wild**」はカバーによって、シングルのタイトル曲として 2005 年と 2010 年にオリコンシングルチャートでトップ 10 にランクインし、2 度の再市場化を果たしている。こうした「**Get Wild**」のカバーは、**TM NETWORK** や小室哲哉の関連作品として、アニメやゲーム、ダンスミュージックの関連作品として発表されることが多い。

カバー曲として「**Get Wild**」が初めて注目を集めたのは、1992 年 9 月に発表されたイタリア人アーティストのデιβ・ロジャース (Dave Rogers) による **TM NETWORK** のカバーアルバム『**TETSUYA KOMURO PRESENTS TMN SONGS MEETS DISCO STYLE**』である。この作品は、当時、有名ディスコの選曲をシミュレートしたコンピレーション・アルバム『**JULIANA'S TOKYO**』シリーズ、ユーロビートのヒット曲を集めた『**SUPER EUROBEAT**』シリーズで知名度を高めていた新興レコード会社、エイベックスの主導で、小室哲哉および **TM NETWORK** の所属する **Epic/Sony Records** との交渉を重ねて実現した企画である。この作品には、同年 8 月に発表された **TM NETWORK** のライブアルバム『**TMN Colosseum I・II**』と「同じイラストレーターを使って、**TMN** のアルバムとあたかも連動しているように感じる」(芦崎 2005: 124) ジャケットデザインが取り入れられ、「**TMN** のファンをターゲット」(芦崎 2005: 124) にした作品として発表された。この作品は「オリコンチャートで 4 位」(芦崎 2005: 124) を獲得した。この作品の成功が **trf** の立ち上げにつながり、音楽プロデューサーとしての小室とエイベックスの躍進のきっかけになったこ

とを、松浦勝人は次のように語っている。

小室さんとしては、自分のファンは 15 万人だから、10 万枚か 15 万枚ぐらいは売れるだろうと予測していたと、後から言ってますけど、多分びっくりしたと思います。わけの分からない町田の小さなレコード会社で、わけの分からない連中がプロモーションやって、本当に数字を出しちゃったんですから。「こいつら、おもしろそうだ!」ということで、「じゃあ、もうひとつ何かやろう!」というところから、trf というものを考えたんだと思います。(芦崎 2005: 125)

このアルバムに収録された「Get Wild」と「Wild Heaven」の 2 曲はシングルとして発表された。さらに、1993 年 11 月には『GET WILD MEETS TECHNO STYLE』という派生作品が、同じくエイベックスから発表された。デイブ・ロジャースによる「Get Wild」のカバーはディスコやクラブを中心に人気を獲得し、『SUPER EUROBEAT』シリーズなどのコンピレーション・アルバムへも数多く収録されている。また、こうしたダンスミュージックとしての「Get Wild」のカバーは、トランスやハウスなどのその時々の流行に応じたサウンドスタイルでも制作され、コンピレーション・アルバム『姫トランス』シリーズなどに収録された KEI によるカバーや『TRANCE RAVE』シリーズなどに収録された DJ KAYA & DJ TORA によるカバーなどが人気を集めた。

TM NETWORK や小室哲哉の関連作品としての「Get Wild」のカバーは、小室自身がプロデュースや企画に関わった作品が多い。小室がプロデュースを手掛け 2005 年 11 月に発表された玉置成実による「Get Wild」のカバーは、オリコンシングルチャートでトップ 10 にランクインした。玉置成実によるカバーによって、「Get Wild」はシングルのタイトル曲として 3 度目の再市場化を果たした。2008 年 6 月と 2009 年 4 月に発表された 2 タイトルの TM NETWORK 公認のトリビュートアルバムには、双方に「Get Wild」のカバーが収録された。これらの作品のプロモーションには KEI KOHARA による「Get Wild」のカバーが選ばれ、ミュージックビデオが制作された。2008 年には、小室がメンバーとして参加する globe によって「Get Wild」のカバーが制作され、2010 年 9 月に発表された globe のベストアルバムに収録された。「Get Wild」は「Self Control」とともに globe の主要なレパートリーとしても扱われており、コンサートでの演奏やリミックス、リメイク作品が発表された。2010 年 3 月には、小室がデビューへ導いた 3 人組の音楽グループ、Purple Days による「Get Wild」のカバーが発表され、「My Revolution」のカバーとともにアルバム『SERENDIPITY』へ収録された。2010 年 7 月には K-POP の男性グループ、超新星による「Get Wild」のカバーが発表された。この作品は小室が提供した「Evidence of Luv」との両 A 面シングルとして発表され、オリコンシングルチャートでトップ 10 にランクインした。超新星によるカバーによって、「Get Wild」はシングルのタイトル曲として 4 度目の再市場化を果たした。

「Get Wild」はアニメ『シティーハンター』の主題歌として親しまれていることから、アニメやゲームの関連作品としてカバーが発表されている。例えば、2008年3月に発表されたアニメ声優として活動する桃井はるこのアルバム『sunday early morning』、2011年5月に発表されたボサノバ歌手として知られるクレモンティーヌによるカバーアルバム『続アニメンティーヌ』などを挙げることができる。また、「Get Wild」は2000年以降に『太鼓の達人』や『ポップンミュージック』などKONAMI社による音楽ゲームで人気の楽曲レパートリーになり、それぞれのゲーム内容に合わせたアレンジでカバーが制作されている。

## おわりに

TM NETWORKが1987年4月に発表した「Get Wild」の成育過程に注目し、日本のポピュラー音楽が、どのように再使用を繰り返されて成熟し、人々に長く歌い聴き継がれてきたのかを検討した。

「Get Wild」は1987年に大規模なプロモーション活動が行われて流行した。そして、約30年のあいだ、シングルのタイトル楽曲として計6回ヒットチャートのトップ10にランクインし、定期的に再市場化を果たした。こうした「Get Wild」の生育過程の特徴は、一度流行した後に、TM NETWORKの代表曲としてその時々流行に合わせたサウンドスタイルを取り入れたリメイクが続けられてきたこと、タイアップ作品である『シティーハンター』を代表する楽曲として同作品のアニメや関連作品で繰り返し使用されてきたこと、多数のアーティストにカバーされて続けてきたこと、コンピレーション・アルバムへの収録やゲームなどの作品での使用が繰り返されてきたことであった。

「Get Wild」の事例から明らかになったことは、一度流行した楽曲は、その後、様々な方法で繰り返し使用されることによって、曲履歴を積み重ねて曲年齢を延ばし、幅広い年代の人々に親しまれる楽曲に成熟する、ということである。「Get Wild」の場合は、こうした一連の生育過程はすべてマスメディアを通じて行われてきた。このようなマスメディアを通じて繰り返される楽曲の再使用は、第5章で取り上げる「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」、第6章で取り上げる「翼をください」、第7章で取り上げる「島唄」の成育過程にもみられる典型パターンであり、長く人々に親しまれてきた日本のポピュラー音楽のすべての楽曲に共通するものであるといえる。

## 第4章 【ポピュラー・民俗】型の事例―「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」

### はじめに

本章では、1985年11月に荻野目洋子によって発表された「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー・民俗】型成育過程を詳細に検討する。「ダンシング・ヒーロー」は日本のポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンと、日本の民俗音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンの双方を経て成熟した楽曲である。

「ダンシング・ヒーロー」は「六本木純情派」(1986年)、「コーヒールンバ」(1992年)とともに荻野目の代表曲として現在も高い人気を得ている。「ダンシング・ヒーロー」はアンジェリーナ・ケイト (Angelina Kate) とアンソニー・ベーカー (Anthony Baker) 作詞作曲により制作され、イギリスのアンジー・ゴールド (Angie Gold) の歌唱で1985年に発表された「Eat you up」をカバーした楽曲である。アンジー・ゴールドの歌う「Eat you up」には「素敵なハイエナジー・ボーイ」という邦題が与えられていたが、1985年にアイドル歌手として活動していた荻野目が歌うにあたり、新たに日本語の歌詞と「ダンシング・ヒーロー」というタイトルが与えられた。「ダンシング・ヒーロー」は発表当初にヒットを記録し、1980年代のアイドルソングとして、ユーロビートの人気作品として、現在もコンピレーション・アルバムへの収録やリミックス音源、カバー音源の制作が盛んに行われている。

この一方で、「ダンシング・ヒーロー」は一部の地域において盆踊りの定番曲として長く親しまれている。「ダンシング・ヒーロー」は1986年に民踊としての振付が考案されて以来、岐阜県や愛知県を中心とする東海地方や東京都を中心とする関東地方の一部の夏祭りで踊られている。<sup>75)</sup> 東海地方の夏祭りでは、「ダンシング・ヒーロー」は「郡上踊り」や「炭坑節」と並ぶ高い人気を獲得し、愛知県名古屋市が発祥の地として、岐阜県美濃加茂市が盛んに踊られている場所として知られている。特に、岐阜県美濃加茂市で毎年8月に開催される「おん祭 MINOKAMO」夏の陣盆踊り大会では、「ダンシング・ヒーロー」は同祭の盆踊りを象徴する楽曲として地域の人々の間で親しまれ、「おん祭」の運営を手掛ける地域ボランティアによって、同市域各地で開催される講習会、同市域の小学校のPTA行事や授業のなかで踊りと歌が伝承されている。こうした、盆踊りとしての「ダンシング・ヒーロー」は近年、荻野目のステージ・パフォーマンスへ取り入れられ、彼女のコメントや「おん祭」の映像とともに紹介される機会も多い。<sup>76)</sup>

このような盆踊りや各地域の講習会システムを通じたポピュラー音楽の伝達は、楽曲が長く歌い聴き継がれる可能性を示している。このような類似の事例は、子供向けのアニメソングとして知られ、全国各地の盆踊りで盛んに踊られている「オバQ音頭」や「おどるポンポコリン」、ポピュラー音楽のヒット曲として知られ、一部地域の盆踊りで盛んに踊ら

れている「ビューティフル・サンデー」などを挙げることができる。これらの中で、マスメディアで楽曲が盛んに使用され続けながら、盆踊りの定番曲として一部地域で定着し幅広い年代の人々に親しまれている「ダンシング・ヒーロー」は、特に興味深い事例である。

## 1. 「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」の誕生と流行

荻野目洋子は1979年4月に小学生アイドルグループ、ミルクのメンバーとしてシングル「ザ・あれから いちねん」でデビューした。荻野目はグループ解散後、ヒロイン役の声優として出演した1983年3月から1984年4月にかけてフジテレビで放映されたアニメ『みゆき』で注目を集め、1984年4月に「未来航海—Sailing—」でソロ歌手としてデビューした。その後、荻野目は1985年11月の「ダンシング・ヒーロー」発表までに、6枚のシングルと3枚のアルバムを発表し、積極的な活動が続けていた。しかし、当時、荻野目を担当していた所属レコード会社のディレクター、高橋隆は、荻野目のレパートリーは同社に所属する石野真子や小泉今日子のレパートリーと比較して「観客が盛り上がる曲が少ない」（濱口 2009: 8）と感じていた。こうした荻野目のレパートリー不足を補うために、高橋によって「観客が盛り上がる曲」（濱口 2009: 8）として「ダンシング・ヒーロー」は制作された。高橋は「ダンシング・ヒーロー」の原曲である「Eat you up」に着目した経緯を次のように語っている。

会社の近くの喫茶店に入ったらノリのいい曲が流れていましてね。すぐ有線に電話して調べたら、それが Angie Gold の「Eat You Up（邦題：素敵なハイエナジー・ボーイ）」だったんです。聴けば聴くほどいい曲だし、インパクトがあって日本人がすきそうなメロディーラインだから、資料用にとっておいてね。そうやって僕はいろんな曲をストックしていたんです。で、ある日、平さん（筆者注：平哲夫）に「これに日本語をつけて歌うのはどうですか？」って聴かせたら「これでいこう！」ということになって。（濱口 2009: 8）

荻野目の所属事務所、ライジング・プロダクション社長の平哲夫もまた、着目した経緯を次のように語っている。

高橋くんは3曲聴かせてくれたんです。全部洋楽でね。その内の1曲が「Eat You Up」。聴いた瞬間、「これをカバーしたら売れるだろうな」と思いましたね。当時、「カバーの時代は終わった」と言われていたけど、目の前に売れそうな曲があるのに見逃したら、自分のプロデューサーとしての力が疑われると思ったので「是非やらせてほしい」と言ったんです。僕が求めていた「アップテンポで起伏のあるメロディー」という条件も満たしていましたね。（濱口 2009: 8）



日本語詞は作詞家の篠原仁志に、編曲とバックトラックの制作は作曲家、編曲家として知られる馬飼野康二に、それぞれ依頼された。歌詞のイメージとタイトルについて平は次のように語っている。

詞の世界とタイトルは僕がプロデュースしました。(中略)「ディスコで真っ先に男の子に近づくんじゃないくて、憧れながらも控えめに真似している女の子」「自宅ではあまり派手ではないけど、日曜にはロックンローラーになる女の子」、この2つをイメージして「ダンシング～」を作ったんです。(濱口 2009: 8)

振付はコリオグラファーの三浦亨に依頼され、荻野目との共同作業により完成した。イントロの振付を考案した荻野目は、当時流行していた洋楽を強く意識していたことを、次のように語っている。

ユーロビートの楽曲を日本語でカバーして歌うと聞かされたとき、特に抵抗はなかったですね。確かに、ほかのアイドルの方とは全く違う楽曲ですが、私は姉の影響で洋楽を聴いていたので。ただ、テレビなどで歌う際に、あのビート感をどう見せたらいいんだろうと、いろいろ考えました。(つのはず 2014: 7)

いちばん参考になったのはマドンナです。みなさんご存知のイントロのステップ、あれも実はそういうところから盗んで振付の三浦亨先生に提案したんです。それ以外は全部お任せで作ってもらったんですけど。そうしたらその踊りが印象に残って、未だにみなさんに真似されます。(馬飼野 2013: 58)

このような経緯を経て完成した「ダンシング・ヒーロー」は1985年11月に荻野目洋子の7枚目のシングルとして発表された。荻野目は同楽曲のヒットにより「当時としては珍しい、本格的に歌って踊れる女性アイドル」(つのはず 2014: 6)として注目を集め、『第19回日本有線大賞』における有線音楽賞など複数の音楽賞を受賞し、『第37回NHK紅白歌合戦』への出場を果たした。

「ダンシング・ヒーロー」は「六本木純情派」、「コーヒールンバ」などととともに荻野目の代表曲として、ベストアルバムや映像作品、様々なテーマのコンピレーション・アルバムへ選曲されるだけでなく、自身によるリメイクが多数発表されている。1986年4月には「ダンシング・ヒーロー(Special English Version)」が制作され、アルバム『ラズベリーの風』へ収録された。同年11月には「ダンシング・ヒーロー(Modern Version)」が制作されアルバム『NON-STOPPER 荻野目洋子 "The BEAT" Special』へ収録された。このアルバムは約80万枚を売り上げ、1987年のオリコン年間アルバムチャートの1位を獲得した。

1987 年 1 月には映像作品『DANCING COLORS』が発表され、「ダンシング・ヒーロー」と「同(Long Version)」のミュージックビデオが収録された。1991 年 12 月には、「ダンシング・ヒーロー('70 mirror ball mix)」が制作され、ベストアルバム『NEW TAKE BEST COLLECTIONS '92』へ収録された。1992 年 12 月には「ダンシング・ヒーロー(Club Mix)」が制作され、リミックスアルバム『best hits non stop club mix』へ収録された。2000 年 9 月には「ダンシング・ヒーロー(Euro Mix)」および「同(Extended Euro Mix)」が制作され、コンピレーション・アルバム『DANCE PANIC! PRESENTS EUROPANIC! VOL.2』および『同 (プロモーション限定アナログ盤)』へ収録された。2005 年 3 月には「ダンシング・ヒーローDancing Beat 2005 Mix)」が制作され、荻野目の所属するライジング・プロダクションに所属するアーティストのユーロビートの楽曲を集めたコンピレーション・アルバム『SUPER EURO GROOVE J-EURO SPECIAL SELECTION』へ収録された。2014 年 8 月には荻野目のソロデビュー 30 周年を記念するアルバム『Dear Pop Singer』が制作され、リメイクされた「ダンシング・ヒーロー(Dear Pop Singer バージョン)」とそのリミックス・バージョン、およびミュージックビデオ、1992 年に東京厚生年金会館で収録されたコンサート「Pop Liberation Force」の映像、計 4 タイトルが収録された。<sup>77)</sup>

「ダンシング・ヒーロー」はまた、数多くのアーティストによって篠原仁志による日本語詞を用いたカバーが制作されている。例えば、2008 年 1 月にはデーモン小暮閣下によるカバーアルバム『GIRLS' ROCK √ Hakurai』、2010 年 9 月には MAX によるカバーアルバム『BE MAX』、2014 年 3 月には北乃きいや中島美嘉を迎えて制作された童子 T のアルバム『T's MUSIC』、2015 年 7 月には荻野目の代表曲 2 曲をカバーした留川リナのアルバム『ダンシング・ヒーロー／六本木純情派』へ「ダンシング・ヒーロー」のカバーが収録された。このうち、童子 T と留川のカバーはプロモーション・アイテムとして「ダンシング・ヒーロー」のミュージックビデオが制作された。

## 2. 盆踊りとしての「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」の誕生

「ダンシング・ヒーロー」は、東海地方において「郡上踊り」や「炭坑節」と並び盆踊りレパートリーの定番として親しまれており、愛知県名古屋が発祥の地として、岐阜県美濃加茂市が盛んに踊られている場所として知られている。同楽曲はまた、東海地方以外でも盆踊りとして踊られている。例えば、「中央区大江戸まつり盆おどり大会」で知られる東京都中央区では、1989 年より継続して踊られている (CBC ラジオ 2013)。<sup>78)</sup>

盆踊りは、「旧暦の七月十三日から十五日にかけて、また新暦では八月の同時期に行われる『盂蘭盆会』にちなんだ仏教行事」(小林 2011: 29) として一般に知られる、長い歴史を持つ日本の民俗芸能である。盆踊りが行われる盆行事は、「盂蘭盆会行事の最初は、宮中か民間か定かでないが、記録としては、推古天皇の十四年 (西暦六〇六年) に宮中で始めて行われた」(高山 1972: 34) とされる。また、盆踊りの起源は諸説あるが、記録上の初出は

『盆躍り』という言葉を伴う文献としては、『看聞御記』の明応六年（一四九七）七月十五日に登場（小林 2011: 29）したとされ、一般に「平安時代の空也から鎌倉時代の一遍にいたる過程における踊り念仏こそ、室町時代以降の盆踊りの方向性を形成していった源」（小林 2011: 29-30）であるとされる。現在も続くこのような宗教的要素の強い盆踊りとしては、長野県阿南町新野の「新野の盆踊り」が挙げられる。この盆踊りの特徴は「夜を徹して踊られること」「楽器をいっさい使うことなく、自分たちでうたいながら進行していくこと」（小川 1999: 71）であり、2005年には国指定重要無形文化財に指定されている。

これに対して、ポピュラー音楽が踊られる盆踊りは、脱宗教化され大衆化した、身体活動を楽しむためのレクリエーション的、エンターテインメント的な要素の強い地域行事である。このような盆踊りは、「櫓の上でレコードに合わせて生の太鼓が演奏され、その周りを、揃いの浴衣の踊り手が決まった振り付けを規則正しく踊る」（輪島 2015: 35）形式が一般的である。また、ここでは盆踊りで踊られることを前提に制作されていない楽曲も数多く踊られている。このような、古くから伝わる民謡等を持たない新興住宅地や、大型商業施設などでも開催可能なスタイルの盆踊りは、1933年に発表された「東京音頭」<sup>79)</sup>の全国的な流行をきっかけに各地で成立した。音楽学者の細川周平は、「東京音頭」が全国の盆踊りにもたらした影響を次のように評価している。

盆踊りの長い歴史の中では、この曲は機械化の始まりとして特筆に値する。またそれまで町や村ごとに伝承されていた唄とは違って、全国中で使われた最初の盆踊り唄だった。この曲の登場で、盆踊りは村々の由緒ある行事から、レコードが介入した全国規模の行事に様変わりした。（細川 2000: 6）

「東京音頭」は「市郡合併による『大東京』誕生を祝う盆踊り大会」（輪島 2015: 36）のために新聞社とレコード会社によって企画され、西條八十作曲、中山晋平作詞、初代花柳寿美振付により制作された新民謡でありポピュラー音楽である。同楽曲は全国各地で「レコード会社主催の講習会によって音楽とダンスをとともども売り込む」（細川 2000: 10）という手法でプロモーション活動が行われ、各地の盆踊りレパートリーとして定着した。このようなプロモーション活動はその後の新作音頭にも引き継がれ、全国各地に「レコード会社～自治体～踊り講習会からなる特殊な支援体制」（大石 2015: 197）が確立された。特に、盆踊りに付随して開催される講習会は、新作音頭だけでなく、従来から踊られてきた盆踊りレパートリーを伝達する場としても機能している。このように、「東京音頭」の流行をきっかけに全国各地で成立した宗教色の薄いレクリエーション的な要素の強い盆踊りは、講習会システムの確立とともに、ポピュラー音楽が民俗音楽の楽曲伝達の形態を通じ幅広い年代の人々に伝達される場を形成したといえる。<sup>80)</sup>

こうした盆踊りにおける「ダンシング・ヒーロー」の振付は、愛知県名古屋市を拠点に活動する日本民踊研究会の前会長、2代目島田豊年<sup>81)</sup>によって1986年に考案された。この

楽曲に振りが付けられ踊られるようになった経緯は、同研究会の現会長、可知豊親によって次のように語られている。

私の母親の作品です。(中略)母が突然『ああ、これ良いわね』と言って、パッパッと振付けて、皆さんにやってもらったら大盛り上がりしてしまっただと。普通その年で消えたり 2、3 年だったりするんですけど、大変根強い、息の長い。(CBC ラジオ 2013)

「ダンシング・ヒーロー」の振付は、1986 年、日本民踊研究会の発行する「民踊のしおり」にポピュラー音楽として初めて掲載された(読売テレビ 2008)。「民踊のしおり」は同研究会会員が講師を務める講習会等で販売される冊子で、年度毎に発行されている。同冊子には講習曲目として 15 曲程度が歌詞、レコード番号、振付の図解、解説とともに掲載されている。また、同冊子に掲載される曲目は年度ごとに変動し、例えば、平成 26 年度版には AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」が掲載されるなど、その年のヒット曲としてポピュラー音楽が掲載されることもある。「民踊のしおり」に掲載された「ダンシング・ヒーロー」の振付は 10 の動作から成り、「輪おどり、反時計廻り」(日本民踊研究会 2009: 21)で踊るように指定されている。また、同冊子には楽曲ごとにレコード番号が記載されており、踊りの際に使用する音源も指定されている。<sup>82)</sup>それゆえ、この楽曲が盆踊りで踊られる際は、基本的に同冊子に掲載された振付と音源が踏襲されている。

このように定められた民踊としての「ダンシング・ヒーロー」は、日本民踊研究会会員の組織化された人的ネットワークを通じて、愛知県を中心に各地の講習会や盆踊りで踊られ始めた。今回調査した範囲において、同楽曲は平成 21 年度版の「民踊のしおり」にも再掲載されており、同研究会や会員において、一時のヒット曲ではなく、踊り継ぐべき民踊として扱われているといえる。

### 3. 「おん祭」盆踊り大会における「ダンシング・ヒーロー(Eat you up)」

「おん祭 MINOKAMO (以下、おん祭)」は、毎年 8 月に「夏の陣」が、毎年 10 月に「秋の陣」が開催される、岐阜県美濃加茂市を代表する市民主導型イベントである。このうち、同市内の木曽川緑地ライン公園で開催される「夏の陣」において、盆踊り大会が行われている。伝統的に盆踊りが盛んな地域であった美濃加茂市域において、「おん祭」は、水害に見舞われた 1983 年以来の大規模な盆踊り大会として、1994 年に始まった。現在、「おん祭」盆踊り大会で中心的な役割を果たしているのが、舞童という盆踊り愛好者団体である。舞童は 1996 年より「おん祭」に協力団体として参画して以来、美濃加茂踊り保存会(以下、保存会)に代わって実質的に盆踊り大会の運営を担っている。

「ダンシング・ヒーロー」は 1996 年、舞童の 2 代目代表今井一彦によって「おん祭」盆踊り大会のプログラムへ持ち込まれた。当時、保存会によって運営されていた「おん祭」

盆踊り大会は、来場者が少ないだけでなく踊りの輪に加わらない人が多くいたため、早くも継続が危ぶまれていた。この状況を打開するため、美濃加茂商工会議所青年部に所属していた今井は、舞童として、第3回目にあたる1996年より運営を引き受け、「おん祭」盆踊り大会の継続と活性化を目指した。その手法は、伝統的な盆踊りプログラムに、来場者、特に若者が盛り上がる楽曲を加えることである。今井は、美濃加茂市に隣接する可児市の盆踊り大会で、若者が「ダンシング・ヒーロー」を踊り、盛り上がる姿を目撃していた。このことが決め手となり、保存会の一部から反対の声が上がったものの、同楽曲は「おん祭」盆踊り大会のプログラムへ加えられることとなった。このように、「ダンシング・ヒーロー」を導入した今井の意図は、「おん祭」盆踊り大会への若者の参加を促すことによって、「おん祭」盆踊り大会を継続させ、地元の伝統的な盆踊りプログラムを残すことであった。

「ダンシング・ヒーロー」の導入と定番化により、「おん祭」は2001年の時点で「例年約10万人が参加する」（伊藤 2001）規模に拡大した。2001年の「おん祭」盆踊り大会は、美濃加茂商工会議所青年部創立10周年イベント「さあ! ダンシング・ヒーローを踊ろう!!」と題し、荻野目洋子がゲスト参加した。荻野目の招聘は、当時の青年部の木村好孝と今井がライジング・プロダクションへ直接働きかけたことにより実現し、当日はアンコールを含め計3回、荻野目の生歌・生演奏とともに1万人が「ダンシング・ヒーロー」を踊った。この成功により「おん祭」は、全国の盆踊り会場で唯一、荻野目およびライジング・プロダクション公認となり、現在も交流が続いている。

「ダンシング・ヒーロー」をはじめとする「おん祭」盆踊り大会で踊られる楽曲の振付は、美濃加茂市域各地で開催される講習会で習うことができる。舞童はまた、「おん祭」盆踊り大会の運営だけでなく、講習会においても指導者として主要な役割を担っている。この講習会では、定番の盆踊りプログラムだけでなく、新規に踊られる楽曲<sup>83)</sup>の振付も教えられている。振付の講習会は、市域の公民館や学校において開催され、特に学校では、PTA行事だけでなく授業にも取り入れられている。美濃加茂市立太田小学校では、第3学年の総合的な学習の時間において、地域の祭りについての学習が行われている。この授業のなかで、舞童を講師に招いた講習会が1999年より継続して行われている。児童はまた、授業で習った同楽曲の振付を「おん祭」盆踊り大会で踊るだけでなく、その年の秋の運動会や、第5学年の宿泊研修のキャンプファイヤーで踊ることが恒例となっている。このようにして「ダンシング・ヒーロー」の盆踊りが小学校の授業や学校行事に取り入れられていることについて、今井は次のように話している。

「おん祭」盆踊り大会に若者が参加するための重要なシステムだと考えています。小学校3年生という多感な時期に、児童は「ダンシング・ヒーロー」を学校で習い、踊れるようになることは、盆踊り大会の踊りの輪に参加するハードルを下げることに繋がるからです。<sup>84)</sup>

舞童によって作成される「おん祭」盆踊り大会のセットリストは、表 4 のとおり、楽曲の切れ目を極力排し、約 2 時間で約 30 曲を連続で踊るものである。このセットリストでは、最も人気が高く盛り上がる「ダンシング・ヒーロー」であっても約 30 分に 1 回のペースで踊るよう配置されるなど、全体を盛り上げるための緩急をつけた構成が試みられている。このような、舞童による「おん祭」盆踊り大会を盛り上げるための工夫は、セットリストの構成だけでなく、振付や音源においても実践されている。

表 14. 「おん祭」盆踊り大会 2015 セットリスト

MD【1】			MD【2】		
	Time	目安		Time	目安
1 オープニング	0:00始	PM7:55始	1 BGM(3:13)	0:00始	PM9:00始
2 ライン音頭	4:11始	PM7:59始	MC		
3 美濃加茂踊り			2 ダンシング・ヒーロー(2010Mix Ver.)	3:15始	PM9:05始
4 炭坑節			3 美濃加茂踊り		
5 ダンシング・ヒーロー(2014モダンVer.)	14:22始	PM8:14始	4 プンガチャ節(ノーマルVer.)		
6 Great For おん祭			5 UNMEI ～ プンガチャ節(ハイピッチVer.)		
7 BABY WANT YOU			6 おどるボンボコリン(Ver.1)		
8 コーヒー・ルンバ			7 かわさき		
9 平和音頭(Ver.2)	31:19始	PM8:31始	8 春駒		
10 おさかな天国			9 平和音頭(Ver.2)		
11 なかよし音頭えっへっへ！			10 明日があるさ		
12 おどるボンボコリン(Ver.2)			11 恋のダンスサイト(Ver.1)	35:37始	PM9:35始
13 ダンシング・ヒーロー(2014 Ver.)	46:16始	PM8:46始		39:52終	PM9:40終
14 コーヒー・ルンバ			12 ダンシング・ヒーロー(2010Mix Ver.)		
15 ライン音頭					
16 心は360度	57:50始	PM8:57始	MD【3】		
	61:41終	PM9:00終		Time	目安
17 BABY WANT YOU			1 BABY WANT YOU	0:00始	PM9:41始
			2 コーヒー・ルンバ		
			3 Great For おん祭		
			4 心は360度	12:46始	PM9:53始
			5	16:37終	PM9:57終
			アンコール		
			6 ダンシング・ヒーロー(2014モダンVer.)		
				20:40終	PM10:01終
			7 エンディング		
			8 エンディング		
			9 エンディング		

出所：舞童、今井一彦氏提供の資料をもとに筆者作成。なお、実際には時間の都合により「お魚天国」と「明日があるさ」の 2 曲は省略された。

「おん祭」盆踊り大会で踊られる「ダンシング・ヒーロー」の振付や使用される音源は、「民踊のしおり」に掲載された日本民踊研究会の 2 代目島田豊年によるものと差異がみられる。振付は、「民踊のしおり」に掲載されたものを基本としているが、踊り始めるタイミングと、踊りの盛り上がり部分が大きく異なる。踊り始めのタイミングは、「民踊のしおり」では「円心向きに八呼間待って踊ります」（日本民踊研究会 2009: 21）と指定されているのに対して、「おん祭」盆踊り大会では四呼間で踊りが始まる。このタイミングの差異は、自

然発生的に生まれたのではなく、曲の節目で綺麗に踊りが終わるように、舞童によって意図的に改変が加えられたものである。「おん祭」盆踊り大会では、曲間を極力排除して次の楽曲へ移るため、参加者が楽曲を気持ちよく踊り終わり区切りをつけることが重要視されている。そのため、日本民謡研究会と直接の関わりのない舞童は、既存の振付の開始タイミングを調整することで対応したのである。そして、踊りの盛り上がる部分においては、「ぐるっと回って、ハイ、ハイ、ハイ、ハイ！」という掛け声とともに島田のものには存在しない振付が踊られる。この掛け声と振付は、舞童による改変ではなく、「おん祭」盆踊り大会の会場で自然発生的に生まれたものである<sup>85)</sup>。この振付の起源について、今井は次のように語っている。

10 年位前でしょうかね。たまたま青年部で主催者で警備してる人たちが、誘導灯を両手に持って踊りながら警備していて、そのときに、右に振って、左に振って、前に振った。それが目立つじゃないですか。それと、その当時パラパラが流行っていたので、指さしながら、右、左、前、右、左、頭の後ろから前へと、自然発生的に進化したと思っております (CBC ラジオ 2013)。

そして、「おん祭」盆踊り大会における「ダンシング・ヒーロー」の音源は、オリジナルの音源だけでなく、「同(2010Mix Ver.)」や「同(2014 モダン Ver.)」など、数種類の独自に制作された音源が使用されている。これらは、舞童が CD として流通している複数のバージョンの同楽曲の音源をテープ編集やサンプリングの手法を用いて編集したものである。例えば、2015 年 8 月 1 日に開催された「おん祭」盆踊り大会のアンコールで使用された「ダンシング・ヒーロー(2014 モダン Mix Ver.)」は、荻野目のアルバム『Dear Pop Singer』に収録された音源を元に、ピッチを半音上げ、テンポを若干速くしたものである。また、このバージョンのイントロ部分は、1986 年に発表された荻野目のアルバム『NON-STOPPER 荻野目洋子 "The BEAT" Special』に収録されている「ダンシング・ヒーロー(Modern Version)」のイントロ部分をサンプリングし使用している。

## おわりに

本章では、1985 年 11 月に荻野目洋子によって発表された「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー・民俗】型成育過程を詳細に検討した。この楽曲は日本のポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンと、日本の民俗音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンの双方を経て成熟したということが明らかになった。

「ダンシング・ヒーロー」は荻野目の代表曲としてリメイクやカバー、コンピレーション・アルバムへの収録が継続して行われてきた。加えて、「ダンシング・ヒーロー」は一部

地域における盆踊りの定番曲として親しまれ続けてきた。本研究における「ダンシング・ヒーロー」の事例分析、および岐阜県美濃加茂市「おん祭 MINOKAMO」夏の陣盆踊り大会におけるフィールドワークを通じて、地域社会活動としての盆踊り大会は、民踊団体による組織的な取り組みと、地域ボランティア団体の組織的活動によって支えられていることが明らかになった。こうした盆踊りを媒介とした地域社会の取り組みは、ポピュラー音楽が幅広い年代の人々に伝達される場として機能していることが明らかになった。



## 第5章 【ポピュラー・芸術】型の事例―「翼をください」

### はじめに

本章では、1971年2月に赤い鳥によって発表された「翼をください」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー・芸術】型成育過程を詳細に検討する。「翼をください」は日本のポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンと、日本の芸術音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンを経て成熟した楽曲である。

「翼をください」は赤い鳥の4枚目のシングル「竹田の子守唄／翼をください」として1971年2月に発表された楽曲である。「翼をください」は長く歌い聴き継がれてきた日本のポピュラー音楽の中でも、楽曲が繰り返し使用され続けることで極めて幅広い文脈を獲得した楽曲である。「翼をください」は赤い鳥の代表曲、フォークソングの代表曲、学校音楽や合唱曲、スポーツ応援歌などとして長く歌い聴き継がれながら、数多くのアーティストによるカバーやコンピレーション・アルバムへの収録、様々な映像作品での使用が繰り返されている。「翼をください」は2006年に文化庁・PTA全国協議会主催「日本の歌百選」に選出され、近年では、海外のアーティストによるカバーが積極的に行われ、海外でヒットした実績を持つ「上を向いて歩こう」などとともに日本を代表する楽曲として紹介される機会も多い。加えて、近年では応援歌や鎮魂歌として、東日本大震災被災者へ向けた慰問演奏やJR福知山線脱線事故の追悼式典などで演奏される機会も多い。<sup>86)</sup> こうした様々な文脈で、人々に長く歌い聴き継がれてきた「翼をください」について、赤い鳥の元メンバーで現在は紙ふうせんのメンバーとして活動を続ける後藤悦治郎は「第二の国歌になるだろう」（三宅, 2009）と語り、赤い鳥の元メンバーでハイ・ファイ・セット（Hi-Fi Set）を経て現在はソロシンガーとして活動を続ける山本潤子は「自分たちが意図していたわけではない、気が付いたら、ひとつの作品が大きく、たくましく成長していた」（三宅 2009）と語っている。

### 1. 「翼をください」の誕生と流行

赤い鳥は、後藤悦治郎が1967年から定期的に主催していた兵庫県尼崎市の武庫之荘文化会館における音楽イベント「赤い屋根の家コンサート」の出演者によって1969年4月に結成された音楽グループである。結成当初のメンバー構成は、後藤悦治郎（ギター）、平山泰代（ピアノ）、山本潤子（ボーカル、ギター）、大川茂（ベース、1969年6月加入）の5名であり、後に、大村憲司（ギター、1972年2月加入）、村上秀一（ドラム、1972年6月加入）、渡辺俊幸（ドラム、キーボード、1973年4月加入）が参加した。<sup>87)</sup> 赤い鳥は1969年10月に出場した「第3回ヤマハ・ライト・ミュージック・コンテスト」におけるパフォーマンスを音楽プロデューサーの村井邦彦に高く評価され、村井の主催する音楽出版社「ア

ルファミュージック」との契約を交わし、1970 年 6 月にシングル「人生／赤い花白い花」を発表しメジャーデビューした。<sup>88)</sup> 赤い鳥は数度のメンバーチェンジを経て、1974 年 9 月に中野サンプラザで開催されたコンサート「さよならコンサート 赤い鳥総集編」をもって解散するまで、「年間 200 本」(塚本 2011) の積極的なコンサート活動と音源のリリース活動を続けた。<sup>89)</sup> 赤い鳥は、メンバー自身による楽曲と国内外のアーティストや職業作家から提供を受けた楽曲に加え、クラシックや海外のポピュラー音楽、「竹田の子守唄」など民間伝承によって歌い継がれてきた日本各地の楽曲をレパートリーとしていた。こうした男女混成グループで幅広い楽曲レパートリーを持つ赤い鳥は、今日では次のように評価されている。

メンバーは美しいヴォーカルを聞かせる二人の女性と、これに絡む男性三人。幅広いレパートリーとカーペンターズやポール・ウィリアムスと同種のテイストの、洗練されたハーモニーと、アコースティック・サウンドを基調とした音楽性が人気を博し、ニューミュージックシーンの先駆けとして一時代を築いた。(テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 182)

「翼をください」は山上路夫が作詞を、村井邦彦が作曲を担当し、赤い鳥へ提供された楽曲である。<sup>90)</sup> 「翼をください」のメロディーは、4 ビートのリズムを持つ前半部分と、シンコペーションを取り入れた 8 ビートのリズムを持つ後半部分の 2 つの対照的なメロディーが繰り返されている点が特徴である。「翼をください」の制作は、山上が「『希望』をテーマとした詞を書き、『ゴスペルみたいなのを書いてよ』と村井に伝えた」(読売新聞文化部編 2003: 261) ことから始まった。その後、山上は村井から受け取ったメロディーを聴き、「僕の歌詞より曲の方が素晴らしい」(テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 184) と感じ、「曲のスケールに負けないように」(塚本 2011) 改めて歌詞を書き直し、「翼をください」というタイトルの楽曲を完成させた。このような経緯を経て制作された「翼をください」の歌詞について、山上は「テーマは願い、そして祈り」(テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 184) であり、「現実から逃げ出すため、翼が欲しいくらい忙しかった私自身の素直な気持ちを書いた」(塚本 2011)、「鳥や翼は自由のシンボルのようなもの。人間の願いを集約して、大きく発展させた結果、生まれました」(読売新聞文化部編 2003: 261) と語っている。

「翼をください」はレコードとして発表される前年、1970 年 11 月に三重県にある合歓の郷(ねむのさと)で開催されたヤマハ音楽振興会主催のコンサート「合歓ポピュラーフェスティバル'70」において、赤い鳥によって初めて演奏された。このときの印象を、赤い鳥のメンバーは次のように語っている。

私たちは五人グループだったんですが、「翼をください」を初めて歌ったとき、五羽

の鳥が未来に向かって羽ばたこうとする赤い鳥らしい曲だな、という印象を受けました。  
(山本潤子) (テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 183)

コンサート当日に「できたよ」と(筆者注:作曲を担当した村井邦彦より)届けられて、2時間ほどメンバーで練習。そのまま本番で歌ったんです。「(スケールの) 大きな曲だな」という最初の印象を今も覚えています。(後藤悦治郎) (三宅 2009)

5人の声が集まって、コーラスするのに適した曲だな、と感じました。歌っていると、自分の気持ちが自然と盛り上がっていききましたね。(平山泰代) (三宅 2009)

「翼をください」は「合歓ポピュラーフェスティバル'70」で演奏された翌年、1971年2月に「竹田の子守唄」とともにシングルとして発表された。このシングルは「当時数十万枚も売れた」(藤田 2003: 118)とされ、このシングルのヒットによって赤い鳥は広く一般に知られるようになったといえる。「翼をください」は赤い鳥のコンサートにおいて「最後の1曲として歌われ、その時は観客も一体となって大合唱」(三宅 2009)される特に人気の高い楽曲であった。コンサートにおける「翼をください」について、赤い鳥のメンバーは次のように語っている。

この曲はお客さんにすごくいい形で迎え入れられました。会場全体がひとつになって、みんなが盛り上がりましたね。(後藤悦治郎) (三宅 2009)

コンサートで照明や音響を担当するスタッフも、特別な思いをこの曲に抱いていたようです。照明さんなんて体でリズムを取りながら、うねるようにしてステージにライトを当ててました。ノリノリの様子が、こちらからみえるんですよ(笑)(平山泰代) (三宅 2009)

こうしたコンサートにおける人気を反映して、「翼をください」は赤い鳥の代表曲としてグループの解散までにリテイクやベストアルバムへの収録、ライブアルバムへの収録が積極的に行われた。1971年2月に発表されたシングル「竹田の子守唄／翼をください」に収録された音源(シングル・バージョン)は、前奏がなく、Aメロの歌い出しから演奏が始まる音源である。同年7月に発表されたアルバム『竹田の子守唄』へ収録された音源(アルバム・バージョン)は、ピアノによる前奏から始まり、シングル・バージョンと比べて演奏時間が1分程度長い音源である。また、シングル・バージョンとアルバム・バージョンの音源は、2番のAメロ前半の歌詞「今／富とか名誉ならば／いらないけど／翼がほしい」が省略されている。こうした歌詞の省略は、「ラジオなどで放送するには長すぎる」(三宅 2009)として、「曲の長さを抑えるためにレコードでは省略された」(塚本 2011)と説明さ

れている。同年 12 月に発表されたライブアルバム『スタジオライブ』に収録された音源（スタジオライブ・バージョン）は、アルバム・バージョンに準じたアレンジでフルサイズの歌詞が歌われている音源である。1973 年 1 月に発表されたアルバム『美しい星』へ収録された音源（英語バージョン）は「I WOULD GIVE YOU ANYTHING」と題され、ゲイル・コールドウェル（Gayle Caldwell）による英語詩で歌われている音源である。また、ボブ・アルキバー（Bob Alcivar）が編曲を担当した英語バージョンは、通常よりも半音下げの音程で演奏され、最後のサビ部分で通常の音程に戻る、他の音源とは異なる構成である。同年 12 月に発表されたライブアルバム『ミリオン・ピープル〜赤い鳥コンサート実況録音盤〜』へ収録された音源（ミリオン・バージョン）は、アルバム・バージョンに準じたアレンジでフルサイズの歌詞が歌われている音源である。このライブアルバムは、同年 11 月に「赤い鳥が約 600 回のコンサートを行い、100 万人以上の観客を動員したことを記念」（赤い鳥 2003: 23）して文京公会堂で開催されたコンサート「ミリオン・ピープル」での演奏を収録した作品である。加えて、「翼をください」は赤い鳥の活動期間中に発表された 3 タイトルのベストアルバム、1972 年 10 月に発表された『ゴールデン・ディスク』、1973 年 10 月に発表された『ゴールデン・ディスク ラブ・ジェネレーション』、1974 年 11 月に発表された『赤い鳥』へ収録されている。このように、「翼をください」は 1971 年のヒット後、赤い鳥のコンサートにおいてほぼ必ず演奏される楽曲として定着しながら、赤い鳥が解散する 1974 年までの間、毎年、音源として市場へ供給されている。こうした「翼をください」の発売点数の多さは、「翼をください」が赤い鳥の活動において重要な位置を占めていたことをうかがわせる。

グループ解散後に発表された数多くのベストアルバムにおいても同様に、「翼をください」は代表曲として必ず収録されている。2009 年 8 月に発表された『GOLDEN☆BEST 赤い鳥 翼をください〜竹田の子守唄』では、「翼をください」は「竹田の子守唄」とともにベストアルバムのタイトルとして採用された。また、2003 年 2 月に発表された赤い鳥の BOX セット『赤い鳥 コンプリート・コレクション』での「翼をください」の扱いは最も大きく、レコードとして発表されたすべての音源に加え、「翼をください（第 1 回世界歌謡祭ライブ・バージョン）」を含めた計 6 バージョンの音源が収録された。

## 2. 学校音楽としての「翼をください」

「翼をください」は学校教育現場において長く使用されてきたことによって、幅広い年代の人々に親しまれる楽曲へ成熟したといえる。2016 年 10 月に NHK 総合テレビで放映された音楽番組『バナナ♪ゼロミュージック』の学校音楽特集において、「翼をください」は「学校で習った曲 人気 No.1」として、音楽教科書に数多くのポピュラー音楽が掲載させる先駆けとなったこと、約 40 年にわたり教科書への掲載が続けられていることが紹介された。また、朝日新聞社が朝日新聞アスパラクラブの関西の会員へアンケート調査を実施し

2012年2月に発表した卒業ソングのランキングでは、「翼をください」は235票を集め9位を獲得した（三木 2012）。同じく、朝日新聞社が朝日新聞デジタルの登録会員を対象に2014年2月末から3月上旬にかけて1902人を対象に実施した卒業ソングについてのアンケート調査では、「翼をください」は357票を集め5位を獲得した（大庭 2014）。このように、「翼をください」は音楽の授業や卒業式に加え、運動会や運動部活動の応援歌、合唱コンクールの課題曲など、学校教育現場の様々なイベントで使用されている、人気の高い楽曲のひとつである。

「翼をください」は1973年に初めて中学生向けの合唱用の教材として学校教育現場へ進出した。この合唱曲集は教育芸術社が発行した合唱曲集であり、「皆が歌えて、楽しめるもの」（テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 184）をテーマに編集され、「翼をください」の選曲と混声合唱曲への編曲は橋本祥路（元教育芸術社取締役編集部長）が行った。橋本は「翼をください」を選曲した理由について、変声期を迎える中学生の男子生徒が参加しやすい楽曲であることを強調し、次のように語っている。

女子生徒に比べて、男子生徒は合唱に参加するのに強い抵抗を持っていました。その理由は、すんなりとなじめる楽曲がなかったからだとは考えていました。なんとか男子を参加させたい、と模索するうちに出会ったのが「翼をください」でした。サビが親しみやすく、歌詞も夢と希望にあふれ、素晴らしい曲だと思いました。（三宅 2009）

橋本によって混声合唱曲として編曲された「翼をください」は、合唱曲集への掲載前に、東京都杉並区立宮前中学校の合唱部において実証実験が行われた。こうした経緯について、橋本は次のように語っている。

実際、子供が歌って喜ばば（筆者注：教育芸術社に）納得してもらえますが、ただ企画だけ出しても否定されるだけです。子供たちが歌えるかどうか、特に、男の子がその音程を歌えるかどうか、確かめる必要がありました。そこで、杉並区宮前中学校は合唱がとても盛んだだったので、その合唱部にお邪魔して、実験させていただきました。すると皆、パッと歌えたんですね。それで、自信を深めまして。（テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 185）

当時の学校教育現場でポピュラー音楽を扱うことについて否定的な論調が支配的であったとされる。<sup>91)</sup> それにもかかわらず、「翼をください」は「合唱に熱心な学校から『これはいい』の声が上がり、コンクールで歌われるようになった。そして、その波は全国へと拡大していった」（三宅 2009）とされる。「翼をください」は合唱曲として教育現場で高い人気を獲得したことで、1976年検定の教育芸術社の高等学校向け音楽教科書『高校生の音楽

I』へ、1977 年検定の同社の中学校向け音楽教科書『中学生の音楽 3』へ掲載された。「翼をください」の教科書掲載数は 2010 年検定のものまでで小中高あわせて 70 に上り、特に中学校向け音楽教科書へは 1977 年検定から 2016 年検定のものまで約 40 年にわたり、途切れることなく掲載され続けている。「教科書に掲載されるポップスの多くが短命」（『朝日新聞』2008.2.2 夕刊）とされるなか、教科書に長く掲載され続ける「翼をください」は、学校音楽として幅広い年代の人々に歌い聴き継がれているといえる。

こうした学校音楽としての「翼をください」は、学校をテーマとする映像作品において盛んに使用されている。1988 年 1 月に NHK 総合テレビで放映されたドラマ『翼をください』は、「学校格差から生じるコンプレックスを乗り越えていく高校生」（NHK アーカイブス 2017）を描いたジェームス三木原作、脚本による作品である。<sup>92)</sup>「翼をください」はこの作品の主題歌として、校内で生徒と教員が殴り合うクライマックス・シーンで赤い鳥による音源が使用された。<sup>93)</sup>2009 年 4 月から 7 月にかけて放映された高校の軽音部を舞台にしたアニメ『けいおん!』の第 1 話では、部員たちが主人公の平沢唯を勧誘するシーンで「翼をください」が使用された。このシーンでは、部員たちによる演奏だけでなく、夕日の差す校舎内の風景、水飲み場、ホワイトボードなど、学校に関連したイメージが数多く使用されている。このシーンについて、シリーズ構成を担当した吉田玲子はアニメ『けいおん!』のなかで最も好きなシーンのひとつに挙げながら、次のように語っている。

それと第 1 話で「翼をください」を演奏するシーンが私は一番好きだったりするんですね。音楽室での演奏なのにもかかわらず、学校の風景にカメラが向くじゃないですか。それで学園ものなんだなという印象がすごく強調される感じがして、とても気に入っています。（まんがタイムきらら編 2010: 67）

アニメ『けいおん!』の第 1 話で使用された「翼をください」は、メインキャラクターの声を担当する声優によって桜高軽音部（放課後ティータイム）名義で新たにレコーディングされ、シングル「ふわふわ時間（タイム）」（2009 年）のカップリング曲として発表された。また、アニメ「けいおん!」はアニメの音楽スタッフ監修によるキャラクターソングの教則 CD とバンドスコアが数多く発表され、「翼をください」は教則 CD『TV アニメ「けいおん!」 オフィシャル バンドやろーよ!! PART2（バンドスコア付）』（2010 年）へ収録された。2011 年 4 月から 9 月にかけて放映された定時制高校を舞台にしたアニメ『日常』では、第 14 話のエンディング主題歌として佐咲紗花が歌う「翼をください」が使用された。この作品の 14 話以降は、エンディング主題歌として「気球にのってどこまでも」や「旅立ちの日に」、「マイバラード」、「あの素晴らしい愛をもう一度」など音楽教科書や合唱コンクールで人気の高い楽曲が各話ごとに使用され、キャラクターソング・アルバム『「日常」の合唱曲』（2011 年）として発表された。2015 年 7 月から 9 月にかけて TBS テレビで放映された高校の合唱部を舞台にしたドラマ『表参道高校合唱部!』では、第 2 話と第 10 話（最終

回)において「翼をください」が使用された。この作品では、NHK 全国学校音楽コンクールの課題曲をはじめとする合唱の定番曲、合唱曲として編曲された「Over Drive」<sup>94)</sup>、「TRAIN・TRAIN」<sup>95)</sup>、「女々しくて」<sup>96)</sup>など J-POP のヒット曲が使用された。また、「翼をください」をはじめ、一部の楽曲はドラマの公式サイトでフルサイズの合唱シーンが公開された (TBS テレビ 2015)。

### 3. スポーツ応援歌としての「翼をください」

「翼をください」は 1990 年代後半よりスポーツ応援歌として使用されるようになった。スポーツ応援歌としての「翼をください」は、1997 年 1 月に開催された天皇杯決勝戦において、佐賀県鳥栖市を拠点とするプロサッカーチーム、鳥栖フューチャーズ (現サガン鳥栖) のチーム存続を願うチームサポーターたちによって、自然発生的に合唱が行われたことで、サッカー愛好家たちに知られるようになった。<sup>97)</sup> 応援歌として「翼をください」が選ばれた理由は、スポーツライターの森雅史によると「サポーター仲間の 1 人が『親せきの子供の音楽の教科書に載っていた』と、この曲を歌い始めた」(三宅 2009) からだとされる。この時の合唱の様子は、次のように記録されている。

そのスタンドには約 10 人の鳥栖サポーターが陣取っていた。愛するクラブはすでに敗退していたが、ハーフタイムに「翼をください」を歌った。鳥栖の存続を訴えるためだった。周囲に居たサポーターもこれに続いた。鳥栖を救いたいとする 10 人の小さな輪が、やがてスタジアムを包む大合唱へと広がった。(三宅 2009)

鳥栖のサポーターによる合唱に続いて、「翼をください」は同年 10 月に行われた「FIFA ワールドカップフランス大会・アジア最終予選 B グループ」における日本代表チームとウズベキスタン代表チームの試合において、日本チームのサポーターたちによる合唱が自然発生的に行われた。このとき「翼をください」が合唱曲として選ばれた理由は、「フランスに飛んでいきたいという気持ちに歌詞がピッタリだったこと、教科書にも載っていて若い世代の間でのスタンダード曲になっていたことなどが原因」(『朝日新聞』1997.12.18 夕刊)だとされている。サッカーの試合において、「それまでは海外の応援ソングがスタジアムで歌われることはあっても、日本で生まれた日本の歌が歌われることはほとんどなかった」(三宅 2009) ことから、応援歌としての「翼をください」は広く注目を集め、1998 年 6 月に NHK 総合テレビの報道番組『クローズアップ現代』で「翼をください～日本代表を W 杯へ送った歌～」と題した特集が放映されるなど、マスメディアで大きく報じられた。

「翼をください」はスポーツ応援歌として注目を集めたことで、赤い鳥の元メンバーたちの活動へも大きな影響を与えた。赤い鳥の解散後「翼をください」を自身のレパートリーとして長く歌い続けてきた紙ふうせんは、神戸市立港島小学校コーラス部などと新たに

「翼をください」のレコーディングを行った。この音源は「日本サッカー協会からオフィシャル応援歌に公認」（『朝日新聞』1998.4.9 夕刊）されて、1998 年 4 月にシングルとして発表された。また、赤い鳥の解散後、ハイファイセットでの活動やソロ活動を通じて「翼をください」を演奏することのなかった山本潤子は、自身のコンサートのレパートリーへ初めて「翼をください」を加え、1997 年 11 月には新たにレコーディングを行った音源をシングルとして発表した。山本は、1998 年 2 月に開催された「長野冬季オリンピック、スキージャンプ・ラージヒル個人競技」の表彰式イベント、同年 8 月に佐賀県鳥栖市のサッカースタジアムで開催されたサガン鳥栖の試合などへ招かれ、選手へ向けた応援歌として「翼をください」を演奏する機会を与えられた。山本は、長野冬季オリンピックの会場で「翼をください」を演奏したときに感じた心境の変化を、次のように語っている。

1 万人ぐらいだったでしょうか？ 会場にいた皆さんと一緒に歌ってくださったんです。サッカーのサポーターの方々にも愛されていましたが、もう自分のレパートリーだとか関係ないんだ、という思いが実感できました。誰の歌でもなく、みんなの歌なんだと。（三宅 2009）

2002 年 5 月から 6 月にかけて開催された「日韓共催 FIFA ワールドカップ」において、「翼をください」は日本代表チームの応援歌として積極的に使用された。このとき、田村有宏貴（製作プロデューサー）とジェフ宮原（サウンド・プロデューサー）を中心に「翼をください」を象徴とするチャリティー・プロジェクト「虹の翼 2002」が発足した。このプロジェクトは、「翼をください」を日本語、韓国語、英語で演奏したカバー CD を日韓両国で発売することを通じて、日韓友好と「アフガニスタンを中心に難民キャンプの子供たちへサッカーボールなどを送ること」（虹の翼 2002 2002）を目的とするものである。このプロジェクトの象徴として「翼をください」を選んだ理由について、ジェフ宮原と田村有宏貴は次のように語っている。

このプロジェクトで何の曲を選ぶべきかと話し合った時、自分に翼をつけて、羽ばたいて、海を越えていろんな国へ行けたら、それほど素晴らしいことはないな、と二人で言ってたんです。そうなったらいいよな、と。そこで選んだ曲が、「翼をください」だった。もちろん、これはサッカーの応援歌でもあり、教科書に載っていることから、サッカー・ファンだけでなく、多くの日本人にも、親しみをもてる。そう考えた結果なんです。（ジェフ宮原）（テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003 189-190）

最終目標であるボールを子供たちに届けて、一緒に希望を実現したい。子供たちとボールを蹴って、「翼をください」を聞かせてあげたい。（田村有宏貴）（テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003 190）



このプロジェクトにゼネラルアドバイザーとして参加した湯川れい子は、プロジェクトの経緯と CD 発売の趣旨を次のように説明した。

2002 年という都市を記憶する時、日本と韓国の多くの若者たちは、サッカーのワールドカップが共催された記念すべき年として、深く脳裏に刻み付けることでしょう。

どれほどの忘れがたいドラマが生まれるかは、今の時点ではまだ解りませんが、おそらく生涯に二度と迎えることは難しいだろう主催国としての体験を、より意味のあるものにしよう！と考えた若者たちの発案から、この CD は生まれました。

プロデュースを手掛けた田村有宏貴君（25 才）と、日韓の血を引くジェフ宮原君（24 才）がその発案者で、彼らの趣旨に賛同した仲間たちが集まって、サッカー・ファンの間ではすでに数多いドラマを作り出してきた名曲「翼をください」を、日本語、韓国語、英語で歌って、それぞれの国のサッカー・ファンにエールを送り、その CD の売り上げでサッカーボールを購入して、アフガニスタンの子供たちにプレゼントしようと考えたものです。

そして多くの人々の協力とサポート、涙ぐましくも頭の下がる応援を頂きながら、遂にこの CD が出来上がったのですが、いつかそのプロジェクト全体に翼が生えて、アフガンにサッカー・フィールドを作るための地雷の除去から、日本とアフガンの子供たちの交流、本来は大変なサッカー愛好国であるアフガンの子供たちのためにサッカー・スクールを作る話など、さまざまな動きが出てきています。

これを夢だけで終わらせないためにも、この CD がより多くの人々の知るところとなり、息の長い商品として売れることを祈ると共に、皆様のご協力とご参加を心から願うものです。（虹の翼 2002 2002）

このプロジェクトには、歌唱メンバーとして参加した山本潤子や小田和正をはじめ、賛同応援団として長渕剛（賛同応援団長）や渡辺貞夫などのミュージシャン、朝妻一郎や後藤由多加などの音楽関係者、小泉純一郎や橋本龍太郎などの政治家、武田修宏や長嶋茂雄などスポーツ関係者、オノ・ヨーコやコシノジュンコ、「翼をください」を制作した山上路夫と村井邦彦など数多くの著名人が参加した。このプロジェクトは「翼をください」の CD の売り上げにより、最終的に 500 個のサッカーボールをフィリピンとカンボジアへ寄贈した（RAINBOW NETWORK 2002）。<sup>98)</sup>

#### 4. 様々なアーティストや作品に使用される「翼をください」

「翼をください」は様々なアーティストによるカバー作品の発表や、様々なテーマのコンピレーション・アルバムへの収録が積極的に行われている楽曲である。

「翼をください」のカバー作品は、1991 年 1 月にシングルとしてヒットさせた川村カオ

リをはじめ、カバーアルバム『VOCALIST』シリーズで注目を集める徳永英明、メタルとアイドルを融合させ海外を中心とした活動を行う BABYMETAL、アイドルグループ AKB48 出身で現在は演歌歌手として活動を行う岩佐美咲、クラシカル・クロスオーバー (classical crossover) のアーティストとして活動を行う秋川雅史や森摩季など、様々なアーティストによって発表されている。また、海外のアーティストが国内デビューの際に、日本を代表する楽曲として「翼をください」をカバーした作品も多い。例えば、テレビのオーディション番組への出演が注目を集めたイギリス出身のスーザン・ボイル (Susan Boyle)、インターネット上で日本のポップカルチャーを紹介するコンテンツが注目を集めたイギリス王室属領、マン島出身のベッキー・クルーエル (Beckii Cruel)、2011 年に西川貴教らと共演した CD が注目を集めたポルトガル出身のミゲル・ゲレイロ (Miguel Guerreiro)、クラシカル・クロスオーバーのアーティストとして国際的に活動を行うヘイリー・ウェステンラ (Hayley Westenra) の作品などを挙げることができる。「翼をください」を収録したコンピレーション・アルバムは、学校音楽や卒業ソング、合唱曲をテーマにした作品をはじめ、ヒーリングやイージーリスニングをテーマにした『イマージュ (Image)』シリーズなど、多種多様なテーマのものが発表されている。こうしたコンピレーション・アルバムへの「翼をください」の収録は、赤い鳥の音源や既存のカバー音源、新規に制作されたカバー音源など、様々なアーティストによる音源が使用されている。

「翼をください」は、学校や学校音楽、スポーツ応援歌以外にも、様々なテーマの映像作品に主題歌や挿入歌として使用されている。1998 年 1 月から 2 月にかけて TBS テレビ『花王 愛の劇場』として放送されたドラマ『風になりたい』では、山本潤子による音源が主題歌として使用された。この作品は都会で暮らす家族が伊豆大島へ移住し、自然の中で家族の絆や現地の人々の交流を深める様子を描いた作品である。2007 年 10 月から 2008 年 3 月にかけて NHK 朝の連続テレビ小説として放送されたドラマ『ちりとてちん』では、第 95 回と第 97 回の 2 回、挿入歌として、クラシカル・クロスオーバーのアーティストとして活動を行うカノン (Kanon) によるカバー音源が使用された。この作品は伝統の継承と落語をテーマに、大阪を舞台に落語家を目指すヒロインの活躍を描いた作品である。この作品の第 95 回では、主人公の両親が初めて出会ったことを回想する恋愛模様を描いたシーンで使用され、第 97 回では主人公が交際相手から結婚のプロポーズを受けるシーンで使用された。2009 年 6 月に全国劇場公開されたアニメ作品『エヴァンゲリオン新劇場版:破/ EVANGELION:2.0 YOU CAN (NOT) ADVANCE.』では、ヒロインのひとりである綾波レイの声を担当する声優、林原めぐみによるカバー音源が挿入歌として使用された。この作品は、14 歳の主人公たちの活躍を中心に人類と使徒と呼ばれる敵との闘いを描いた作品であり、1995 年 10 月から 1996 年 3 月にかけて放映されたアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』のリメイクとして発表された。この作品は国内上映だけで興行収入 300 億円を記録したヒット作品であり、『第 33 回日本アカデミー賞』の優秀アニメーション作品賞、『第 15 回リヨン・アジア映画祭』のアニメ部門第 1 位を受賞し、台湾、中国、韓国など海外での興行

上映も行われた。「翼をください」は、劇中の世界が崩壊するなか、主人公の碇シンジが綾波レイを救い出そうとするクライマックスにあたるシーンで、約 10 分間にわたり挿入歌として使用された。<sup>99)</sup> 2012 年 4 月からは、製薬会社である小野薬品工業の CM 作品に「翼をください」が継続して使用されている。この作品は「新薬研究開発にかける思いを表現した企業 TVCM」(CD ジャーナル編集部 2012) として制作され、病院内の日常風景、自然や都市の風景、新薬の開発が行われる研究室の風景を背景に、NOKKO、藤井フミヤ、Kiroro などによるカバー音源が使用された。こうした、同時期に様々なテーマの作品に使用される「翼をください」は、「テキストとしての自立性の高さ」(小泉 2007 61) を持つ楽曲であるといえる。

## おわりに

1971 年 2 月に赤い鳥によって発表された「翼をください」に注目し、日本のポピュラー音楽が、どのように再使用を繰り返されて成熟し、人々に長く歌い聴き継がれてきたのかを検討した。

「翼をください」は長く歌い聴き継がれてきた日本のポピュラー音楽の中でも、楽曲が繰り返し使用され続けることで、極めて幅広い文脈を獲得したことが明らかになった。「翼をください」は赤い鳥の代表曲、フォークソングの代表曲、学校音楽や合唱曲、スポーツ応援歌などとして長く歌い聴き継がれながら、数多くのアーティストによるカバーやコンピレーション・アルバムへの収録、様々な映像作品での使用が繰り返されている。近年では、海外でヒットした実績を持つ「上を向いて歩こう」などとともに日本を代表する楽曲として紹介される機会も多いことに加え、応援歌や鎮魂歌として式典で演奏される機会も増えている。つまり、「翼をください」は人々の生活のあらゆる場面で使用可能な楽曲へと成熟したといえる。「翼をください」がこれほどまでに人々に親しまれ続けてきた要因のひとつは、学校音楽として長く親しまれてきたことである。「翼をください」は 1976 年から音楽教科書に掲載され続け、学校音楽として現在まで 40 年以上、中学校を中心に授業や合唱コンクール、卒業式などの学校行事の様々な場面で使用されながら、幅広い年代の人々に歌い聴き継がれてきた。このように、学校教育がクラシック音楽と同様にポピュラー音楽を幅広い年代の人々に伝達する場として機能している。

## 第6章 【ポピュラー・民俗・芸術】型の事例―「島唄」

### はじめに

本章は、1992年1月にTHE BOOMによって発表された「島唄」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー・民俗・芸術】型成育過程を詳細に検討する。「島唄」は日本のポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンと、日本の芸術音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターン、および日本の民俗音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンを経て成熟した楽曲である。

日本のポピュラー音楽市場において、沖縄にルーツを持つアーティストによる楽曲、沖縄の要素（三線などの楽器や沖縄音階、リズム、フレーズといった音楽的要素、沖縄の持つ歴史や風土、人々の生活感や魅力）を取り入れた楽曲は多くの人々に親しまれている。また、映画『ナビイの恋』（1999年）やNHK朝の連続テレビ小説『ちゅらさん』（2001年）などの沖縄を舞台とする映像作品によって形成された「美しい海と癒しの島」というイメージ、『琉球的哀華』シリーズ<sup>100)</sup>などJ-POPの雰囲気に近い沖縄ポップスを集めたコンピレーション・アルバムのヒットも、沖縄関連のポピュラー音楽への親しみやすさを支えている。

沖縄関連のポピュラー音楽についての代表的な学際的研究は、日本のポピュラー音楽市場における沖縄イメージの変遷を明らかにした小川博司（1993、1995）、第二次大戦後の沖縄におけるポピュラー音楽史を体系的に描いた大城亘武（1997）、楽曲分析を中心とした久万田晋（1998）、知名定男の音楽活動を事例に沖縄ポピュラー音楽の歴史と発信スタイル、および「島唄／しまうた」にまつわる諸概念の成立過程について考察した高橋美樹（2007、2010）の研究を挙げることができる。これらのうち小川と高橋の議論は、現在の沖縄関連のポピュラー音楽の現状を考えるうえで興味深い。小川は「敗戦から1960年代の初めまで、日本のポピュラー音楽の世界で沖縄のイメージが現れることはほとんどなかった」（小川1993: 178）としたうえで、沖縄出身の仲宗根美樹<sup>101)</sup>がデビューした1960年を起点に、沖縄にルーツを持つアーティストとその楽曲、および沖縄の要素を取り入れた楽曲を検証することで、日本のポピュラー音楽市場における沖縄イメージの変遷を10年ごとに4つの年代に分けて説明した。小川はここで1960年代を＜1つの地方としての沖縄＞、1970年代を＜アメリカ文化の窓口としての沖縄＞、1980年代を＜内なる外部としての沖縄＞、1990年代前半を＜ルーツとしての沖縄＞＜世界の窓口としての沖縄＞として位置づけ、本土からの視点で沖縄関連のポピュラー音楽についての分析枠組みを与えた。<sup>102)</sup> また、高橋（2010）は「＜内向き＞の発信スタイル」「＜外向き＞の発信スタイル」という分析概念を導入し、沖縄のアーティストたちがそれぞれの時代に、どのように自らの音楽を発信してきたのかを明らかにした。＜内向き＞の発信スタイルとは、「沖縄の言語、文化、生活習慣など、沖縄人として多くの共通点をもつ社会的集団に向けて発信される音楽の志向」（高橋 2010: 44）

を指すものであり、＜外向き＞の発信スタイルとは、「沖縄とは異なる言語、文化、生活習慣をもつ社会的集団に向けて発信される音楽の志向」（高橋 2010: 44）を指すものである。高橋は 2000 年以降の沖縄関連のポピュラー音楽の状況を次のように説明する。

2000 年以降、1990 年代の沖縄ポップス・ブームをうけて登場した沖縄ハードコアのグループは、オリコン 1 位を獲得したモンゴル 800 や HY などをはじめとして、日本のポピュラー音楽界においても認知されるようになった。また、J-pop の世界で成功した BEGIN は自ら＜島唄＞とジャンル付けしたオリジナル曲によって、＜内向き＞＜外向き＞双方で成功を収めている。2000 年以降の音楽状況の特徴として、＜内向き＞＜外向き＞双方の活動成果と聴衆の反応が互いに絡み合いながら展開していることが挙げられる。沖縄ポピュラー音楽における＜内向き＞＜外向き＞の発信は、21 世紀に突入した今日、日本本土や海外からの沖縄への眼差しも相俟って、その境界を見極めることの困難さを呈している。（高橋 2010: 51）

これらの議論を踏まえると、2000 年以降、沖縄のアーティストによる発信スタイルは＜内向き＞＜外向き＞双方に向けられるようになり、本土における沖縄関連のポピュラー音楽は J-POP として、あるいは J-POP の延長線上にある音楽として親しまれていると考えることができる。このような、沖縄関連のポピュラー音楽／J-POP のボーダーレス化は、沖縄と本土の双方で同時期に現れた傾向であるといえる。こうした傾向を背景に、本土と沖縄の双方で長く親しまれ、海外でも愛唱歌として広く歌われている沖縄関連のポピュラー音楽が注目を集めている。代表的な楽曲として「花～すべての人の心に花を～」、「涙そうそう」、「島唄」を挙げることができる。「花～すべての人の心に花を～」、「涙そうそう」、「島唄」の 3 曲は楽曲の拡散と浸透のパターンや楽曲の構造的な特徴に多くの共通点を持っている。しかしながら、「島唄」は他の楽曲とは異なり、作者の宮沢和史が沖縄出身でないことや「島唄」という楽曲タイトルが長く物議を醸しながらも、結果として沖縄、日本本土、加えて海外において定着した経歴を持つ興味深い事例である。

## 1. 「花～すべての人の心に花を～」、「涙そうそう」、「島唄」の概要と共通点

「花～すべての人の心に花を～」は沖縄出身のシンガーソングライター喜納昌吉によって 1980 年に発表された楽曲である。この楽曲は発表当初に喜納昌吉&チャンプルーズによって歌われた音源がヒットした後、おたか静流や石嶺聡子らにカバーされた音源が CM や映画主題歌に使用されるなど、現在でも継続的にカバー音源の制作、コンピレーション・アルバムへの収録が行われている。また、この楽曲は音楽教科書へ 1994 年以降 6 回掲載され、2006 年には文化庁・PTA 全国協議会主催「日本の歌百選」に選出された。海外では 1985 年から 1987 年にかけてタイで多くのアーティストにカバーされたことをきっかけに、

ベトナム、インドネシア、アメリカ、アルゼンチン、マダガスカル、台湾、中国などで現地の言葉でカバーされてヒットを記録した。特に、台湾の周華健（Emil Chau）が 1993 年に「花心」というタイトルでカバーした音源は中国・台湾・東南アジア地域でヒットし、現在においても式典などで歌われ、愛唱歌としても親しまれている。

「涙そうそう」は沖縄出身の BEGIN によって 1997 年に制作され、森山良子の歌唱で 1998 年に発表された楽曲である。この楽曲は発表からしばらくの間、森山と BEGIN によって歌われていたが、2001 年に夏川りみによって歌われた音源が 100 万枚を超えるヒットを記録した。また、この楽曲は音楽教科書へ 2005 年以降 4 回掲載され、2006 年には文化庁・PTA 全国協議会主催「日本の歌百選」に選出された。2005 年には TBS テレビ開局 50 周年の記念として「涙そうそうプロジェクト」が立ち上げられ、同年 8 月と 10 月にこの楽曲を題材とする 2 作品のドラマが放映され、2006 年 10 月には映画『涙そうそう』が公開された。海外では、台湾の黃品源によって 2002 年に「白鷺鷥」として台湾語で、シンガポールの蔡淳佳（Joi Tsai）によって 2004 年に「陪我看日出」として北京語でカバーされ、中国・台湾・東南アジア地域で大ヒットした。夏川も「涙光閃閃」を歌う歌手として台湾での CD リリースや公演活動を積極的に続けるなど、この楽曲は台湾を中心に現在も親しまれている。

「島唄」は栃木県出身の宮沢和史によって 1991 年に制作され、自身の在籍する THE BOOM の楽曲として 1992 年に発表された楽曲である。この楽曲は 1992 年にウチナーグチ（沖縄の方言）で歌われた音源が沖縄で CM ソングに起用され局地的にヒットし、1993 年には標準語で歌われた音源と併せて 100 万枚を超えるヒットとなり全国的に知られるようになった。また、この楽曲は音楽教科書へ 1995 年以降 12 回掲載され、沖縄の歌としてだけでなく、サッカー応援歌、平和の歌などとして現在でも親しまれている。海外では、台湾、中国、アルゼンチン、ポーランド、チリ、メキシコ、ロシアなど多くの国でカバーされ現地の愛唱歌になっている。例えば、中国・台湾では 1993 年に台湾の周華健（Emil Chau）によって「海角天涯」として広東語でカバーされたもの、1995 年に中国の艾敬（Ài Jìng）によって「島上／ON ISLE」として北京語でカバーされたもの、2003 年に台湾の梁静茹（Fish Leong）によって「不想睡」として北京語でカバーされたものが著名である。加えて、2002 年にアルゼンチンのマルチタレント、アルフレッド・カセーロ（Alfredo Casero）によって日本語でカバーされたものが現地で大ヒットを記録し、サッカーワールドカップのアルゼンチン代表チームの公式応援歌として使用されたことは、国内でも大きく報道された。

これら 3 曲は楽曲の特徴、拡散と浸透のパターンに多くの共通点を持つ。すなわち、大手レコード会社から発表されヒットを記録したこと、多数のカバーバージョンが制作されていること、教科書へ複数回掲載された経歴を持つこと、などが共通点として挙げられる。加えて、インターネットが今日ほど発展する以前に海外でヒットした経歴を持つことと、沖縄において民謡の定番曲として唄三線（うたさんしん）のスタイルで親しまれていることは特に興味深い共通点である。

## 2. 「花～すべての人の心に花を～」, 「涙そうそう」, 「島唄」の海外でのヒット

インターネットが発達した今日では、アイドルやビジュアル系ロックバンド、アニメソングを歌うアーティストを中心に J-POP が海外で高い人気を獲得する事例が増加している。アイドルでは、ヘビーメタルとアイドルの融合をコンセプトに海外ツアーを中心に活動する BABYMETAL、海外でもフランチイルズ展開を行う AKB48 グループ、大規模イベントへの招聘や単独コンサートの開催経験のある Perfume や「モーニング娘。」などの女性アイドルグループが挙げられる。また、中国や台湾でインターネットを中心に大規模なファンのネットワークが形成されている SMAP や嵐などジャニーズ事務所所属の男性アイドルグループも、海外での単独コンサートを開催している。ビジュアル系ロックバンドでは、海外の大規模会場での単独コンサート開催や海外ツアーの経験を持つ X JAPAN や L'Arc-en-Ciel、DRE EN GREY などが挙げられる。アニメソングを歌うアーティストでは、フランスを中心にヨーロッパの複数の国で毎年開催される「JAPAN EXPO」など大規模な日本のポップカルチャーを紹介するイベントへの招聘経験のある T.M.REVOLUTION や水樹奈々、ヴォーカロイドの初音ミクなどが挙げられる。こうしたクールジャパンの文脈とインターネットの発達によって海外へ活動の幅を広げたアーティストとその楽曲は、歌詞のメッセージや世界観などアーティスト自身の活動の文脈、楽曲が使用された作品の文脈がそのまま海外で受け入れられている。例えば、AKB48 グループのフランチイルズ展開としてインドネシアのジャカルタで立ち上げられた JKT48 では、常設劇場の設置や衣装デザイン、振付、楽曲、ミュージックビデオなど活動の多くに AKB48 の作品や運営ノウハウをローカライズしたものが用いられている。<sup>103)</sup> また、近年の J-POP のアーティストの海外公演では、自身のレパートリーは基本的に日本語の歌詞のまま歌い、公演中に現地の観客から日本語の合唱が起きることも多い。加えて、海外アーティストによって J-POP のカバー作品が制作される場合でも、近年は日本語の歌詞のまま歌われたり、日本語の歌詞の意味や世界観を損なわない翻訳で歌われたりするることが増えている。<sup>104)</sup>

しかしながら、こうした近年のインターネットやクールジャパンの文脈における J-POP の海外への拡散と浸透とは異なり、「花～すべての人の心に花を～」, 「涙そうそう」, 「島唄」の 3 曲は日本語の歌詞の内容とは異なる現地語の歌詞で現地のアーティストによって歌われ、現地の愛唱歌として定着した経歴を持つ。各楽曲の現地語の歌詞を例に分析すると、必ずしも日本語の歌詞に込められたメッセージを踏襲せず、異なる内容のメッセージが歌われていることがわかる。

「花～すべての人の心に花を～」の歌詞について、喜納昌吉は「泣きなさい／笑いなさい」の題材となった出来事を次のように語っている。

（立ち寄った食堂のテレビで）東京オリンピックのフィナーレをやったんです。急に見入ってしまって。涙が出てきた。黒人も白人もあらゆる国の民族が抱き合って、

笑い、踊ってた。あれは、本当に美しい光景で、今も私の眼のなかに入っている。このとき、“泣きなさい、笑いなさい”の響きが沸き上がってきたんですね。(テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 107)

また、歌詞の「花を咲かそうよ」は「喜納がトマトを栽培した経験から感じた『命の循環』と、世界に『平和の花が咲く』というイメージ」(文化庁編 2007: 178) が込められている。こうした喜納の体験をもとに制作された「花～すべての人の心に花を～」は、「涙も笑いも感情のすべてがあるから心は豊である、勇気をもって歩き続けよう」(テレビ東京「そして音楽が始まる」編 2003: 112) という内容が歌われている。これに対し、周華健の歌う「花心」の歌詞では「春は行くけどまた春は来る、花は散ってもまた花は咲く、悲しみや苦しみを忘れて前に進もう」(周 2004) という内容が歌われている。<sup>105)</sup>

「涙そうそう」は作曲者の BEGIN から森山良子に渡されたテープに添えられた「涙そうそう (涙がぼろぼろこぼれるとう意味)」というタイトルをもとに、森山が「自分の若いころに亡くなった兄のことを思い出し」(文化庁編 2007: 44) 歌詞を付けたものである。それゆえ、歌詞の内容は挽歌としての性質の強い「もう会えない大切な人を思った歌」だといえる。これに対して、「白鷺鷺 (白サギ)」と「陪我看日出 (私と日の出を見に行こう)」は別れた恋人のことを思う失恋ソングとして翻訳されている。「白鷺鷺」の歌詞は、恋人同士を白サギの夫婦に例え、「付き合っていた彼女に別れを告げて故郷を離れたが、もし離れなければ、今でも上手くやっていたのかもしれない、彼女とやり直したい」(黄 2007) という内容が歌われている。また、「陪我看日出」は「恋は終わってしまったが、相手のくれた言葉や思いは心の中に残している、失恋の悲しみは辛い、恋愛を経験したから成長できた」(蔡 2006) という内容が歌われている。

「島唄」は糸満市にある「ひめゆり平和祈念資料館」を訪れた宮沢和史が、資料館の語り部の話を聞いたことがきっかけで制作した楽曲である。「島唄」の歌詞について、宮沢は次のように語っている。

これは出会いと別れの恋の歌に聴こえるでしょうけど、これは沖縄戦での出会いと別れ…、つまり死ななくてはいけなかった理由は何かを歌った歌なんです。(中略) いごの花が春にたくさん咲き乱れると、その年は嵐がくるという伝説は知っていました。アメリカ兵が上陸したのは四月でした。それを僕は、嵐に例えたんです。あと、壕 (がま) というのが僕にとっては一つのキーワードで、そこから出ると沖縄の素晴らしい青空と海と、さとうきびが風に揺れて美しい。しかし、その地下では想像を絶することが、とても想像できないことが繰り返されていた。そのコントラストは、『島唄』の B メロ部分の歌詞にしました。さとうきび畑 (ウージ) の上で僕らは出会ったのに、なんでさとうきび畑 (ウージ) の下で、お互いを殺しあわなきゃいけないんだ…。この歌は、いろんなことを考えて作ったのではなくて、どんどん浮かんで



きて、絵を描くように曲ができたんです。もしかしたら、沖縄が『おまえ、これを歌え』っていついていたかもしれない。<sup>106)</sup> (テレビ東京「そして音楽が始まる編 2003: 99)

宮沢によると、「島唄」は第二次大戦中の沖縄戦を題材として制作された楽曲である。そのため、「島唄」の歌詞は表層的にはラブソングのようにも解釈できるが、沖縄戦当時の沖縄の悲しい情景や平和への祈りが込められている。これに対して、「海角天涯（遠く離れていても心は変わらない）」はまだ見ぬ理想の恋人を追い求める決意の歌として、「島上（島の上）」は希望の歌として、「不想睡（眠りたくない）」はラブソングとして、それぞれ翻訳されている。「海角天涯」は「理想の恋人を探し求めている、水平線に小島が現れたら、それが君だ、どこにいるか判らないが必ず探し出す」(Various Artists 2003) という意味の歌詞で、理想の恋人を小島に例えた内容が歌われている。「島上」は島の上で生活する人々や島へ吹き込む海風を希望の象徴に例え、人々の幸せや新しい生活や未来への希望が歌われている（艾 1995）。「不想睡」は恋人と一夜を過ごす女性視点の歌詞で、「ほろ酔い気分で半分は夢の中にいるが、完全に眠ってしまったら今の幸せな感覚が無くなってしまう、明日よりも今日も今この瞬間を大切にしたい」（梁 2004）という気持ちが歌われている。

### 3. 「花～すべての人の心に花を～」, 「涙そうそう」, 「島唄」と沖縄の音楽文化<sup>107)</sup>

沖縄は音楽が盛んな地域であり、J-POP やオキナワンロック<sup>108)</sup> などのポピュラー音楽だけでなく、琉球古典音楽と呼ばれる琉球王国時代に制作された宮廷音楽や宮廷舞踊のための約 230 曲の楽曲、古くから歌い継がれてきた伝統的な民謡、昭和時代以降に制作された新作の民謡が人々の生活の中に根差している。沖縄の民謡と琉球古典音楽は、琉球音階と呼ばれる「ド・ミ・ファ・ソ・シ・ド」という独自の音階で構成され、三線の指使いと歌詞を示した工工四（くんくんしー）と呼ばれる楽譜を基に、三線を弾きながら同時に歌う演奏スタイルで奏でられる、独特の響きや様式を持つ音楽である。沖縄では、結婚式など祝宴の席で祝いの歌として琉球古典音楽の「かぎやで風」が必ず演奏されるだけでなく、民謡居酒屋のステージや商業施設の BGM、お盆の時期に踊られるエイサー、学校や地域の行事など日常の様々な場において、民謡と古典音楽が録音物と生演奏の双方で奏でられている。沖縄の放送メディアにおいて民謡や古典音楽が占める割合は多く、民放ラジオ局では『民謡の花束』(RBC ラジオ) などの民謡を専門とする番組が毎日放送されるだけでなく、1 日を通じて、新作民謡の紹介やリクエストを受けた楽曲の放送が行われている。民放テレビ局においても年間を通じて民謡や古典音楽、琉球舞踊、沖縄芝居などを専門とす番組が数多く放送されており、特に 1962 年に開始された『新春民謡紅白歌合戦』(RBC テレビ) は沖縄における正月の定番番組として親しまれている。また、『沖縄タイムズ』や『琉球新報』といった新聞社主催による民謡や琉球舞踊などの大規模なコンクールも 1960 年代から長く続けられている。こうした場において活躍する人々は、プロ（専業）のミュージシャ

ンよりもセミプロやアマチュアと呼ばれる愛好家が多い。県内には一般向けの音楽教室として、安富祖流絃声会や野村流音楽協会といった流派の名前を掲げた「琉球古典音楽研究所」が数多く存在する。「研究」とは沖縄の現代方言で「歌や三線の技を研鑽すること」（金城 2006: 186）を意味し、「研究所」は先生から生徒へ歌と三線の技術を教授し、愛好者を育てるための稽古場として機能している。

現在の沖縄で演奏されている伝統的な民謡や琉球古典音楽のレパートリーは、明治時代以降に広く親しまれるようになったものである。沖縄は 1879 年の琉球処分までの約 450 年近くにわたり、東アジア諸国との中継貿易地点を担い、琉球王国という独自の外交と文化を持つ王国として繁栄していた。琉球王国は 17 世紀から 19 世紀半ばにかけて薩摩藩による実質的な支配下にありながら、中国とも 14 世紀からの「冊封・朝貢関係による深い結びつきを維持」（金城 2003: 18）してきたため、「日本本土だけでなく、東アジア、東南アジアのさまざまな文化から直接間接の影響を受け続けてきた」（金城 2003: 18）といえる。琉球古典音楽はこうした政治的、経済的、外交的背景のもと、中国からの冊封使をもてなすための重要な外交手段として位置づけられており、首里王府に仕える士族・官人層の役人によって公務として担われていた。こうした中で、琉球古典音楽は、「劇聖」と呼ばれ組踊（くみおどり）<sup>109</sup> を創作した玉城朝薫（たまぐすくちょうくん）、現存する最古の工工四を編纂し唄三線のレパートリーを集大成した屋嘉比朝寄（やかびちょうき）、知念績高（ちねんせっこう）に師事し芸論『歌道要法』を記した安富祖正元（あふそせいげん）、琉球王朝末期に上中下 3 巻の『欽定工工四』の監修を務めた野村安趙（のむらあんちょう）、野村に師事し『欽定工工作四』を編纂し記譜法の改革を行った松村真信（まつむらしんしん）など、多くの官僚演奏家たちによって長い時間をかけて完成させられていった。しかしながら、1879 年の琉球処分により沖縄県が設置され琉球王国が滅亡すると、公務として琉球古典音楽が奏でられる機会は消滅し、「演奏の場を失い、職を失った官僚演奏家たちの一部は、一般庶民に唄三線を教授したり、芝居小屋に出演」（松村 2002: 76）したりして、宮廷芸能を披露するようになった。また、開墾地を与えられ沖縄の各地へ散った役人たちによって、唄三線や組踊はそれぞれの土地の人々へ伝えられ、村人たちは唄三線を覚え、「村の年中行事として舞台を組み、舞踏や組踊を演ずるようになった」（金城 2006: 71）。このようにして、琉球王国時代には支配階級の専有物として宮廷の中だけで存在していた琉球古典音楽や組踊は、明治時代になって早々に一般の人々へ解放され、急速に広まったといえる。

伝統的な民謡もまた、この時期に大きな変化を経験した。琉球処分以降、那覇に残り一般の人々を相手に有料で唄三線や組踊りを披露していた元官僚演奏家たちによって、新しく「雑踊り」と呼ばれる商業演劇が生み出された。雑踊りはそれまでの琉球古典舞踊とは異なり、「庶民の娘や若者、遊女などを題材とした舞踊」（金城 2006: 72）であり、踊りの動作も「姉小舞い」と呼ばれる「村々の民族的な舞踊の動きを取り入れた」（金城 2006: 72）舞踊である。加えて、この舞踊とともに奏でられる音楽には、数多くの「沖縄・宮古・八

重山諸島の民謡が導入され、それらの民謡のメロディーに新たな歌詞や台詞をのせること」（高橋 2010: 22）が盛んに行われた。例えば、八重山諸島の竹富島で歌われていた「安里屋ユンタ（あさとやゆんた）」に三線による節をつけた「安里屋節」が制作されるなど、それまで各島々において手拍子、足拍子と共に歌われ口伝のみで伝承されていた民謡は、那覇の演芸場を通じて広く知られるようになった。このようにして、現在も多くの人々に親しまれている伝統的な民謡のレパートリーの多くは、この時期の商業演劇を通じて整理され創作されたものといえる。

明治時代以降、一般に広く親しまれるようになった琉球古典音楽と伝統的な民謡は、昭和時代になると、新作民謡とともにレコードと放送メディアを通じてさらに広がりを見せる。1927 年、「沖縄新民謡のパイオニア」（高橋 2010: 23）と評され、「移民小唄」や「布哇節（はわいぶし）」など新作民謡の作者として知られる普久原朝喜によって、沖縄音楽を専門とするインディペンデントのレコード会社、マルフクレコード（丸福レコード）が大阪で立ち上げられた。普久原はマルフクレコードにおいて「作詞・作曲、唄、録音、販売と、レコードの制作から販売までをほとんど一人でやっていった」（仲間 2007: 178）だけでなく、多嘉良朝成や桜家音子、仲泊兼浦など多くの演者を起用し、琉球古典民謡や伝統的な民謡、新作民謡、歌劇、芝居を含む広範囲にわたる沖縄芸術の音源制作を手掛けている。普久原によって制作された沖縄音楽のレコードは、大阪市大正区をはじめとする関西の沖縄出身者のコミュニティだけでなく、沖縄出身者が多いハワイや南米において広く流通した。マルフクレコードに続き、第二次大戦前にはツル印琉球レコード、トモエ印琉球レコード、ヤマキ印琉球レコードなどが立ち上げられ、琉球古典音楽や伝統的な民謡、新作民謡はレコードを通じて多くの人々に親しまれるようになった。こうした流れは第二次世界大戦によって中断されるも、1952 年に活動を再開したマルフクレコードや 1955 年に高良時計店が設立したマルタカレコードによるレコード産業の復興、1949 年のラジオ放送再開と 1954 年以降の相次ぐ民放ラジオ局とテレビ局の開局によって 1960 年ごろまでに勢いを取り戻した。マルフクレコードは創業者の普久原朝喜の息子で作曲家の普久原恒勇をヒットメーカーとして育て、マルタカレコードは「前川朝昭（1912-1989）、知名定繁、山内昌徳（1911-）、糸数カメ（1915-1991）、船越キヨ、登川誠仁（1930-）、知名定男などを専属歌手として精力的に沖縄民謡のレコーディングを行い」（高橋 2010: 26）、後発のマルテルレコードやゴモンレコード、RBC レコードなどと共に数多くの新作民謡のヒット曲を生み出した。また、ラジオやテレビの民謡番組においては「民謡のエンターテインメント性を追求」（高橋 2010: 27）した番組が数多く制作され、新聞社主催の大規模なコンクール開催と併せて、民謡や琉球古典音楽の愛好者を飛躍的に増やした。現在まで続く民謡と琉球古典音楽の盛んな沖縄の音楽文化は、このような沖縄のレコード産業と放送メディアによって方向づけられ形成されたものだといえる。沖縄における新作民謡の制作は現在も続けられており、民謡のレパートリーは現在も増え続けている。

このような民謡と琉球古典音楽が盛んな沖縄の音楽文化において、「花～すべての人の心

に花を〜」、「涙そうそう」、「島唄」をはじめ、BEGINによる「島人ぬ宝」（2002年）や喜納昌吉による「ハイサイおじさん」（1976年）などのポピュラー音楽の一部が民謡として定着している。これらの楽曲は、ヒット曲として全国的に知名度の高いレパートリーであることだけでなく、メロディーに琉球音階が使用されているため、民謡や琉球古典音楽とともに、三線を弾きながら同時に歌う唄三線のスタイルで演奏され親しまれている。これらの楽曲は、工工四が制作され民謡の楽曲集に掲載されているほか、キャンパスレコードなど民謡専門のレコード会社から唄三線のスタイルで演奏されたカバー音源が発表されている。<sup>110)</sup>

#### 4. 「島唄」の誕生と大ヒット、「沖縄の歌」としての「島唄」

1986年11月に結成された宮沢和史がヴォーカルを務めるTHE BOOMは、原宿の歩行者天国で続けていた路上ライブが注目を集め、1989年5月にCBS/Sony Recordよりシングル「君はTVっ子」とアルバム『A PEACETIME BOOM』の同時発売でメジャーデビューしたロックバンドである。THE BOOMはメジャーデビューの翌年の1990年3月には日本武道館で「いつものボクたちが、いる。」と題したコンサートを行うなど、THE BLUE HEARTSやJUN SKY WALKER(S)などと共にバンドブーム期を代表するロックバンドとして人気を集めていた。

宮沢が初めて琉球音階を取り入れた楽曲を制作したのは「ひやくまんつぶの涙」という楽曲で、1990年9月に発表したTHE BOOMのアルバム『JAPANESKA』に収録された。宮沢はこのアルバムのジャケット撮影で初めて沖縄を訪れて以来、「何度も沖縄に足を運び、多くの沖縄民謡を聴き、沖縄の文化に触れた」（Five-D 2009）ことで、沖縄への理解を深めていった。そして、宮沢は1991年初頭に糸満市にある「ひめゆり平和祈念資料館」を訪れ、現地のガイドの話を聞き感銘を受けたことをきっかけに、琉球音階や三線の音色を取り入れた「島唄」の制作をはじめた。しかしながら、「島唄」の発表について、宮沢とTHE BOOMのプロデューサーである佐藤剛は「当時、沖縄音階や楽器を使った音楽に本土の人間がトライすることには、沖縄の人だけでなくスタッフやレコード会社にも拒否反応があった」（『朝日新聞』2005.4.23 夕刊）と語っている。宮沢自身も、「島唄」の発表についての葛藤や困難と、「島唄」の発表を喜納昌吉の後押しによって決意したことを次のように語っている。

実は「島唄」を作った時、いいものができたけど三線弾いていいのか、発表していいのかもわからなかった。文句を言う人もいるだろうし、失礼になってはマズい。沖縄の尊厳を傷つけることはよくないし、せっかく開きかけていた扉を閉ざすこともよくない。自分なりに悩んでいて。それでまず昌吉さんに相談に行ったら、「どんどんやれ!」と。「ちょうど今僕らもヤマトの方に乗り込むから、アンタこっちに来てくれ」っ

て。「魂もちゃんとコピー出来ていればそれは真似じゃないから。アンタのこの歌は沖縄をよくとらえている。真似じゃないからどんどん来い」って言うてくれて。それで勇気をもって発表したら...いろいろなバッシングにあったという(笑)。(中略)でも、昌吉さんに言ってもらえなかったら、日の目はみてないし、ましてやシングルなんてとんでもない感じでしたよ、当時は。ただし、多くのバッシングは確かにありました。まさかヒットするなんとは思ってないから。(大畑 2015: 72)

このような経緯を経て発表された「島唄」は、1992年1月に発表されたTHE BOOMのアルバム『思春期』に初めて収録され、同年9月のベストアルバム『THE BOOM』にも再度収録された。さらに、「島唄」は「この歌を沖縄の人に聴いてもらいたい」(テレビ東京「そして音楽がはじまる編 2003: 97」という理由から沖縄の言葉で歌った「島唄(ウチナーグチ・バージョン)」が制作され、同年12月にシングルとして沖縄限定で発表された。このバージョンは沖縄の酒造メーカー、瑞穂酒造の製造する泡盛「Xi(クロッシー)」のローカルCMソングとして使用され、1993年1月には「沖縄地区のラジオリクエスト、CDセールス、有線チャートのトップを独占(中略)2万枚と沖縄では記録的なヒットになった」(日経流通新聞 1993.6.22)とされる。こうした沖縄におけるヒットを受け、「島唄」は1993年6月に標準語で歌った「島唄(オリジナル・バージョン)」がシングルとして全国発売され、沖縄のイメージを前面に打ち出したプロモーション活動が行われた。CDジャケットは「島唄(ウチナーグチ・バージョン)」では三線を弾く宮沢が、「島唄(オリジナル・バージョン)」ではサトウキビ畑にたたずむ宮沢がそれぞれ使用された。ミュージックビデオはオリジナル、ウチナーグチ、ライブの3バージョンが映像監督の真喜屋力によって制作された。オリジナルのものは八重山諸島にある竹富島で撮影され、ウチナーグチのものは「(50組の)沖縄の人々が島唄をうたう姿をつなぎ、最後に宮沢さんが受けるという構成」(真喜屋 2003: 33-34)で制作された。また、「島唄」のライブパフォーマンスでは、宮沢が三線を弾きながら演奏を行い、同年10月にはTHE BOOMとして、喜納昌吉&チャンプルーズのプロデュースのもと宜野湾海浜公園野外劇場で開催された「ニライカナイ祭 アース・ミュージックフェスティバル」など沖縄の音楽イベントにも出演した。そして、THE BOOMは同年12月、「島唄」のヒットによって、『第35回日本レコード大賞』ではベストソング賞を受賞し、『第44回NHK紅白歌合戦』では「島唄(ウチナーグチ・バージョン)」を演奏した。このようにして、「島唄」は2つのバージョンのシングルを合わせて100万枚以上売り上げ、全国的に知られるようになると同時に、沖縄の歌としてのイメージも形成されたといえる。

1994年以降、宮沢はTHE BOOMとソロ活動においてブラジル音楽などワールドミュージックに傾倒した活動を続けながら、1995年8月に沖縄戦終結50周年を記念して開催された那覇市主催の音楽イベント「天に響け さんしん 3000」で披露された「太陽アカラ 波キララ」をはじめ、1999年には「オキナワ」、2001年には「沖縄に降る雪」など沖縄を題

材にした楽曲を発表し、「島唄」のヒットを受けた活動を続けた。その一方で、「島唄」は THE BOOM のヒット曲として親しまれながら、宮沢や THE BOOM の活動から独立し、カバー曲として広く歌われるようになる。最初に発表された「島唄」のカバーは、加藤登紀子によるもので、1993 年 8 月に発表されたアルバム『MONSOON～祈りの歌を呼び戻す～』に収録された。このアルバムはアジアをテーマとした作品であり、加藤のオリジナル楽曲に加え、中国民謡の「謠籃曲」、香港の中国返還への期待が歌われた「我的 1997」、沖縄の楽曲として「イラヨイ月夜浜」とともに「島唄」が収録された。<sup>11)</sup>「島唄」のカバーはその後、台湾の周華健（1993 年）、宮沢とも親交のあるジャマイカのレゲエシンガーの YAMI BOLO（1994 年）、中国の艾敬（1995 年）、沖縄の民謡歌手の我如古より子（1995 年）や乙女椿（2001 年）二胡奏者の姜建華（Jiang Jianhua）（1996 年）や賈鵬新（Jia Pengxin）（1998 年）、イギリスのクラシック歌手の IZZY（2001 年）などによって発表されている。特に、周華健と艾敬によるカバーは、THE BOOM による国内でのヒットの後ほとんど時間を空けずに中国・台湾で大ヒットし、「島唄」が海外で知られるきっかけを作ったといえる。

加えて、「島唄」は 1996 年に初めて音楽教科書に教材として掲載され、学校で歌われるようになった。「島唄」の音楽教科書への掲載は 2011 年までに 12 回行われ、2006 年には中学校の英語教科書『Sunshine』に楽曲制作時のエピソードと共に掲載された。また、運動部活動においては、沖縄県内の高等学校が選抜高校野球大会や全国高等学校野球選手権大会に出場する折に、チームの応援歌として演奏されている。

## 5. 「島唄」の再市場化と「国境を越えて愛される歌」としての「島唄」

2002 年から 2003 年にかけて、宮沢和史と THE BOOM による「島唄」の積極的なプロモーション活動が再度行われた。このきっかけになったのは、2002 年 2 月、「島唄」がアルゼンチンで大ヒットしている、というニュースを宮沢の所属する Five-D のスタッフが偶然見つけ、アルゼンチン側へコンタクトを取ったことである。

アルゼンチンで広まった「島唄」は、現地のマルチタレントのアルフレッド・カセーロが日本語でカバーし「SHIMAUTA」として発表したものである。カセーロの歌う「SHIMAUTA」は現地で大ヒットだけでなく、2002 年 4 月に「アルゼンチンのグラミー賞といわれる『ガルデル音楽賞』を受賞」（Five-D 2009）したことを受け、同年に開催された日韓共催 FIFA ワールドカップのアルゼンチン代表チーム公式応援歌として採用された。カセーロは「島唄」をカバーした理由を、THE BOOM オフィシャルサイトに掲載された 2002 年 2 月 6 日付のインタビューで次のように語っている。

これは、本当にミラクルなんだ。たまたまブエノスアイレスの寿司レストランの中で沖縄の音楽がかかっていた。その音楽にひかれ、ちょうど自分のアルバムの制作の最中だったこともあって、「もっと聴かせてくれ」とお店の人をお願いしたんだ。そこ

で聴いたのが THE BOOM の「島唄」だった。聴いた瞬間に「これだ!」と思ったんだ。その場でコピーをしてもらって、家で何度も聴いて練習をして、プロデューサーに歌って聞かせた。日本人の歌手が必要だと主張して、Claudia Ohshiro（クラウドディア大城）を紹介してもらったんだ。彼女からはこの曲が沖縄の人にとってとっても大切なものだとして教えてもらった。沖縄についても教えてもらった。歌詞の内容も知り、日本から海を越え届いたこの曲が今度はアルゼンチンから発信されるんだと思った。でも歌詞だけでなく、この曲自体がとてもシンプルなメッセージになっているように感じる。宮沢がメッセージを発信していて、僕はただのアンテナだけだね。アルゼンチン人は日本語が理解できないから、歌詞を理解してもらえよう、ビデオクリップを作ることにしたんだ。世界中が哀しい状態だから、何か幸せなことが必要だと思っている。この曲を作ったことで、僕はとても幸せだ。日本の人たちがこの曲を気に入ってくれているということを聞いて、日本にも幸せを運べたことがとても嬉しい。

(Five-D 2009)

宮沢とカセーロは同年 4 月にアルゼンチンの首都ブエノスアイレスで初めて対面し、共同で現地のマスメディアへ向けたプロモーション活動を行うとともに、「市内にある日本庭園で約 5000 人の観衆を集め」(Five-D 2009) コンサートを行った。同年 6 月にはカセーロが来日し、国立競技場で開催されたワールドカップ日本対チュニジア戦のパブリック・ビューイングや THE BOOM のコンサートなどで宮沢と共演した。その後、宮沢とカセーロは沖縄を訪れて親交を深め、同年 12 月の『第 53 回 NHK 紅白歌合戦』では「アルフレッド・カセーロ & THE BOOM」として共演し「島唄」を演奏した。

このような宮沢とカセーロによる「島唄」をめぐる活動がサッカーや沖縄関連の話題とともにマスメディアで盛んに報道されたことによって、「島唄」は再び注目を集め、この時期に再市場化を果たしたといえる。2002 年 5 月に発表された THE BOOM とカセーロの「島唄」を収録したシングル「島唄 Shima Uta」は 10 万枚を超える売り上げを記録し、6 月には「SHIMAUTA」を収録したカセーロのアルバム『CASAERIUS〜SHIMAUTA〜』の国内盤と THE BOOM や宮沢のソロ作品から沖縄関連の楽曲を集めたアルバム『OKINAWA〜ワタシノシマ〜』が同日に発表された。続いて、9 月にはスペイン語圏向けに向けた THE BOOM のベストアルバム『SHIMAUTA-Grandes Exitos-』がブラジルやアルゼンチンで発表され、2003 年 1 月には「島唄」のスペイン語バージョン「Cancion de la Isla(Shima Uta)」を収録した宮沢のベストアルバム『MIYAZAWA-SHICK』が発表された。

国内とアルゼンチンにおける「島唄」の盛り上がりを受け、2002 年 7 月のスペイン公演から始動した宮沢のソロプロジェクト、MIYAZAWA-SHICK のワールドツアーでは、各地で「島唄」が演奏された。MIYAZAWA-SHICK のワールドツアーは国際協力基金や各国の日本大使館の後援を受け、2003 年 7 月にポルトガル、ポーランド、ドイツで、2004 年 8 月にはアルゼンチン、ブラジルで、2005 年 1 月から 2 月にかけてフランス、ブルガリア、ポー

ランド、ロシア、イギリス、日本で、同年 10 月から 11 月にかけてブラジル、ホンジュラス、ニカラグア、メキシコ、キューバで公演が行われた。このワールドツアーでは、現地の観客との「島唄」の合唱や、「島唄」をカバーする現地のアーティストとの共演、現地のマスメディアへのプロモーション活動が行われた。<sup>112)</sup> また、2003 年 10 月にインドネシアで開催された「J-ASEAN POPS」へは THE BOOM として出演し、現地において日本で働くための職業訓練を受けていた青年たちの働きかけにより、「島唄」を彼らと共に演奏した。（日本経済新聞 2003.12.1 夕刊）こうした海外における宮沢の活動は「島唄」とともに国内のマスメディアでもしばしば報道され、「島唄」は「発表から 10 年、世界の名曲に」（『日本経済新聞』2003.12.1 夕刊）や「世界各国で歌い継がれている」（『読売新聞』2004.7.3 夕刊）、「アジア、中南米、欧米など、11 か国以上の歌手に歌われ、『上を向いて歩こう』に続く世界のスタンダード曲に育ちつつある」（『朝日新聞』2005.4.23 夕刊）など、「国境を超えて愛される歌」としてのイメージが形成されたといえる。「国境を越えて愛される歌」としての「島唄」は、2005 年 4 月に開催された「日露修好 150 周年記念式典」をはじめ、同年 7 月の「愛・地球博」で開催された「キューバ・デー」、2008 年に開催された日本からブラジルへの移民 100 周年を記念した複数のイベントや同年 12 月の『第 59 回 NHK 紅白歌合戦』での企画「ブラジル移民 100 周年」など、外交をテーマとした祈念式典において歌われている。

## 6. 「平和／反戦の歌」としての「島唄」

2005 年 1 月～2 月に行われた MIYAZAWA-SICK のヨーロッパツアー終了後から、「島唄」は「沖縄の歌」や「国境を越えて愛される歌」というイメージに加え、「平和／反戦の歌」というイメージが形成されていく。こうしたイメージの形成は、宮沢自身や所属事務所が「島唄」の制作背景や解釈を発信するようになったこと、および、彼らの情報発信を受けたマスメディアによる報道によって行われたといえる。

「島唄」が沖縄戦を題材にした楽曲であり平和への祈りを込めた歌であることは、「島唄」がカセーロにカバーされた 2002 年頃から、徐々に宮沢によって語られるようになった。この当時のことを、宮沢や THE BOOM のプロデューサーである佐藤剛は「楽曲の解釈は言わないと伝わらないので、最初は内部スタッフからマスメディアに伝えられ、それをファンクラブなどの媒体でアーティスト自身が肯定し、アーティスト自身が語るようにした」と語っている。<sup>113)</sup> こうした流れを受けて、2003 年 5 月 11 日にテレビ東京で放送された音楽ドキュメンタリー番組『そして音楽が始まる』においては、「歌に刻まれた沖縄戦史—『島唄』 THE BOOM」と題し、宮沢による「島唄」の詳細な制作背景や解釈が、民謡歌手の登川誠人、ひめゆり平和祈念館の語り部によるコメントとともに放映された。宮沢はこの番組で、「島唄」の制作背景を次のように語っている。



そこには、壕がジオラマで作ってあって、訪れた人が防空壕の中に来たことをバーチャルに感じられるようになっているんです。それがまず、重くずしとききました。ひめゆり学徒隊の生き残られた女性の方が、こういうことがあったんですよと、ひめゆり祈念館に最初に行った時に話してくださったんです。そのとき、すごく恥ずかしかったんです、知らないっていうことが。そんな風に一生懸命僕に話してくれたその方の人生は、残された人生すべてを、それを伝えるために生きてらっしゃると言ってもいいくらいですよ。（中略）

自分はこのうのと生きているけど、この人たちがいて俺たちがいるんじゃないかっていう気持ちからなかなか回復できなかった。ただ、波の音を数えながら、夜更けまで遠くを見てました。それからしばらく経ってからでした。『島唄』を作ろうと思ったのは。（テレビ東京「そして音楽がはじまる編 2003: 95-97）

加えて、2005年8月22日から9月2日にかけて朝日新聞で連載された『宮沢和史の旅する音楽』（全10回）では、宮沢は「島唄」を「たった一人のおばあさんに聴いてもらいたくて作った歌」（宮沢 2005）として、次のように、より詳細な制作背景と解釈を語っている。

91年冬、沖縄音楽にのめり込んでいたぼくは、沖縄の「ひめゆり平和祈念資料館」を初めて訪れた。そこで「ひめゆり学徒隊」の生き残りのおばあさんに会い、本土決戦を引き延ばすための「捨て石」とされた激しい沖縄地上戦で大勢の住民が犠牲になったことを知った。

捕虜になることを恐れた肉親同士が互いに殺しあう。極限状況の話を聞くうちにぼくは、そんな事実も知らずに生きてきた自分に怒りさえ覚えた。

資料館は自分があたかもガマ（自然洞窟＜どうくつ＞）の中にあるような造りになっている。このような場所で集団自決した人々のことを思うと涙が止まらなかった。

だが、その資料館から一歩外に出ると、ウージ（さとうきび）が静かに風に揺れている。この対比を曲にしておばあさんに聴いてもらいたいと思った。（宮沢 2005）

こうした宮沢による「島唄」についての語りは、以前までの宮沢の語り、つまり、自身の音楽的趣向を中心に沖縄をジャマイカやブラジルなどと同列にワールドミュージックとして扱いながら「島唄」の制作動機に軽く触れていたことと対照的である。例えば、琉球音階で構成された「島唄」メロディーについて、中間部分にのみ西洋音階を取り入れた理由として、宮沢は1993年のインタビューで「ただ沖縄音楽をなぞるのではなく、その精神を消化して、THE BOOM ならではの音楽として打ち出したかった」（『読売新聞』1993.10.29 夕刊）と語っていた。これに対して、2005年のエッセイでは次のように語っている。

歌詞の中に、ガマの中で自決した 2 人を歌った部分がある。「ウージの森で あなたと出会い ウージの下で 千代にさよなら」という下りだ。「島唄」はレトラがない沖縄音階で作ったが、この部分は本土で使われている音階に戻した。2 人は本土の犠牲になったからだ。(宮沢 2005)

宮沢は、こうした「島唄」の制作背景や解釈を発表から数年間、語らずに歌い続けてきた理由を 2013 年のインタビューで次のように語っている。

あの歌ってというのは男女の悲哀、出会って別れるという歌ですけど、すべての歌詞は裏の意味があります。戦争というものを二度と起こさず、平和な世の中が続くようにという願い、祈り。そして、まだ島から空に帰っていけない魂たちへの鎮魂。様々な意味が込められているんです。(中略)

ダブルミーニングで、祈りを込めて知ってもらおうっていう歌なんですね、「島唄」は。沖縄の若い世代の人にも、世界の人にも。

でも、その歌詞の意味っていうのは、ずっと言えなかったです。言うべきじゃないとも思った。発表したのがバブルの終わり頃。「沖縄戦の悲劇を曲に書きました」なんて言っても、きっと届かないと思いました。「聴きたくないよ、そんなの」っていう時代。頑なに言わなかったですね、何年も。

ですから、「あんた勝手に三線持って、琉球音階使って何様かあ」「けしからんぞ」とかいう声が、沖縄から聞こえてきても釈明できないんですよ。そうじゃなくて、こういう歌なんですよって言えなかったから。それが歯がゆくて歯がゆくて。

でも我慢して、歌い続けていればきっとわかってもらえる、と思った。中途半端に沖縄に立ち寄って、美味しいところをつまみ食いして去っていくっていう人間じゃない、っていうのをわかってもらうためには、もう歌い続けるしかないですからね。(「琉球の風」実行委員会編 2013: 196-107)

宮沢のこうした葛藤を背景に、楽曲の発表から数年間語られなかった「平和／反戦の歌」としての「島唄」は、2005 年頃から広く知られるようになり、沖縄出身でバプティスト教会牧師のテノール歌手、新垣勉によって歌われたり、各地のイベントや学校教育において平和学習のための教材として取り上げられたりするようになった。宮沢自身も 2010 年 4 月に始められた「ひめゆり平和祈念資料館」と朝日新聞などの主催による巡回企画展「ひめゆり 平和への祈り展」に出演し、沖縄戦の生存者らと語り合い、「島唄」を演奏するとともに楽曲に込めた平和や反戦への想いを伝えた(『朝日新聞』2010.4.28)。宮沢はまた、同年 10 月には読売新聞社などの主催により東大寺で開催された「平成音声会」において、廬舎那仏の前で平和がテーマの楽曲として「島唄」を演奏している(『読売新聞』2010.10.16)。2015 年 6 月には、「沖縄慰霊の日」を特集する報道番組において、宮沢は首里城で多くの

琉球民謡の唄者（うたしゃ）<sup>114)</sup>たちと「島唄」を演奏した（日本テレビ 2015）。

## 7. 「島唄」の20周年と「沖縄の歌」へ回帰する「島唄」

2013年、発表から20周年を迎えた「島唄」は、大ヒットした1993年と同じく「沖縄の歌」としての側面を前面に打ち出して、宮沢和史やTHE BOOMによる積極的なプロモーション活動が行われた。THE BOOMは、2013年3月に新たにレコーディングを行った「島唄（20周年記念シングル）」と新たなミュージックビデオを発表、6月には沖縄をテーマとしたアルバム『世界でいちばん美しい島』を発表した。また、フジテレビ『THE MUSIC DAY』などの音楽番組への出演やインタビュー取材など、マスメディアへの積極的な露出も行われている。しかしながら、THE BOOMは2014年に解散し、宮沢は2016年にミュージシャンとしての活動を終了した。そのため、「島唄」は1992年に発表されて以来、長く持ち歌として演奏し続けてきたミュージシャンを失ったといえる。<sup>115)</sup>

2013年3月、第5回沖縄国際映画祭の企画「地域発信型プロジェクト」において、地域特有の生活、伝承、観光、産業などを取り入れた「地域発信型映画」の1作品として短編ドキュメンタリー映画『THE BOOM 島唄のものがたり』が上映された。この作品は、「沖縄出身の著名人や読谷村の住民が出演し、＜『島唄』誕生前夜＞＜誕生＞＜現在～『島唄』PV制作＞＜未来～くるちの杜に込められた思い＞の4部構成」（映画.com 2013）で、「島唄」の誕生から20年間を総括するものとして、「島唄」のミュージックビデオを手掛けた真喜屋力が監督を務めた。この映画の中で、「島唄」は沖縄に受け入れられ根付いた楽曲として3つの視点から語られている。すなわち、宮沢による「島唄」についての語り、「島唄」が沖縄（あるいは沖縄の人々）に与えた影響、「島唄」を象徴とする「くるちの杜100年プロジェクト」である。

宮沢による「島唄」についての語りは、これまでも語られてきた「島唄」の制作背景や解釈とともに、「島唄」が発表から20年を過ぎて「多くの人が歌ってくれる歌」（THE BOOM 2014）へと成長した喜びが語られている。このことについて宮沢は、同時期に行われたインタビューで次のように語っている。

今では、沖縄の人にとって、数ある沖縄の昔からある一曲みたいになっている。あの木は昔から生えてたよ、あそこに、みたいな。三線の楽譜である工工四の曲集に「島唄」が乗ったり、沖縄手帳の1月24日のところに「『島唄』発売」なんて書いてあったり。特別なものじゃなくて、普通の歌になったというのが、うれしいですね。歌い続けないと、できなかったことですから。（「琉球の風」実行委員会編 2013: 107-108）

色々あったけど、隅っこに入れてくれたんだなあと感慨深かった。沖縄の歌になったんだと思いました。（中略）死ぬまでにどれくらい歌えるかなんてだいたいわかる。

でも、この間にも誰かが歌ってくれているかもしれない。自分だけで伝えきれないことを他の人がしてくださる。そんな歌になって欲しいですね。（『朝日新聞』2013.4.8 夕刊）

「島唄」はこの時点で既に多くの人々に歌われる「国境を越えて愛される歌」であったが、発表当初は楽曲への批判的な意見もみられた沖縄において、「島唄」が人々に受け入れられ根付いていることが、歌い続けてきた宮沢の実感とともに読み取れる。

「島唄」が沖縄（あるいは沖縄の人々）に与えた影響については、沖縄出身の著名人たちによって肯定的な意見と批判的な意見の双方が語られている。「島唄」への肯定的な意見は、「本土と沖縄の扉を開いた（上地等）」<sup>116)</sup>、「東京、大阪、福岡、すべての人が知っている曲は初めてだから、普通の歌謡曲としてヒットしたことは自分的にも誇らしい（山崎トオル）」、「宮沢さんの楽曲でありながらみんなの歌になっている（新垣勉）」、「三線の音がかっこいいと思ったり、民謡みたいなメロディーラインとかもかっこいいと思ったのは『島唄』を聴いた時でした（やなわらばー）」などが語られたりしている（THE BOOM 2014）。加えて、「島唄」が沖縄の民謡シーンへ与えた影響のひとつとして、「島唄」をきっかけに若い人が沖縄の民謡に興味を持つようになったことを、民謡歌手の我如古より子、マルチタレントの藤木勇人は次のように語っている。

宮沢さんの、THE BOOM の三線のおかげで、三線に興味を持ち沖縄の音楽に興味を持ち、そして沖縄の民謡を歌ってみたい、聴いてみたい、と思う連中が現れはじめたわけさね。当時の民謡クラブは沖縄ローカルというか、沖縄のおじい、おばあの憩いの場所だったところに観光客が来るわけさ。（藤木勇人）（THE BOOM 2014）

（民謡酒場に）若者が多くなった。私の世代は沖縄の民謡、沖縄の島唄は年寄りがするものという固定観念を持っていた。（中略）でも今は、大学生ですとか若い子たちが沖縄の島唄、民謡を勉強して、若い子たちがお客さんとして増えてきました。（我如古より子）（THE BOOM 2014）

これらに対して、民謡歌手の知名定男と古謝美佐子は、「島唄／しまうた」という呼称の問題に触れながら、「島唄」に当初は批判的な印象を持ったことを次のように語っている。

ややこしいんですよ、島唄の私からすると。モンゴルかどっかの外国のオーケストラが来た時に、「沖縄の代表曲を聴いてください」と「島唄」が流れたときには、「えっ、沖縄の歌じゃないし、沖縄にはもっともっと素敵なお歌がいっぱいあるし、これは島唄ではないでしょう」って。勘違いされた部分は大きい。私たちは小さいころからずっと島唄を歌ってきたから、その中で、島唄というものを後ろに背負ってそれを

タイトルにするっていうことは、私からすれば絶対にできない、ありえないことだから、聴かなかったです。(古謝美佐子) (THE BOOM 2014)

よく「島唄」なんてね、ヤマトンチュがね、ぬけぬけとね、ずうずうしくね、やるもんだなど。最初の頃は、やっぱりちょっと気分が悪かったですよね。ところが、宮沢君とお会いしてしゃべってるうちに、沖縄に対する思い、歴史とか伝統とか暮らし、そういうものに対するすごく熱いものを感じたんですよね (知名定男) (THE BOOM 2014)

知名や古謝の指摘する「島唄／しまうた」という呼称は、本来は奄美諸島の伝統的な民謡を指す言葉であり、ある時期からは沖縄の民謡や琉球古典音楽を指す言葉として使用されてきた。高橋 (2007) は、「島唄／しまうた」という呼称の日本本土における定着は、1993年の「島唄」の全国的なヒットによってもたらされたものであり、その結果、「沖縄民謡、新民謡、沖縄ポップスなど沖縄らしさを表象した音楽をくしまうた」と総称する傾向 (高橋 2007: 55) が高くなったこと、および「ジャンル概念としてのくしまうた」と、曲名としての《島唄》が共存する状況 (高橋 2007: 55) が起き始めたと指摘する。こうした「島唄／しまうた」をめぐる混乱は、沖縄の人々が持つ「島唄／しまうた」への畏怖と、沖縄出身者ではない宮沢が「島唄」というタイトルの楽曲を制作し歌い続けていることと関連付けられながら、沖縄で長く議論の対象となってきた。「島唄」のヒットによって「島唄／しまうた」をめぐる議論が生まれたことについて、ディアマンテスのアルベルト城間は次のように評価している。

批判的な意見があったらそれは証だと思えるし、何か揺さぶるものがないといろんな感情は消化できないし、何も起こらないなんておかしいかもしれない。みんな震えるくらい何かを感じたのじゃないかな。(アルベルト城間) (THE BOOM 2014)

また、宮沢はこうした批判や議論を受けながらも 20 年間「島唄」を演奏し続けてきたことについて、次のように語っている。

20 年間歌い続けてきたから、皆さん、いろんなタイミングで理解してくださった。知名定男さんが仲良くしてくれるようになった。古謝美佐子さんとは、同じステージで共演したり、お付き合いさせてもらっていますが、『島唄のものがたり』というドキュメンタリー映画の中では、「島唄」についてかなり厳しい意見を言ってくれています。あの歌について、民謡の唄者として真剣に語ってくださったことをうれしく思っています。あのまま僕が沖縄を通り過ぎていたら、「島唄」について議論が巻き起こることもなかったかもしれませんが、あの歌を理解してほしい、僕の沖縄への思いを理解し

てほしいという一心で 20 年間歌い続けてきました。（「琉球の風」実行委員会編 2013: 107）

「島唄」を通じて 20 年間沖縄と向き合ってきた宮沢はさらに、「島唄」を象徴とする 2 つのプロジェクトを沖縄でスタートさせた。そのひとつが「くるちの杜 100 年プロジェクト」である。このプロジェクトは、三線の素材となる黒木（くるち）を植樹して育てていくことを目的に始められたプロジェクトである。宮沢はこのプロジェクトを始めたきっかけとして、「島唄」のヒットによって沖縄に与えた影響を次のように語っている。

「島唄が記録的なヒットをしたおかげで三線ブームが来てね、沖縄以外の日本各地や海外まで三線を求めてくる人が絶えなくなったよ。だから沖縄の黒木が激減しちゃってね。今はほとんどが輸入で作ってるんだよ。」って、三線職人の方に言われたんです。もちろん冗談まじりなんですけど「人がすることにはすべて功罪（良い点と悪い点）がある。ひょっとしたら僕の行為によって、ちゃんとした素材が、ちゃんとした奏者の手にわたっていないとしたら。」って、すごく考えちゃったんです。（monobox 株式会社 2016）

このプロジェクトは読谷村を拠点に、地域の人々や学校、沖縄内外からの賛同者と共に活動が続けられ、旧暦の 9 月 6 日を「くるちの日」として植樹祭を行うほか、2 年に 1 度「くるちの杜音楽祭」が開催されている。このプロジェクトと並行して、宮沢は沖縄の様々な演者による民謡の演奏を録音、蒐集する「唄方プロジェクト」を主宰している。2012 年から始められたこのプロジェクトは、プロジェクトに賛同する約 250 名の演者によって録音された 245 曲を『沖縄宮古八重山民謡大全集①唄方～うたかた～』として 17 枚組の CD にまとめ、沖縄県内の学校や図書館へ寄贈している（monobox 株式会社 2016）。

## おわりに

1992 年 1 月に THE BOOM によって発表された「島唄」に注目し、日本のポピュラー音楽が、どのように再使用を繰り返されて成熟し、人々に長く歌い聴き継がれてきたのかを検討した。

日本のポピュラー音楽市場において、沖縄にルーツを持つアーティストによる楽曲、沖縄（三線などの楽器や沖縄音階、リズム、フレーズといった音楽的要素、沖縄の持つ歴史や風土、人々の生活感や魅力）の要素を取り入れた楽曲は多くの人々に親しまれている。こうした傾向を背景に、本土と沖縄の双方で長く親しまれ、海外でも愛唱歌として広く歌われている沖縄関連のポピュラー音楽が注目を集めている。本研究は代表的な楽曲として「花～すべての人の心に花を～」、「涙そうそう」、「島唄」を挙げ、これら 3 曲は楽曲の特

徴、拡散と浸透のパターンに多くの共通点を持つことを明らかにした。すなわち、大手レコード会社から発表されヒットを記録したこと、多数のカバーバージョンが制作されていること、教科書へ複数回掲載された経歴を持つこと、インターネットが今日ほど発展する以前に海外でヒットした経歴を持つこと、沖縄において民謡の定番曲として唄三線（うたさんしん）のスタイルで親しまれていることである。本研究はこれら 3 曲のうち、作者の宮沢和史が沖縄出身でないことや「島唄」という楽曲のタイトル名が長く物議を醸しながらも、結果として沖縄、日本本土、加えて海外において定着した経歴を持つ「島唄」に注目し、この楽曲がどのように長く人々に歌い聴き継がれてきたのかを明らかにした。

「島唄」は 1992 年 1 月に THE BOOM のアルバム『思春期』の収録曲として発表された後、同年 12 月と 1993 年 6 月にシングルとして発表されたことで大ヒットを記録し、「沖縄の歌」として知られるようになった。その後、「島唄」は世界各国でカバーされ現地の愛唱歌として親しまれていることが大きく報じられ、「国境を超えて愛される歌」として知られるようになった。また、この頃より、「島唄」は沖縄線を題材にした楽曲であり平和への祈りを込めた歌であることが宮沢から明かされ、平和や反戦をテーマとするイベントや平和学習の教材として使用されたことから、「平和／反戦の歌」として知られるようになった。発表から 20 年を迎えたころから、「島唄」は再び「沖縄の歌」としての側面が注目されるようになり、ミュージシャンとしての活動を休止した宮沢によって、「島唄」を象徴とするプロジェクトが沖縄で開始された。このように、「島唄」はマスメディアを通じて繰り返し使用され続けてきたことに加え、学校教育の教材となったこと、沖縄において民謡として定着したことによって、幅広い年代の人々に長く歌い聴き継がれる楽曲へと成熟したといえる。

## 終章 結論

### 1. 研究のまとめ

本研究は、ポピュラー音楽を対象に、幅広い年代の人々に長く歌い聴き継がれている楽曲、つまり、スタンダードと呼ばれる楽曲を「成熟した楽曲」として捉え、楽曲がどのような成育過程を経て、成熟した楽曲となったのかを明らかにしてきた。調査は、文献研究と関係者へのインタビュー調査に基づくが、これまでに行われてきたポピュラー音楽研究の研究成果を参照しながら、事例研究を通じて実証的に論じ、楽曲の成育過程の理論化を目指した。

日本におけるポピュラー音楽の研究は、社会学、音楽学、メディア・スタディーズなどの学問分野で数多くの研究が積み重ねられてきた。そこでは楽曲やアーティストをはじめ音楽産業や聴衆、メディア環境、音楽ジャンル、コンサートなどポピュラー音楽にかかわる様々なものが研究対象とされてきた。しかし、小川博司（1988）や東谷護（2005）が指摘するように、ポピュラー音楽が研究対象とされる場合、楽曲がある時期に流行歌として人気を獲得した理由や時代背景、楽曲が制作された時のエピソードなどに強い関心が向けられることが極めて多かった。本研究の特色は、楽曲を人格化して捉え、日本における楽曲伝達の典型パターンの類型化と曲年齢・曲履歴を合わせた分析概念を提示し、楽曲が長期間、幅広い年代の人々に歌い聴き継がれていくメカニズムの解明である。

第1章では、フィリップ・タグ（Philip Tagg）が提出した「民俗音楽・芸術音楽・ポピュラー音楽の三角形の公理」という理念型のうち特に「主な保存と配給の様式」に注目し、日本における楽曲伝達の典型パターンを図式化した。日本における楽曲伝達の典型パターンには、【芸術】型、【民俗】型、【ポピュラー】型の3つの類型の存在が認められた。【芸術】型の典型パターンは、創作された楽曲が楽譜（マスター）として保存され、様々な方法で使用されることによって日本広域へ伝達されるものである。【民俗】型の典型パターンは、創作された楽曲が口承（あるいは口承に限りなく近い形）で保存され、日本極域へ伝達されるものである。【ポピュラー】型の典型パターンは、創作された楽曲が録音物（マスター）として保存され、様々な方法で使用されることによって日本広域へ伝達されるものである。

しかし、人々に長く歌い聴き継がれてきたポピュラー音楽においては、複数の楽曲伝達の典型パターンを経て楽曲が繰り返し使用されることで成熟したものが数多く存在する。そのため、スタンダードの成育過程には、ポピュラー音楽の伝達過程のみを経た【ポピュラー】型に加え、ポピュラー音楽と民俗音楽の2つの伝達過程を経た【ポピュラー・民俗】型、ポピュラー音楽と芸術音楽の2つの伝達過程を経た【ポピュラー・芸術】型、ポピュラー音楽と民俗音楽、芸術音楽の3つの伝達過程を経た【ポピュラー・民俗・芸術】型を含めた4つの成育過程の類型を見出すことができた。



次に、著作権法の定める様々な楽曲の使用に関わる権利関係のうち、とりわけ、楽曲が人々に長く歌い聴き継がれていくなかで重要な使用方法に関連する演奏権、複製権、公衆送信権にかかわる項目について、(1)楽譜（複製）、(2)録音物（複製）、(3)コンサート（演奏）、(4) 放送メディア・インターネットの動画配信サイト、(5)タイアップ、(6)カバーの 6 項目を設定し、その詳細を検討した。人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲は、これら(1)から(6)の使用方法が繰り返されてきたことによって成熟したといえる。

第 2 章では、人々に歌い聴き継がれてきた楽曲についての分析概念として「曲年齢」と「曲履歴」を提示した。曲年齢とは調査時、あるいは分析時から楽曲の初出年を差し引いたものである。また、曲履歴とは、楽曲が初出時から調査時、あるいは分析時までのあいだ、どのように使用され、どのような経歴や文脈を蓄積してきたかを把握するためのものである。これらはそれぞれ、人間における年齢と履歴に相当する。つまり、「曲年齢」と「曲履歴」は、楽曲を人格化し、楽曲が獲得した社会的文脈や経歴を分析しようとする試みである。次に、曲年齢と曲履歴を用いて、「日本を代表する楽曲」などの様々なテーマで行われたアンケート調査を基にした 10 本の音楽番組を分析対象に、選出された楽曲の特徴を明らかにした。その結果、これらの調査は、実施年も回答者も異なる調査であるにもかかわらず、選ばれた楽曲は共通の傾向を示していた。

曲年齢を用いた分析結果の特徴は、初出から 29 年以下の楽曲が過半数を占め、初出から 30 年を超えると選曲数は減少傾向に転じ、初出から 40 年を超えた楽曲は選ばれにくくなる傾向がみられた。加えて、分析対象とした 10 の調査で選出された、のべ 1045 曲の楽曲のうち、初出から 60 年を超えて選ばれた楽曲のほとんどは歌謡曲や流行歌として発表された楽曲ではなく、文部省唱歌や童謡、民謡、歌曲であった。このことから、親子間の年の差である 30 年をひとつの世代基準として考えるならば、ポピュラー音楽における世代間伝承は 2 世代には満たない、あるいは、2 世代を超えるポピュラー音楽の世代間伝承は極めて困難だといえる。

曲履歴を用いた分析結果の特徴は、まず、選出された楽曲の過半数が映画やテレビドラマ、CM、アニメなどとのタイアップ作品として使用された楽曲であった。こうした楽曲が占める割合は、1990 年代に行われた調査から増える傾向にあり、2009 年以降に行われた調査ではいずれも 80 パーセントを超えていた。こうした楽曲のなかには、「明日があるさ」のように、様々なアーティストによってカバーされながら、数年おきにテレビドラマや CM などのタイアップ作品として使用が繰り返され、曲履歴を重ねている楽曲も多い。次に、すべての調査において、学校教科書に掲載された楽曲が選出されていた。これらの多くは、音楽の授業をはじめ、卒業式などの式典や合唱コンクールにおける演奏、合唱や吹奏楽、野球など部活動でも使用されるなど、学校教育において親しまれている楽曲である。加えて、2014 年～2016 年にかけて行われた調査においては、選出されたほぼすべての楽曲にカバー音源が存在していた。こうした楽曲のなかには、「上を向いて歩こう」や「島唄」のように、国内だけでなく東アジア圏、欧米圏など海外でカバーされて、現地で愛唱歌として

親しまれている楽曲も多く含まれている。また、これら近年の調査においては、プロスポーツや鉄道会社に使用されている楽曲も必ず選出されていた。特に、駅の発車メロディーとして使用される楽曲は近年増加傾向にあり、それぞれの地域や駅にゆかりのあるアーティストの楽曲が使用される傾向が見られた。

次に、ここで提示した「曲履歴」「曲年齢」を用いて、【ポピュラー】型の事例として「Get Wild」、【ポピュラー・民俗】型の事例として「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」、【ポピュラー・芸術】型の事例として「翼をください」、【ポピュラー・民俗・芸術】型の事例として「島唄」を取り上げ、ポピュラー音楽の成育過程の 4 つの類型において、楽曲が具体的にどのような成育過程を経て成熟し、人々に歌い聴き継がれてきたのかを明らかにした。

第 3 章では、1987 年 4 月に TM NETWORK によって発表された「Get Wild」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー】型成育過程を詳細に検討した。「Get Wild」はポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンを経て成熟した楽曲である。「Get Wild」は 1987 年に大規模なプロモーション活動が行われて流行した。そして、約 30 年のあいだ、シングルのタイトル楽曲として計 6 回ヒットチャートのトップ 10 にランクインし、定期的に再市場化を果たした。「Get Wild」の生育過程の特徴は、一度流行した後に、TM NETWORK の代表曲としてその時々流行に合わせたサウンドスタイルを取り入れたリメイクが続けられてきたこと、タイアップ作品である『シティーハンター』の主題歌として同作品のアニメや関連作品で繰り返し使用されてきたこと、多数のアーティストにカバーされて続けてきたこと、コンピレーション・アルバムへの収録やゲームなどの作品での使用が繰り返されてきたことであった。こうした成育過程は、長く歌い聴き継がれてきた楽曲の多くに共通するパターンである。

第 4 章では、1985 年 11 月に荻野目洋子によって発表された「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー・民俗】型成育過程を詳細に検討した。「ダンシング・ヒーロー」は日本のポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンと、日本の民俗音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンの双方を経て成熟した楽曲である。「ダンシング・ヒーロー」は 1985 年に発表されて以来、荻野目の代表曲としてリメイクやカバー、コンピレーション・アルバムへの収録が継続して行われてきた。加えて、「ダンシング・ヒーロー」は一部地域における盆踊りの定番曲として親しまれ続けてきた。本研究では「ダンシング・ヒーロー」が盆踊りとして最も盛んに踊られている岐阜県美濃加茂市「おん祭 MINOKAMO」夏の陣盆踊り大会におけるフィールドワークを通じて、地域社会活動としての盆踊り大会は、民踊団体による組織的な取り組みと、地域ボランティア団体の組織的活動によって支えられていることが明らかになった。こうした盆踊りを媒介とした地域社会の取り組みは、ポピュラー音楽が幅広い年代の人々に伝達される場として機能していることが明らかになった。

第 5 章では、1971 年 2 月に赤い鳥によって発表された「翼をください」を題材に、日本

のポピュラー音楽の【ポピュラー・芸術】型成育過程を詳細に検討した。「翼をください」は日本のポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンと、日本の芸術音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンを経た楽曲である。「翼をください」は長く歌い聴き継がれてきた日本のポピュラー音楽の中でも、繰り返し使用され続けることで極めて幅広い文脈を獲得し、人々の生活のあらゆる場面で使用可能な楽曲へと成熟した。「翼をください」がこれほどまでに人々に親しまれ続けてきた要因のひとつは、学校音楽として長く親しまれてきたことである。「翼をください」は 1976 年から音楽教科書に掲載され続け、学校音楽として現在まで 40 年以上、中学校を中心に授業や合唱コンクール、卒業式などの学校行事の様々な場面で使用されながら、広く人々に親しまれ続けてきた。学校教育で楽曲が使用されることは、ポピュラー音楽を幅広い年代の人々に伝達する場としての機能を果たしている。

第 6 章では、1992 年 1 月に THE BOOM によって発表された「島唄」を題材に、日本のポピュラー音楽の【ポピュラー・民俗・芸術】型成育過程を詳細に検討した。「島唄」は日本のポピュラー音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンと、日本の芸術音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターン、および日本の民俗音楽に特徴的な楽曲伝達の典型パターンを経て成熟した楽曲である。「島唄」は 1992 年 1 月に THE BOOM のアルバム『思春期』の収録曲として発表された後、同年 12 月と 1993 年 6 月にシングルとして発表されたことで大ヒットを記録し、「沖縄の歌」として知られるようになった。その後、「島唄」は世界各国でカバーされ現地の愛唱歌として親しまれていることが大きく報じられ、「国境を超えて愛される歌」として知られるようになった。また、この頃より、「島唄」は沖縄戦を題材にした楽曲であり平和への祈りを込めた歌であることが宮沢和史から明かされ、平和や反戦をテーマとするイベントや平和学習の教材として使用されたことから、「平和／反戦の歌」として知られるようになった。発表から 20 年を迎えたころから、「島唄」は再び「沖縄の歌」としての側面が注目されるようになり、ミュージシャンとしての活動を休止した宮沢によって、「島唄」を象徴とするプロジェクトが沖縄で開始された。このように、「島唄」は他のアーティストによるカバーをはじめ、楽曲が繰り返し使用され続けてきたことで様々な文脈を獲得したことに加え、学校教育の教材となったこと、沖縄において民謡として定着したことによって、幅広い年代の人々に長く歌い聴き継がれる楽曲へと成熟した。

## 2. 研究の結論と今後の課題

本研究によって明らかになった重要な点は、まず、成熟した楽曲は「永遠のスタンダード」ではなく、有限だということである。本研究で行った、様々な切り口で実施される楽曲についての 10 のアンケート調査を対象とする曲年齢、曲履歴を用いた分析結果の特徴は、初出から 29 年以下の楽曲が過半数を占め、初出から 30 年を超えると選曲数は減少傾向に転じ、初出から 40 年を超えた楽曲は選ばれにくくなる傾向がみられた。加えて、分析対象とした 10 の調査で選出された、のべ 1045 曲の楽曲のうち、初出から 60 年を超えて選ばれ

た楽曲は、文部省唱歌や童謡、民謡、歌曲を含めても僅かであった。このことから、親子間の年の差である 30 年をひとつの世代基準として考えるならば、楽曲の世代間伝承は 2 世代には満たない、あるいは、2 世代を超える楽曲の世代間伝承は極めて困難だといえる。

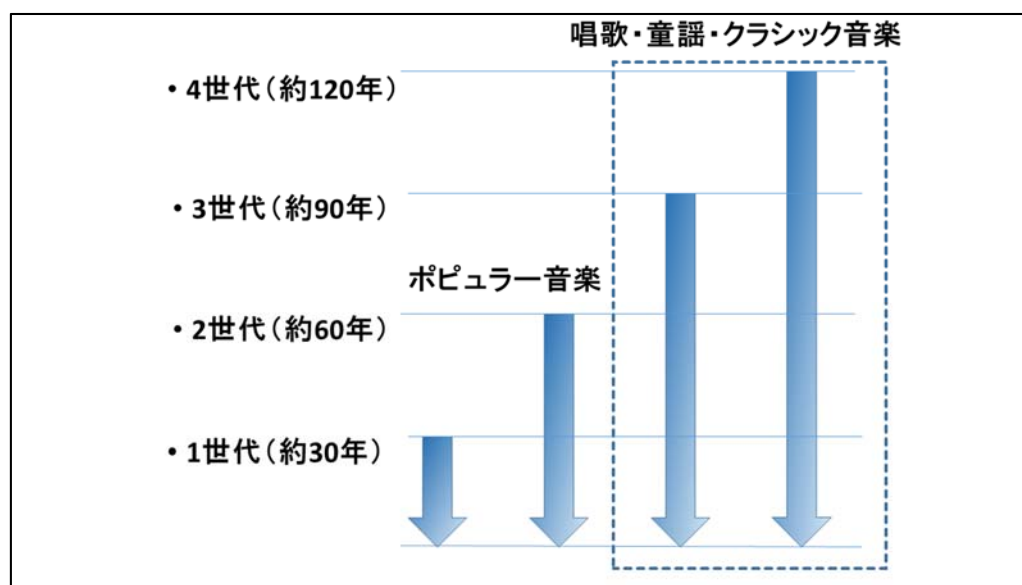
次に、楽曲が社会で存在感を保ち続けていくためには、楽曲そのものが持つ潜在能力だけではなく、楽曲の成熟を促す様々な手立てが不可欠であることが明らかになった。楽曲は、まずは流行しなければその次の成熟はない。ポピュラー音楽の場合、楽曲の発表時にはレコード会社や大手広告代理店、放送メディアらが連携し、その楽曲を持ち歌とするアーティストの人気獲得と楽曲の認知促進のための大規模なプロモーション活動が行われる。ただし、こうしたプロモーション活動が行われたにもかかわらず、流行する楽曲は僅かである。そのため、一度でも流行した楽曲は、人々に親しまれるための潜在能力を持つ楽曲といえるだろう。一度流行した楽曲は、その後、様々な方法で繰り返し使用されることによって曲履歴を積み重ねて曲年齢を延ばし、幅広い年代の人々に親しまれる楽曲に成熟する。一方で、曲年齢が 30 年を超えると徐々に使用されなくなっていく。すると、楽曲は人々の注目を集めることが困難になり、忘れ去られていくことになる。いずれにせよ、楽曲が社会の中で存在感を保ち、生き続けていくためには、人の手によって、他の作品とのタイアップ、カバー音源の制作、コンサートやイベントでの演奏、学校教科書への掲載など様々な方法で、再使用の手立てが繰り返し講じ続けられなければならない。成熟した楽曲、つまり、スタンダードと呼ばれる楽曲は、このように様々な手立てが加えられることにより、社会的な存在としてあり続けることが可能である。

そして、成熟した楽曲は、長い間、個々人が日常生活を営む中で経験する出来事や感情に常に寄り添いながら、世代や年代の異なる人々が繋がったり、重なり合ったり、影響しあったりする関係を醸成する場、あるいは要素として機能している。つまり、成熟した楽曲とは、長い間、人々の社会生活に様々な影響を与え続けている社会的存在としての意義を持つ楽曲であり、社会学的な研究対象としての価値を持つものであるといえる。このことは、ポピュラー音楽のみならず、あらゆる音楽ジャンルの成熟した楽曲に認められるものである。しかし、成熟した楽曲が持つ、こうした社会的存在としての意義は、新しい楽曲が常に生み出されながら、人々の生活に常に寄り添っているポピュラー音楽を分析の対象とすることによって、見出すことができたといえる。

本研究は、人々に長く歌い聴き継がれてきた楽曲、あるいは、スタンダード性を有する楽曲を成熟した楽曲として捉え、その成育過程について研究してきた。その結果、日本における楽曲伝達の典型パターンの類型化と曲年齢・曲履歴を合わせた分析概念を提示し、ポピュラー音楽の成熟した楽曲についての実証的な研究成果を生み出すことができた。そして、本研究の研究手法は、ポピュラー音楽のみならず、音楽ジャンルに関係なく、成熟した楽曲の成育過程を明らかにする可能性を見出すことができた。本研究の視点から、文部省唱歌、童謡、民謡、クラシック音楽など日本においてポピュラー音楽よりも長く親しまれてきた楽曲を捉えると、これらは一時の流行を経た後、長いあいだ様々な方法で使用

され続けることで曲年齢を伸ばしてきたポピュラー音楽と近い存在として考えることができる。また、これらの楽曲の曲履歴を概観すると、学校教育・学校教科書を通じて幅広い年代の人々に長期間伝達されてきた楽曲が極めて多い。それゆえ、日本においてこれらは、本研究で事例として扱った「翼をください」と極めて近い成育過程を経て成熟した楽曲として比較検討が可能である。日本の音楽文化全体を俯瞰するために、ポピュラー音楽よりも長く親しまれてきた文部省唱歌、童謡、民謡、クラシック音楽など他ジャンルの楽曲へ研究対象を広げ、2世代以上にわたり親しまれている楽曲について検証していくことが、今後の研究課題である。

図 17: 楽曲の異世代間伝承と今後の研究対象（点線内）



出所：筆者作成

最後に、本研究は音楽業界や著作権ビジネスに携わる人々に寄与できる研究成果であるといえる。現在の音楽業界は大きな転換点にあり、音楽市場の縮小とともに「世代を超える音楽」、すなわちスタンダードや活動歴の長いアーティストとそのレパートリーが注目を集めている。レコード会社や音楽出版社にとって、楽曲やアーティストの人気を保つことは長期的な収益を期待できることから、スタンダードを生み出していこうとする機運は、今後ますます高まっていくといる。こうしたスタンダードを研究対象とした本研究の成果は、学術研究だけでなく、今後の音楽産業の発展と維持に寄与できる研究成果であるといえる。

注.

- 1) 「親子で歌い継ごう 日本の歌百選」は、文化庁長官（2006年当時）河合隼雄の発案により2006年9月から11月にかけてアンケート調査が行われ、有効投票数5440票をもとに楽曲を選出したものである（文化庁編 2007）。ここで選出された楽曲は、文部省唱歌や童謡がその多くを占めるなか、101曲中約30曲がをはじめとするポピュラー音楽であった。この結果におけるポピュラー音楽の割合は多いとはいえないが、『日本と世界の愛唱歌集一増訂版』（野ばら社編集部・久保編 2010）、『世界と日本の愛唱歌・抒情歌事典』（長田 2015）など近年に編纂された愛唱歌集にも同様の傾向が見られる。
- 2) 「上を向いて歩こう」は、NHK『夢であいましょう』のために制作された楽曲で、坂本九の歌唱によって1961年10月にレコード化された楽曲である。この楽曲は「SUKIYAKI」という楽曲名で、1963年6月15日にアメリカのビルボード（Billboard）誌で1位を獲得したことをはじめ、多くの国々でヒットを記録した。（佐藤 2011）。
- 3) 「川の流れるように」は、美空ひばりの生前最後のシングル作品として著名な楽曲である。この楽曲は1988年12月に発表されたアルバム『川の流れるように～不死鳥パートII』の収録曲として発表された後、1989年1月にシングルとしても発表された。
- 4) 小川博司はこの番組の特徴を「第1にスタンダード曲を中心にしていること、第2に生演奏・生放送であること、第3に（家族や恋人、友達や仲間との）集団視聴をすすめていること」（小川 2015: 14）であると指摘している。
- 5) 楽譜（マスター）は、経年により消失してしまったものや、リヒャルト・ワーグナー（Richard Wagner）のオペラの一部のように戦災などで失われてしまった原典も数多く存在する。こうした場合、原典に限りなく近い写本等が原典として扱われることが通例である。
- 6) 日本の民俗音楽は一部の地域でのみ親しまれながら、レコードや放送メディアで盛んに使用されることによって、全国的に知られるようになった楽曲も多い。例えば、赤い鳥によってレコード化された京都府の一部地域に伝わる子守唄である「竹田の子守唄」、ザ・ドリフターズによってレコード化されバラエティ番組などで盛んに演奏された「会津磐梯山」や「東村山音頭」などを挙げることができる。
- 7) 録音物（マスター）は演奏パートごとの音源を別トラックに収録したアナログ・マルチトラックテープ、U-maticやDATなどのデジタル形式のテープ、ProtoolsなどのDAWで制作されたファイルなどを指す。こうした録音物（マスター）の段階で複製が行われ、1つの作品に複数のマスターが存在することも多い。例えば、大滝詠一のアルバム『A LONG VACATION』では、第1世代のアナログマスターテープ1本、第2世代のアナログテープ2本、第2世代のデジタルマスターテープ4本、第3世代のデジタルマスターテープ1本の計8本のマスターテープの存在が明らかにされている（柿崎 2014）。2001年に発表された『同 20th Anniversary Version』では第2世代のデジタルマスターテープ、2011年に発表された『同 30th Anniversary Version』では第2世代のアナログマスターテープが使用され、大滝自身によるリマスターリング作業が行われた（柿崎 2014）。しかし、マスターテープの経年劣化や消失のため、レコード盤やCDとして販売されたもの＝録音物（複製）をマスターに使用し、再びCDやレコード盤を制作することも行われている。こうした手法は板起こし（盤起こし）と呼ばれ、レコード盤をマスターとする場合には、現在では非接触式のレコードプレーヤーであるレーザーターンテーブルが主に用いられている。
- 8) 電子データ化された楽譜は、主にインターネットを通じたダウンロード方式による販売が行われている。
- 9) 音楽ファイルはmoraやiTunes Storeなど音楽配信サイトで一般的に用いられているものである。無損失（WAV形式など）、可逆圧縮（FLACなど）、非可逆圧縮（MP3形式、AAC形式）など様々な形式が存在する。また、WAV形式やFLAC形式は、ハイレゾ（High-Resolution Audio）と呼ばれるCD以上の音質の音楽ファイル（16bit/44.1kHz以上）を作成することができる。

- 
- 10) サブスクリプション型音楽配信では、定額の料金を支払うことで、サービス事業者が提供する膨大な数の楽曲を自由に聴取することができる。
- 11) ビデオコンサートやフィルムコンサートとよく似た形式のコンサートであり、近年人気の高いコンサート形式である。こうしたコンサートは主に映画館で行われるものであるが、観客は自由に拍手や歓声をおくる、サイリウムを振るなど、コンサート会場と同じように振る舞うことができる。
- 12) チェキ会とは、ポラロイドカメラによる撮影で、アーティストとファンと一緒に写真を撮ることができる特典会である。
- 13) 野外で行われる音楽フェスを紹介するガイドブックや雑誌などでは、音楽に関連する記事と共に、テントの設営方法、毒を持つ虫に噛まれた時の対処方法、雨具や防寒具の選び方など、レジャーに関連した情報が数多く掲載されている。
- 14) 一般に 3D ホログラムとも呼ばれる立体映像による演出は、初音ミクなどのキャラクターや、X JAPAN の hide など既に亡くなったアーティストのコンサートで用いられていることが知られている。こうした技術を用いることによって、その人物やキャラクターがあたかもその場でステージ・パフォーマンスを行っているかのように演出することが可能である。
- 15) IP サイマルラジオの radko は、放送と同時にインターネット回線を用いて民放ラジオ局の番組を配信するサービスである。株式会社 radiko によって運営され、2010 年 4 月にサービスが開始された。2017 年現在は、番組放送後一定期間に限り番組を聴取できるタイムフリー機能、他の地域で放送された番組を聴取できるエリアフリー（有料）などの機能が実装されている。
- 16) NHK オンデマンドや TVer は、番組放送後一定期間に限り、有料あるいは無料で、インターネットで番組を視聴することができるサービスである。
- 17) 「世界中の誰よりきっと」は 1992 年 10 月に中山美穂 & WANDS によってシングルとして発表された楽曲である。
- 18) 「負けないで」は 1993 年 1 月に ZARD によってシングルとして発表された楽曲である。
- 19) 森田童子は 1975 年から 1983 年まで活動した女性フォークシンガーである。「ぼくたちの失敗」は 1976 年 11 月に発表された森田のアルバム『マザー・スカイーきみは悲しみの青い空をひとりで飛べるか』の収録曲として発表された楽曲である。ドラマ主題歌としての使用に際して、1993 年 1 月にシングルとして発表された。
- 20) 「それが大事」は 1996 年と 2012 年の CM では、替え歌の歌詞で使用された。また、プロ野球選手の応援歌・登場曲として複数の選手に使用された。
- 21) 「おどるポンポコリン」は B.B. Queens によって 1990 年 4 月にシングルとして発表された楽曲である。アニメ『ちびまる子ちゃん』の放送が長く続けられるなか、マナカナ、E-girls、ゴールデンボンバーなどその時々人気の高いアーティストによる同楽曲のカバーが主題歌として使用されている。
- 22) 「勇気 100%」は 1993 年 5 月に光 GENJI によってシングルとして発表された楽曲である。アニメ『忍たま乱太郎』の放送が長く続けられるなか、光 GENJI と同じジャニーズ事務所に所属する Ya-Ya-yah、Hey! Say! JUMP、NYC、Sexy Zone、ジュニア Boys による同楽曲のカバーが主題歌として使用されている。
- 23) 1980 年代以前、カバーは「歌う」「吹き込む」などの表現が主に用いられていた。
- 24) 徳永英明による『VOCALIST』シリーズは 2005 年 9 月に第 1 作目が発表された。2017 年 2 月現在、3 タイトルのベストアルバムを含む計 10 タイトルが発表されている。
- 25) 中森明菜による『歌姫』シリーズは 1994 年 3 月に第 1 作目が発表された。2017 年 2 月現在、2 タイトルのベストアルバムを含む計 6 タイトルが発表されている。中森は『歌姫』シリーズに加え、フォークソング、ムード歌謡曲、演歌、ロックなどをテーマにカバーアルバムを多数発表している。
- 26) 1998 年 5 月に亡くなった X JAPAN のギタリスト、hide へのトリビュートアルバム・シリーズである。第 1 作目は 1999 年 5 月に発表されミリオンセラーを記録した。2017 年 2 月現在、7 タイトルが発表されている。

- 
- 27) 「Let it go〜ありのままに」は、映画『アナと雪の女王』が公開された国々で、様々なアーティストによって歌われている。日本での劇場公開時には、劇中歌として松たか子と神田沙也加が、エンドソングとして May J. が同楽曲を歌った。
- 28) 「ピンクスパイダー」は 1998 年 5 月に hide によってシングルとして発表された楽曲である。また、「ラブリー」は 1994 年 11 月に小沢健二によってシングルとして発表された楽曲である。
- 29) 「Many Classic Moments」は 2002 年 2 月に globe によってシングルとして発表された楽曲である。
- 30) 「運命のルーレット廻して」は 1998 年 9 月に ZARD によってシングルとして発表された楽曲である。ZARD による音源と La PomPon によるカバーは、ともに読売テレビ制作のアニメ『名探偵コナン』のテーマソングとして使用された。
- 31) カバーポップスとは、洋楽のヒット曲を独自の日本語歌詞で歌うものであり、1950 年代末からビートルズの人気が高まる 1963 年頃まで流行した。漣健児、安井かずみ、岩谷時子などが訳詞家として活躍した。
- 32) 「君恋し」は 1928 年 12 月に二村定一によってシングルとして発表された楽曲である。
- 33) 「雨に咲く花」は 1935 年に関種子によってシングルとして発表された楽曲である。
- 34) 生明敏雄はビクターが新興楽譜出版（現シンコーミュージック）と結んだ原盤の制作とその利用にかかわる契約の事例について、次のように説明する。

この時期にビクターの洋楽部門の一角を占めていたフィリップス・レコード部は、新興楽譜出版にレコード音源となる音楽を制作することを委託することを始めた。これは業界の老舗であるビクターがやはり新しい時代の日本のポップスを市場に送り込むのに際して、フィリップス・レコード部という洋楽部門にそれを担当させるべく、グループサウンズやカレッジフォークなどの和製ポップスの音源を制作する新興楽譜出版と原盤使用契約を結び、その発売を開始したものである。そこからはマイク真木の「バラが咲いた」、森山良子の「この広い野原いっぱい」などのヒット曲が生まれた。（生明 2016: 256）

- 35) 「知床旅情」は森繁久彌によって作詞・作曲された楽曲である。この楽曲は森繁自身の歌唱により 1962 年の紅白歌合戦で演奏され、1965 年にシングルとして発表された。加藤登紀子によるカバーは 1970 年 12 月にシングルとして発表され大ヒットを記録した。
- 36) 「なごり雪」は、1974 年 3 月にかぐや姫によってアルバム『三階建の詩』の収録曲として発表された楽曲である。イルカによるカバーは 1975 年 11 月にシングルとして発表された。
- 37) こうした企画は、レコード以外のメディアである音楽テープにおいて、1960 年代後半より存在していた。例えば、当時テイチク専属の石原裕次郎によるカバーアルバム『もう一人の裕次郎—昭和流行歌』などが音楽テープ専門のポニーから発表されていた。しかし、専属制度の問題があり、このような作品がレコード会社の商品としてレコードというメディアで発表されることは珍しかった。
- 38) 記事中の「再開発」とは、「管理楽曲を如何に多くの場で演奏させ、録音させ、出版させ、つまり使用させるか」（MUSIC LABO 編集部 1976: 50）ということの意味する。
- 39) 「さくらの唄」はなかにし礼作詞、三木たかし作曲の楽曲で、1970 年に三木自身の歌唱によりシングルとして発表された。美空ひばりによるカバーは TBS テレビで 1976 年 5 月から 11 月にかけて放送された久世光彦演出のドラマ作品「さくらの唄」の主題歌として 1976 年 7 月に発表された。MUSIC LABO 誌に掲載されたこの楽曲の広告には「埋もれた名曲が今、甦ります。」（MUSIC LABO 編集部 1976: 53）というキャッチコピーが掲載された。
- 40) 「ブルー・ライト・ヨコハマ」は 1968 年 12 月にいしだあゆみによってシングルとして発表された楽曲である。この楽曲は数多くのアーティストによってカバーされ、横浜を代表するご当地ソングとして親しまれている。
- 41) 「愛が止まらない〜Turn It Into Love〜」は 1988 年 7 月にカイリー・ミノーグ (Kylie Minogue) によってアルバム『Kylie』の収録曲として発表された楽曲である。Wink によるカバーは 1988 年 11 月に及川眠子による日本語詞でシングルとして発表された。



- 
- 42) 「夢の中へ」は1973年3月に井上陽水によってシングルとして発表された楽曲である。斉藤由貴によるカバーは1989年4月にシングルとして発表された。
- 43) 「17才」は1971年6月に南沙織によってシングルとして発表された楽曲である。森高千里によるカバーは1989年6月にシングルとして発表された。
- 44) 「学園天国」は1974年3月にフィンガー5によってシングルとして発表された楽曲である。小泉今日子によるカバーは、1988年12月に発表されたカバーアルバム『ナツメロ』の収録曲として発表され、1989年11月にはシングルとしても発表された。
- 45) 「いとしのエリー」は1979年3月にサザンオールスターズによってシングルとして発表された楽曲である。レイ・チャールズによるカバーは1989年10月にシングル「ELLE MY LOVE 〜いとしのエリー〜」として発表された。このカバーは英語詞で歌われ、ウイスキーのCMソングとして使用された。
- 46) A.S.A.P.はアメリカ出身の女性グループである。1990年から1992年にかけて松任谷由美の楽曲のみをカバーしたアルバムを4枚発表した。
- 47) 「逆カバー」においては、歌詞は英語に翻訳されて歌われることが主であった。また、「逆カバー」という表現は現在ほとんど使われていない表現である。
- 48) 一般社団法人日本レコード協会と同協会に加盟するレコード会社が合同で、「Q 盤 (Quality Music) プロジェクト」というキャンペーンを行った。このとき、例えばSony Musicは「CD選書」、東芝EMIは「音蔵」といったシリーズを立ち上げ、各レコード会社が自社保有のカatalog音源を数多くCD化した。
- 49) 主に1960年代の高度成長期、およびそれ以降の昭和時代を懐かしむ風潮のことで、昭和ノスタルジーとも呼ばれる。
- 50) 「明日があるさ」は1963年12月に坂本九によってシングルとして発表された楽曲である。ウルフルズによるカバーは缶コーヒーのCMソングとして使用され、2001年2月にシングル「明日があるさ (ジョージアで行きましょう編)」として発表された。Re:Japanはダウンタウンなど吉本興業に所属するタレントによって結成された音楽グループである。Re:Japanによるカバーは2001年3月にシングルとして発表された。同年12月の『第52回NHK紅白歌合戦』では、ウルフルズとRe:Japanによるコラボレーションで同楽曲が演奏された。
- 51) 「亜麻色の髪の乙女」は1968年2月にヴィレッジ・シンガーズによってシングルとして発表された楽曲である。島谷ひとみによるカバーは2002年5月にシングルとして発表された。
- 52) こうしたスタンダードのイメージは、邦楽のベストアルバムのタイトルや紹介文でも数多く用いられている。例えば、2007年5月に死去した坂井泉水がヴォーカルを務める音楽グループ、ZARDの楽曲を集めたシリーズ『ZARD CD&DVD コレクション〜永遠のスタンダード・ナンバー』では、「永遠に愛され続けるZARDの名曲・名演をCDとDVDでコレクション!」(ZARD 2017: 2-3)、「ZARDの軌跡—あの時代も、傍に在った曲。そして永遠のスタンダード・ナンバーへ」(ZARD 2017: 6-7)として、シリーズのタイトルや楽曲の紹介に積極的に用いられている。
- 53) こうした楽曲の捉え方と関連して、音楽プロデューサーの小室哲哉の見解は示唆的である。小室は1987年に発表した楽曲「Get Wild」が長く歌い聴き継がれ海外にも広がりを見せていることについて、インタビューで次のように表現した。

ちなみに「Get Wild」長寿な、人間で言ったら長寿人間ですね。どんどん進化してって一人歩きがすごいですね。(中略)「Get Wild」にかんしてのブログを書ってる人がいて、いま70カバーくらいあるみたいですね、全部で。ちゃんと発売してるもので。例えば、K-POPの超新星とかもすべて含めて。TMだけでもたくさんあるけど。フランスでも、スウェーデンでもある。もしかしたら「Get Wild」のモテ期が来るかもしれない、ワールドワイドに。1987年に作ってるけど、わからないよね、自分でも。どうされてこういうふうになったのか。(作った時のスタジオの形式とか)状況は覚えてるけどね。(TM NETWORK 2013)

- 
- 54) 『歌い継がれる名曲案内 音楽教科書掲載作品 10000』(日外アソシエーツ編 2011)を用いて、1949年から2009年までに刊行された、小学校、中学校、高等学校の音楽科教科書に掲載された楽曲を調査した。音楽科以外の教科書については、各種報道による情報を用いた。
- 55) Japan Music Data (JMD) が運営する音楽データベース『音楽の森—MUSIC FOREST』(JMD 2016)を用いて、1990年以降に発表された音楽メディアに収録されたタイトル数である。
- 56) 『音楽の森—MUSIC FOREST』(JMD 2016)、および各種報道による情報を用いた。
- 57) 野球部やサッカー部の応援歌、全国高校野球選手権大会の入場行進曲や応援歌として使用された楽曲である。各種報道による情報を用いた。
- 58) Jリーグなどプロサッカーチームの応援歌、ワールドカップの応援歌、プロ野球の選手入場テーマソングとして使用された楽曲である。各種報道による情報を用いた。
- 59) 駅の発車メロディー、新幹線の車内メロディーとして使用された楽曲である。各報道による情報を用いた。
- 60) ぴあ株式会社が2014年に実施したTM NETWORKのファンをしたアンケート「WE LOVE TM NETWORK—『わたしの好きなTM』読者のFANKSに大調査!」において、「Get Wild」は好きな楽曲として1位を獲得している(ぴあ編集部編 2014: 117-118)
- 61) こうした側面については、インターネット上のキュレーションサイト「Never まとめ」や音楽系ニュースサイトの記事などで、動画配信サイトに投稿された歴代の「Get Wild」の映像や音源とともに紹介されるほか、2016年11月5日にテレビ朝日で放映された『アップデート大学』(テレビ朝日 2016)において小室哲哉の解説とともに紹介された。
- 62) この作品は発表に際して積極的なプロモーション活動が行われ、オリコンアルバムチャートでは4位を記録した。また、2017年4月には「Get Wild」の12インチアナログ盤、2017年5月には『Get Wild Song Mafia』の収録曲の一部を入れ替えた全22曲収録の配信限定アルバム『GET WILD 30th Anniversary Collection - avex Edition』など、複数の関連作品も発表された。加えて、音楽専門誌『Sound & Recording Magazine』では、2017年6月号紙上で『Get Wild』30年の記憶と記録」と題する約100ページにわたる特集が生まれ、2017年6月から8月にかけて、宇都宮隆のヴォーカルトラックを使用した「あなたの『Get Wild』リミックスコンテスト」という公募企画がエイバックスと共同で開催された。特に、このリミックスコンテストは、ユーザー登録を行えば誰もが宇都宮のヴォーカルトラックを使用して自由に「Get Wild」の音源を制作しインターネットの動画共有サイト、YouTubeで公開できる点において、注目に値する企画である。
- 63) このうち、「Get Wild 2015 -HUGE DATA-」のみ音楽配信事業者、iTunes StoreのJ-POP部門とmoraの総合ランキングというヒットチャートの記録である。その他はオリコンシングルチャートの記録である。
- 64) SPEEDWAYは東京都多摩地区で結成された、木根尚登、宇都宮隆、岩野光邦、樋口潔、荒井克己、杉本ユウ(1980年脱退)、河鱈良成(杉本の後任として加入)、小室哲哉から成るロックバンドである。SPEEDWAYは1979年にシングル「夢まで翔んで」でTOSHIBA EMIよりメジャーデビューし、1981年までに2枚のアルバムを発表したのち解散した。1996年に宇都宮と木根のファンクラブ・イベントで、SPEEDWAYの再結成コンサートが1度だけ開催された。
- 65) 「My Revolution」はオリコンシングルチャートで1位を獲得し、1986年のオリコン年間シングルチャートでは5位を獲得した。これ以降、小室哲哉はTM NETWORKの活動と並行しながら、中山美穂へ「JINGI・愛してもらいます」(1986年)や「50/50」(1987年)、松田聖子へ「Kimono Beat」(1987年)、小泉今日子へ「Good Morning-Call」(1988年)、宮沢りえへ「Dream Rush」(1989年)などの楽曲提供を行い、多くのヒット曲を生み出している。また、小室は「My Revolution」以外にも、「Teenage Walk」(1986年)や「悲しいね」(1987年)、「卒業」(1991年)など渡辺美里へ数多くの楽曲提供を行っている。こうした1980年代における楽曲提供の実績が、1990年代以降における小室の音楽プロデューサーとしての活動につながっている。

- 66) 小室みつ子は1981年4月にシングル「Angel Walk」とアルバム『甘い予感』で日本コロムビアよりメジャーデビューしたシンガーソングライターである。小室は小説家やエッセイストとしても活動しながら、作詞家としてTM NETWORKへ数多くの歌詞を提供している。「Get Wild」は小室がTM NETWORKに歌詞を提供した歌詞を題材に1989年3月にCBSソニー出版から発表した小説『ファイブソングス2』で男女の恋愛模様を描いた作品として小説化され、1994年11月にはアルバム『Simple Dreams』において小室によるカバーが発表された。
- 67) オリコンチャートは、オリコンリサーチ株式会社が発表するヒットチャートである。
- 68) この場合のマスターテープは各演奏パートごとの音源を別トラックに収録したマルチトラックテープを指す。こうした手法は、現在はリミックス (remix) と呼ばれ、他のアーティストやDJ、エンジニアとのコラボレーションとしてダンスミュージックの音楽シーンを中心に盛んに行われている。
- 69) このサンプリング・ヴォイスを用いたイントロは、1987年6月に日本武道館で開催されたコンサート「FANKS CRY-MAX」の頃から既に披露されていた。
- 70) 2014年にTM NETWORKのツアーグッズとして発表されたシンセサイザー「YAMAHA MOTIF QUIT 30 EDITION TETSUYA KOMURO モデル」には、楽曲に使用された音色のほかに宇都宮による「Get Wild」のサンプリング・ヴォイスがプリセットされている(ナタリー編集部 2014)。このことから、小室哲哉による「Get Wild」のステージ・パフォーマンスの人気の高さをうかがい知ることができる。
- 71) 「Get Wild Decade Run」の歌詞は、小室みつ子による「Get Wild」の歌詞に小室哲哉による加筆が行われていることに加え、「Get Wild」では「傷ついた夢を取り戻すよ」と歌われている部分が「傷ついた夢を取り戻せる」と歌われるなど、改変を加えられた箇所が多い(TM NETWORK 2004)。
- 72) ファンから好意的に受け入れられた往年のTM NETWORKを再現するコンサートは、2009年10月から11月にかけて開催された宇都宮隆のコンサートツアー「TAKASHI UTSUNOMIYA CONCERT TOUR 2009 SMALL NETWORK F.O.D」においても同様の取り組みが行われている。このコンサートツアーではTM NETWORKのサポートメンバーを務めるFENCE OF DEFENCEが招聘され、宇都宮からは「25周年に敬意を表して僕なりのLIVEが、SMALL NETWORK」(M-TRES 2009)というメッセージが発表された。
- 73) 『エンジェルハート』は『シティーハンター』の世界観や登場人物、舞台設定を引き継いだ作品であるが、登場人物のキャラクター設定など、一部の設定が変更されている。そのため、北条司は『エンジェルハート』を『シティーハンター』の「パラレルワールド」(北条 2001)であると表現している。
- 74) 『シティーハンター』シリーズとTM NETWORKやメンバーのソロ活動とのコラボレーションは、「Get Wild」以外の楽曲においても積極的に行われている。例えば、TM NETWORKの「STILL LOVE HER (失われた風景)」(1989年)はアニメ『シティーハンター2』のエンディング主題歌として、小室哲哉の「RUNNING TO HORIZON」(1989年)はアニメ『シティーハンター3』のオープニング主題歌として、宇都宮隆の「DANCE DANCE DANCE」(1993年)は映画『城市獵人』(日本公開時のタイトル『シティーハンター』)の主題歌として、宇都宮隆がヴォーカルを務めるU\_WAVEの「Daydream Tripper」(2006年)はアニメ『エンジェルハート』のエンディング主題歌として、それぞれ使用されている。また、U\_WAVEの「Daydream Tripper」では、冴羽獠の声を担当する声優、神谷明が朗読で楽曲へ参加している。
- 75) 盆踊りとしての「ダンシング・ヒーロー」は、マスメディアを通じて度々紹介されている。2008年9月に読売テレビで放映されたバラエティ番組『秘密のケンミンSHOW (第35回)』では、「愛知県尾張地方の盆踊りは『ダンシング・ヒーロー』が定番!？」と題して、盆踊りとしての「ダンシング・ヒーロー」の由来と、愛知県尾張地方の夏祭りにおける広がりについて紹介された。2013年8月にCBCラジオで放送された情報番組『北野誠のズバリ』では、「ダンシング・ヒーロー盆踊り大調査隊」と題して、盆踊りとしての「ダンシング・ヒーロー」の由来と複数の関係者へのインタビュー、2013年の「おん祭」の模様などが紹介された。2016年

8月に朝日放送で放送された情報番組『キャスト』では、伊丹の盆踊りはビューティフル・サンデー?」と題して、兵庫県伊丹市や尼崎市で盛んに踊られている「ビューティフル・サンデー」と共に、「おん祭」盆踊り大会の映像と盆踊りとしての「ダンシング・ヒーロー」が紹介された。

- 76) 荻野目洋子は2015年4月に出演した地上波音楽番組『NHK 歌謡コンサート』において、自身が参加した「おん祭 2001」盆踊り大会の映像を紹介し、和太鼓や三味線、和服姿のダンサーを従えた盆踊りの演出で「ダンシング・ヒーロー」を披露した。荻野目はこれまでも、マスメディアを通じ同楽曲が盆踊りとして踊られていることについて好意的なコメントを発していたが、盆踊りを自身のパフォーマンスへ盆踊りの演出を取り入れたのはこの時が初めてであった。
- 77) 『Dear Pop Singer』収録作品を除く荻野目洋子による「ダンシング・ヒーロー」のすべてのバージョンは、2009年12月に発表された荻野目のデビュー25周年を記念したBOXセット『SUPER GROOVER The BOX -The Perfect Singles <25th Anniversary Special>』へ収録されている。
- 78) 中央区民踊連盟の須藤栄子はCBCラジオの取材に対して、下記のように答えている。

踊られるようになったのは24年前。今でも若い方は、小さい子供でも曲がかかると舞台へ上がって喜びますのでね。中央区でも幅広い世代の人が喜んで踊る。(中略) 私たちはそちら(筆者注：東海地方)で踊られていることを全然知らない。中央区だけで踊っているんだと思ってて、かえって驚いている。東海地方で踊られること、名古屋発祥ということを知った。(CBCラジオ 2013)

- 79) 「東京音頭」の元唄は1932年に制作された「丸の内音頭」である。「丸の内音頭」は、丸の内の町内会によって企画された「極めて宗教色が薄く、あくまでも地域振興を目的とする」(大石 2015: 45) 盆踊りのための楽曲であった。同年8月に日比谷公園で開催された「丸の内音頭踊り」の成功を受けて、歌詞とメロディーに手を加えた「東京音頭」が制作された。
- 80) 盆踊りは江戸時代中期からたびたび国家権力による規制の対象になり、1920年代以降に様々な要因で復興したことが佐藤卓己(2005)、小林直弥(2011)、下川耿史(2011)らの研究によって明らかにされている。ただし、本研究は東京音頭の流行を発端とするポピュラー音楽が踊られる盆踊りにのみ焦点を当てるため、盆踊りの規制や復興の歴史には深く立ち入らず、その事実を付記するにとどめる。
- 81) 岐阜県岐阜市出身の民踊舞踏家で1977年、父である初代島田豊年の死去により日本民踊研究会の2代目を襲名した(日外アソシエーツ編集部 2005: 400)。また、初代島田豊年は、1895年生まれ、岐阜県阿木村出身の民踊舞踏家で、児童舞踏の島田豊に師事した。初代島田は、1948年、米軍統治下でフォークダンスが流行するなか、日本の民踊を広めるために全国を講習してまわり、とくに中京地区では多数の戦争未亡人や主婦達に「踊って心に灯を」と民踊指導者の輪を広げた(倉田・藤波編 1995: 447-448)。
- 82) 「民踊のしおり」において「ダンシング・ヒーロー」は、「SV-9069」という品番の荻野目洋子のシングル・レコード盤が指定されている。
- 83) 荻野目洋子の「コーヒールンパ」、市制60周年記念選定曲であるPINK BABYSの「BABY WANT YOU」、「おん祭」盆踊り大会のために制作されたオリジナル楽曲「Great For おん祭」などが挙げられる。
- 84) この見解は、2015年8月1日に行ったインタビュー調査時に、今井一彦氏より口頭で教示を得た。
- 85) 「ぐるっと回って～」の部分で「ぐるっと回って、ヘイ、ヘイ、ヘイ、ヘイ!」という掛け声をあげる参加者も存在する。また、愛知県のある盆踊り会場では、別の盛り上がり部分で「エッサホイ、エッサホイ、エッサホイ、サッサ、お猿のかごやだ、ホイサッサ」という掛け声があがる(読売テレビ 2008)。このように、振付や掛け声は、会場や参加者によって一様ではなく、自然発生的、あるいは人為的か否かに関わらず、現場の人々の実践によって多様性が生ま

れている。これについて可知豊親は、「うちの母親はそういう踊り易い、みんながアレンジしてくれることも踊り易い要素として喜んでいたので、これは良いんです」(CBC ラジオ 2013)という見解を示している。

- <sup>86)</sup> 「翼をください」は近年「鎮魂歌にも応援歌にもなる」(塚本 2011) 楽曲と紹介されることが多い。例えば、2010年2月に5056編の応募作品の中から受賞作品が発表された朝日新聞社、朝日新聞出版主催「千の風になったあなたへ贈る手紙」において、選考委員長の新井満賞を受賞した西村拓人による作品『僕の自慢のお母さんへ』では、「翼をください」は亡くなった母親を悼む楽曲として取り上げられた。また、海上自衛隊東京音楽隊にヴォーカリストとして所属し、災害派遣で数多くの慰問演奏を行う三宅由佳莉は、「翼をください」を「私が自衛官として歌うことの意味に気付いた瞬間」(其山 2013) の楽曲として挙げ、東日本大震災の被災者に向けて制作された「祈り～a prayer」をはじめ、NHK 東日本大震災プロジェクトのテーマソング「花は咲く」、「ふるさと」、「アメイジング・グレイス (Amazing Grace)」などと共に、慰問演奏のレパートリーとして盛んに演奏している。
- <sup>87)</sup> 赤い鳥解散後、後藤悦治郎と平山泰代は紙ふうせんを、山本俊彦と山本潤子、大川茂はハイファイセット (Hi-Fi Set) を、渡辺俊幸は森田恭子をヴォーカリストに迎えハミングバードを結成し音楽活動を継続した。また、メンバーそれぞれがソロ活動を積極的に行い、大村憲司と村上秀一はスタジオミュージシャンやアレンジャー、音楽プロデューサーとして数多くのヒット作品に携わっている。
- <sup>88)</sup> アルファミュージックは音楽プロデューサー、作曲家として活動していた村井邦彦によって1969年に設立された音楽出版社である。村井はアルファミュージックの設立について、2011年に行われたインタビューで次のように語っている。

その頃、美空ひばりさんの持ち歌を別の歌手がカバーし、ひばりさんサイドが激怒するという事件があったんです。歌は誰のものかって話ですよ。歌は作り手のもので、多くの人に歌い継がれてこそ価値がある。それをはっきりさせたかった。(塚本 2011)

村井は赤い鳥の他に、荒井由実(松任谷由実)をはじめ、松任谷正隆、林立夫、鈴木茂、細野晴臣、佐藤博から成るセッション・ミュージシャン集団のティン・パン・アレー (TIN PAN ALLEY)、坂本龍一、細野晴臣、高橋幸宏から成る YMO (Yellow Magic Orchestra) などを手掛け、数多くのヒット作品を生み出した。また、村井自身も作曲家として、「エメラルドの伝説」(1968年)や「経験」(1970年)、札幌オリンピック公式テーマソングとして制作された「虹と雪のバラード」(1972年)など数多くのヒット作品を生み出した。

- <sup>89)</sup> 赤い鳥は1973年11月に通算600回のコンサート開催と100万人以上のオーディエンスを動員したことを記念した大規模なコンサートを文教公会堂で開催するなど、コンサートの人気が高いグループであった。また、解散までに15タイトルのシングルと8タイトルのアルバム、3タイトルのベストアルバム、2タイトルのライブアルバムを発表するなど、積極的なリリース活動を行うグループでもあった。
- <sup>90)</sup> 山上路夫は「夜明けのスキヤット」(1969年)や「学生街の喫茶店」(1972年)、「瀬戸の花嫁」(1974年)など数多くのヒット曲を生み出した作詞家である。近年は、ふくい舞へ提供した「いくたびの櫻」(2011年)によって、『第53回日本レコード大賞』では作詞賞を受賞している。
- <sup>91)</sup> この時期の学校におけるポピュラー音楽の扱いについては、矢沢永吉(矢沢 1975)や音楽教諭の伊東千寿子(伊東 1974)が当時の状況を教育専門誌『日本の教育』へ寄稿している。そのなかで、矢沢は自身の学生時代の体験とロックバンド、キャロル時代に体験した教育委員会や学校からの圧力について語り、伊東は自身の担当する授業でポピュラー音楽を扱うことを他の教員から否定された体験について詳細に語っている。
- <sup>92)</sup> この作品は原作と脚本を手掛けたジェームス三木によって小説としても発表された。また、この作品は劇団、青年劇場によって舞台化され、1990年2月の初演から2000年12月の最終公演まで1000回以上上演される人気作品になった(『朝日新聞』2000.12.8夕刊)。

- 
- 93) このシーンにおける「翼をください」は、ほぼフルコーラスで使用された。
- 94) 1995年にロックバンド、JUDY AND MARYによって発表された楽曲である。
- 95) 1988年にロックバンド、THE BLUE HEARTSによって発表された楽曲である。
- 96) 2009年にロックバンド、ゴールデンボンバーによって発表された楽曲である。
- 97) サガン鳥栖が本拠地とする佐賀県鳥栖市のサッカー関係者において、「翼をください」は現在でもサッカーを象徴する楽曲として扱われている。1998年8月から毎年開催されている「久留米・鳥栖地区交流社会人サッカー大会」は、「両市のサッカー関係者やサガン鳥栖のサポーターが中心になり、実行委員会を結成、行政の協力を得て実現」(『朝日新聞』1998.8.6 夕刊)したもので、「翼をください」にちなみ「翼カップ」という愛称で親しまれている。また、佐賀県基山町の酒造メーカー、基峰鶴酒造(きほうつるしゅぞう)が製造する「佐嘉の翼(さがつばさ)」は、1998年11月にサガン鳥栖の公認酒として、山下英雄鳥栖市市長(当時)が「翼をください」にちなんで名付けたものである。
- 98) 虹の翼 2002の公式ホームページでは、サッカーボールの寄贈先が当初の予定と変更になったことについて、次のようにアナウンスしている。

その後、500個のサッカーボールは、情勢悪化のためアフガニスタンへ届けることが出来なくなってしまいました。しかし、寄贈先に関して株式会社電通のアドバイスをもとに、日本ユネスコ協会連盟と協議した結果、無事にフィリピンとカンボジアの子どもたちへ送ることが出来ました。(RAINBOW NETWORK 2002)

- 99) この作品では「翼をください」の他に、林原めぐみの歌う「今日の日はさようなら」(森山良子による1966年の楽曲)、ザ・ピーナッツの歌う「ふりむかないで」(1962年)、今陽子&ピンキーとキラーズの歌う「恋の季節」(1969年)が使用されている。
- 100) 『琉球的哀歌』シリーズは2002年に始まり、Sony Music GT music レーベルよりベスト盤を含む5作品、DVD1作品、派生作品の『珊瑚抄』シリーズ3作品が発表されている。同シリーズのプロデューサーである斉藤匠は企画意図について次のように語っている。

一昨年の夏(筆者注:2002年夏)にお店を見てまわって、沖縄もののCDを買って聴いてみたのですが、(民謡ということもあり)いずれも気軽に聴くには重い、ディープな感じの作品が多かったんです。そこで私自身ユーザーと同じ感覚で、もっと軽くて聴きやすい、J-POPの延長線上になるようなCDを作りたいと思い、企画してみました。(オリコン編集部 2003)

『琉球的哀歌』シリーズのヒット以降、『美ら海よ～沖縄ベスト・ソング・コレクション～』シリーズ(テイチク)、『沖縄んそんぐす BEST～スローライフ』(ユニバーサル)など、他メーカーからも同じテーマでコンピレーション・アルバムが発表されている。

- 101) 沖縄出身の女性歌手であり、1961年に発表した「川は流れる」などで知られている。仲宗根は「沖縄出身であることを強調し、民族衣装を着て、歌謡曲調にアレンジした＜安里屋ユンタ＞を歌」(小川 1993: 178)うなど、沖縄のイメージをまとって活動した。
- 102) ただし、高橋(2010)が指摘するように、小川による沖縄観は風土も文化も異なる奄美大島、宮古島、八重山諸島、沖縄本島の音楽(とそのイメージ)をすべてひとくくりに「沖縄」(あるいは沖縄イメージ)として捉えているため、本来意識されるべき島々固有の差異を捨象する捉え方として、しばしば批判されるものである。しかし、小川の沖縄観は音楽マーケティングだけに限らず本土から見たごく一般的な沖縄の捉え方であり、日本のポピュラー音楽市場における沖縄を検討する上では実情に即したものだといえる。
- 103) AKB48グループは2017年2月現在、AKB48(東京都)を拠点に国内ではSKE48(愛知県)、NMB48(大阪府)、HKT48(福岡県)、NGT48(新潟県)、STU48(瀬戸内海圏)、海外ではJKT48(インドネシア)、TPE48(台湾)、MNL48(フィリピン)、BNK48(タイ)が活動を行っている。また、2012年に中国の上海で立ち上げられたSNH48は、2016年より同グループからは独立して活動を行っている。各グループ間における人的交流や楽曲レパトリー

の共有も盛んである。

- <sup>104)</sup> こうした傾向のなか、X JAPAN の楽曲は日本語のまま海外のアーティストに歌われる機会が特に多い。「BLUE BLOOD」(1989 年) はアルゼンチンの AUVERNIA によって、「Silent Jealousy」(1991 年) はオーストラリアの Load によって、「Rusty Nail」(1994 年) はスウェーデンの Dragonland によって、「紅」(1989 年) はイギリスの Damnation Angels やブラジルの SHAMAN によって、それぞれ正式にレコーディングされた音源が発表されている。
- <sup>105)</sup> 「花心」「白鷺鷥」「陪我看日出」「海角天涯」「島上／ON ISLE」「不想睡」の対訳は、関西大学大学院社会学研究科マス・コミュニケーション学専攻の楊仲軒氏、鍾允順氏の協力を得た。
- <sup>106)</sup> 「島唄」で歌われている「でいご」とは、インドやマレー半島原産のマメ科の落葉高木であり、深紅色の花を 3 月から 5 月頃に咲かせる沖縄県の県花でもある。沖縄県のホームページでは、この花が県花に選ばれた理由を次のように説明している。

深紅の花は、南国沖縄を象徴するのにふさわしく、観光資源として大きな効果があること、また幹材は、漆器の材料として用いられ経済的価値も高いという理由で「でいご」が県の花に選ばれました。(沖縄県 2017)

- <sup>107)</sup> 沖縄の音楽文化については、琉球古典音楽 安富祖流絃聲会 関西支部長、琉球民謡協会 関西支部 常任顧問を務める向井敏二氏よりご指導を賜った。
- <sup>108)</sup> オキナワンロックとは、ジョージ紫や宮永英一を中心とする紫(むらさき)、喜屋武幸夫と川満勝弘を中心とするウィスパーズ(Wispers)、川満勝弘を中心とするコンディショングリーン(Condition Green)など、1960 年代から 1970 年代にかけて沖縄県コザ市(現沖縄市)を拠点に活動していた音楽グループ(とその音楽)の総称である。ベトナム戦争の時期に米軍キャンプで米軍兵士へ向けた演奏活動を行い、1970 年代中盤に全国的な注目を集めた。1998 年には喜屋武や宮永らが中心となり沖縄県ロック協会を設立し、演奏活動と並行し「ピースフル・ラブ・ロックフェスティバル(Peaceful Love Rock Festival)」などの音楽イベントの開催や、後進の育成を行っている。彼らの活動は『沖縄市史資料集・4 ロックとコザ』(沖縄市史編纂事務局編 1994)や『オキナワンロック 50 周年記念史』(沖縄県ロック協会 2014)などに記録されている。
- <sup>109)</sup> 組踊は、琉球音楽とともに踊る歌舞劇である。江戸時代中期の琉球王府の踊奉行であった玉城朝薫が、江戸上りの際に観劇した能楽や歌舞伎など上方の芸能を参考に、琉球の歴史や故事、説話などを取り入れた歌舞劇として創出したとされる。組踊は首里城内で役人たちによって上演され、中国からの使者をもてなした。現在では国指定重要無形文化財に指定され、ユネスコの世界遺産「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」へ記載されている(独立行政法人日本芸術文化振興会 2017)。
- <sup>110)</sup> キャンパスレコードは、備瀬善勝(ビセカツ)によって 1970 年に創業された沖縄音楽を専門とする沖縄県沖縄市久保田のレコード店、レコードレーベルである。このレーベルの制作した作品のなかで、「花～すべての人の心に花を～」 「涙そうそう」 「島唄」は、同社の出版する楽譜集『沖縄島うたポップス工工四集』と連動した『歌・三線練習用 沖縄島うたポップス選集 ベスト 14 曲』などへ収録されている(キャンパスレコード編 2015)。
- <sup>111)</sup> 『MONSOON～祈りの歌を呼び戻す～』へ収録された「島唄」のカバーへは、THE BOOM がコーラスとして参加している。加藤はその後、2001 年にアフリカのミュージシャンを迎えて制作した『My Best Album Tokiko Today』において新たに「島唄」をカバーし、その後も「島唄」を自身のレパートリーとして歌い続けている。
- <sup>112)</sup> 2003 年 7 月に行われたポーランド公演は、『『島唄』普及プロジェクト in ポーランド』を主宰していた現地の元高校教員、八島敬の尽力により実現したものである。八島はまた、2005 年 1 月のポーランド公演では現地スタッフとして従事し、2006 年 6 月には、2003 年 7 月の MIYAZAWA-SICK ポーランド公演の詳細と自身の活動について記した『ちえしち～協力隊員 yashimax の“七色ものさし”』(八島 2006)を刊行した。
- <sup>113)</sup> この見解は、2016 年 10 月 19 日に行ったインタビュー調査時に、THE BOOM および宮沢

---

和史のプロデュースを務めた佐藤剛氏より口頭で教示を得た。

<sup>114)</sup> 唄者とは、奄美地方の民謡の歌い手や名手を指す言葉である。近年では奄美地方に限らず、沖縄民謡の歌い手や名手を指す言葉としても使用されている。

<sup>115)</sup> THE BOOM の解散と宮沢和史のミュージシャン活動休止について、宮沢は次のように語っている。

10 年位前から首のヘルニアに苦しんでいたんです。無理をしながらなんとか活動していたんですが、その間にもいろいろと思うことがあって。THE BOOM の 4 人でできることはもうやり尽くした気持ちもあったし、メンバー・チェンジもなく、全員がいい状態の時に辞めることができたのは幸せです。それで、ひとりになって考えたのは、これから新しいことに挑戦していく上で、「歌手」という肩書きを逃げ場にしていて、帰るべき場所を作ってしまうのは違うなと思ったんですよね。だから、その肩書を外して、退路を絶って、自分を追い込んでみないといけないなと思って決意したんです。(栗本 2016)

<sup>116)</sup> BEGIN は沖縄県石垣市出身の上地等、比嘉栄昇、島袋優から成る音楽グループで、1990 年 3 月にシングル「恋しくて」でデビューした。BEGIN はデビュー 10 周年にあたる 2000 年 7 月に発表した自らのルーツを見つめなおしたアルバム『ビギンの島唄～オモトタケオ』で初めて沖縄の民謡を作品へ取り入れた。沖縄の民謡を取り入れたことについて、「島唄」や自身が森山良子へ提供した「涙そうそう」の影響を受けたことを、インタビュー取材や宮沢和史との対談（ぴあ編集部編 2015）で語っている。



引用・参考文献一覧（ウェブページの最終取得日 2017 年 2 月 28 日）

- 赤い鳥, 2003, 「赤い鳥年表（1974 年発売『書簡集』アルバム資料より）」赤い鳥『赤い鳥  
コンプリート・コレクション（MHCL-215-226）』ソニーミュージック・エンタテインメ  
ント, 20-23.
- 青木啓・海野弘, 1988, 『ジャズ・スタンダード 100—名曲で読むアメリカ』新潮社.
- 安藤和宏, 2011, 『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編 4th Edition』リットーミュージ  
ック.
- 芦崎治, 2005, 『avex way 1988-2005』エイベックス・グループ・ホールディングス.
- 生明俊雄, 2004, 『ポピュラー音楽は誰が作るのか—音楽産業の政治学』勁草書房.
- , 2016, 『二〇世紀日本レコード産業史—グローバル企業の進攻と市場の発展』勁草書  
房.
- エイベックス・ミュージッククリエイティヴ, 2012, 『Mana Official Website』, Mana 公  
式ホームページ, (<http://avex.jp/mana/index.html>).
- , 2017, 「TM NETWORK OFFICIAL SITE」, TM NETWORK 公式ホームページ,  
([http://avex.jp/tm/index\\_official.php](http://avex.jp/tm/index_official.php)).
- ビートフリーク編集部 2008, 「GIRL NEXT DOOR 1st Album 12.24 On Sale」『beat freak  
251 号』エイベックス・グループ, 47.
- 文化庁編, 2007, 『親子で歌いつごう 日本の歌百選』東京書籍.
- CD ジャーナル編集部, 2012, 『『小野薬品』の CM で『翼をください』を歌っているのは?』,  
CD ジャーナル公式ホームページ,  
(<http://www.cdjournal.com/main/research/nokko/3729>).
- , 2016, 「La PomPon / 運命のルーレット廻して / サヨナラは始まりの言葉」CD ジ  
ャーナルホームページ (<http://artist.cdjournal.com/d/-/4115121446>).
- Claude E. Shannon and Warren Weaver., 1949, The mathematical theory of  
communication, Illinois: University of Illinois Press. (=1969, 長谷川淳・井上光洋訳  
『コミュニケーションの数学的理論—情報理論の基礎』明治図書出版.)
- Connerton, Paul, 1989, How Societies Remember, Cambridge University Press. (= 2011, 芦刈美紀子訳『社会はいかに記憶するか—個人と社会の関係』新曜社.)
- 独立行政法人日本芸術文化振興会, 2017, 「文化デジタルライブラリー 琉球芸能 組踊」,  
独立行政法人日本芸術文化振興会公式ホームページ,  
(<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc19/>).
- 映画.com 編集部, 2013, 「THE BOOM 島唄のものがたり」, 映画.com ホームページ,  
(<http://eiga.com/movie/78055/>).
- 遠藤美奈, 2012, 「ブラジルの創作盆踊り—盆踊り、モダン盆踊りからマツリ・ダンスへ」.  
『ムーサ』沖縄県立芸術大学音楽学部音楽学専攻, 13: 69-81.

- Five-D, 2009, 「島唄」, THE BOOM 公式ホームページ,  
(<https://web.archive.org/web/20090327015823/http://www.five-d.co.jp/boom/shimauta>).  
a).
- 藤井徹貫, 1992, 「TM NETWORK DRESS 小室哲哉ロングインタビュー」『GB 15TH ANNIVERSARY SPECIAL EDITION GB FILE 1977-1992』ソニー・マガジズ, 357-359.
- 藤野ともね, 1989, 「HIT MARER カバー・ブームの一步先をいく新感覚 小泉今日子」『オリコン・ウィークリー 1989 年 11 月 6 日号』オリジナルコンフィデンス, 3.
- 藤田正, 2003, 「赤い鳥『竹田の子守唄』とその背景」赤い鳥『赤い鳥 コンプリート・コレクション (MHCL-215-226)』ソニーミュージック・エンタテインメント, 118-122.
- 古川治, 1991, 「カバー&リメイク SONG 特集」『オリコン・ウィークリー1991 年 10 月 21 日号』オリジナルコンフィデンス, 12-13.
- 濱口英樹, 2009, 「荻野目洋子 Story」荻野目洋子『SUPER GROOVER The BOX—The Perfect Singles 25th Anniversary Special (VIZL-365)』ビクターエンタテインメント.  
——, 2010, 「ライナーノーツ (第 1 期分)」荻野目洋子『オリジナル・アルバム・コレクション The BOX—25th Anniversary Special Box set (VIZL-374)』ビクターエンタテインメント.
- 秀間修一, 2016, 「未来のマネージャーのための『音楽著作権』バイブル」『音楽主義』一般社団法人 音楽制作者連盟, 75:54-63.
- 平賀哲雄, 2005, 「『SPIN OFF from TM Tribute Live 2005』2005.5.15(SUN) Zepp Tokyo Live Report」, ホットエクスプレス・ミュージックマガジン・ホームページ,  
([http://www.hotexpress.co.jp/live\\_report/spinofffromtm/](http://www.hotexpress.co.jp/live_report/spinofffromtm/)).
- 北条司, 1991, 「TALKING WITH ANIMATION STAFF」『JUMP COMICS DELUXE 北条司 ILLUSTRATIONS』集英社.
- , 2001, 『エンジェルハート第 1 巻 (Bunch comics 版)』新潮社.
- 細川周平, 2000, 「踊るナショナリズム—『東京音頭』の輪と檣」長木誠司編『季刊エクスムジカ プレ創刊号』ミュージックスケイプ, 6-19.
- 井手口彰典, 2007, 「聖典としての J-POP と音楽科教育」『音楽教育実践ジャーナル』5(1):103-115.
- 伊東千寿子, 1974, 「もう一つの音楽論」日本の教育 1974 編集委員会編『日本の教育 1974』現代書館, 142-150.
- 伊藤弘倫, 2001, 「荻野目ちゃん 1 万人ダンシング盆踊り」『スポーツ報知』, 2001 年 8 月 20 日掲載.
- 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 (ACPC), 2016, 「ライブ市場調査データ」, ACPC ホームページ, (<http://www.acpc.or.jp/marketing/>).
- 一般社団法人日本音楽著作権協会 (JASRAC), 2014, 「JASRAC の管理作品をカバーして

- CDに収録することを考えています。手続きはどうすれば良いですか。], JASRAC ホームページ,
- ([https://secure.okbiz.okwave.jp/faq-jasrac/faq/show/87?back=front%2Fcategory%3Asearch&category\\_id=62&commit=&keyword=%E3%82%AB%E3%83%90%E3%83%BC&page=1&site\\_domain=jp&site\\_id=2&sort=sort\\_keyword&sort\\_order=desc&utf8=%E2%9C%93](https://secure.okbiz.okwave.jp/faq-jasrac/faq/show/87?back=front%2Fcategory%3Asearch&category_id=62&commit=&keyword=%E3%82%AB%E3%83%90%E3%83%BC&page=1&site_domain=jp&site_id=2&sort=sort_keyword&sort_order=desc&utf8=%E2%9C%93)).
- , 2017, 「注意事項 (録音利用申込の前に)」, JASRAC ホームページ,
- (<http://www.jasrac.or.jp/info/create/bepro02.html>).
- 一般社団法人日本レコード協会 (RIAJ), 2015, 「音楽メディアユーザー実態調査 2015 年度」, RIAJ ホームページ, (<http://www.riaj.or.jp/f/report/mediauser/2015.html>).
- 泉麻人, 1989, 「PERFORMING ART/MARKET REPORT リメイクブーム 昭和と 80 年代の回顧ムードに乗る」『日経イメージ気象観測』日本経済新聞社, 70-71.
- Japan Music Data (JMD), 2016, 「音楽の森—MUSIC FOREST データベース」, Japan Music Data ホームページ, (<http://www.minc.gr.jp/>).
- 葛西由恵, 2007, 「カバー・ブーム! こたつで楽しむ青春の名曲、名作」『読売ウイークリー 2007 年 12 月 30 日号』読売新聞社, 100-103.
- 柿崎景二, 2014, 『サウンド・クリエイターのための、デジタル・オーディオの全知識 (増補新版)』白夜書房.
- 金城厚, 2006, 『沖縄音楽入門』音楽之友社.
- 菊池清麿, 2008, 『日本流行歌変遷史—歌謡曲の誕生から J・ポップの時代へ』論創社.
- 岸本裕一・田中達彦, 1998, 『タイアップソング・マーケティング』同文館.
- 小黑祐一郎, 2006, 「諏訪道彦」『ANIME STYLE ARCHIVE アニメプロフェッショナルの仕事 1998-2001 この人に話を聞きたい』スタイル, 74-90.
- 小林直弥, 2011, 「盆踊りの研究 III—近現代における盆踊りの存在意義とその役割」『日本大学芸術学部紀要』54: 27-38.
- 小林聖, 2016, 「『シティーハンター』の主題歌はやっぱ『Get Wild』!—『シティーハンター XYZ Edition』神風動画インタビュー&北条司×小室哲哉対談」, コミックナタリー・ホームページ, (<http://natalie.mu/comic/pp/xyzedition>).
- 小泉恭子, 2007, 『音楽をまとう若者』勁草書房.
- 小西康陽, 1999, 「小西康陽の TALK ABOUT MUSIC vol.5」『an an 1999 年 10 月 18 日号』マガジンハウス, 174.
- 樽林史章, 2002, 「"昭和"を歌い継ぐ者たち—懐かしのメロディに捧ぐ」『Weekly Oricon 2002 年 7 月 15 日号』オリコン・エンタテインメント, 31-35.
- 久万田晋, 1998, 「九十年代沖縄ポップにおける民族性表現の諸相」沖縄県立芸術大学大学院芸術文化学研究科編『沖縄から芸術を考える』榕樹書林, 134-162.
- 倉田善弘・藤波隆之, 1995, 『日本芸能人物辞典』三省堂.

- 栗本齊, 2016, 「音楽活動休止の真意とは? “島唄” を生んだ THE BOOM・宮沢和史の、  
 沖縄と共にある人生」, RQ+リ्यूキュープラス・ホームページ,  
 (<http://rqplus.jp/articles/miyazawa-kazufumi>).
- キャンパスレコード編, 2015, 『沖縄音楽カタログ』 有限会社キャンパス.
- Longhurst, Brian, 1995, *Popular Music and Society*, Polity Press.
- 舞童, 2007, 「下駄の跡—舞童 History」, 舞童ホームページ,  
 ([http://www.geocities.jp/bonodori\\_maidou/maido2index.htm](http://www.geocities.jp/bonodori_maidou/maido2index.htm)).
- 馬飼野元宏, 2013, 「IDOL' S INTERVIEW 荻野目洋子」『80年代アイドルカルチャー ガ  
 イド』 洋泉社, 55-59.
- 真喜屋力, 2003, 「50組の『島唄』」沖縄ナンデモ調査隊編『沖縄島唄読本』双葉社, 33-34.
- まんがタイムきらら編, 2010, 『「けいおん!」 テレビアニメ公式ガイドブック〜桜高軽音部  
 活動日誌〜』 芳文社.
- マーク・パンサー, 2014, 「Get Wild (Metal Machine mix)」, globe Facebook 公式アカウ  
 ント (@globe.avex.Official) 2014年1月30日の投稿,  
 (<https://www.facebook.com/globe.avex.Official/videos/vb.237896009721336/247578652086405/?type=3&permPage=1>).
- Marvin, Carolyn, 1989, *When Old Technologies Were new: Thinking about Electric  
 Communication in the Late Nineteenth Century*, Oxford University Press. (=2003,  
 吉見俊哉・水越伸・伊藤昌亮訳『古いメディアが新しかった時—19世紀末社会と電気テ  
 クノロジー』新曜社.)
- 増田聡, 2005 a, 「『クラシック』によるポピュラー音楽の構造支配」渡辺裕・増田聡ほか  
 『クラシック音楽の政治学』青弓社, 50-81.
- , 2005b, 『その音楽の〈作者〉とは誰か—リミックス・産業・著作権』, みすず書房.
- 松村洋, 2002, 『唄に聴く沖縄』白水社.
- May J., 2016, 『私のものじゃない、私の歌』TAC 出版.
- 南田勝也, 2011, 「音楽の世代とライフコース」藤村正之編『いのちとライフコースの社会  
 学』弘文堂, 140-152.
- 三宅敏, 2009, 「伝説・LEGEND—『翼をください』」『日刊スポーツ』2009年12月1日  
 ~12月12日(連載).
- 宮沢和史, 2005, 「宮沢和史の旅する音楽」『朝日新聞』2005年8月22日~9月2日(連  
 載).
- 水越伸, 1993, 『メディアの生成—アメリカ・ラジオの動態史』同文館出版.
- 三木淳, 2012, 「(らんきんぐ) 旅立ちの季節 心のひだ揺らす詞【大阪】」『朝日新聞』2012  
 年2月19日朝刊.
- 水野宏美, 2001, 「近代の家族生活とピアノ文化 (<特集>変容する社会と家族)」『哲學』  
 106: 59-91.

- modelpress編集部, 2015, 「globe、浜崎あゆみ・HYDE ら第2弾カバーアーティスト発表  
収録内容も明らかに」, modelpress ホームページ, (<http://mdpr.jp/music/detail/1547263>).  
文部科学省, 2008, 『中学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社.  
monobox株式会社, 2016, 『『沖縄の唄や三線を数百年先に繋いでいく』そんな想いのもと  
宮沢和史が取り組む2つのプロジェクトとは?』, 沖縄ファミリーマート週刊ファミマガ  
ホームページ, (<https://www.okinawa-familymart.jp/article/detail.html?aid=9054>).  
M-TRES, 2009, 「LIVE—25周年に敬意を表して僕なりのLIVEが、SMALL NETWORK」,  
宇都宮隆公式ホームページ,  
(<https://web.archive.org/web/20090815031045/http://www.magnetica.net/news2.htm>  
l).
- MUSIC LABO編集部, 1976, 「日音における“既成楽曲の再開発”—理念を日常業務の中  
で実践してきた音楽出版社の姿勢」『MUSIC LABO』ミュージック・ラボ, 245:50-53.  
ミュージックソムリエ協会, 2015, 「ミュージックソムリエ協会が選ぶ『昭和歌謡2000曲』  
プロジェクト発足!」, ミュージックソムリエ協会ホームページ,  
(<http://www.musicssommelier.jp/news/171-2000.html>).
- 中島恵, 2003, 「元・若者の郷愁誘うカバーCD 氾濫 仕掛け人は"オジプロ"」『読売ウイークリー  
2003年11月2日号』読売新聞社, 88.
- 仲間恵子, 2006, 「太平丸福レコードと普久原朝喜—マルフクレコードSP盤目録の補足と  
して」『大阪人権博物館紀要』9: 178-154.
- ナタリー編集部, 2010, 「globe15周年ベスト、ジャケは幻の北条司『Get Wild』仕様」,  
ナタリーホームページ, (<http://natalie.mu/music/news/131637>).
- , 2014, 「小室哲哉モデルの特注キーボードで“ゲゲゲ”ボイスを意のままに」, ナタ  
リーホームページ, (<http://natalie.mu/music/news/131637>).
- , 2015, 「La PomPon、先輩ZARDの『運命のルーレット廻して』カバー」, ナタリー  
ホームページ, (<http://natalie.mu/music/news/166281>).
- NHK, 2017, 「The covers 番組公式ホームページ」, NHK 公式ホームページ,  
(<http://www4.nhk.or.jp/thecovers/>).
- NHKアーカイブス, 2017, 「番組検索結果『ドラマスペシャル 翼をください』（1988年1  
月3日放送）」, NHKアーカイブス公式ホームページ,  
(<http://nhk.jp/chronicle/?0001000000000000%40000000000000000000000009-28540000000000000000000100&q=%E7%BF%BC%E3%82%92%E3%81%8F%E3%81%A0%E3%81%95%E3%81%84&st=1&fy=&fm=&fd=&ty=&tm=&td=&btnSubmit.x=47&btnSubmit.y=11>).
- 日外アソシエーツ編集部編, 2010, 『新撰芸能人物辞典』日外アソシエーツ.  
——, 2011, 『歌い継がれる名曲案内 音楽教科書掲載作品10000』日外アソシエーツ.  
日本民謡研究会, 2009, 『民謡のしおり（平成21年度版）』日本民謡研究会.

- , 2014, 『民踊のしおり (平成 26 年度版)』日本民踊研究会.
- 野ばら社編集部・久保昭二編, 2010, 『日本と世界の愛唱歌集—増訂版』野ばら社.
- 織田哲郎, 2007, 「織田哲郎 Project2007 ロングインタビュー vol.14—カラオケブーム、メガヒット連発、大きな波がやってきた。」, アспект公式ホームページ,  
(<http://www.aspect.co.jp/oda2007/interview/14.html#backnumber>).
- 小川博司, 1988, 『音楽する社会』勁草書房.
- , 1993, 「日本のポピュラー音楽史の中の『沖縄』」『メディア時代の音楽と社会』音楽之友社, 177-188.
- , 1995, 「日本のポピュラー音楽に現れた沖縄」『オリエント幻想の中の沖縄』海風社, 149-173.
- , 1999, 「長野県新野の盆踊り」『季刊 民俗学 89』国立民俗学博物館監修, 66-79.
- , 2005, 「日本の広告音楽の歴史」小川博司・小田原敏ほか『メディア時代の広告と音楽—変容する CM と音楽化社会』新曜社.
- , 2007, 「民俗音楽のポピュラー音楽化—問題群と概念の整理」. 仲万美子・小川博司・山田由貴子・高橋美樹, 『JASPM ワーキングペーパーシリーズ No.9 「民族音楽の才創造—越境を担う継承者たちの戦略を探る」』日本ポピュラー音楽学会, 5-8.
- , 2015, 「音楽番組への順風と逆風—まだ眠っている可能性」『月刊 民放』日本民間放送連盟, 14-17.
- 沖縄県, 2017, 「県のシンボル」, 沖縄県公式ホームページ,  
(<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/kohokoryu/kense/kengaiyo/profile/kuchie.html>).
- 沖縄県ロック協会, 2014, 『オキナワンロック 50 周年記念史』沖縄県ロック協会.
- 沖縄市史編纂事務局編, 1994, 『沖縄市史資料集・4 ロックとコザ』沖縄市役所.
- 奥中康人, 2008, 『国家と音楽—伊澤修二がめざした日本近代』春秋社.
- おん祭美濃加茂実行委員会, 2017, 「おん祭 MINOKAMO」, おん祭 MINOKAMO 公式ホームページ, (<http://www.onsai-minokamo.com/>).
- 大庭牧子, 2014, 「(be ランキング) 心に残る卒業の歌『あのことろ』の記憶とともに」『朝日新聞 be on Saturday』2014 年 3 月 29 日.
- 大畑幸子, 2015, 「スペシャルトークセッション Vol.1 宮沢和史×BEGEN—いつでも先に行く宮沢和史の存在」ぴあ編集部編『ぴあ MOOK 25th Anniversary Special Book BEGIN ぴあ』ぴあ株式会社, 70-76.
- 大石始, 2015, 『ニッポン大音頭時代—「東京音頭」から始まる流行音楽のかたち』河出書房新社.
- 大城宜武, 1997, 「ウチナー・ポップの展開」『民族藝術』民族藝術学会, 13: 95-100.
- 長田暁二, 2015, 『世界と日本の愛唱歌・抒情歌事典』ヤマハミュージックメディア.
- 刑部芳則, 2015, 「東京音頭の創出と影響—音頭のメディア効果」『商学研究』日本大学商学部商学研究所, 31: 107-128.

- オリコン編集部, 2003, 「特集 沖縄で音楽について考える—台頭する新世代の『島唄』」  
『ORICON 2003 年 6 月 2 日号』オリコン・エンタテインメント, 25-33.
- オリコン・エンタテインメント編集部, 2001, 「特集 カバーはさらにアツイ ミュージシャンはグッドリサイクラー!」『Weekly Oricon 2001 年 6 月 4 日号』オリコン・エンタテインメント, 57-59.
- 小沢健二, 2016, 「ひふみよ (2016 年 11 月に投稿された日記)」, 小沢健二公式ホームページ,  
(<http://hihumiyo.net/kenji-ozawa/%E5%B0%8F%E6%B2%A2%E5%81%A5%E4%BA%8C-%E8%AA%AD%E3%81%BF%E7%89%A9-%E6%96%87%E7%AB%A0/rhythms.html>).
- ぴあ編集部編, 2014, 『ぴあ MOOK TM NETWORK 30th Anniversary Special Issue 小室哲哉ぴあ TM 編』ぴあ株式会社.
- RAINBOW NETWORK, 2002, 「虹の翼プロジェクト」, RAINBOW NETWORK 公式ホームページ, (<http://www.rainbow-network.com/rainbow/outline/0204.htm>).
- 「琉球の風」実行委員会編, 2013, 『島唄よ、風になれ!—「琉球の風」と東濱弘憲』鹿砦社.
- RBB TODAY 編集部, 2013, 「倅田來未、オザケンや hide ファンの反感買ったカバーへの思い『良い意味で倅田色に染めなきゃ』」, RBB TODAY ホームページ,  
(<http://www.rbbtoday.com/article/2013/02/26/103640.html>).
- 琉球古典音楽安富祖流絃聲会 広告宣伝部・プログラム部会編「琉球古典音楽安富祖流絃聲会 第三十回鑑賞会 絃聲のひびき第五弾『萬國津梁の音』大阪公演プログラム」琉球古典音楽安富祖流絃聲会.
- 佐藤剛, 2004, 「音楽制作者連盟が掲げる“J-Standard”とは」, Five-D 公式ホームページ,  
([https://web.archive.org/web/20090327014057/http://www.five-d.co.jp/go/about\\_j-standard.html](https://web.archive.org/web/20090327014057/http://www.five-d.co.jp/go/about_j-standard.html)).
- , 2011, 『上を向いて歩こう』岩波書店.
- , 2014, 『黄昏のビギンの物語—奇跡のジャパニーズ・スタンダードはいかにして生まれたか』小学館.
- 佐藤卓己, 2005, 『八月十五日の神話—終戦記念日のメディア学』筑摩書房
- 柴台弘毅, 2014, 「日本のポピュラー音楽におけるスタンダード生成過程—『翼をください』を事例に」『ポピュラー音楽研究』日本ポピュラー音楽学会, 17:17-30.
- , 2016a, 「日本のポピュラー音楽におけるスタンダード生成過程の類型化—「ダンシング・ヒーロー (Eat you up)」盆踊りを事例に—」『人間科学』関西大学大学院社会学研究科院生協議会, 84:19-43.
- , 2016b, 「日本のポピュラー音楽におけるスタンダード生成過程とカバー」『人間科学』関西大学大学院社会学研究科院生協議会, 85:19-50.

- 下川耿史, 2011, 『盆踊り—乱交の民俗学』 作品社.
- Shemel, Sidney. and Krasilovsky, William M, 1990, This Business of Music, Billboard Books. (=1997, 内藤篤・浅尾敦則訳, 内藤篤監修『ミュージック・ビジネス』 リットーミュージック.)
- 其山史晃, 2013, 「(フロントランナー) 海上自衛隊歌手・三宅由佳莉さん 自衛官だからこそ歌える歌を」『朝日新聞 be on saturday』 2013 年 11 月 9 日.
- 反畑誠一, 2012, 「ヒット曲で振り返る昭和 Vol.3」『The Record』 一般社団法人日本レコード協会 (RIAJ), 634:11.
- 総務省統計局, 2015, 「平成 26 年全国消費実態調査一世帯主の年齢階級別 1000 世帯当たり主要耐久消費財の所有数量」, 総務省統計局ホームページ, ([https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?\\_xlsDownload\\_&fileId=000007447276&releaseCount=2](https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_xlsDownload_&fileId=000007447276&releaseCount=2)).
- 鈴木明, 1981, 『歌謡曲ベスト 1000 の研究』 TBS ブリタニカ.
- Tagg, Philip, 1982, “Analysing Popular Music: Theory, Method and Practice.” Popular Music, Vol.2: 37-67. (=1990, 三井徹編訳「ポピュラー音楽の分析—理論と方法と実践」三井徹編『ポピュラー音楽の研究』音楽之友社, 8-51.
- 高山博子, 1972, 「盆踊りの一考察 (一) —舞踏文化としての盆踊り」『白百合女子大学研究紀要』 8: 33-57.
- 高橋美樹, 2007, 「〈しまうた／島唄〉をめぐる再創造とボーダーレス現象—BEGIN と THE BOOM の音楽活動を中心に」. 仲万美子・小川博司・山田由貴子・高橋美樹, 『JASPM ワーキングペーパーシリーズ No.9 「民族音楽の才創造—越境を担う継承者たちの戦略を探る」』 日本ポピュラー音楽学会, 55-90.
- , 2010, 『沖縄ポピュラー音楽史—知名定男を史的研究・楽曲分析を通して』 ひつじ書房.
- TBS テレビ, 2015, 「表参道高校合唱部! 番組公式ホームページ」, TBS テレビ公式ホームページ, (<http://www.tbs.co.jp/omosan-gassyobu/>).
- テオドール・アドルノ・渡辺裕編, 2002, 『アドルノ音楽・メディア論集』 平凡社.
- テレビ東京「そして音楽が始まる」編, 2003, 『そして音楽が始まる—名曲に隠された感動のドキュメント』, マーブルトロン.
- 徳間書店編集部編, 2015, 「初代アニメ監督 こだま兼嗣インタビュー」『ロマンアルバム シティーハンター完全読本』 徳間書店.
- 徳永英明・佐伯明, 2006, 『半透明』 幻冬舎.
- 東谷護, 2005, 「戦後日本ポピュラー音楽史の構築へむけて—真正性とメディアを手がかりとして」三井徹監修『ポピュラー音楽とアカデミズム』音楽之友社, 184-200.
- 塚本哲史, 2011, 「うたの旅人 赤い鳥『翼をください』」『朝日新聞 be on saturday』 2011 年 11 月 12 日.



- つのはず, 2014, 「80's スペシャルインタビュー1 荻野目洋子」『日経エンタテインメント! 80's 名作 Special』日経 BP 社, 6-8.
- 土屋恵介, 2016, 「ふたつの新曲『運命のルーレット廻して／サヨナラは始まりの言葉』と La PomPon の歩み」『MARQUEE』マーキー・インコーポレイテッド, 114:86-89.
- 輪島裕介, 2010, 『創られた「日本の心」神話—「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』光文社.
- , 2015, 『踊る昭和歌謡—リズムからみる大衆音楽』NHK 出版.
- Witmer, Robert, 2002, “Standard.” Kernfeld, Barry eds., *The New Grove Dictionary of Jazz Second Edition: Volume Three*, London: Macmillan Publishers.
- Witmer, Robert. and Marks, Anthony, 1986, “Cover.” Hitchcock, Wiley H. Sadie, Stanley eds., *The New Grove Dictionary of American Music*, Vol.1, London: Macmillan Publishers, 519-520.
- 矢沢永吉, 1975, 「ビートルズを聴いて卒業延期になりかけた」日本の教育 1975 編集委員会編『日本の教育 1975』現代書館, 56-61.
- 八島敬, 2006, 『ちえしち〜協力隊員 yashimax の光り輝く“七色ものさし”』文芸社.
- ヤマハ音楽振興会, 2017, 「ヤマハ音楽教育システムとは」, ヤマハ音楽振興会公式ホームページ, ([http://www.yamaha-mf.or.jp/edu\\_system/](http://www.yamaha-mf.or.jp/edu_system/)).
- 読売新聞文化部編, 2003=2014, 『愛唱歌ものがたり』岩波書店.

### 【音楽・映像ソフト】

- 赤い鳥, 2003, 『赤い鳥 コンプリート・コレクション (MHCL-215-226)』ソニーミュージック・エンタテインメント.
- 艾敬, 1995, 『私の 1997 Version Plus (SRCL-3294)』ソニーミュージック・エンタテインメント.
- 周華健, 2004, 『周而復始—エミール・チョウ ベスト・ソング集 (RCCA-2132)』ロックレコード.
- 梁静茹, 2004, 『戀愛的力量 The Power of Love Songs (RCCA-2133)』ロックレコード.
- 黄品源, 2007, 『涙光閃閃 源來有你—ホァン・ピョンジュン ベスト (RCCA-2189)』ロックレコード.
- 虹の翼 2002, 2002, 『翼をください (MUCD-5010)』ドリーミュージック.
- 荻野目洋子, 2009, 『SUPER GROOVER The BOX—The Perfect Singles 25th Anniversary Special (VIZL-365)』ビクターエンタテインメント.
- , 2010, 『オリジナル・アルバム・コレクション The BOX—25th Anniversary Special Box set (VIZL-374)』ビクターエンタテインメント.
- THE BOOM, 2014, 「映画『THE BOOM 島唄のものがたり』」『THE BOOM HISTORY ALBUM 1989-2014—25 PEACETIME BOOM "Premium Edition" (YRCN-95240/1)』YOSHIMOTO R&C.

TM NETWORK, 2004, 『WORLD HERITAGE DOUBLE-DECADE COMPLETE BOX (ESCL-2512-46)』 ソニーミュージック・エンタテインメント.  
——, 2013, 『TM NETWORK FINAL MISSION -START investigation- (AVXD-91687)』  
エイベックス・ミュージッククリエイティヴ.  
Various Artists, 2003, 『愛情組曲 (512381-2)』 ソニーミュージック・エンタテインメン  
ト香港.  
蔡淳佳, 2006, 『淳佳精選 17 首 (5051011828423)』 ワーナーミュージック台湾.  
ZARD, 2017, 『ZARD CD&DVD コレクション〜永遠のスタンダード・ナンバー』 アシェ  
ット・コレクションズ・ジャパン.

### 【テレビ番組・ラジオ番組】

「伊丹の盆踊りはビューティフル・サンデー?」『キャスト』朝日放送, 2016 年 8 月 4 日放  
送.  
「ダンシング・ヒーロー盆踊り大調査隊」『北野誠のズバリ』, CBC ラジオ, 2013 年 8 月  
16 日放送.  
『FNS うたの春まつり「桜、卒業、旅立ち、春の名曲 100 選」—日本全国 10 代から 70 代、  
「あなたにとって春の名曲は?」2000 人にアンケート』フジテレビ, 2016 年 3 月 28 日  
放送.  
『昭和の歌・心に残るベスト 200 曲』NHK 総合テレビ, 1989 年 9 月 15 日, 9 月 23 日,  
10 月 10 日放送 (全 3 回).  
『BS20 世紀日本のうた—20 世紀の日本を感動させた歌 ベスト 100』NHK BS, 1998 年 1  
月 19 日放送.  
「翼をください〜日本代表を W 杯へ送った歌〜」『クローズアップ現代 (No.931)』NHK  
総合テレビ, 1998 年 6 月 10 日放送.  
『第 56 回 NHK 紅白歌合戦—スキウタ〜紅白みんなでアンケート』NHK 総合テレビ, 2005  
年 12 月 31 日放送.  
『NHK 歌謡コンサート』NHK 総合テレビ, 2015 年 4 月 7 日放送.  
「学校音楽スペシャル」『バナナ ♪ゼロミュージック』NHK 総合テレビ, 2016 年 10 月 8  
日放送.  
「戦争を、知る。—あの日から 70 年」『NEWS ZERO』日本テレビ, 2015 年 6 月 23 日放  
送.  
『全国歌謡曲大調査—明治から昭和この百年! 史上最大のベストテン』TBS テレビ, 1981  
年 1 月 1 日放送.  
『うたばん名曲歌謡史・昭和と平成のベス 50—全国の男女 1 万人へのアンケートをもとに  
決定した昭和・平成の名曲 TOP50』TBS テレビ, 2009 年 10 月 20 日放送.  
「徳永英明 VOCALIST 誕生物語」『中居正広の金曜日のスマたちへ』TBS テレビ, 2007

年 12 月 21 日放送.

『MUSIC STATION SPECIAL「卒業、桜…1 万人が選んだ春の名曲ランキング」—10 代から 60 代までの男女 1 万人へのアンケートをもとに決定した昭和・平成の名曲ぞろいのランキング 60 を大発表!』テレビ朝日, 2014 年 3 月 21 日放送.

『MUSIC STATION SPECIAL「もっともリクエストが多かった夏うたは?」アンケート集計結果』テレビ朝日, 2015 年 6 月 20 日放送.

『MUSIC STATION ウルトラ FES 30TH「日本人に勇気をくれたニッポンの歌 Best 100」—「あなたに勇気をくれた世界に誇れるニッポンの歌とは?」日本人男女 1 万人にアンケート集計結果』テレビ朝日, 2015 年 9 月 23 日放送.

『MUSIC STATION SPECIAL 春に聴きたい桜&卒業ソングランキング』テレビ朝日, 2016 年 3 月 25 日放送.

「名曲『Get Wild』『アップデート大学』」テレビ朝日, 2016 年 11 月 5 日放送.

「歌に刻まれた沖縄戦史—『島唄』THE BOOM』『「そして音楽が始まる」』テレビ東京, 2003 年 5 月 11 日放送.

「愛知県尾張地方の盆踊りは『ダンシング・ヒーロー』が定番!』『秘密のケンミン SHOW (第 35 回)』読売テレビ, 2008 年 9 月 11 日放送.